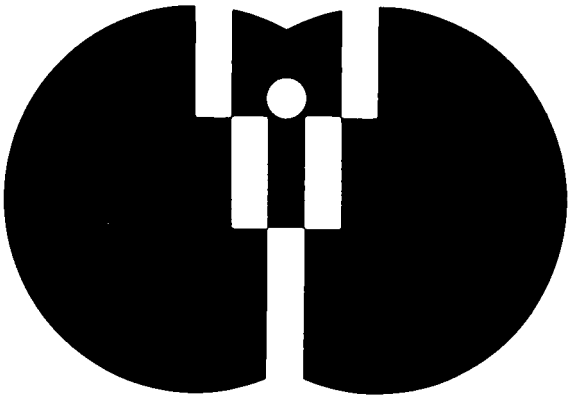
こどもの城

事業年報

平成4年度

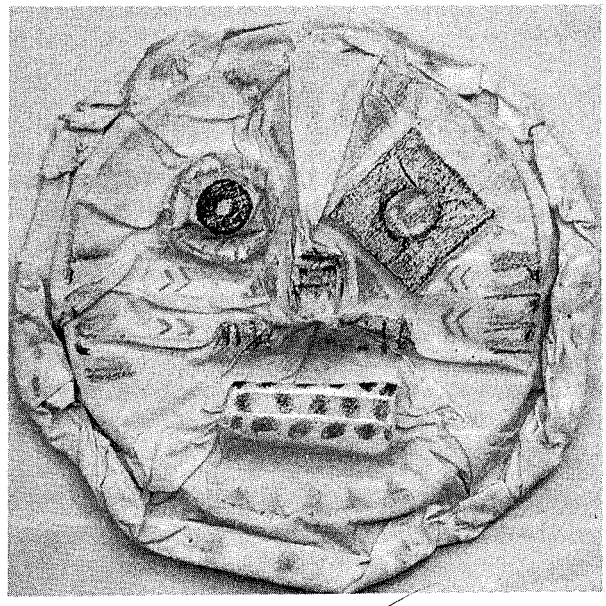


財団法人　日本児童手当協会

こどもの城

事業年報

平成4年度



財団法人　日本児童手当協会

こどもの城事業年報　平成４年度

目　次

Ⅰ　事業の概要

1　事業と運営の基本構想 ……3
2　運営の基本的な考え方 ……3
3　組織機構図と役員名簿 ……5
4　平成４年度の活動の概要 ……7
(1)　はじめに ……7
(2)　事業活動 ……8
1）入館者数 ……8
2）一般来館者のための活動 ……8
3）講座・クラブ活動 ……9
4）グループ活動 ……9
5）劇場事業 ……9
6）各種の普及・協力活動 ……9
(3)　その他の活動 ……9
5　活動時間・入館料
（こども活動エリア） ……9
1）平常期間 ……9
2）特別期間（学校の季節休み） ……10
3）特別期間（児童福祉週間特別行事等） …10
4）入館料 ……10
6　活動状況一覧 ……11
(1)　入館者数 ……11
(2)　事業・催し ……12
(3)　グループ活動実施状況 ……20
(4)　講座・クラブ等 ……21
1）講座 ……21
2）クラブ ……23
(5)　視察・見学実績 ……24
(6)　事業経理収支計算書 ……25

Ⅱ　各部の活動(1)

1　体育事業部 ……29
2　プレイ事業部 ……45
3　造形事業部 ……65
4　音楽事業部 ……83
5　AV 事業部 ……101
6　保育研究開発部 ……117
7　小児保健部 ……139
8　企画部 ……151
9　劇場事業本部 ……167

Ⅲ　各部の活動(2)

1　広報部 ……181
2　研修教養部 ……185
3　国際交流部 ……198
4　営業部 ……202

Ⅳ　その他の活動

1　こどもの城全国連絡協議会 ……209
2　チャリティー事業 ……211
3　こどもの城友の会 ……212

(参考)日本児童手当協会の助成事業

1）事業所内保育施設の整備等に対する助成 ……215
2）事業所内保育施設の保育従事者の研修及び指導 …216
3）企業委託型保育サービス事業に対する助成 …217
4）啓発活動 ……219
5）職域児童育成事業に対する助成 ……219
6）特殊ミルク共同安全開発等事業に対する助成 ……220
7）おもちゃ図書館普及推進事業 ……221
8）児童福祉文化財普及等事業 ……221
9）病児デイケアパイロット事業 ……221

Ⅰ　事業の概要

1　事業と運営の基本構想 ……3
2　運営の基本的な考え方 ……3
3　組織機構図と役員名簿 ……5
4　平成４年度の活動の概要 ……7
5　活動時間・入館料 ……9
6　活動状況一覧 ……11

I　事業の概要

〔こどもの城〕は，厚生省が1979年（昭和54年）の国際児童年を記念して計画，建設したものである。国が東京都から譲り受けた，渋谷区神宮前５－53－１の約１万平方メートルの敷地に，昭和56年11月，着工された。以来，４年の歳月と323億円（土地収得費を含む）の国費をかけ，地上13階，地下４階の，ミラーガラスに包まれた美しい建物が完成。昭和60年11月１日に開館した。厚生省の委託を受けて，財団法人日本児童手当協会がその運営に当たっている。

〔こどもの城〕は，新生児から高校生までの全児童を対象にした，幅広い福祉と文化活動を行うとともに，ハンディキャップを持つ児童も一緒に活動する施設である。親たちをはじめ，児童の福祉・文化の関係者，研究者，教育者などのためにも開かれている。次代を担う子どもたちを心身ともに健やかに育成し，その資質の向上を図ることを目的に，常に先駆的で実験的なプログラムを企画，実践し，全国に普及させていくこと，そして，国際的視野に立ち，世界各国の子どもたちと，福祉・文化活動を通じて交流を図ることを運営の基本としている。

1．事業と運営の基本構想

〔こどもの城〕の創設に当たって，昭和54年，厚生省により，「こどもの城企画委員会」（葛西嘉資座長）が設けられ，委嘱を受けた有識者メンバーによって基本構想の検討が重ねられた。委員会は同年６月，この結果を「基本構想に関する意見」として取りまとめ，児童家庭局長に提出した。

意見書は「近年，わが国の社会の都市化，工業化に伴い，児童の健康や安全が損なわれており，また，核家族化，家庭規模の縮小に伴う児童の人間関係の変化によって，さまざまな問題が生じている。一方で，高年齢化が急速に進んでおり，この中で，豊かな活力ある社会を維持していくために，未来を担う児童の健全育成の必要性が高まってきている。このときにあたり，わが国の児童をとりまく諸問題に適切に対処し，明るい21世紀を展望する総合施設を建設することは，時宜に適したものである。(要約)」と述べ，〔こどもの城〕の性格，機能，運営に関して積極的な提言がなされ，基本方針が打ち出された。

以来，厚生省と財団法人日本児童手当協会は，この「基本構想に関する意見」を踏まえ，協力しながら，〔こどもの城〕の建設に当たり，運営に取り組んできた。

2．運営の基本的な考え方

(1)　出生率の低下傾向による人口構造の急速な老齢化，青少年の非行問題，体位に追いつかない子どもの体力，その心をむしばむ要因の増加など，我が国の児童を取り巻く環境は，活力のある未来社会を期待するうえで，憂慮すべき現状にある。こうした，重要な課題に対

応していくためには，単に国や自治体の行政に頼るだけではなく，家庭，学校，地域社会が相互に協力しつつ児童の健全育成に取り組んでいかなければならない。

〔こどもの城〕はこのような多くの問題を克服し，明るい21世紀の日本を築いていくための児童福祉，文化の拠点でありたいと願っている。

(2)　〔こどもの城〕は，全国の児童を対象とした施設であり，東京及びその周辺の児童だけの施設ではない。すなわち，〔こどもの城〕における事業について広く全国各地に情報を伝え，さらには各地の児童センターなどでの児童福祉，文化活動を全国に紹介するといった全国的な広がりを持つ〔こどもの城〕を目指して運営している。

(3)　〔こどもの城〕は，いわゆる幼児のみを対象とするのではなく，幅広く新生児から高校生までの全児童を対象とした福祉・文化活動に関する施設であるとともに，ハンディキャップを持つ児童も当然参加し，ともに活動する施設である。

さらに〔こどもの城〕は，親をはじめ，児童の福祉・文化の関係者，研究者，教育者など，子どもの幸せを願うすべての人が利用できるよう開かれている。

(4)　〔こどもの城〕は，既製のプログラムだけでなく，先駆的，実験的なプログラムを企画し，実践する。また，国内だけでなく，国際的な視野に立って世界各国の児童福祉・文化活動との交流を図る。

(5)　以上のように〔こどもの城〕は，①芸術，文化，科学，スポーツなどの活動による児童の健全育成　②児童福祉関係者の研修，現任訓練　③児童福祉に関する研究，開発　④国際交流，といった各種の機能を併せ持つ総合施設である。これらの機能を相互に関連させながら，総合的な運営をしている。

こどもの城の建築概要

所　在　地……東京都渋谷区神宮前５丁目53番１号
地域・地区……住居地域・商業地域（特定街区指定）・防災地域・準防火地域・一部第２種文教地域
建　築　主……厚生省
敷地面積……9,923.39㎡
建築面積……6,001.5㎡
延床面積……41,690.4㎡
建ぺい率……60.4％
容　積　率……345.38％
階　　数……地下４階・地上13階・塔屋１階
最高高さ……GL+57.6m
基礎下端……GL−28.5m
主要構造……高層部　鉄骨造
低層部　鉄骨鉄筋コンクリート造
地下　鉄筋コンクリート造
設計・管理……株式会社　山下設計
着　　工……昭和56年11月
完　　成……昭和60年９月

内部施設の概要

こども活動エリア	○アトリウム（こども活動エリア入り口）・ギャラリー	［1・1～2階］
	○プール・体育室・健康開発室	［地下2階］
	○プレイホール・コンピュータプレイルーム	［3階］
	○造形スタジオ	［3階］
	○音楽スタジオA，B・音楽ロビー・シンセサイザー室	［4階］
	○AVライブラリー	［4階］
	○屋上（ともだち広場・ふしぎが丘・プレイポート）	［3～5階］
	○パソコンルーム	［10階］
保育	○小児保健・診療・相談室	［5階］
保健	○保育研究開発・保育室Ⅰ，Ⅱ	［5階］
劇場	○青山劇場	［1・2階］
	○青山円形劇場	［3階］
サービスエリア	○駐車場	［地下2～4階］
	○フリーホール（休憩室・催し場）	［地下1階］
	○カフェテラス「アンファン・ひさご寿司」	［1階］
	○売店	［1階］
	○コーヒーラウンジ「アミティーエ」	［2階］
	○ホテル	［6・7階］
	○レストラン「ラブニール」	［8階］
	○研修室	［8・9階］

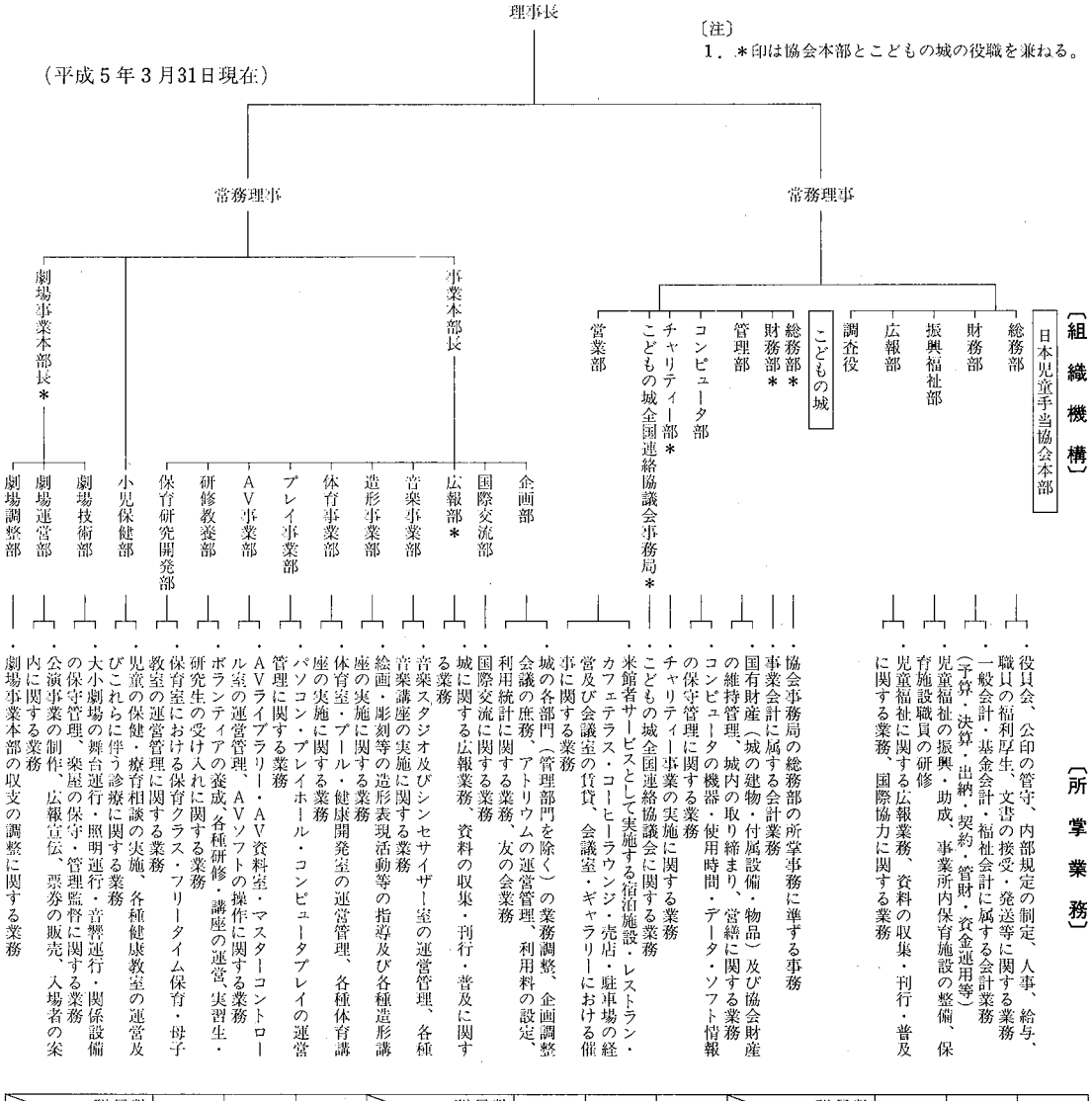
3．組織機構図と役員名簿

㈶　日本児童手当協会役員（平成5年3月31日現在）

役　職	氏　名	
会　長	翁　久次郎	（財）厚生年金事業振興団理事長
理事長	小島　弘仲	
常務理事	田代　實	
常務理事	大野　出穂	
理　事	石野　清治	資生堂取締役会長
理　事	谷村　昭一	日本商工会議所専務理事
理　事	花村　仁八郎	経済団体連合会相談役
理　事	松崎　芳伸	日本携帯電話株式会社社長
理　事	河合　三良	経済同友会副代表幹事
理　事	竹内　嘉巳	(社福)日本肢体不自由児協会理事長
理　事	金平　輝子	東京都副知事
理　事	平田　寛一郎	早稲田大学政治経済学部教授
理　事	平山　宗宏	日本総合愛育研究所所長
監　事	松尾　正人	㈶厚生年金事業振興団常務理事
監　事	杉本　敏雄	(社福)慶福育児会麻布乳児院院長

I　事業の概要

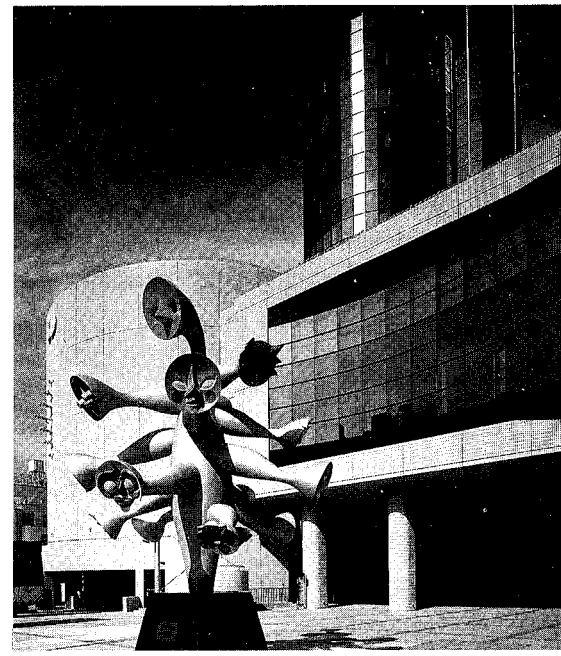
【(財)日本児童手当協会組織機構図】



部＼職員数	一般	嘱託	計	部＼職員数	一般	嘱託	計	部＼職員数	一般	嘱託	計
総務	6		6	営業	12	1	13	研修教養	2		2
調査（役）	1		1	企画	12		12	保育研究開発	8		8
振興福祉	2		2	国際交流	0		0	小児保健	9		9
広報	3	1	4	音楽事業	7	1	8	劇場技術	6		6
財務	7		7	造形事業	7		7	劇場運営	11		11
管理	2	1	3	体育事業	9	1	10	劇場調整	1		1
コンピュータ	4		4	プレイ事業	11		11				
				AV事業	6		6	合計	127	5	132

4．平成4年度の活動の概要

(1)　はじめに



平成4年度は〔こどもの城〕の開館7周年の年。これまでの基礎づくりの集約と見直しの上に立って，3年後に迫った開館10周年を視野に入れた新しい発展軌道に活動全体を乗せることに努めた。着実に次の段階への一歩を進め得たが，新軌道へ向けての幾つかの重要な課題もはっきりし，この対応を迫られた年であった。

その1つは学齢前の幼児と母親の来館者数に占める率が年々，とても大きくなってきたこと。そこからは必然的に育児支援のためのプログラムや設備の強化・充実の課題が出た。開館以来，子ども入館料の対象は6歳以上としていたのを平成4年度から3歳以上に改めたが，このことは幼児対応，育児支援のための〔こどもの城〕の方針，態勢をより明確化したものであり，今後に大きな意味をもつ。

一方，小学生以上についても本年度は，より魅力的で斬新なプログラムの開発と実施態勢の整備を迫られた年であった。学校5日制の試行として平成4年9月から毎月第2土曜日が休日となったが，前年度に比べ，この第2土曜日の小学生以上の来館が飛躍的にふえて，通常の日曜日以上の数となった。この現象は学校5日制が完全実施された場合の対応を含め，これからの軌道を考える上で極めて重要な要素である。

第3に〔こどもの城〕の趣旨，活動内容を対外的に広げること，全国の児童健全育成施設の交流のセンターとしての活動を推進することは，ナショナル・プロジェクトである〔こどもの城〕が果たさなければならない大きな使命。全国に府県単位の大型児童関係施設が相次いで建設されているおり〔こどもの城〕に対するこの種の要望は近来，とみに多く，強くなった。一応の基礎固めを終えた〔こどもの城〕が，外へ向かってのネットワークづくりと，〔動くこどもの城〕の活動に本格的に乗り出さねばならぬ時期になったことを痛感した年でもあった。

この年報には，このような重要課題に私たちがどう取り組んだかをありのままに報告している。

〔こどもの城〕は「こども活動エリア」と総称される体育，プレイ，造形，音楽，AVのほか，企画部，研修教養部，国際交流部，保育研究開発部，小児保健部，劇場の各部門を持つ

総合施設。活動は大別して①一般来館児・者を対象とした活動　②講座・クラブ活動　③グループ活動の3つの柱で行われ，これに前述の対外的な普及・協力活動が加わる。

それぞれ活動の対象，時間，場所，プログラムの内容は異なるが，これらの活動が有機的に連動してこそ初めてフル活動といえる。

そして，子どものための総合施設という特徴のすぐ裏には，それにふさわしい各部協力による総合機能は発揮されているか――という課題がある。同様に先駆的な参加・体験施設であるための不断のプログラム開発や，そうした活動全体の外への広がりの状況などが問われる。

これらを“キーワード”として平成4年度の実績を顧みるとき，まだ改善，充実の努力を要するところは多い。関係機関，提携団体などの助言，要望も頂いて新しい軌道設定への努力をさらに続けなければと思う。

(2)　事業活動

1）入館者数（11ページの表参照）

平成4年度の年間入館者数は，一般来館者が424,751人，劇場入館者が482,816人，これに保育，小児保健，講座・クラブ関係のほか，研修・会議関係の来館者を加えた総数は1,115,935人と，平成3年度に引き続いて110万人台に達した。

2）一般来館者のための活動（12～19ページの事業・催し一覧表参照）

ア）平常期間

文化体育事業（体育，プレイ，造形，音楽，AV）は，各事業部とも一般来館の親子が楽しく参加し，体験できるプログラムの開発，提供に努めた。

特に平常期間の週日に多い幼児・母親のためのプログラム（育児支援プログラム）については，保育研究開発部，小児保健部を含め，活動の強化を重点目標として行った。同時に学校5日制に対応する活動として，遊びを通じて仲間づくりを活発化するプログラムも積極的に推進した。

保育研究開発部は，3つの柱である幼児グループ，保育クラブ及び母子教室を実施したほか，育児相談のケースカンファレンス，保育内容研修会，保育セミナーなど保育関係者のための研修プログラムを積極的に推進した。

小児保健部は，日常の診療・相談を行うとともに，他事業部との連携事業である太りすぎの子どもの健康教室，ダウン症の子どものリトミック，マタニティ・スイミングなどの活動を継続して実施した。また，講座「新しい時代の育児」や前年度に開設した「赤ちゃんサロン」は着実に定着した。

イ）特別期間

学校の季節休み（春休み，夏休み，冬休み）の期間及び児童福祉週間（ゴールデンウイーク）を特別期間とし，外部の企画なども取り入れ，斬新で多数の参加が可能な大型の催しを含む各種の行事を集中的に行ったほか，こども活動エリア入館券と劇場入場券を共通にし，来館者へのサービス向上と来館者の増加を図った。

夏休みの特別期間には，〔こどもの城〕，NHK展示プラザ，東京電力の電力館，たばこと塩の博物館，東京都児童会館及び五島プラネタリウムの6館で「渋谷スタンプラリー」を実施した。

3）**講座・クラブ活動**（21～23ページの一覧表を参照）

継続的，体系的に〔こどもの城〕を利用できるプログラムとして講座・クラブを実施し，その充実と活発化を図った。

講座は46種，98コース，受講者数3,180人，クラブは11種で会員数884人にのぼった。このほか，夏休み，春休み特別期間には体育など6部門で短期集中講座を開いた。

4）**グループ活動**（20ページの一覧表を参照）

平日の午前中に，保育所，幼稚園，小学校などを単位とした児童及びハンディキャップを持つ児童グループの活動を積極的に受け入れ，年間77グループ（1,692人）を迎えた。

5）**劇場事業**（167～171ページに公演名一覧）

自主公演として青山劇場で1公演，青山円形劇場14公演を開催した。このうち青山劇場の第7回青山バレエフェスティバルは，東京・パリ友好都市提携10周年記念事業として（財）東京都文化振興会の助成対象に選ばれた。

劇場の貸与は青山劇場が18件，青山円形劇場が61件で，両劇場とも年間フルに使用された。

6）**各種の普及・協力活動**

〔こどもの城〕の活動の趣旨・内容を広く知ってもらい，関係団体との交流を進めるために各種の事業を行った。

主なものは，児童厚生員等実技指導講習会（5月・10月・1月），肥満児童のための指導者講習会（9月・3月），茨城県立児童センターと子ども城児童合唱団の交流会（8月），ぐんまこどもの国児童会館の「あそびと造形発想展」（8月），富山県こども未来館での「アートと遊ぼう～ブルーノ・ムナーリ展」（11月～12月）などの実施に協力した。

(3)　**その他の活動**

前記(2)の〔こどもの城〕の事業活動のほか，〔こどもの城〕の運営ならびに趣旨の普及・推進にとって重要な活動である下記の事業を行った。

①広報　②国際交流　③こどもの城友の会　④こどもの城全国連絡協議会　⑤ボランティアの養成，実習生・研修生の受け入れ　⑥チャリティー事業　⑦利用者サービス事業

5．活動時間・入館料（こども活動エリア）

開館日数　307日

1）**平常期間**

平　日　開館（午後12時30分～午後5時30分）

土曜日
日曜日
祝　日　開館（午前10時～午後5時30分）

月曜日　休館（祝日または振り替え休日にあたる時は開館＝午前10時～午後５時30分＝この場合は火曜日が休館）

２）特別期間（学校の季節休み）

学校の季節休み（夏休み，冬休み，春休み）は特別期間とし，曜日にかかわりなく，午前10時から午後５時30分まで開館し，特別プログラムを企画・実施し，子どもや家族の期待にこたえるよう努めた。

夏休み期間（７月21日～８月31日）の休館日は７月27日と８月10日，24日の３日間で，このほかの月曜日の振り替えとして，９月１～３日に休館した。

冬休みは，12月25日～１月７日までで，12月28日～１月２日は休館とし，１月３日は12時30分に開館した。

春休みは，３月25日～４月５日までで，全期間開館した。

３）特別期間（児童福祉週間特別行事等）

４月29日～５月５日のいわゆるゴールデンウイークには，厚生省，社団法人全国児童館連合会，〔こどもの城〕が共催して特別プログラムを企画・実施した。

横浜開港記念日（６月２日），川崎市制記念日（７月１日），東京都民の日（10月１日），埼玉県民の日（11月14日）は午前10時に開館し，特別行事を企画して，来館者を迎えるようにした。

４）入館料

文化体育事業部門（こども活動エリア）の利用状況は，小学生以上の層に比べて６歳未満の低年齢児層が圧倒的に多く，プログラムの内容や設備・職員配置状況も幼児に対応する比重が極めて高くなっている実情を考慮して，平成４年４月１日から子ども入館料金の対象を満６歳以上から満３歳以上に改めた。

一　　般	18歳未満	300円（保護者に同伴される３歳未満児は無料）
	18歳以上	400円
一般回数券	18歳未満	12枚つづり3,000円
	18歳以上	12枚つづり4,000円
団　　体	18歳未満	240円
（20人以上）	18歳以上	320円

５）その他

５月５日の「こどもの日」と11月１日の〔こどもの城〕開館記念日は，18歳未満の入館料を無料とした。

6　活動状況一覧

(1) 入 館 者 数

	一般来館者			劇場			その他	計
	有料		総数	青山劇場	青山円形劇場	小計		
4月	大人 子供 団体 小計	11,720(人) 12,968 1,614 26,302	(人) 27,745 推計 (33,612)	(人) 36,710	(人) 6,668	(人) 43,378	(人) 19,276	(人) 90,399 推計 (96,266)
5月	大人 子供 団体 小計	13,851 11,094 6,553 31,498	35,131 推計 (41,285)	36,081	6,306	42,387	20,230	97,748 推計 (103,902)
6月	大人 子供 団体 小計	8,489 8,034 1,116 17,639	18,732 推計 (22,981)	38,482	6,888	45,370	22,092	86,194 推計 (90,443)
7月	大人 子供 団体 小計	10,363 11,756 1,966 24,085	25,699 推計 (30,889)	35,848	5,162	41,010	17,316	84,025 推計 (89,215)
8月	大人 子供 団体 小計	26,635 32,111 16,053 74,799	79,062 推計 (92,387)	40,956	7,899	48,855	9,144	137,061 推計 (150,386)
9月	大人 子供 団体 小計	9,145 9,203 1,170 19,518	20,759 推計 (25,336)	22,248	6,051	28,299	17,084	66,142 推計 (70,719)
10月	大人 子供 団体 小計	7,830 7,811 1,569 17,210	18,311 推計 (22,233)	29,700	8,190	37,890	20,452	76,653 推計 (80,575)
11月	大人 子供 団体 小計	10,657 9,659 1,306 21,622	24,264 推計 (29,204)	33,950	6,002	39,952	17,750	81,966 推計 (86,906)
12月	大人 子供 団体 小計	6,359 6,543 759 13,661	14,646 推計 (17,832)	21,759	8,155	29,914	14,723	59,283 推計 (62,469)
1月	大人 子供 団体 小計	11,357 10,976 5,733 28,066	29,750 推計 (33,436)	42,656	8,465	51,121	13,829	94,700 推計 (100,386)
2月	大人 子供 団体 小計	9,385 8,467 1,719 19,571	20,849 推計 (25,548)	33,516	6,162	39,678	18,133	78,660 推計 (83,359)
3月	大人 子供 団体 小計	13,135 16,076 8,685 37,896	41,434 推計 (48,008)	26,778	8,184	34,962	18,339	94,735 推計 (101,309)
計	大人 子供 団体 小計	138,926 144,698 48,243 331,867	356,382 推計 (424,751)	398,684	84,132	482,816	208,368	1,047,566 推計 (1,115,935)

(2)　事業・催し

	体　育	プレイ	造　形	音　楽
平常期間	グループ活動 毎週火・木曜日	グループ活動 毎週火～金曜日	グループ活動 毎週火～金曜日	グループ活動 毎週火～金曜日
	プール利用 毎日（火曜日を除く）	プレイホール・コンピュータプレイ自由利用 毎日	やってみよう！つくってみよう！ 毎日	ロビー一般利用 「いろんな楽器やってみよう」 毎日
	健康体力測定 毎週土・日曜日・祝日	屋上遊園・プレイポート・ふしぎが丘自由利用 毎日	プレイングボードコーナー 毎日	ロビー一般利用 「みんなでライブ！」「リズムであそぼう」 毎週火曜日
	体育室一般利用 バスケットボール 第1日曜日と前日の土曜日	パソコンルーム一般利用毎日 「ロゴであそぼう」 「マウスでグラフィックス」	第5回遊びと造形発想展 （造形スタジオ，ギャラリー） 6.14～28	ロビー一般利用 「水ようコンサート」 毎週水曜日
	体育室一般利用 ニュースポーツゲーム 第2日曜日と前日の土曜日	おはなし紙芝居 （幼児向け） 毎週火曜日	こども歳時記 「節分」 1.19～2.3	ロビー一般利用 「木ようひろば」「木ようワンダーランド」毎週木曜日
	体育室一般利用 卓球 第3日曜日と前日の土曜日	おはなし人形広場Ⅰ （幼児向け） 毎週水曜日	こども歳時記 「ひなまつり」 2.16～3.3	ロビー一般利用 「楽器であそぼう」 毎週金曜日
	体育室一般利用 ミニサッカー 第4日曜日と前日の土曜日	おりがみ遊び広場 （幼児・小学生向け） 毎週木曜日	第3回遊びと造形発想セミナー 11.28	ロビー一般活動 「ワールドミュージックチャレンジ」 毎週土曜日
	体育室一般利用 ユニホック 第5日曜日と前日の土曜日	おはなし人形広場Ⅱ （幼児向け）音楽ロビー 毎週土曜日		ロビー一般活動 「いろいろ楽器コンサート」 毎週日曜日・祝日
	母と子のふれあい広場 1.15, 2.11	プラモデル模型工作教室 （小・中学生向け） 毎週日曜日		ロビー一般活動 「わいわいバンドとあそぼう」 「みんなで遊ぼう音楽広場」 「サンバコンサート」 日曜日・祝日（週替わり）
	ドキドキわんぱくランド 10.10・11	遊び歳時記① 「母の日行事」 5.9・10		
	水泳記録会 3.14	遊び歳時記② 「父の日行事」 6.20・21		わいわいスタジオ （音楽スタジオB） 日曜日・祝日（週替わり）
	新体操発表会 3.20	遊び歳時記③ 「七夕行事」 7.2～7		五人ばやしでトントコトン！ 2.17・28
	父母参観 6.16～20, 11.17～21 2.23～27	遊び歳時記④ 「敬老の日行事」 9.13・15		
		遊び歳時記⑤ 「体育の日ゲーム大会」 10.10・11		

A　　V	小児保健・保育	研　修　教　養	企画・国際交流・広場
グループ活動 毎週火～金曜日			グループ活動 毎週火～金曜日
AV ライブラリー 自由利用 毎日	診療・相談〔小児〕 「総合健康相談」 「心理相談」 「育児・生活相談」 「言語相談」 「発達相談」 毎週２～６回 「アレルギー・喘息相談」 「耳鼻科相談」 「精神科相談」 「神経科相談」 「ダウン症相談」 月１回	マックロー人形劇場 〔ボランティア〕（プレイホール） 毎週第２土曜日	アート・スケープ展 〔国際交流〕（ギャラリー） 4.10～24
おもしろビデオ館 （音楽スタジオ B） 毎週金曜日		絵本の読み語り 〔ボランティア〕（プレイホール・保育室Ⅱ）　毎週日曜日	円形ファミリーイベント 〔国際交流〕（円形劇場） 5.16・17
ぱたぱたアニメをつくろう （音楽ロビー） 毎週土曜日		ボランティア講習会 24期：６～７月 25期：11～12月 26期：１～３月	800万人記念セレモニー 〔企画〕 1.24
バンダイビデオ試写会 （フリーホール又は研修室） 毎週日曜日・祝日			ゆかいな遊びを広げるおもちゃ展〔企画〕 10.14～21
マック TV こどもの城情報局（５月まで） 毎週日曜日・祝日	赤ちゃんサロン 〔小児〕 月２回（第２・３火曜日）	ボランティア グレードアップ講習会 ①救急法（計24時間） 5.30～6.7 ②夏キャンプに向けて 7.10～12；２泊３日	あそびのおもちゃ箱 〔企画〕（フリーホール） 11.20～23
わいわいスタジオ 「AV 実験室」 「こどもの城映画劇場」 「おもしろビデオ館」 （音楽スタジオ B） 隔週日曜日・祝日	保育フェスティバル 〔保育〕 12.16		
	保育活動展 〔保育〕 2.19～3.7	児童厚生員等実技指導講習会 １回；5.14～17 ２回；10.23～25 ３回；1.22～24	
AV ライブラリー自由利用 「地球特集」 10.1～31			
		L. I. T. 合宿 夏期；7.11～12 冬期；1.16～17	
		L. I. T. 実習 びゅんびゅん独楽をまわそう 12.20～23	

	体　育	プ レ イ	造　形	音　楽
平常期間		遊び歳時記⑥ 「節分会」 1.30・31		
		遊び歳時記⑦ 「ひなまつり行事」 2.27・28		
		ファミリーゲーム大会 6. 2　横浜開港記念日 7. 1　川崎市制記念日 10. 1　都民の日 11.14　埼玉県民の日 11.23　勤労感謝の日 1.15　成人の日 2.11　建国記念日		
		バンパー大会 (小・中・高生向け) 9.23　秋分の日 3.20　春分の日		
春休み	プール一般開放 4.1～5	プレイホール・コンピュータプレイ自由利用 4.1～5	おじいさんの道具箱パートⅡ 4.1～5	5つのわくわくコンサート (音楽ロビー) 4.1～5
	体力測定 (健康開発室) 4.1～5	屋上遊園・プレイポート・ふしぎが丘自由利用 4.1～5	プレイングボードコーナー 4.1～5	等体験コーナー (音楽スタジオA) 4.1～5
	スポーツアラカルト (体育室) 4.1～5	パソコンルーム一般利用 「ロゴであそぼう」 4.1～5		
児童福祉週間	スポーツアラカルト (体育室) 4.29・5.3～5	プレイホール・コンピュータプレイ自由利用 4.29～5.5	やってみよう！つくってみよう！ 4.29～5.5	音楽の世界旅行 (音楽ロビー) 4.29～5.5
	プール一般開放 4.29・5.3～5	屋上遊園・プレイポート・ふしぎが丘自由利用 4.29～5.5	こども歳時記 「こどもの日」 4.29～5.5	親子であそぼう音楽広場 (音楽スタジオA) 4.29～5.5
	体力測定 (健康開発室) 4.29・5.3～5	パソコンルーム一般利用 「ロゴであそぼうⅡ」 4.29～5.10	プレングボードコーナー 4.29～5.5	わいわいバンドとあそぼう（音楽ロビー） 4.29～5.5
		キャッスルクエスト'92 4.29～5.5		いろいろ楽器コンサート (音楽ロビー) 4.29～5.5

A　　V	小児保健・保育	研　修　教　養	企画・国際交流・広報
ライブラリー自由利用 「オリジナルソフト特集」 4.1～5	保育室Ⅱ一般開放 〔保育〕 4.4・5	春休みチャレンジゲーム大会 (屋上ふしぎが丘) 4.1～5	春休みチャレンジゲーム大会 (屋上ふしぎが丘) 4.1～5
バンダイビデオ試写会 (フリーホール) 4.1～5			
マック TV こどもの城情報局 4.1～5			
AV実験室「アニメおもちゃをつくろう」(音楽ロビー) 4.1～5			
ライブラリー自由利用 「のりもの大百貨特集」 4.29～5.5			
バンダイビデオ試写会 (研修室) 4.29・5.3～5	子育て相談コーナー 〔小児〕 5.4・5	キャッスルクエスト'92 4.29～5.5	キャッスルクエスト'92 (協力) 4.29～5.5
マック TV こどもの城情報局 4.29～5.5	保育室Ⅰ・Ⅱ一般開放 〔保育〕 4.29・5.2～5		こどもフェスティバル 〔企画〕(円形劇場) 5.3～5
AV実験室 「ぱたぱたアニメをつくろう」 「ぱたぱたお話アニメをつくろう」 (音楽スタジオB) 4.29～5.5	第9回マタニティコンサート 〔小児〕(円形劇場) 4.29		マックロー誕生日 〔企画〕 5.5

	体　育	プレイ	造　形	音　楽
夏休み	プール一般開放 7.21～8.31	プレイホール・コンピュータプレイ自由利用 7.21～8.31	素材との出会い展 「土と造形」 7.18～8.31	みんな集まれ！音楽広場 (音楽ロビー) 7.21～8.9
	体力測定 (健康開発室) 7.21～8.31	屋上遊園・プレイポート・ふしぎが丘自由利用 7.21～8.31	プレイングボードコーナー 7.31～8.31	南洋音楽座 (音楽スタジオA) 8.1～9
	ちびっこプール (屋上遊園) 7.21～8.31	パソコンルーム一般利用 「スケッチしよう」 7.21～8.9		手作り楽器フェスティバル (音楽ロビー，スタジオA) 8.11～31
	体育室自由利用 (催し物期間を除く) 7.21～8.31	パソコンルーム一般利用 「自然とあそぼう」 8.11～31		
	オリンピック速報展 (体育ロビー) 7.24～8.9			
	オリンピック展 (ギャラリー) 8.12～31			
	オリンピック記念 世界スポーツめぐり サッカー　7.21～24 トランポリン　7.25・26 8.22・23 バスケットボール　7.28～31 ラクロス　8.1～3 卓球　8.4・5 ユニホック　8.8・9 11～14 ユニカール　8.25～27 カバティ　8.28～31 セパタクロー　9.6			
	児童館対抗卓球大会 (体育室) 8.6・7			
開館記念	プール一般開放 10.31～11.3	プレイホール・コンピュータプレイ自由利用 10.31～11.3	第7回造形スタジオ展 10.31～11.29	開館記念セレモニー (音楽ロビー) 11.1・3
	体力測定 (健康開発室) 10.31～11.3	屋上遊園・プレイポート・ふしぎが丘自由利用 10.31～11.3	プレイングボード 10.31～11.3	いろいろ楽器コンサート (音楽ロビー) 11.1・3
	ドキドキわんぱくランド (体育室) 11.1・3	パソコンルーム一般利用 「マウスでグラフィックス」 「ロゴであそぼう」 10.31～11.3	やってみよう！つくってみよう！ 10.31～11.3	

A　　V	小児保健・保育	研　修　教　養	企画・国際交流・広報
ライブラリー自由利用 「オリンピック特集」 7.21～8.9	夏休み健康フェスティバル 〔小児〕 7.28～30	ウォーターアドベンチャー'92 (屋上ふしぎが丘) 8.15～25	おはなし探検隊 〔企画〕(ギャラリー) 7.21～8.9
ライブラリー自由利用 「自由研究に役立つかな」 8.11～31	こども一日ドック 〔小児・体育〕 7.23・24(健康開発室)	あそびのおもちゃ箱 (フリーホール) 8.25～30	おはなし広場 〔企画〕(フリーホール) 7.26～8.7
こどもの城映画劇場「高橋克雄メルヘン人形アニメの世界」 7.21～26(音楽スタジオB)	保育セミナー 〔保育〕 7.27・28		ウォーターアドベンチャー'92 (屋上ふしぎが丘) 8.15～25(協力)
バンダイビデオ試写会 (研修室・フリーホール) 7.26～8.31	保育シンポジウム 〔保育〕 8.13		こどもフェスティバル 〔企画〕(円形劇場) 8.14～16
夏休みおもしろビデオ館 「世界絵本箱」 8.1～9(音楽スタジオB)			第9回渋谷6館スタンプラリー〔広報〕 7.21～8.31
AVフェスティバル'92 (音楽スタジオB) 8.11～23			
こどもの城映画劇場「カナダのアニメーション」(音楽スタジオB) 8.25～31			
ライブラリー自由利用 「劇場公演ダイジェスト」 11.1・3	保育室Ⅱ一般開放 〔保育〕	開館記念チャレンジゲーム (ふしぎが丘) 10.31・11.1～3	ハロウィンイベント 〔国際交流〕(円形劇場) 10.31・11.1
バンダイビデオ試写会 (研修室・フリーホール) 11.1・3	開館記念小児保健セミナー 「変わる育児事情」〔小児〕 (研修室)10.24		劇あそびフェスティバル 〔企画〕(円形劇場) 11.3
			開館記念チャレンジゲーム (ふしぎが丘)(協力) 10.31・11.1～3

	体　育	プレイ	造　形	音　楽
開館記念		開館記念人形劇フェア (フリーホール) 10.31・11.1・3		
冬休み	プール一般開放 12.25～1.7	プレイホール・コンピュータプレイ自由利用 12.25～1.7	冬休みオープスタジオ 12.22～1.10	うたってぽかぽか (音楽ロビー) 12.23～27
	体力測定 (健康開発室) 12.25～1.7	屋上遊園・プレイポート・ふしぎが丘自由利用 12.25～1.7	こども歳時記 「クリスマス」 12.1～25	音楽広場 (音楽ロビー) 12.23～27
	体育室自由利用 ニュースポーツゲーム 12.25～27	カードをつくろう (パソコンルーム) 12.1～27,1.3～10	こども歳時記 「お正月」 12.26～1.17	太鼓道場 (音楽ロビー) 1.3～7
	身体を動かすお正月 (体育室) 1.3～7	冬休み人形劇フェア (フリーホール) 12.23～25	プレイングボード 12.25～1.7	美女太鼓 (音楽ロビー) 1.3～7
		昔あそび大会「紙相撲」 (プレイホール) 1.3～7		初春箏之館 (音楽スタジオA) 1.3～7
春休み	プール一般開放 3.25～31	プレイホール・コンピュータプレイ自由利用 3.25～31	春休みオープンスタジオ こんなかおがおもしろい！～面～　3.25～31	春は元気に1.2.3！ (音楽ロビー) 3.23～27
	体力測定 (健康開発室) 3.25～31	屋上遊園・プレイポート・ふしぎが丘自由利用 3.25～31	プレイングボード 3.25～31	ぼくらのサウンド'93 (円形劇場) 3.26～28
	体育室自由利用　卓球・ニュースポーツゲーム 3.25～31	パソコンルーム一般利用 コンピュータミュージック　3.25～31		
		春休み人形劇フェア (フリーホール) 3.26～28		

A　　V	小児保健・保育	研　修　教　養	企画・国際交流・広報
			一本の木から地球へ 〔広報〕（ギャラリー） 10.28～11.8
ライブラリー自由利用 「昔のヒーロー特集」 12.25～1.4	子育て相談コーナー 〔小児〕 12.23・24	お正月のおそび大集合 《見る》展示 12.23～1.7 《作る》展示 1.3～15 《遊ぶ》展示 1.3～17	お正月の遊び大集合 《見る》展示 12.23～1.7 《作る》展示 1.3～15 《遊ぶ》展示 1.3～17
バンダイビデオ試写会 （研修室・フリーホール） 12.25～1.7	こども一日ドック 〔小児〕 1.5・6		
AV実験室 （音楽スタジオB） 12.25～27	保育室Ⅱ一般開放 〔保育〕		新春おもちつき大会 〔企画〕（屋上遊園） 1.5
こどもの城映画劇場 （音楽スタジオB） 1.3～7			こま名人来る〔企画〕 （音楽スタジオB，アトリウム） 1.6・15・17
ライブラリー自由利用 「オリジナルソフト特集」 3.25～31	保育室Ⅱ一般開放 〔保育〕	チャレンジゲーム大会 （屋上ふしぎが丘） 3.26～31	チャレンジゲー大会 （屋上ふしぎが丘） 3.26～31
バンダイビデオ試写会 （研修室・フリーホール） 3.29～31			
春休みAV実験室 （音楽ロビー） 3.25～27			

(3)　グループ活動実施状況

区分		保育園	幼稚園	小学校	養護学校	ろうあ学校	盲学校	小学校特殊学級	幼児教室・研究所	自主保育グループ	計
件数		7	31	5	12	1	1	9	10	1	77
月別内訳	4月		4						3		7
	5月		1	2	1				1		5
	6月		1		1			1			3
	7月								2		2
	8月										
	9月		1		2			2	2		7
	10月		3	1				1			5
	11月	1	3		1				2		7
	12月	2	1					1			4
	1月	3	5	1		1				1	11
	2月	1	8	1	6			2			18
	3月		4		1		1	2			8
地域別内訳	東京都　区	4	29	5	9	1	1	6	10	1	66
	東京都　市	3			1			2			6
	他府県		2		2			1			5
参加児童数別内訳	10未満				3			6			9
	10～19	5	13		8	1	1	2	7	1	38
	20～29	1	11					1	1		14
	30～39	1		1	1				2		5
	40～49		3	2							5
	50～59		1								1
	60～79		3	2							5
	80～99										
	100～149										
	150以上										
参加児童数	延べ数	130	824	253	158	19	16	91	185	16	1,692
	1件当たり	18.5	26.5	50.6	13.1	19.0	16.0	10.1	18.5	16.0	21.9
引率者数		22	107	16	113	6	2	47	20	2	335
付き添者数			124		10	19	16	5		4	178
活動部門	体育	1	6					4	5	1	17
	プレイ	2	4	1				1	1		9
	造形	1	11			1		2	1		16
	音楽	1	16	4	12		1		4		38
	AV	2	6	1	1			2			12
	プ自由	6	26	1	4	1	1	6	8	1	54
	A自由		3								3

(4) 講座・クラブ等

1 講　座

部門	プログラム	対象	コース	定員	受講者数
体育	幼児・母親水泳	幼児・母親	1年 2コース	60 (組)	69 (組)
	幼児水泳	幼児	〃 6 〃	330 (人)	275 (人)
	幼児体育	〃	〃 3 〃	120	98
	小学生水泳	小学生	〃 6 〃	320	339
	シニア・スイミング	小・中学生	〃 3 〃	90	77
	シニア・スイミング・フレッシュ	〃	〃 1 〃	30	36
	小学生体育	小学生	〃 1 〃	40	20
	小学生総合体育	〃	〃 1 〃	40	21
	ジュニア新体操	〃	〃 1 〃	35	17
	シニア新体操	小・中学生	〃 1 〃	35	27
	手足の不自由な子の水泳	小学生	〃 1 〃	15	17
	レディース・スイミング	女性	〃 3 〃	180	186
	レディース・リズム&ストレッチ	〃	〃 1 〃	30	25
	幼児・母親体育	幼児・母親	3か月 3 〃	90 (組)	84 (組)
	幼児リズム運動	幼児	〃 3 〃	90 (人)	57 (人)
	母と子のすくすくランド	乳児・母親	〃 3 〃	60 (組)	49 (組)
	母と子のパチャパチャスイム	〃	〃 3 〃	90	75
	成人集中水泳講習会	成人	通年毎月1 〃	20×12	215
	(小計)(18種)		(43)	(1,895)	(1,687)
プレイ	小学生パソコン教室Ⅰ(初級)	小学生	2か月 2コース	40 (人)	36 (人)
	小学生パソコン教室Ⅱ(中級)	パソコンⅠ修了者	〃 2 〃	40	29
	(小計)(2種)		(4)	(80)	(65)
造形	A. プリントワーク	小学生	1年 1コース	10 (人)	4 (人)
	B. クレイワーク	〃	〃 1 〃	10	9
	C. 造形おもしろ旅行	〃	〃 1 〃	10	7
	D. ゆかいな造形	〃	〃 1 〃	10	8

部門	プログラム	対象	コース	定員	受講者数
造形	E．アニメ体験	小学生	1年 1コース	10 (人)	3 (人)
	F．ハンズワーク	〃	〃 1 〃	10	6
	(小計)(1種)			(60)	(37)
音楽	おんがく星みつけた(就園前のリトミック)	幼児・母親	3か月 3コース	90 (組)	83 (組)
	おかあさんもいっしょ(リトミック)	〃	1年 3 〃	60	53
	リズムムービング	幼児	〃 3 〃	42 (人)	40 (人)
	リズムムービング&パーカッション	小学生	1年 1 〃	20	21
	合唱	〃	〃 1 〃	30	30
	ガムラン	小・中・高校生	〃 1 〃	10	5
	三味線	〃	〃 3 〃	36	25
	和太鼓グループ「日本のリズム」	〃	〃 1 〃	12	11
	集まれ・みんなのリズム	小・中学生	3か月 3 〃	30	19
	シンセサイザー&コンピュータミュージック	小・中・高校生	〃 6 〃	48	33
	おとなのためのガムラン	一般	〃 1 〃	15	10
	混声合唱	高校生以上	1年 1 〃	15	7
	(小計)(12種)		(27 〃)	(408)	(337)
研修教養	手話講座	高校生以上	5か月 2コース	60 (人)	60 (人)
	点訳入門講座	一般	1年 1 〃	30	38
	お話講座	〃	3か月 1 〃	30	17
	子どもの心を考える	〃	1 〃	60	65
	(小計)(4種)		(5 〃)	(180)	(180)
国際交流	パフォーミング・アーツグループ	小学生	1年 1コース	30 (人)	31 (人)
	(小計)(1種)		(1 〃)	(30)	(31)
保育研究開発	幼児グループ	幼児	1年 1コース	20 (人)	19 (人)
	母子教室	母親・幼児	3か月 3 〃	各12 (組)	13 (組)
	育児相談のケースカンファレンス	育児相談担当者	1年 1 〃	20 (人)	23 (人)
	保育内容研修会	保育従事者	1 〃	100×5	682
	(小計)(4種)		(6 〃)	(562)	(737)

I　事業の概要

部門	プログラム	対象	コース	定員	受講者数
小児保健	健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉	小学生	1年 1コース	25 (人)	25 (人)
	母と子のリトミック〈ダウン症児クラス〉	ダウン症児・母親	〃 1 〃	10 (組)	11 (組)
	講座「新しい時代の育児」	保母，保健婦等	2か月 3 〃	20 (人)	39 (人)
	マタニティ・スイミング	妊婦(16週～)	通年 1 〃	35	平均31
	(小計)(4種)		(6 〃)	(90)	(106)
合計	46種		98コース	3,305	3,180

2　クラブ

部門	プログラム	会員数
体育	ダイナミック・ヘルスクラブ	215(人)
	マックロー・スポーツクラブ	9
	(小計)	(224)
プレイ	パソコンクラブ	39
	キッズクラブ	20
	ユースクラブ	33
	(小計)	(92)
音楽	合唱団	95
	ユースバンド	15
	ガムラングループ	10
	パーカッション・アンサンブル	17
	(小計)	(137)
A V	ファミリー・ビデオクラブ	5(組)
	L.I.T.(高校生ボランティア養成)	27(人)
	点訳サークル	17
	(小計)	(44)
保育研究開発	保育クラブ	435
計	11種	937

3　こどもの城友の会

平成5年3月31日現在在籍家族数	3,274家族
平成3年度末会員数	3,582家族
平成4年度中の増・△減)	(△308)

(注)1　講座について

① 講座は46種目98コースの実施部門
講座名，対象，コース期間，定員，受講者数一覧である。

② 表のうち，定員及び受講者数の整理方法は次のとおりである。

A　定員欄の数は2コース以上ある講座は定員の合計数を記入した。

B　受講者数欄の1年コースについては1～3学期受講者の平均数を記入し，2コース以上のコースはその合計数とした。

C　マタニティ・スイミング（小児保健部）は各月受講者の平均数とした。

2　クラブについて

① 一定の講師により指導しているクラブの会員数は登録人数の平均数を記入した。

② 利用型のクラブについては3月末登録者数とした。

3　春休み及び夏休みの短期集中講習会は，次のとおり実施した。

(体育)	夏期こども集中水泳講習	6コース	定員270人	受講者数253人
	春期こども集中水泳講習	2コース	90	85
	夏期体操教室	1コース	30	17
(プレイ)	夏期パソコン教室	1コース	20	20
	春期パソコン教室	1コース	20	10
	パソコン自由課題教室	1コース	15	16
(造形)	夏期造形教室	12コース	120	92
(音楽)	音楽・サマーセミナーI	3コース	延べ48	55
(A V)	夏期母と子のビデオ教室	1コース	8組	1組
(小児保健)	夏期健康教室（太りすぎクラス）	1コース	20人	6人
	小児肥満の指導者講習会（栄養士など）	2コース	100	110
		31	741	65

4　その他

以上のほか，継続的に開講しているが，1回ごとに参加者が変わるものとして次の事業を行った。
プラモデル模型工作教室（プレイ事業部）

(5) 視察・見学実績

（カッコ内は件数）

年度		都道府県・市区町村の本庁その他の行政部局，公共団体		児童館，保育所，幼稚園，学校，施設，サークル，これらの団体		外国人		その他		計	
昭和60年度		(100)	1,122	(100)	1,578	(22)	169	(18)	410	(240)	3,279
61年度		(121)	714	(192)	4,085	(52)	359	(31)	513	(396)	5,671
62年度		(107)	439	(123)	2,437	(36)	347	(20)	477	(286)	3,700
63年度		(91)	598	(69)	770	(30)	211	(32)	296	(222)	1,875
平成元年度		(72)	541	(71)	931	(10)	86	(25)	195	(178)	1,753
2年度		(65)	605	(27)	292	(8)	156	(17)	212	(117)	1,265
3年度		(63)	417	(47)	705	(11)	77	(6)	274	(127)	1,473
平成4年度	4月	(3)	6	(3)	101	(1)	2	(0)	0	(7)	109
	5月	(6)	51	(1)	107	(0)	0	(1)	12	(8)	170
	6月	(12)	84	(1)	4	(2)	23	(1)	2	(16)	113
	7月	(2)	7	(3)	97	(2)	50	(3)	11	(10)	165
	8月	(6)	93	(1)	1	(2)	32	(1)	10	(10)	136
	9月	(1)	4	(5)	81	(0)	0	(0)	0	(6)	85
	10月	(6)	102	(13)	211	(1)	10	(0)	0	(20)	323
	11月	(10)	73	(8)	176	(1)	5	(0)	0	(19)	254
	12月	(2)	33	(1)	14	(0)	0	(0)	0	(3)	47
	1月	(4)	11	(4)	51	(0)	0	(0)	0	(8)	62
	2月	(12)	70	(7)	94	(0)	0	(0)	0	(19)	164
	3月	(14)	51	(15)	101	(0)	0	(0)	0	(29)	152
	合計	(78)	585	(62)	1,038	(9)	122	(6)	35	(155)	1,780
累計		(697)	5,021	(691)	11,836	(178)	1,527	(155)	2,412	(1,721)	20,796

備考 (1) 「外国人」 韓国，北朝鮮，中国，香港，台湾，タイ，ネパール，マレーシア，シンガポール，フィリピン，インドネシア，フィジー，スリランカ，インド，パキスタン，ビルマ，オーストラリア，ニュージーランド，バヌアツ，ソロモン，キリバス，ツバル，西サモア，パプアニューギニア，イラン，イラク，クウェート，イスラエル，イギリス，フランス，西ドイツ，スイス，イタリア，デンマーク，フィンランド，ハンガリー，ソ連，チェコ，ポーランド，カナダ，アメリカ，メキシコ，

(2) 「その他」 中央官庁，中央団体，会社等

(6)　事業経理収支計算書

事業経理収支実績

（単位：千円）

収入の部 款項	4年度 4.4.1～5.3.31	備考
事業収入	1,846,016	
管理運営収入	131,836	入館料収入，友の会収入　ほか
文化体育事業収入	186,553	受講料収入，集団利用収入，一般利用収入，施設使用料収入　ほか
保育事業収入	45,753	保育収入，受講料収入　ほか
小児保健事業収入	20,776	診療収入，相談指導収入，受講料収入　ほか
劇場事業収入	703,129	公演収入，劇場使用料収入　ほか
利用者サービス事業収入	757,969	宿泊収入，レストラン等収入　ほか
特定預金取崩収入	14,860	退職手当引当預金取崩
繰入金収入	956,110	基金経理より繰入収入等
収入合計	2,816,986	
支出の部		
事業運営費	2,816,986	
役職員給与	697,736	役員報酬，職員給与　ほか
諸支出金	75,157	社会保険料事業者負担金
特定預金支出	41,891	退職手当引当金支出
退職手当	14,860	
非常勤嘱託手当	15,148	
業務諸費	891,155	諸謝金，旅費交通費，事業庁費，業務委託費　ほか
公演事業費	172,802	公演費，公演諸費　ほか
舞台管理費	324,588	事業庁費，業務委託費　ほか
利用者サービス事業費	576,439	営業費，業務委託費　ほか
協賛事業費	2,991	協賛事業費，チャリティー事業費
こどもの城全国連絡協議会助成金	4,219	
支出合計	2,816,986	

Ⅱ　各部の活動(1)

1　体育事業部
(1) 4年度活動一覧表 ……29
(2)体育事業部の活動 ……35
2　プレイ事業部
(1) 4年度活動一覧表 ……45
(2)プレイ事業部の活動 ……49
3　造形事業部
(1) 4年度活動一覧表 ……65
(2)造形事業部の活動 ……69
4　音楽事業部
(1) 4年度活動一覧表 ……83
(2)音楽事業部の活動 ……91
5　AV事業部
(1) 4年度活動一覧表 ……101
(2)AV事業部の活動 ……105
6　保育研究開発部
(1) 4年度活動一覧表 ……117
(2)保育研究開発部の活動 ……121
7　小児保健部
(1) 4年度活動一覧表 ……139
(2)小児保健部の活動 ……143
8　企画部
(1)企画部の活動 ……151
9　劇場事業本部
(1)演目一覧表 ……167
(2)劇場事業本部の活動 ……173

(1)　4年度活動一覧表　1）週間事業実施時間

曜日／区分／時間	火		水		木		金		土		日	
	体育室	プール	体育室	プール	体育室	プール	体育室	プール	体育室	プール	体育室	プール
10：00		レディーススイミングA	レディースR&A	幼児母親水泳A		レディーススイミングB	母と子のすくすくランド	母と子のパチャパチャスイミング	一般利用	幼児母親水泳	一般利用	一般利用
11：00	グループ活動	マタニティ・スイミング	幼児母親体育		グループ活動	マタニティ・スイミング				レディーススイミングC		
12：00	D.H.C	D.H.C	D.H.C	D.H.C	D.H.C	D.H.C	D.H.C	D.H.C	D.H.C	D.H.C		
13：00												
14：00		幼児水泳A		幼児水泳B		幼児水泳C			一般利用	一般利用		
15：00	幼児体育A	幼児水泳D	幼児体育B	小学生水泳A	幼児体育C	幼児水泳E	幼児リズム運動	幼児水泳F				
16：00	小学生総合体育	小学生水泳B	ジュニア新体操	小学生水泳C	小学生体育		ジュニア新体操	小学生水泳D		健康教室		
17：00	マックロー・スポーツ・クラブ	小学生水泳F シニアスイミングA	シニア新体操	一般利用 シニアスイミングB	マックロー・スポーツ・クラブ	一般利用 シニアスイミングC	シニア新体操	一般利用 シニアスイミングF		肢体不自由児スイミング		
18：00		成人集中水泳									D.H.C	D.H.C
19：00	D.H.C	D.H.C	D.H.C	D.H.C	D.H.C	D.H.C	D.H.C		成人集中水泳講習会 D.H.C	D.H.C		
20：00												
21：00												

2)　平常期間プログラム

名　　称	期　　間	時　　間	場　所	要　員	備　　考
				(人)	
プール一般開放	水曜日～金曜日 土曜日 日曜日・祝日	16:30～17:30 13:30～16:00 10:30～17:30	プール	ガード 1～2	大人　300円 子ども　200円 幼児　100円
体育室一般開放					
バスケットボール	各第1日曜日と前日の土曜日	10:30～12:00, 13:00～16:00	体育室	1	14:00, 16:00に試合
ニュースポーツゲーム	各第2日曜日と前日の土曜日	〃 〃		〃	〃
卓球	各第3日曜日と前日の土曜日	〃 〃		—	—
ミニサッカー	各第4日曜日と前日の土曜日	〃 〃		1	14:00, 16:00に試合
ユニホック	各第5日曜日と前日の土曜日	〃 〃		〃	〃
体力測定	土曜日 日曜日・祝日	14:00, 15:00, 11:00, 13:00, 14:00, 15:00, 16:00	健康開発室	1	100円
グループ活動	火・金曜日	11:00～12:00	体育室	1～2	
パタパタパター	10.10・11	10:00～17:00	〃	1	
母と子のふれあい広場	1.15, 2.11	13:30～, 15:30～	〃	2～3 (外部講師)	
水泳記録会	3.14	9:30～12:30	プール	14	講座対象
新体操発表会	3.20	10:00～12:00	体育室	3	〃
父母参観 (講座見学・プールの一般利用中止)	6.16～20, 11.17～21, 2.23～27	各講座開講時間	体育室 プール		
D. H. C					
エアロビクス	木曜日	19:00～19:40	体育室	1 (外部講師)	4, 5, 6月, 10, 11, 12月
テニス	火曜日	19:20～20:00	〃	1	7, 8, 9月
ゴルフ	土曜日	〃	〃	〃	1, 2, 3月
トレーニング	金曜日	〃	トレーニングジム	〃	10, 11, 12月, 1, 2, 3月
バドミントン	水曜日	〃	体育室	〃	4, 5, 6月

3)　特別期間プログラム

名　　称	期　　間	時　　間	場　所	要　員	備　　考
				(人)	
＜春休み＞ ミニサッカー又は ユニホック	4.1～5	10:30～17:30	体育室	職員1	

1 体　育

名　称	期　間	時　間	場　所	要　員	備　考
				(人)	
<児童福祉週間>スポーツアラカルト	4.29,5.3～5	10:30～17:30	〃	職員2	
<夏休み> 子ども一日ドック	7.23・24	15:30～	健康開発室	職員2	小児保健部との共同事業　料金7,000円
<〃> ちびっこプール	7.21～8.31	10:30～17:00	屋上プール	受付・ガード4	大人，子ども，幼児一律　200円
<〃> オリンピック記念 世界スポーツめぐり					
サッカー	7.21～24	10:00～12:00 13:00～17:30	体育室		
トランポリン	7.25・26 8.22・23	11:00,13:30, 15:30	〃		
バスケットボール	7.28～31	10:00～12:00 13:00～17:30	〃		
ラクロス	8.1～3	10:00～17:30 (1日のみ12:00～13:00はお休み)	〃		ラクロス協会からスタッフ派遣
卓球	8.4・5	10:00～12:00 13:00～17:30	〃		
ユニホック	8.8・9,11～14	10:00～12:00 13:00～17:30 (9月のみ10:00～17:30)	〃		
ユニカール	8.25～27	10:00～12:00 13:00～17:30	〃		
カバティ	8.28～31	10:00～12:00 13:00～17:30 (30,31日は10:00～17:30)	〃		カバティ協会からスタッフ派遣
セパタクロー	9.6	10:00～17:30	〃		セパタクロー協会からスタッフ派遣
<〃> 児童館対抗卓球大会	8.6・7	10:00～12:00 13:00～17:30	〃	6	企画部，都内の各児童館との合同
<〃> オリンピック展	8.12～31	10:00～17:00	アトリウムギャラリー	2	
<開館記念> ドキドキ！わんぱくランド（パタパタパター）	11.1,3	10:00～17:30	体育室	1	
<冬休み> ミニサッカーまたはラグビー	12.21～23	10:00～12:00 13:00～17:30	〃	〃	
<〃> バスケットボール	12.25～28	〃	〃	〃	
<〃> 身体を動かすお正月	1.3～7	〃	〃	2	

名　　称	期　　間	時　　間	場　所	要　員	備　　考
<〃> 子ども一日ドック	1.5・6	15:30～	健康開発室	(人) 職員2	小児保健部との共同事業料金　7,000円
<春休み> 卓球，ミニピンポン，バスケットピンポン	3.25～5.4.5	10:00～12:00 13:00～17:30	〃	1	
<特別期間> プール一般開放	特別期間中 火曜日～土曜日 日・月曜日(開館)	10:00～12:00 13:00～17:30 10:00～17:30	プール	ガード 1～3	大人300円，子ども200円，幼児100円
<〃> 体力測定	特別期間中 火曜日～土曜日 日曜日・祝日 月曜日(開館)	11:00，14:00，15:00，16:00， 11:00，12:00，13:00，14:00，15:00	健康開発室	ガード 1～3	100円

4)　**野外活動**

名　　称	期　　間	時　　間	場　所	要　員	備　　考
スポーツキャンプⅠ＋新体操合宿	8.4～7		福島県ルネサンス棚倉	(人) 職員 外部講師	料金　41,000円
スポーツキャンプⅡ	8.25～28		新潟県グリーンピア津南	〃	〃
スキースクールⅠ	12.25～28		長野県妙高高原	〃	料金　57,000円
スキースクールⅡ	3.28～31		群馬県尾瀬岩鞍	〃	料金　55,000円

5） 講座・クラブ

名称	対象	定員	受講数	曜日　時間	場所	期間　回数	料金	講師等	備考
		(組)	(組)			(回)	(円)		
幼児・母親水泳 A	1・2歳児と母親	30	110	水曜日10:00～11:00	プール	火曜日の講座	1・2期 各27,000	職員	(入会金
〃 B	207	〃	97	土曜日　〃	〃	4.7～7.14 14	3 期 19,000	〃	1,000～3
						9.8～12.22 14			年間有効)
幼児水泳		(人)	(人)			1.12～3.16 10			
〃 A	3・4歳児	50	61	火曜日13:30～14:30	〃			〃	
〃 B	〃	〃	138	水曜日　〃	〃			〃	
〃 C	〃	〃	70	木曜日　〃	〃	水曜日の講座	1・2期 各21,000	〃	〃
〃 D	4・5歳児	60	190	火曜日14:30～15:30	〃	4.8～7.15 14	3 期 15,000	〃	
〃 E	〃	〃	184	木曜日　〃	〃	9.9～12.16 14		〃	
〃 F	〃831	〃	188	金曜日　〃	〃	1.13～3.17 10		〃	
幼児体育 A	3・4歳児	40	92	火曜日14:30～15:30	体育室	木曜日の講座	1・2期 各19,000	〃	
〃 B	〃	〃	89	水曜日　〃	〃	4.9～7.9 14	3 期 14,000	〃	〃
〃 C	4・5歳児	〃291	110	木曜日　〃	〃	9.10～12.17 14		〃	
						1.14～3.25 10			
小学生水泳 A	小学生	60	188	水曜日14:30～15:30	プール			〃	
〃 B	〃	〃	196	火曜日15:30-16:30	〃	金曜日の講座		〃	
〃 C	〃	〃	230	水曜日　〃	〃	4.10～7.10 14	1・2期 各21,000	〃	〃
〃 D	〃	〃	207	金曜日　〃	〃	9.11～12.11 14	3 期 15,000	〃	
〃 E	〃	40	136	木曜日　〃	〃	1.8～3.19 10		〃	
〃 F	小2年～	〃	127	火曜日16:30-17:30	〃			〃	
	1,082					土曜日の講座			
シニアスイミング A	小・中学生	30	75	火曜日16:30～18:00	〃	4.11～7.11 14		〃	
〃 B	〃	〃	74	水曜日　〃	〃	9.12～12.19 14		〃	
〃 C	〃159	〃	85	木曜日　〃	〃	1.9～3.13 10	1・2期 各21,000	〃	〃
シニアスイミングフレッシュ	小3～中	35	108	金曜日　〃	〃		3 期 15,000	〃	
小学生体育	小学生	40	60	木曜日15:30～16:30	体育室		1・2期 各17,000 3 期 12,000	〃	〃
小学生総合体育	小1～3	〃	64	火・木曜日 15:30～16:30	体育室 プール	総合体育，新体操 1・2期 28 3期 20 室	1・2期 各25,000 3 期 18,000	〃	〃
ジュニア新体操	小1～3	35	50	水・金曜日 15:30～17:00	体育室		1・2期 各26,000	〃	〃
シニア新体操	小3～	〃	131 81	水・金曜日 16:30～18:00			3 期 20,000	〃	
手足の不自由な子の水泳	小学生	15	52	土曜日17:00～18:00	プール		1・2期 各16,000 3 期 11,000	〃	〃
レディース・スイミング A	女性	60	182	火曜日10:00～11:00	〃	レディースの講座は各曜日に準じる。	1・2期 各21,000	〃	〃
〃 B	〃	〃	206	木曜日　〃	〃		3 期 16,000	〃	
〃 C	〃	〃	169	土曜日11:00～12:00	〃			〃	
レディース・リズム＆ストレッチ	〃	30	371 75	水・金曜日 10:00～11:00	体育室 〃		1単位 1・2期 各21,000 3 期 16,000 2単位 1・2期 各31,000 3 期 22,000	外部講師	〃
健康スポーツ教室	小学生	25	75	土曜日16:00～17:00	体育室 プール 健康開発室			職員	小児保健との合同事業
マタニティ・スイミング	妊婦	35 (各月)	368	火曜日11:00～12:00 木曜日　〃	プール		入会金 5,000 1月 10,000	〃	〃

＊受講数は合計延べ人数

Ⅱ　各部の活動 (1)

＜講習会＞

名称	対象	定員	受講数	曜日 日時	場所	期間 回数	料金	講師等	備考
幼児・母親体育	2・3歳と母親	(組) 30	(組) 84	水曜日11:00～12:00	体育室	(回) 水曜日講習会 4.8～6.17 10 9.9～11.18 10 1.13～3.17 10	(円) 1期 17,000	外部講師 職員	
幼児リズム運動	3・4歳	〃	57	金曜日14:30～15:30	〃		〃 13,000	職員	
母と子のすくすくランド	お座りのできる子と母親	20	49	金曜日10:00～11:00	Bリハーサル室	金曜日の講習会 4.10～6.12 10 9.11～11.13 10 1.8～3.19 10	〃 21,000	〃	
パチャパチャスイム	1・2歳と母親	30	75	〃	プール		〃 23,000	〃	
肥満児指導者講習会	成人	(人) 50	(人) 110	10:00～12:00	体育室 健康開発室	10.15, 3.11			

＊受講数は合計延べ人数

＜クラブ＞

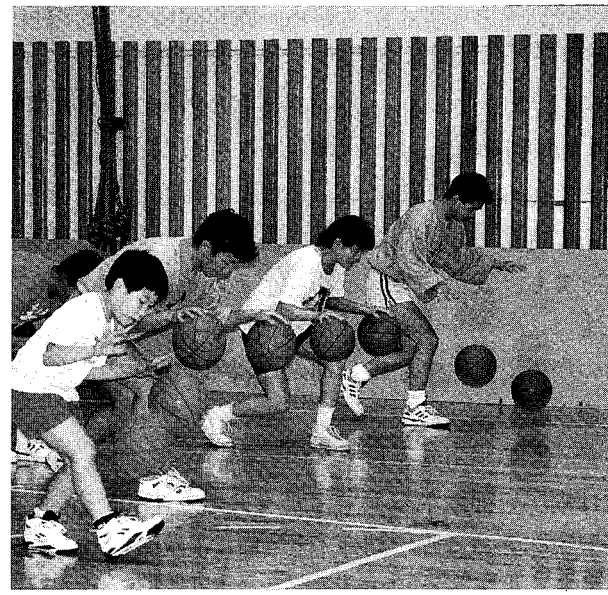
名称	対象	定員	受講数	曜日 日時	場所	期間 回数	料金	講師等	備考
マックロー・スポーツクラブ	小・中学生	(人) 50	(人) 16	火・木曜日 16:30～18:00	体育室	(回) 火・木曜日の講座に準ずる	(円) 半期 20,000	職員	
ダイナミック・ヘルス・クラブ	成人			火～土曜日 12:00～13:30 18:30～21:00 日曜日18:00～20:00	プール 体育室 ジム ほか	通年	入会金 10,000 会費4か月 26,000 又は1年70,000	〃	年間利用者数 16,569

＜短期講習会＞

名称	対象	定員	受講数	曜日 日時	場所	期間 回数	料金	講師等	備考
成人集中水泳	成人	(人) 20 (各月)	215	火・金曜日 18:00～19:00	プール	(回) 火・金曜日の講座に準ずる 月7	(円) 1か月 10,000	外部講師 職員	年間利用者数 215人
(春休み)						(各5)			
子ども集中水泳A	小学生	50	45	8:30～ 9:30	〃	4. 1 ～ 5	7,000	職員	
〃 B	幼児	40	40	9:30～10:30	〃	〃	〃	〃	
(夏休み)									
子ども集中水泳A	小学生	50	47	8:30～ 9:30	〃	7.23 ～ 27	〃	〃	
〃 B	幼児	40	40	9:30～10:30	〃		〃	〃	
〃 C	小学生	50	40	8:30～ 9:30	〃	7.31～8.4	〃	〃	
〃 D	幼児	40	40	9:30～10:30	〃		〃	〃	
〃 E	小学生	50	46	8:30～ 9:30	〃	8.26 ～ 30	〃	〃	
〃 F	幼児	40	40	9:30～10:30	〃		〃	〃	
ガンバ！'92	小学生	30	17	9:00～10:00	体育室	8.20 ～ 24 5	6,000	〃	

(2) 体育事業部の活動

体育事業部では一般利用，講座，グループ活動，ダイナミック・ヘルス・クラブを中心に野外活動や他事業部との協力事業を含め，多岐にわたる活動を行っている。本年度は昨年までの活動を下地に，内容をさらに強化すべく，一般利用では種目の継続による周知徹底と新しいアイデアでの活動を，講座では指導体制の整備と人的な増強を，グループ活動では指導者の熟達によるさらなるレベルアップを，ダイナミック・ヘルス・クラブではプログラムの種類を増やし多様化を図るなど，主要活動それぞれに充実を目指した。



体育室でさまざまなスポーツを体験

特に一般利用では，定期的な利用のできない〔こどもの城〕の来館児・者に対して，運動の楽しさを伝え，感激を味わってもらうことを第一と考えている。そのためには運動に対する興味と理解を高めるための方法や，新しい運動体験をどう与えるか，今までの経験を生かしてもらうにはどんな種目をどのように紹介すればよいのか等々，考慮しなければならないことがたくさんある。この中から何を選択し，どこまで行うのか，参加者の年齢の幅をも吸収してスムーズに展開していくにはどんな方法があるのか，これらの選び方，進め方こそ指導者としての腕の見せどころであり，醍醐味だと思う。

例えば，ニュースポーツを行う日に参加者の年齢の幅が広い場合は，ユニホック（プラスティック製のスティックとボールを使い，簡単なルールで行う室内ホッケー）を選ぶ。これは，初めて参加した子どもでも，ボールの動き方がほぼ二次元的であり，技術差が出にくく，ボールを打ってゴールに入れるルールも分かりやすいなどの点で優れたスポーツであるからだ。これを素材に正式なルールから，より簡単なルールにし，１チームの人数や年齢を加減し，時にはボールそのものを変えて行う。審判のさい配も活発でかつ安全な活動を行うために重要なポイントになる。

参加者にとって適度な緊張感と運動量がもたらされれば，運動後の笑顔は間違いなく保証される。これを見ることが指導者として最上の喜びである。

また，親子関係の大切さが叫ばれている昨今，母子，父子が運動を介してふれあいを持つ場を提供することも重要な機能の１つである。これら一般利用の機能を果たすためにいろい

ろなプログラムを立てて，対応している。

1）平常期間

一般利用の充実を図るため，昨年同様土・日曜日・祝日の一般開放を中心に，平日の一部分にも，プールの一般開放を行った。

活動プログラムは，ここ数年同じ内容で行っているため，種目ごとに定期的に利用する小学生が見られた。また，ボールを使うプログラムでは，親子で楽しく遊ぶほほえましい光景も多く見られるようになってきた。反面，バスケット・ボールを行いたい小学生や中学生が増えてきたため，同じ場所での活動は，危険な状態ができてしまう。利用する年齢や人数が違っても，安全にできるプログラムが必要になってきている。

また，冬季を中心に「母と子のふれあい広場」を元NHK体操のお兄さんの瀬戸口清文さんの指導で行っている。幼児と親で来館する人にとっては，楽しく愉快なひとときになっているようだ。

プールの利用は平日の利用者が特に少なく，定期的な利用者もなかった。土・日曜日・祝日は幅広い地域からの来館児・者があり，特に春から夏にかけては多くの利用があった。

健康開発室は昨年同様，土曜日の利用こそ少なかったものの，日曜日・祝日は「体力測定」に関心を持って利用する人が多く見られた。今年もゴールデン・ウイークやお盆の時期には利用者が多くなっている。また，定期的に測定をして，自分で体力をチェックする子どももでてくるなど，体力測定の意義が認知されてきているようである。

2）特別期間

(ア)　児童福祉週間

例年どおり，プールの一般開放と体力測定を行った。体育室は「スポーツ・アラカルト」を行った。いろいろなスポーツを時間別に行って，それぞれに挑戦してもらおうという内容。参加者は初めて名前を聞くスポーツもあり，苦労しながらも最後には楽しんで，いい汗を流していた。

(イ)　夏 休 み

夏休み特別期間中に，スペインでバルセロナ五輪（7月25日～8月9日）が開催されたこともあって，五輪の歴史にふれ，そしてスポーツに対して一層の興味をもってもらうため，五輪に関連したプログラムを企画した。プログラムは『こどもの城・オリンピック展』(アトリウムギャラリー)，『バルセロナ五輪速報写真展』(地下2階ロビーほか)，『世界のスポーツめぐり』(体育室）で構成。アトリウムギャラリー・地下2階ロビーでの展示と体育館でのスポーツ活動とをリンクさせて行った。

アトリウムギャラリーで8月8日～31日まで行われた『こどもの城・オリンピック展』は，日本オリンピック委員会の後援，朝日新聞社の協力・資料提供で，①バルセロナ五輪写真(速報写真展で展示したものをまとめて展示)　②新聞の号外でつづる日本選手の活躍　③

スポーツの科学で構成された。特に③では，スポーツを側面から支えている科学という観点から，競泳の水着の発達，電気を利用したフェンシングの自動審判器，射撃の練習用にとに開発されたビームライフルなどを展示し，実際に手を触れて体験できるようにした。また，ソウル五輪・バルセロナ五輪でのメダリストであるレスリングの小林孝至選手を8月17日に，赤石光生選手を8月25日に招いて体験談を聞かせていただくという機会にも恵まれた。

金メダルを手にした赤石選手を囲んで

地下2階体育ロビーでの『バルセロナ五輪速報写真展』（7月22日～8月7日）は朝日新聞社の協力・資料提供で，バルセロナ五輪の日本選手の活躍を中心とした速報写真を展示した。

『世界のスポーツめぐり』は，各国の伝統的なスポーツを紹介・体験することを目的としたプログラム。従来行っていたスポーツ以外に各スポーツ団体の協力を得て，ラクロス（網の付いたスティクを使い，ボールをパスしながらゴールをねらうスポーツ＝8月1日～3日），カバティ（「カバティ」という言葉を一息で連呼しながら敵陣へ入り，捕まらないように敵にタッチして戻ることを競うスポーツ＝8月28日～31日），セパタクロー（籐を編んで作ったボールを使ったサッカーとバレーボールを合わせたようなスポーツ＝9月3日）等の指導とゲームを行った。なじみのない種目であったが，小学生以上の子どもに人気が高く，子どもにとって面白い経験であったようだ。特にインドの国技とも言われるカバティは広い年齢層に好評を博した。

第4回を迎えた児童館こども卓球大会（8月6・7日）は，昨年以上のチームが参加して行われた。1日目は小学生，2日目は中学生の試合と小学生の準決勝と決勝を行った。

プールの一般開放は昨年同様，5階屋上のちびっこプールと地下2階のプールの2か所で行った。水遊び中心の幼児や低学年の子どもたちは5階屋上，しっかりと泳ぎたい高学年以上から大人は地下2階へと，設定どおりに自然な流れができ，互いに使いやすくなっていた。ちびっこプールは昨年より利用者が増し，楽しく，にぎやかな光景が見られた。

(ウ) 開館記念日

開館記念日は「ドキドキ！　わんぱくランド」と銘打って，「パタパタパター」と測定＋トレーニング（体力測定とその種目に関する運動，例えば血圧，脈拍，肺活量を測ってから身体の循環系について話を聞き，実際にエルゴ・バイクをこぐトレーニングをする等）を同時

セパタクローなどの珍しいスポーツも実施

に行った。昨年の夏休みに行い好評を博した「パタパタパター」（人工芝をコースに，ゴルフと同様のルールで全９ホールを回り，打数を競う）は，親子一緒に楽しめるものであることから体育の日にも実施したが，開館記念日の特別プログラムとして，測定＋トレーニングを付け加えた。

「パタパタパター」ではお父さんの活躍が目立ち，楽しそうに参加していた。また，測定＋トレーニングでは，特に小学生が自分の身体について勉強しながら楽しんでいた。

(エ)　冬休み

サッカーやラグビーなど，冬にハイ・シーズンを迎えるスポーツにスポットを当てて紹介と簡単なゲームを行った。子どもたちは汗を流しながら参加していた。

(オ)　春休み

春休みは通常期間の卓球に加え，ミニ・ピンポン，バスケット・ピンポン，輪投げを行った。幼児など小さい子どもの利用や親子での利用が多かった。

3）講座・クラブ・講習会・合宿

体育事業部の活動の中心となる講座・クラブは，各曜日・時間ごとに担当者を決め，下記の考え方を基本に，それぞれの得意な運動種目を生かした味付けで行うなど，特徴を出しながら，幼児・小学生を中心としたプログラムを展開させている。

神経系の発達が著しい幼児・小学生の時期には，運動への興味がいちばん旺盛な時でもあります。この時期，色々なスポーツに参加することにより，身のこなしを覚え，素早くたくましい動きを身につけ，身体活動の楽しさを体で知ることが大切です。この楽しさが，日常生活の中での活動領域を拡げ，積極性を作り，健康な生活づくりの基盤をつくります。

この意味からこの時期の身体活動は生涯の健康の基礎をつくる事になり，運動技能の向上をめざすことはもちろん，健康な生活習慣や心を開いた仲間との交わりを持つ上でも重要だと思います。

レディースの活動においては，快適な運動を取り入れることにより，心身のリフレッシュを図り，活力に満ちた生活を送るベースにしていただければと思います。**（「こどもの城の体育」より抜粋）**

(ア)　講　座

上記の考え方から，体育事業部ではプールでの活動は水を媒体の一部と考えて，水を利用した運動を楽しく行いながら，徐々に水泳の指導につなげていく方法をとっている。これは主に幼児水泳の特徴になっているが，小学生においてもウォーミング・アップの時をはじめ，初心者から上級者のクラスまで応用編として指導の中に生かされている。

講座の構成は前年と変わらないが「リズム＆ストレッチ」のクラスを1つにまとめたことと「母と子のすくすくランド」を体育室で行うようにしたことなど小さな変更を行った。

お母さんと一緒に（幼児・母親水泳）

1　幼児・母親水泳と幼児のプログラム

幼児・母親水泳の人気は相変わらず高く，ほぼコンスタントに定員以上の参加者が来ている。3・4歳児クラスは年齢の違いが，言葉や動きの理解度の違いとして現れており，指導者の工夫が今まで以上に必要になっている。活動時間帯の問題か，曜日によって3・4歳のクラスに減少が見られるものの，4・5歳クラスは満員の状態であった。

2　小学生のプログラム

水泳講座は，初心者から上級者まで入ることができる「小学生水泳」の6クラスと，中級者以上の「シニアスイムA」，上級者対象の「シニアスイムB・C」，3年生以上の初心者からのクラスである「シニアスイムフレッシュ」に分かれている。

幼児プログラムからの継続者を中心に，外部からの入会希望者も多く，定員いっぱいで実施している。「小学生水泳」からレベル的にアップして「シニアスイム」に移動できるだけの体力・技術を持つ者が増え，層も厚くなってきた。指導の一貫性が現れてきている。

体育講座の指導種目の研究が進み，指導方法などにも厚みが出てきているため，受講者個人それぞれに伸びが見られた。

新体操も対外試合に出場する機会が増え，少数精鋭ながらレベルアップしている。

3　成人のプログラム

現在成人向きで年間を通じた講座形式をとっているプログラムは，健康づくりとシェイプアップを中心とした「レディース・エクササイズ」のみで，水泳3コースとリズム＆ストレッチ1コースの2種類，4コースの中から2つまで選択して参加できるようになっている。なかでも水泳の希望者が多く，ほぼ定員で実施。「成人集中」から「レディース」そして「ダイナミック・ヘルス・クラブ」への流れも徐々にできつつあり，各個人の健康づくりに貢献できたと思う。

リズム＆ストレッチは昨年まで2クラスあったものを1クラスにしたところ，逆に参加者数が増え，より充実した内容の講座を実施できた。

(イ)　クラブ

講座とは別に，クラブ（講座のように，教える側と教わる側とにはっきり分かれるのではなく，運動したい人が集まって一緒に活動する形式）の考え方でも活動している。現在クラ

ブ形式の活動は，子ども向けには「マックロー・スポーツ・クラブ」，大人向けには「ダイナミック・ヘルス・クラブ」がある。

1　マックロー・スポーツ・クラブ

少人数ながら，前期はバスケット・ボール，後期はサッカーと分け，シーズン制を取り入れ，ゲーム中心に活動した。運動の得手な子どもはもちろんのこと，不得手な子どももゲームに対して積極的に取り組むことができたが，参加者数の増加までには至らなかった。

2　ダイナミック・ヘルス・クラブ（D. H. C.）

〔こどもの城〕の大人のクラブであるダイナミック・ヘルス・クラブは，子ども利用者が少ない平日の昼とこども活動エリアの活動が終了した後の夕方に，地下2階のプール，体育室，トレーニング・ジム等を活用して行っている。このクラブ活動の場では，健康づくりを主眼として考え，個人会員，法人会員，ビジターなどいろいろな方法で利用できるようになっている。

法人会員に関しては，記名式，無記名式ともに安定していたが，個人会員に関しては年度末には200人を超える程度で，減少の傾向にあった。この主な原因は，ビジター利用者の減少が一番にあげられる。渋谷駅通路の看板や〔こどもの城〕内に掲示したポスターが無くなってしまったことが原因か，ビジターからの新規入会者が少なくなってしまったのである。秋にはPRとしてポスターを新たに作成し，劇場で使用している掲示スペースも含めて，〔こどもの城〕各所に掲示した。

(ウ)　講習会

1年間を通した発想でなく，5～10回で完結する考え方で行っている。開始時期までに対象年齢に達していれば参加できること，講座に入る前に経験したい人や地域的に通いきれない人なども参加できること，指導者を変えたり内容に変化をつけやすいことなど，講座には無い特徴を出すようにしている。

1　春のこども集中水泳（2コース），**夏のこども集中水泳**（6コース）

特別期間の子ども向け講習会は人気が高く，ほぼ満員で実施された。5日間の集中練習のため，成果も著しく，講座受講生，一般受講生ともに効果的な講習会となった。

2　ガンバ'92（夏期体操教室）

「ガンバ'92」は器械体操（跳び箱，マット，鉄棒，トランポリン）を軸に，運動の不得手な子どものためにさまざまな動きを加えた内容で行った。5年目を迎え，人気も高く，参加者も小学校低学年を中心に満員であった。

3　成人集中水泳（各月7回）

「成人集中水泳」は月7回のプログラムを，夏期はほぼ定員で実施。冬季はやや定員を下回るものの，受講者は初心者から上級者，若者からお年寄りまで幅広く参加があり，レディース・スイミングやダイナミック・ヘルス・クラブへ移行する流れができてきた。

(エ)　野外活動

明るい太陽の下で身体を動かし汗を流すことは，子どもにとって必要な経験である。運動

技能や体力の向上を目指すことはもちろんだが，心を開いて仲間とのかかわりを持つことも重要であろう。季節に応じた内容で，子どもたちに幅広い体験をさせたいと考えている。

スポーツキャンプⅠとⅡの違いは，Ⅰは水泳・新体操中心で講座からの参加者が多いことと，合宿的な色彩が強いこと，Ⅱは球技中心で一般からの参加者が多いことと，よりアウトドア指向が強いことがあげられる。

1　スポーツキャンプⅠ・新体操合宿（8.4～7，福島県ルネサンス棚倉）

ルネサンス棚倉で行う3年目のキャンプ。プール，体育館が近くに点在しているので，水泳と新体操の活動を一緒に行っている。ふだんは会う機会もなく，考え方や行動様式が全くと言っていいほど違う2つの講座への参加者が，生活やレクリエーションなどを通して交流を図る場となっている。

新体操講座は，低学年を中心に講座参加者以外からも数人の参加者を迎え，基本動作を中心に合宿として行ったが，楽しさを前面に出した活動であった。水泳講座生と外部からの参加者は，午前中は水泳練習を行い，午後はレクリエーション・スポーツを楽しむなど，有意義な4日間であった。

2　スポーツキャンプⅡ（8.25～28，新潟県グリーンピア津南）

6年目を迎えた津南でのキャンプは，例年とは時期がずれたが，体育講座受講者と外部からの参加者を合わせ，ほぼ満員で行われた。サッカーを中心に，チーム（活動班）に分かれいろいろな種目を行い，まとめとして“オリンピック”と銘打ち，チームごとに競い合う形式で行った。また，生活班ごとに野鳥観察の森へ弁当を持ってでかけるなど，自然に親しむ時間を多く持ったことも，今回の特徴としてあげられる。

3　スキースクールⅠ，Ⅱ

（Ⅰ＝12.25～28，長野県妙高高原，Ⅱ＝3.28～31，群馬県尾瀬岩鞍）

スキースクールⅠとⅡの違いは，対象とする学年がⅠは小学2年以上中学生（募集人数は80人）まで，Ⅱは小学1年生から3年生（募集人員は40人）までであることがあげられる。また，スキーの指導スタッフが生活をともにするので，子どもたちの特徴や体調を把握しやすく，子どもたちの反応もより的確に対応できるなど，きめ細かなスキー指導ができることが特徴となっている。

きめ細かな指導のスキースクール

スキースクールⅠは今回から場所を変え，妙高高原で行った。このため，移動時間が長くなることを考慮して，移動手段をバスから電車を利用する方法に変更したが，ダイヤの関係から長野駅からバスを使わざる

をえず，ここで時間を費やしてしまった。活動面では雪も豊富で，充実したスクールとなった。個人個人のスキー技術進度表を作成・配布し，能力・進度に合った指導を行った。

スキースクールⅡは，昨年に引き続き尾瀬岩鞍で開催した。本年度は雪不足を心配することなく，豊富な雪の中，和気あいあいとした雰囲気で，独自のカリキュラムにそって実施した。4日間で雨，曇り，雪，晴天といろいろな天候を経験することになったが，子どもたちの笑顔には天候さえも勝てないようだった。スキー技術進度表もスキースクールⅠと同様に配布した。

4）グループ活動

〔こどもの城〕の機能と活動内容を知ってもらうため，事前に参加するグループの目的や人数を把握して，午前中を利用して行う活動。準備を含めてまとまった対応ができるため，一般利用ではできないことを経験してもらえる。また，講座やクラブとは異なる指導方法が必要になるので，スタッフの手腕を生かせる場として期待している。

年間を通しての利用は少なくなってしまったものの，意欲的に取り組んだ。グループ活動の指導スタッフは，昨年と同じメンバーが担当したので，雰囲気が画一的になってしまった反面，継続的な利用者には信頼を得ている。いろいろな指導者がかかわるようにすることが来年度の課題である。

5）研究活動など

本年度も昨年同様，豊富な研究活動ができたとは言いがたいが，今までに関係学会で発表して蓄積してきたものを方法論として生かし，広めることに重点を置いた。

(ア)　「こどもの城小児保健クリニックにおける子ども一日ドック5年間のまとめ」
小児保健部との協力事業である「子ども一日ドック」の5年間をまとめたもの。体育事業部では，体力測定と運動に関するカウンセリングを行い，これに基づいたアドバイスをした。(第39回日本小児保健学会で報告)

(イ)　「肥満児指導者の抱える問題点」
肥満児指導者講習会におけるアンケート調査の報告。体育事業部では実際に体験してもらいながら，運動指導の紹介を行った。(第39回日本小児保健学会で報告)

(ウ)　現在，肥満児童に対する運動についての講演や指導，親子での体操指導の依頼にこたえ，市や区レベルのものをはじめ，児童館等にも出向している。
今年の実績は下記のとおり。

＜講 演 会＞東京都小児保健協会，東京都母子保健センター，多摩市，大田区などが主催の講演会。

＜体育指導＞富士見市「父と子の体操教室」，千代田区「健康フェスティバル」，町田保健所，狛江保健所「肥満の幼児とお母さんの体操とお話」，豊島区長崎保健所「赤ちゃんとお母さんの体操とお話」など。

(エ) 著作＝「ビデオ写真でみる 0・1・2・3 歳児の運動発達と体操実践」
——羽崎泰男，西山里美，小林弘子共著——

子どもたちの自然な動きを連続して提示するとともに，その自然な運動発達に合わせた無理のない体操を紹介したもの。ここでは，連続写真ではなくビデオ映像を使用して，1秒間に30フレーム（コマ）ある画像から，いちばん分かりやすい画像を選び，プリントするという新しい試みを行った。子どもたちの実際の動きを目で見ながら解説を読むことで，より正確な判断の材料にできる。指導者はもちろん，他の子どもの状態を知らずに不安を持つ母親にも薦められる，今までにない特徴を持った本である。

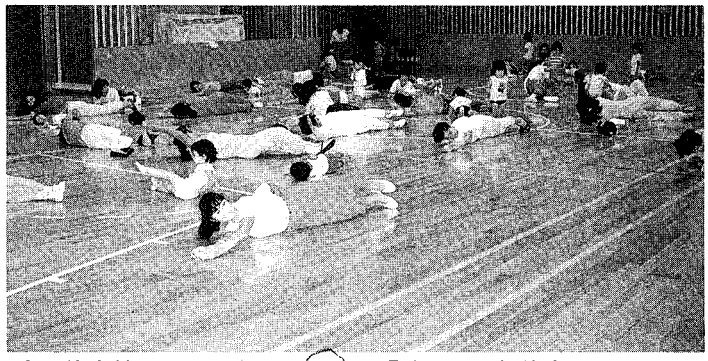
6）おわりに

ねらいや目的（前述）を開館当初から変えていない一般利用や講座・クラブは，参加者にもかなり理解されているようで，子どもたちが自分のニーズに合わせて選ぶことにより，各活動がより効果的に受け止められているようだ。

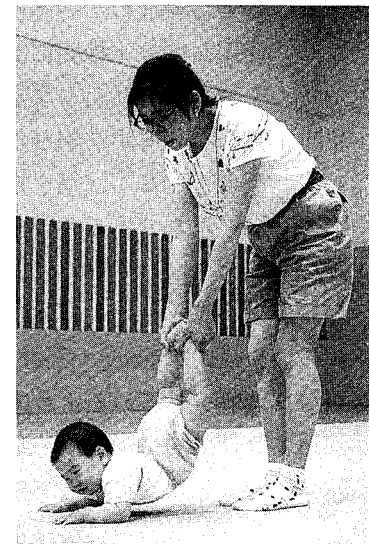
講座は安定した受講者数で推移しているが，講習会の参加者数が学期ごとに多かったり，少なかったりと不安定になってしまった。来年度は指導方法など活動内容を磨くほかに，見直しも含めてより魅力ある活動を目指して努力したい。

グループ活動の利用団体数が減ってきていることもあり，今までの方法にしばられることなく，少人数で指導できるような新しいプログラムを模索したり，計画的な PR を行うなど，受け入れ体制を整える必要性を感じている。

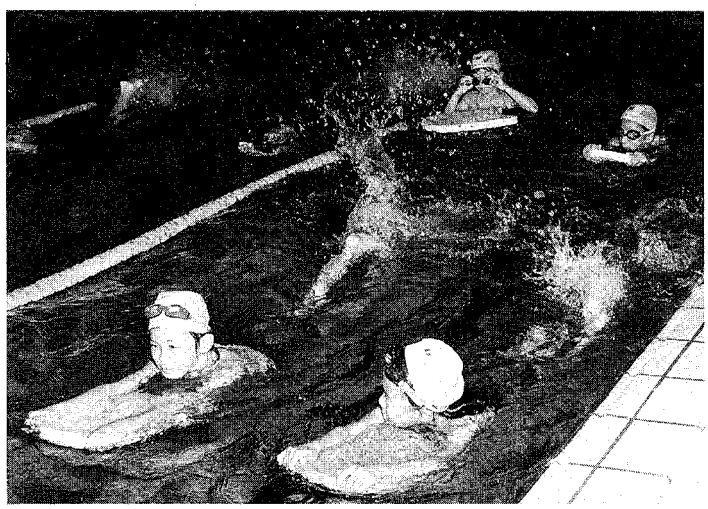
ダイナミック・ヘルス・クラブの新規会員および継続者の定着化や法人会員の増加は，満足のいくものではなかった。特に，新規の入会者が少なくなっていることもあり，会員数は昨年に比べて減少してしまっている。来年度は，活動内容やサービス面の強化とともに PR にも力を注いでいきたい。また，将来講座に参加した子どもたちが大人になってから，〔こどもの城〕に戻ってくることができるように，ダイナミック・ヘルス・クラブはじめ，大人の活動についての環境整備が必要であろう。



広い体育館で，お母さんと一緒に「幼児・母親体育」



お座りのできる子から参加できる
「母と子のすくすくランド」



初心者から上級者まで入ることができる「小学生水泳」

小児保健部と協力して，太りすぎの子どもたちのための「健康スポーツ教室」

チームに分かれて，いろいろなスポーツに挑戦した
「スポーツキャンプⅡ」

(1) 4年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日	火		水		木		金		土		日	
区分 / 時間	プレイホールほか	パソコンルーム	プレイホールほか	パソコンルーム	プレイホールほか	パソコンルーム	プレイホールほか	パソコンルーム	プレイホールほか	パソコンルーム	プレイホールほか	パソコンルーム
10:00	グループ活動 グループレクリエーション ファンタジックドラマ パソコン体験教室		グループ活動 グループレクリエーション ファンタジックドラマ パソコン体験教室		グループ活動 グループレクリエーション ファンタジックドラマ パソコン体験教室		グループ活動 グループレクリエーション ファンタジックドラマ パソコン体験教室		一般利用		一般利用 プラモデル模型工作教室	パソコン教室 一般利用 パソコンクラブ
11:00												
12:00												
13:00	一般利用 プレイホール・ふしぎが丘 コンピュータプレイ・屋上遊園		一般利用		一般利用		一般利用				第2・4日曜日ユースクラブ	
14:00		一般利用		一般利用	折り紙あそび広場	一般利用		一般利用	お話人形広場II	一般利用		
15:00	おはなし紙芝居		お話人形広場I						第1・3土曜日キッズクラブ			
16:00												
17:00												
18:00												

プレイ

プレイ

2)　平常期間プログラム

名　　称	期　間	時　　間	場　　所	要　　員	備　　考
おはなし紙しばいの集い	毎週火曜日	15：00～ 15：30	プレイホール (幼児コーナー)	(人) 職員1 女性ボランティア 紙芝居グループ	計36回実施
おはなし人形広場Ⅰ	毎週水曜日	〃	プレイホール	職員1 外部人形劇団体 青年ボランティア 等	計36回実施
おりがみ遊び広場	毎週木曜日	14：00～ 15：00	〃	職員1 女性ボランティア 折り紙グループ	計38回実施
おはなし人形広場Ⅱ	毎週土曜日	14：00～ 14：30	音楽ロビー	職員1 音楽職員 外部人形劇団体	計33回実施
プラモデル模型工作教室	毎週日曜日	10：30～ 12：30	プレイホール (高学年コーナー)	職員1 青年ボランティア	日本プラスチックモデル工業協同組合協力 計29回実施
＜母の日＞ 母さんに手作りプレゼント	5.9 5.10	13：00～ 16：00 11：00～ 16：00	プレイホール	職員2 青年ボランティア 女性ボランティア	参加者 679 人
＜父の日＞ 親子で保安官	6.20, 6.21	13：00～ 16：00 11：00～ 16：00	〃	職員2 青年ボランティア	参加者 498 人
＜七夕まつり＞ お星さまキラキラ	7.2・3・7 7.4・5	13：00～ 16：00 11：00～ 16：00	〃	〃	参加者 1240 人
＜敬老の日＞ 昔おあそびの名人に教えてもらおう	9.13・15	11：00～ 16：00	〃	職員2 渋谷区老友会 青年ボランティア 女性ボランティア	参加者 480 人
＜秋分の日＞ バンバー大会	9.23	午前:小学生の部 午後:中学生の部	〃	職員2 青年ボランティア	参加者　小学生 9人 中学生 15人
＜体育の日＞ キャッスルオリンピック	10.10・11	11：00～ 16：00	屋上ふしぎが丘	〃	研修教養部と協同でプロデュース 参加者 700 人
＜成人の日＞ ファミリーゲーム大会	1.15	①11：00～ ②15：00～	プレイホール	〃	①輪投げ大会②ビンゴゲーム　参加者 484 人
＜節分＞ 危うし福の神！　鬼軍団の逆襲	1.30 1.31	①15：00～ ①13：00～ ②15：00～	プレイホール，館内各所	職員3 青年ボランティア 女性ボランティア	企画部，研修教養部と協同でプロデュース 参加者 679 人

名　　称	期　間	時　　間	場　　所	要　　員	備　　考
				(人)	
＜建国記念の日＞ ファミリーゲーム大会	2.11	①11：00～ ②15：00～	プレイホール	職員 2 青年ボランティア	①輪投げ大会②ビンゴゲーム　参加者 383 人
＜ひなまつり＞ みんなでひなまつり	2,27 2,28	13：00～ 16：00 11：00～ 16：00	〃	職員 2 青年ボランティア 女性ボランティア	音楽事業部，造形事業部，研修教養部と協同 参加者 750 人
＜春分の日＞ バンパー大会	3.20	午前:小学生の部 午後:中学生の部	〃	職員 2 青年ボランティア	参加者　小学生 7 人 中学生 19 人
＜横浜開港記念日＞ ファミリーゲーム大会	6.2	①11：00～ ②15：00～	〃	職員 2 青年ボランティア	①輪投げ大会②ビンゴゲーム　参加者 389 人
＜川崎市制記念日＞ ファミリーゲーム大会	7.1	①11：00～ ②15：00～	〃	職員 2 青年ボランティア	①輪投げ大会②ビンゴゲーム　参加者 390 人
＜都民の日＞ ファミリーゲーム大会	10.1	①11：00～ ②15：00～	〃	職員 2 青年ボランティア	①輪投げ大会②ビンゴゲーム　参加者 650 人
＜埼玉県民の日＞ ファミリーゲーム大会	11.14	①11：00～ ②15：00～	〃	職員 2 青年ボランティア	①輪投げ大会②ビンゴゲーム　参加者 253 人

3) 特別期間プログラム

名　　称	期　間	時　　間	場　　所	要　　員	備　　考
				(人)	
＜児童福祉週間＞ ことばであそぼうⅡ	4.29～5.10	10:00～17:30 (平日は14:00～)	パソコンルーム	職員 2	
＜夏休み＞ スケッチしよう	7.21～8.9	10:00～17:30	〃	職員 2	
＜〃＞ 自然とあそぼう	8.11～31	10:00～17:30	〃	職員 2	
＜冬休み＞ カードをつくろう	12.1～27 1.3～10	10:00～17:30 (平日は14:00～)	〃	職員 2	
＜春休み＞ コンピューターでミュージック	3.25～4.6	10:00～17:30	〃	職員 2	

プレイ

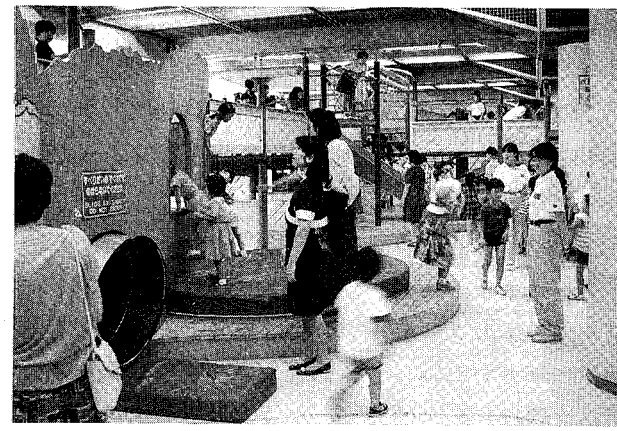
4） 講座・クラブ

名称	対象	定員	受講数	曜日　時間	場所	期間　回数	料金	講師等	備考
		(人)	(人)			(回)	(円)		
小学生パソコン教室Ⅰ	小4～6	20	20 16 20 5	1　ⅠAコース 日曜日10:30～12:30 2　ⅠBコース 日曜日10:30～12:30 3　ⅠCコース 連続　10:30～12:30	パソコンルーム	4.12～5.24 10.18～11.22 3.27～3.31 各5	6,000	小倉康仁	公募 (先着順)
小学生パソコン教室Ⅱ	小4～6	20	17 12 4	1　ⅠAコース 日曜日10:30～12:30 2　ⅠBコース 日曜日10:30～12:30	〃	6.14～7.12 1.17～2.21 各5	〃	〃	小学生パソコン教室Ⅰの修了者
小学生パソコン教室Ⅲ	小4～6	20	20	日曜日10:30～12:30	〃	8.25～29 5	〃	〃	小学生パソコン教室Ⅱの修了者
パソコン教室スペシャル	小4～6	20	16	日曜日10:30～12:30	〃	12.6・13・20 3	4,000	〃	〃
パソコンクラブ	小4~高3			1　水・木曜日 14:00～17:30 2　土曜日 13:00～17:30 3　日曜日・祝日 10:00～17:30	〃		5,000	職員1	公募 (先着順)
キッズクラブ	小1～4	20	20	第1・第3土曜日 15:00～17:00	プレイホールほか	4.18～7.11 6 9.19～12.5 6 1.23～3.13 5	9,000 〃 8,000	職員2 青年ボランティア 7	〃
ユースクラブ	小5~中3	25	25	第2・第4日曜日 13:30～15:30	プレイホールほか	4.12～7.5 6 9.20～12.13 6 1.24～3.21 5	9,000 〃 8,000	職員2 青年ボランティア 5	〃

(2) プレイ事業部の活動

プレイ事業部はどんなに小規模な地域児童館でも実施している「遊びの支援」を活動の中心に活動している部門である。

グループワーク的な観点と，遊びの主体が子どもであるということを考え，支援の方法を3つに絞り込んだ。1つ目は子どもたちへの直接の遊びの支援であり，2つ目は遊びの環境の整備であり，3つめは職員の支援技術の研さんである。



新しい遊具「わくわくらんど」は大人気

具体的な展開として，子どもたちに対しての直接支援として，遊びのクラブである『キッズクラブ』『ユースクラブ』を新設した。ここでは職員とボランティアが，子どもたちとともにプログラムを練り上げる形でプログラムを進めた。

遊び環境の整備では，発達年齢別に遊び場，おもちゃの見直しを行い，長期的な視野に立って大型遊具のコンビネーションを考え，大改装計画を練った。春休みにはこの第1次計画として，『わくわくらんど』を新設した。併せて現在，幼児コーナーに設置されている3～5歳用のおもちゃについても個人遊びから集団遊びへと，遊びの質を深める可能性のあるおもちゃの導入を図った。さらにこの結果を見つめながら，女性ボランティアによる手作りおもちゃの導入の検討も開始した。

職員の支援技術の向上については，一つ一つの伝統行事ごとにその意味を再確認するとともに，それをどのようにイベントの中に反映させるか議論を深めながら，その実施に当たった。また，各団体で実施されている講習会への受講を職員の興味と担当行事に沿って積極的に行った。併せてそこで得た知識や技術を，特にクラブ活動や野外活動で，ボランティアとともに確認するために，事前のプログラム検討と実習を重ね，支援技術のアップに努めた。

今，地域の児童館の厚生員の方々の悩みは，「遊びの指導ぐらい子どもの好きな大人ならだれでも可能であるに違いない」といった目で見られがちで，専門職員としての力量が期待されないことであると聞く。確かに厚生員が自分の得意な活動を教えるだけならそのとおりだろう。しかし，子どもの遊びは1つの領域にとらわれることはないのだ。

子どもの遊びを広く網らし，学習し，理解を深めるということになると，他の専門的指導技術と同様，もしくはそれ以上の専門性が厚生員には求められることになる。具体的には，大人が子どもに伝えていきたい児童文化財（伝統行事，人形劇，紙芝居，パネルシアター，読み語り，遊具，おもちゃなど），子どもたちが独自にはぐくんできた子ども文化（あそび，

ゲームなど）を学ぶ。さらにこうして蓄えた『財』を効果的に活用するために，子どもの発達課題はもちろん，子ども個人に対する支援方法，集団を介した支援方法，そして環境の整備を学ぶ。それが厚生員としての課題となるのだ。既に（社）全国児童館連合会ではこの現状を踏まえ，児童厚生員研修の体系化の計画も進み，その資格認定制度もスタートの準備が進んでいる。

このような時代の要請にこたえる意味で，プレイ事業部のスタッフは児童厚生員としての専門性を高めるべく活動を展開した１年であった。

１）平常期間

プレイホールでは，子どもたちが自由にスタッフやボランティアとともに遊べるよう幼児・高学年のコーナーや遊具の整備と充実を図るとともに，週間プログラムの見直しを行った。昨年まで実施していた「サタデープレイタイム」は，「ユース」「キッズ」というクラブ活動に移行した。他のプログラムも来館者のニーズにより曜日を移動したり，時間の変更などを行った。またボランティアのグループ化もさらに進み，スタッフと一緒になって考え実施する週間プログラムとなった。

㈠　おはなし紙芝居のつどい（毎週火曜日　15:00～15:30）

女性・青年ボランティアの協力を得て，毎回２～３本の紙芝居を実施した。開始前には手遊び，終了後には季節の歌などで遊び，参加者とともに楽しむことを大切にしている。紙芝居の題材としては季節感や子どもの生活に近いものを多くとりあげた。また，３～５歳の参加者が中心となるため，少し難しいかと思われた昔話等も伝えたい話として積極的にとりいれ，好評を得ている。毎週の紙芝居を楽しみにやって来る子どもとともに，母親の姿も多く見られるようになってきた。

㈡　おはなし人形広場Ⅰ（毎週水曜日　15:00～15:30）

パネルシアターと影絵を中心に運営されていたボランティアによる「人形広場」に人形劇のグループが加わった。この人形広場は，子どもをひざの上に乗せてお話をするようなやさしい雰囲気を大切にしており，広場が始まる前から積極的に子どもに話しかけ，人間関係をつくった。そのため，終わったあともその場に残り，人形やボランティアと話す光景が見られた。見るだけの人形広場ではなく，参加して人と交わる広場として定着したようだ。

人形劇（女性ボランティア）15回，パネルシアター（青年ボランティア）９回，影絵（女性ボランティア）11回を行った。

㈢　おりがみ遊び広場（毎週木曜日　14:00～15:00）

本年度から定期的なプログラムとしておりがみ遊びを実施した。折り方の指導をする「教室」ではなく，「一緒に折り，できた作品で遊び，お話する，楽しい時間」を目指した。ホールに敷いたじゅうたんに，靴を脱いでの活動。女性・青年ボランティアの声かけの温かさにひかれて毎週たくさんの子どもが参加した。

印象深いのはこの広場が「会話」の場となったこと。折りながら今日あったことを話す子，

女性ボランティアに育児相談をする若い母親……。アットホームな「たまり場」になった。

(エ) **おはなし人形広場Ⅱ**（毎週土曜日　14:00～14:30）

音楽ロビーで外部の人形劇団体に依頼して行った。本年度は子どもの参加はもちろん，父親の参加が目立った。父親が子どもをひざの上に乗せて一緒に人形劇を楽しむという光景が多く見られ，人形広場としてふさわしい空間になってきた。

来年度以降の課題として，学校の週休２日制に伴って第２土曜日に多くの子どもたちがこの広場に参加してくるので，出演団体や演目の選定が大切になってくるであろう。

(オ) **プラモデル模型工作教室**（毎週日曜日　10:30～12:30）

本年度のプラモデル模型工作教室は29回開催され，延べ630組が参加した。

この教室はプラモデル，模型，その他のさまざまな工作を通し，制作の工夫や，完成の喜びなどの体験を主な目的に行っている。そんな活動の中から知らない子ども同士や，スタッフとの交流を図るという指導方法をとっている。後援を日本プラスチックモデル工業協同組合にお願いし，毎回の教材を各メーカーから提供を受けた。

本年度から実施時間が午前中になったことのほかに，今年からは親子教室を12回開催した。この親子教室開催のねらいとしては①親子間での会話やふれあいのきっかけを作る　②ふだん子どもだけで参加している教室の様子を親に実際に見てもらう，の２点である。本年度も多数の参加者があった。

(カ) **さよならの集い**（日曜日　16:30～17:00）

毎週日曜日に行われるさよならの集い。これは日曜日にボランティアの手で作り上げるゲームやダンスの集いである。今年はボランティアの世代交代もあり，毎週集いができる状態ではなく，活発な活動を繰り広げることができなかった。我々スタッフはボランティアだけに任せるのではなく，積極的に取り組む姿勢が必要だといえる。

2）季節行事・その他の特別行事

核家族化の進む現在，家庭で季節行事を祝う習慣が失われつつある。プレイ事業部では，忘れられつつある日本の伝統行事，歳時記を季節に合わせて取り上げ，体験するプログラムを行っている。古くからの言い伝えや，事の起こりを分かりやすく子どもたちに伝え，さらに家庭でも祝えるようにというのがねらいである。

(ア) **母の日「お母さんに手作りプレゼント」**＝５．９（土）　13:00～16:00,
10（日）　11:00～16:00

本年度は，カーネーションやお母さんの顔が飛び出すカード作りを行った。飛び出すものは，子どもたちの自由な発想に任せていたので，その部分で子どもたちの個性が出ていたようだった。

(イ) **父の日「親子で保安官」**＝６．20（土）　13:00～16:00,
21（日）　11:00～16:00

本年度は，親子で割り箸（はし）鉄砲を作り，射撃大会に参加をしてもらう「親子で保安

官」というプログラムを行った。プレイホールの一角に工作エリア，その横に射撃場という形で競技は予選と決勝をそれぞれ2回ずつ行った。割り箸鉄砲作りや競技に夢中になる親子の姿が印象に残った。

割り箸鉄砲で親子で射撃大会

(ウ)　七夕プログラム「お星様キラキラ」＝7．2～5・7　13:00～16:00（ただし4・5は11:00～）

本年度は願い事を書く短冊作りに加え，ブラックライトなどによる幻想的な視覚効果をプラスしたボランティアによる「七夕クイズ大会」を実施した。いろいろな願い事を短冊に書いて竹につるし，その中で行ったクイズ大会は，七夕の由来や昔からの出来事が出題されるなど，大盛況であった。

(エ)　敬老の日「昔あそびの名人に教えてもらおう～なつかしあそび大集合～」

＝9.12（第2土曜日）・13(日)・15(祝)　11:00～16:00

13日には「渋谷区老友会」の協力により，昔遊びを通してお年寄りと子どもたちが楽しい交流の場を持つことができた。今年は折り紙の名人が来館することもありプログラムの中心を折り紙に置いた。大人も子どもも，名人の楽しい話と作りだされる作品に熱心に見入り，一緒に折ることを楽しんだ。なお，12日と15日は，〔こどもの城〕のボランティアが昔遊び等の指導を行った。

どの日も女性ボランティアの影響か，母親が子どもと一緒に参加する姿が目にとまった。15日のメンコのプログラムには父親が子どもに教える姿が印象的だった。

また，13日には「お話のつどい」としてボランティアによる絵本の読み語り，紙芝居，パネルシアターを行った。

(オ)　体育の日＝10.10（第2土曜日）・11（日）　11:00～16:00

夏に行われたバルセロナ・オリンピックをモチーフに屋上ふしぎが丘で「キャッスルオリンピック」を行った。計700人の子どもが，オリンピックらしく装飾された会場でハードルをくぐりぬける“15m障害”，レーザー銃を使用しての“射撃”，フラフープを得点シートの上に転がす“新体操”，オリンピック記録に跳んでみる“幅跳び”，ボードに寝転び足でこぐ“水泳”の5種目にチャレンジした。

どの競技にも青年ボランティアの工夫が生かされ，シンプルだが体を使ってのやりがいのあるゲーム内容となった。

また，参加者同士の交流をねらい，自分だけでなく他の参加者の記録にも目を向けられる

よう，得点集計所には常時，幼児・小1～3年・それ以上の3ランク別に，ベスト6の子どもの名前と得点をはりだし1日3回表彰を行った。

(カ) 節分会「危うし福の神！　鬼軍団の逆襲」＝1.30(土)　①15:00～，
31(日)　①13:00～　②15:00～

毎年節分の時期には，青年ボランティア扮する鬼を相手に豆まきの集いを行っている。節分の由来を健康と幸福を願うという分かりやすい形で説明し，ストーリー仕立ての豆まき大会とした。

ステージでは年男，年女を中心に子どもたちが豆をまき，毎回300人以上が参加するにぎやかなプログラムとなった。

(キ) ひなまつり行事「みんなでひなまつり」＝2.27(土)　13:00～16:00，
28(日)　11:00～16:00

今回は「幸せや健康を願う家庭のお祭り」というねらいを持ち，親子で参加するプログラムとした。プレイホールでは折り紙びなを作ったり，あやとり，お手玉など昔の家での遊びができるコーナーをつくった。

また，このプレイホールのプログラム，音楽ロビーでの「五人囃子に挑戦する」，造形スタジオでの「プリントびな」「ゆらゆらびな」のプログラムのいずれかに参加した子どもに，ひなあられを配った。プレイ，音楽，造形の各事業部の協力により，館内全体の統一されたプログラムとすることができた。

(ク) ファミリーゲーム大会

今年でファミリーゲーム大会も3年目。初年度からいろいろ試行錯誤を繰り返しながら行ってきたが，今年でほぼスタイルがかたまった。

輪投げの大会では，チームワーク（10組で1チーム）賞を設けた。この事によって，1家族のなかだけでなく一緒のチームになった家族同士が応援し合う姿が見られるようになった。ビンゴの大会ではシンセサイザーを使用するなどして，雰囲気を盛り上げる工夫を行った。

祝日は混雑してなかなか十分に遊べないという家族にとっても，良い思い出が作れたようであった。

実施日：	6．2（火）横浜開港記念日	11.14（土）埼玉県民の日
	7．1（水）川崎市制記念日	1.15（金）成人の日
	10．1（木）都民の日	2.11（木）建国記念の日

(ケ) バンパー大会

プレイホールの高学年コーナーは，小学4年～高校3年までを対象としているが，このコーナーにおける子どもたち同士の交流をさらに発展させ，技術を高めるなかから芽生える友情，仲間意識を深めるためにこのバンパー大会を行っている。バンパーは高学年コーナーで一番の人気を誇るビリヤードタイプのゲームである。

本年度から年3回から年2回の実施となり，秋分の日，春分の日に行った。毎年のことで

あるが，数人が小学生の部から中高生の部に変わるため，小学生の部の参加者数は少なくなりがちである。しかし，その分着実に技術を上げ，闘志を持って中高生の部に参加してくるため，中高生のレベルは上がっている。

前にも述べたが技術の向上がこのプログラムの目的ではなく，活動の中から芽生えてくる友情，交流といったものが主なねらいである。今年はその点においても評価できるケースが多く，事前練習にチャンピオンの胸を借りる子，本番に備えて知らない参加者同士で練習を重ねる子など，その日だけではない交流が見られた。参加者の多さではなく，こういった部分をもっと多くする手助けとしてこのプログラムを活性化させたいと考えている。

9.23（秋分の日）　小学生10人　中高生16人が参加

3.20（春分の日）　小学生７人　中高生19人が参加

※両日とも，小学生の部10:30～12:30，中高生の部13:30～15:30

3）特別期間

(ア)　キャッスルクエストⅤ「五龍（ウーロン）の野望」（4.29～5.5）

キャッスルクエストも今回で５回目を迎えた。もともと「ごっこ遊びを通してインドネシアの音楽や影絵に触れよう」というねらいで生まれたのが，このキャッスルクエストであった。

回を重ねるうちに参加人数も多くなり，規模も全館的なものに膨らみ図らずもねらいを分散させてしまい，その効果を希薄なものにしてしまうという問題も抱えていた。

そこで，今回のキャッスルクエストⅤは，人間交流の視点からこのイベントに取り組むこととした。つまり「こどもの城に来館する一過性の子どもたちがさまざまなゲーム勝負を通して，見知らぬ子どもと交流を図れるように」ということを大きなねらいとしたのである。

キャッスルクエストはテレビゲームのロールプレイングゲーム（以下RPG）をモチーフとしていたのだが①RPGに一時期のような盛り上がりが見られなくなったこと　②子どもたちの間では対戦型カードゲームが流行していること　③TVアニメなどで武闘大会のイメージが子どもたちに受け入れられていること　④対戦・勝負といった設定が子ども同士の交流を図るのに効果的な設定であること，などの理由により，今回映画『少林寺』の武闘大会のような状況を設定してみた。とは言え本物の格闘を行うわけではなく，さまざまなゲーム種目を勝負の場に見立て，それに勝った子どもだけがカードを手に入れられるという設定にしたのである。

カードは『火・水・木・金・土』の５種類で，すべてのカードを手に入れるためには数多くの見知らぬ子どもと勝負をしたり，時には見知らぬ子どもとカードを交換しなければならず，必然的に子ども同士の交流の機会が多くなるように配慮した。また，カードはジャンケンのような性質を持っており（例：水は火に勝つ，火は金に勝つ――中国の陰陽五行より），それ自体で対戦型カードゲームを行うことができるように作られている。

７日間開催して，延べ参加者は計3,463人。スタッフはボランティア延べ120人，パートスタッフが延べ42人。

2 プレイ

＜ストーリー＞

『五龍大武闘大会』という大会が行われることになった。
優勝した者には豪華な賞品が授与されるという。ところがこれは罠（わな）で，暗黒魔術を使う道士「五龍」は入魂の術を使い，元気な子どもの肉体を乗っ取ろうとしていた。しかし正義のヒロイン「ミンミン」と子どもたちは力を合わせ，ついに五龍の野望を打ち砕くことに成功するのであった。

＜キャッスルクエストＶの内容＞

受　付＝ここで五龍大武闘大会参加の印「ヘッドギア」を作る。ヘッドギアは紙製のはちまきで，自分の名前や好きな模様を記入する。屋上に出発する前に，カードが１枚もらえる。

屋　上＝ふしぎが丘は「五龍大武闘大会会場」という設定になっており，ボランティア扮する道場主が待ち受けている。大会には４種目あり，ゲームに勝つか，もしくは規定をクリアすると，４種類のカードの束から１枚引くことができる。

①鶴拳＝目をつぶって片足で立ち，持続時間を競う。

②酔拳＝ひとかかえの壷を持って，足型の上を素早く進む競技。

③棒術＝棒を使ってあっち向いてホイの勝負を行う。

④障害＝たくさんのボールがぶら下がった道を素早く往復する。

以上４種目の他にカードバトルの場を設け，カードによる対戦を試みたが，ルールが年少児には難しかったことと，負けると相手にカードを渡さなければならず，この種目に参加する子どもは少なくなってしまった。

プレイホール＝５種類のカードを手に入れた子どもは，プレイホールに作られた『通明殿』という所にやってくる。子どもたちはここでの待ち時間に，ミンミンのメッセージビデオを見て五龍の野望を初めて知ることになる。「五龍の野望を打ち砕くためには，みんなが戦ったり競っていてはだめ。全員の心と力を合わせるのです」。今までの一人遊びが，ここからはグループ遊びに発展していく。

音楽スタジオＢ＝五龍が住む『五龍洞』という設定。この部屋の中に子どもたちが入ると，いよいよ五龍が姿を現す。五龍の姿は別室のスタッフの演技をスクリーンに映写。声も音響機器を通して不気味なエコーをかけた。そこにグループリーダーとしてボランティア扮するミンミン役が現れ子どもたちと合流。五龍対子どもたちでジャンケン勝負を行う。ミンミンの服の中には隠しマイクを仕掛けており，必ず子どもたちが３対２で勝利するように工夫している。

かくしてスクリーンは爆発の映像とオーバーラップし，五龍は画面から消え去り，子どもたちは『ドラゴンの証』をもらって部屋から退場・ゲームの終了となる。

(イ) お正月の遊び大集合（企画部の項＝160～162ページ＝参照）

(ウ) 人形劇フェア

1 開館記念人形劇フェア

今回の人形劇フェアは，外部の人形劇団体を中心としたフェアと，〔こどもの城〕のボランティアによる「あそびのおもちゃばこ」と題したフェアを組み合わせて行った。

「あそびのおもちゃばこ」では，公演の合間に手袋やハンカチで人形を作って遊ぶというワークショップを行った。人形劇，影絵，パネルシアターの各グループはふだんの公演時間や場所が違うため，お互いの活動やメンバーの把握が難しい状況にある。しかし，今回の事前練習，打ち合わせによりボランティア同士がお互い刺激しあえたようだ。

＜外部団体による公演＞

	出　演　団　体	演　目
10月31日	劇団まねっこ	「ものものショー」
11月1日	空中分解	人形劇「三角くん海へいく」
		「たぬどんのはなし」
3日	HOPPY	人形劇「人形コンサート」「3枚のおふだ」

＜ボランティアによるあそびのおもちゃばこ＞

	出　演　団　体	演　目
11月21日	紙芝居グループ（女性・青年）	「おおきくおおきくおおきくなーれ」
	人形劇グループ（女性）	「ミュージカル」「3びきのこぶた」
	人形劇グループ（青年）	「ジパング物語 ミンミン，ユウユウ 変身の謎」
22日	絵本グループ（青年）	大型絵本「3びきのやぎのがらがらどん」
	パネルシアター・グループ（青年）	「おむすびころりん」「おもちゃのチャチャチャ」ほか
	音楽グループ（青年）	ペープサート「もしもしかめよかめさんよ」「こぶたぬきつねこ」ほか
23日	絵本グループ（青年）	大型絵本「7ひきのこやぎ」
	音楽グループ（青年）	ペープサート「おもちゃのチャチャチャ」「こぶたぬきつねこ」ほか
	影絵グループ（女性）	「おむすびころりん」
	人形劇グループ（青年）	「ジパング物語 ミンミン，ユウユウ 変身の謎」

2 クリスマス人形劇フェア

昨年と同様，いろいろな大学の人形劇サークルネットワーク組織「じゃんぐるじむ」が企画，運営を行い，〔こどもの城〕とパペットマーケットが後援，指導をする形をとった。昨年も行ったため，メンバー同士のネットワークがとても良くなった。今回作り上げたネットワークをこれからの活動で広げていくことが今後の課題であろう。

	出　演　団　体	演　目
12月23日	東京家政大学ほうき星	人形劇「グリーンマントのピーマンマン」
	法政大学児童文化研究会	人形劇「ロバの王子」
	創価大学児童文化研究会	ボードビル「時間よとまれ」
24日	大妻女子大学パネルシアター部	パネルシアター「おもちゃのチャチャチャ」
	日本女子大学ポンポン船	人形劇「モシモシウサギ」
	劇団ペロ	人形劇「ペロくんと愉快な仲間たち」
25日	東京学芸大学麦笛	人形劇「夜の小人の物語」
	青山学院児童文化研究会	大型絵本「忍者ぶちゃまる」
	創価大学児童文化研究会	人形劇「みんなでアソベンチャー」

3　春休み人形劇フェア

今回のフェアは前年度と同様，地下1階のフリーホールで行った。フリーホールでの公演は，演じ手と子どもたちの距離がとても近いところが特徴。子どもたちは目の前に広がる劇の世界にぐんぐん引き込まれていた。

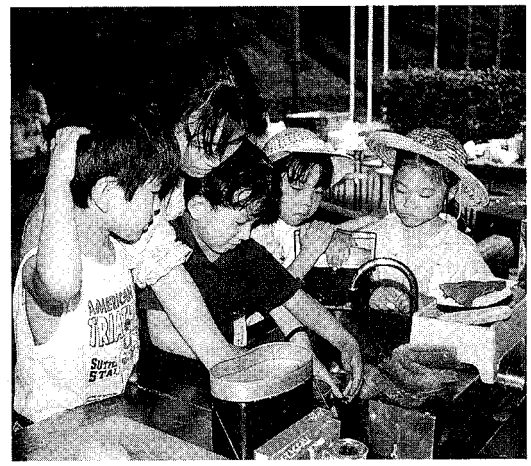
	出　演　団　体	演　目
3月26日	コロン団	エプロンシアター「たまご」「大きなかぶ」
27日	劇団まねっこ	「ものものショー」
28日	ぱねるっぱ	パネルシアター「まんまるさん」「くもの糸」
		「そらいろのたね」ほか

4）野外プログラム

プレイ事業部では，「キャッスルキャンプ」「ちびっこ冒険団」「ゆきんこ冒険団」の3つの野外活動を実施している。

この3つの野外活動はプログラム的には異なる活動をしているが，目的はすべて同じ着眼点をもって実施されている。

それは，〔こどもの城〕の日常活動の活性化という目的である。つまり日ごろ個人個人でプレイホールなどで活動している子どもたちが野外での集団活動をともにすることを通して，仲間づくりの楽しさや方法を体験的に学習し，リーダーシップ，フォロアーシップの



みんなで食事の準備（キャッスルキャンプ）

実際を身につけること。さらに，それを活用して，〔こどもの城〕での種々の活動を推進する中核となるきっかけづくりの場として実施しているプログラムであるということだ。具体的には季節によって，対象年齢や活動内容に変化をつくり，そのプログラムの展開を行っている。

(ア)　キャッスルキャンプ

日　　程：7.22（水）～23（木）
場　　所：横浜市くろがね青少年野外活動センター
参 加 者：50人
スタッフ：職員3人，ボランティア14人

毎年〔こどもの城〕を会場に1泊2日のプログラムで，来年小学校に入学予定の幼児（5・6歳児）と保護者の母子分離体験のキャンプを実施してきた。しかし，夜間を除き会場が一般来館児と交錯してしまうため，子ども同士の仲間づくりのための思い切ったプログラムが実施できない悩みをずっと抱えてきた。そこで今年は〔こどもの城〕から一般交通手段を利用して短時間で行くことができる，近郊の野外活動センターを会場に1泊2日のプログラムを実施した。

(イ)　ちびっこ冒険団

日　　程：Ⅰ期　8.5（水）～8（土）
　　Ⅱ期　8.8（土）～11（火）
場　　所：福島県・国立那須甲子少年自然の家
参 加 者：Ⅰ期　子ども79人
　　Ⅱ期　子ども76人
スタッフ：Ⅰ期　職員4人，ボランティア18人
　　Ⅱ期　職員4人，ボランティア16人，L. I. T. 3人

小学校1～3年生を対象に3泊4日の舎営キャンプを実施した。このキャンプも4回目となり，今年もひとつのエピソード「謎の石板が発見された」をきっかけに，自然の中で冒険するという期待感を高め，それに伴ってグループ内での結束，盛り上がりを図るというキャンプとなった。

Ⅰ期とⅡ期の入れ替わり日を除いてほとんど天候に恵まれ，前年度実施できなかった「村作り（笹の葉を使った家作り）」も行うことができた。その家々に囲まれての「村まつり」は例年よりも一層の盛り上がりをみせた。

今年のⅡ期に参加したL.I.T. の高校生にとっては，小学校低学年の子どもたちとふれあう良い機会であった。子どもたちにとっても，同年代の仲間とはもちろん，L.I.T.，ボランティアリーダー（大学生，社会人）といったさまざまな年代との交流が体験できた。

(ウ)　ゆきんこ冒険団

日　　程：12.25（金）～27（日）
場　　所：福島県・国立那須甲子少年自然の家
参 加 者：57人

スタッフ：職員4人，ボランティア19人

「ゆきんこ冒険団」は前年度からスタートした小学校低学年向けの冬期キャンプである。本年度は幸運にも積雪と晴天に恵まれ，キャンドルサービス，室内キャンプファイヤーといった室内プログラムだけでなく，スキー，そり，雪の芸術作り，雪合戦，そして雪中アドベンチャーゲームと，思う存分冬期の屋外プログラムを楽しむことができた。

5）グループ活動

ここ数年のプレイ事業部のグループ活動利用者の傾向として，幼稚園や保育園など幼児の団体利用が多く，（障害児クラスを除く）小学生の団体利用が減少しているという点があげられる。本年度はこの問題点を踏まえ，①幼児向けのプログラムのさらなる充実　②小学生向けプログラムの増設を念頭に置き，プログラム開発に当たった。

(ア) 幼児向けプログラムについて

本年度希望があったプログラムは「森へいこう」「忍者修行道場」というタイトルの劇遊びプログラムが圧倒的に多かった。さらに12月からは「五龍大武闘大会」を新たなプログラムとして開設した。これは小学生向けに作られた「スペシャル・ジャンケンゲーム」に劇遊びの要素を取り入れ，幼児にも対応できるように再構成したプログラムである。本年度は3回実施したが，いずれも子ども同士の交流あるいは親子の交流の場面が多く見られた。

(イ) 小学生プログラムについて

小学校の団体利用が減少している問題については1事業部のみで対応できうる問題ではなく，全館的に考えていかなければならない問題が多い。その中にあって今我々のできることは，より小学生にとって魅力的なプログラムを開発していくことであると考える。

本年度新たに増設した小学生プログラムは以下のとおりである。

「こどもの城オリンピック」「ニュースポーツで遊ぼう」「五龍大武闘大会（小学生版）」。

障害児向けプログラムと，インターナショナルスクール向けのプログラムについては今後の重要な検討事項であり，スタッフ各々のさらなる研さんが望まれるところである。

6）パソコンルーム

コンピュータは子どものための遊具として，そして知的活動のツール（道具）として，大きな可能性を持っている。そういった活動の中から子どもたちにとって身近で，そして創造的なテーマを選んで一般活動を展開した。

(ア) 一般活動

1 ゴールデンウイーク特別期間　「ことばであそぼうⅡ」

ふだん親しんでいる「言葉あそび」をパソコン上で実現し，自分の頭で考えるという動作をパソコンにさせることによって，コンピュータの機能や特徴を体験，また逆に人間の考えるしくみやその能力の高さを感じてみようというのがこのプログラム活動の一番のねらいである。しりとりといったような言葉遊びは，幼児でも十分に楽しめるものであり，高学年の

子どもは真剣に暗号解読に取り組んだり，コンピュータを困らせようと頭をひねったりと，楽しく取り組む姿が多く見られた。

プログラム例：しりとり，アナグラムほか4種類

2　夏休み特別期間　「スケッチしよう」「自然とあそぼう」

夏休み期間は子どもたちが自然に触れたり，興味を持つ絶好の機会である。その自然の姿や形をコンピュータグラフィックスで表現したり，また自然に関するコンピュータのデータベースで遊ぶことを通して，いつもとは違った視点で自然のことを楽しむプログラム活動となることを主なねらいとした。

○「スケッチしよう」(7.21～8.9)

花や草，木や雲，太陽などの形を使って，自然の風景をスケッチすることを楽しむコンピュータグラフィックス遊び。あらかじめ何種類かの花や草などのグラフィックスを用意しておき，マウスを使ってパソコンの画面で風景のスケッチを楽しめるようにした。

○「自然とあそぼう」(8.11～31)

野鳥や植物の写真や絵，特徴を書いたクイズ形式の問題カードを用意しておき，その種類や名前などをパソコンのデータベースを利用して調べるというプログラム活動を実施。単純な名前当てクイズになりがちであったが，高学年以上の子どもを中心に，遊びではあるが物事を調査するためにコンピュータを活用するという活動を楽しむことができたようだ。

3　冬休み特別期間　「クリスマスカードを作ろう」「年賀状を作ろう」

クリスマスとお正月のシーズンに合わせ，クリスマスカードと年賀状づくりのプログラム活動を行った。パソコンのソフトであるグラフィックエディターを利用し，クリスマスツリーやサンタクロース，年賀状用には門松や干支（えと）といったカットを多くパソコンに登録しておき，それらの絵を自由にデザインして印刷し，制作コーナーできれいに完成させるという内容である。

パソコンで印刷された絵はきれいで，カードの出来栄えも良いものになったが，制作の手順も多く，高学年の子どもでも難しく感じることもあったようだ。今回の活動はパソコンの画面上にとどまらず，デザインしたものが実物になっていく様子は子どもたちにとって大きな興味を抱かせたようだった。

親子で，友だち同士でパソコンに挑戦

4　春休み特別期間　「コンピュータでミュージック」

コンピュータの能力の1つに，内蔵音源を使って音楽を演奏する能力がある。これを使って低学年向けの「動物ハンターゲーム」と高学年向けの「簡単作曲マシーン」の2種類を設

置した。いずれもロゴ言語を応用したオリジナルプログラムで，動物の名前を入力するだけでその動物にちなんだ童謡を演奏したり，4種類の小節をマウスで選択するだけで簡単なメロディーが作曲できるというものであり，上級生にも親子にもやさしく音楽を楽しんでもらえるプログラムであった。

(イ) 小学生パソコン教室

本年度パソコン教室は小学4～6年生を対象に，計4コースで7クラスを実施。初級コースのコースⅠが「グループ活動によるコンピュータグラフィックスの共同制作」，コースⅡが「ゲームのプログラミング」，コースⅢが「ことばあそびプログラムの制作」をテーマとした。

「パソコン教室スペシャル」は，今までのコースが内容の一方的な教示になりがちだった反省を踏まえて，自習的教室とし，参加者が自由に題材を選んでプログラミングを楽しむ内容とした。

小学生パソコン教室Ⅰカリキュラム

回	内　　容
1	「パソコンの操作とロゴの基本命令」 キーボードの操作から，ロゴ言語で絵を書く仕組み
2	「繰り返し命令を使った図形」 繰り返し命令を使い，多角形や円の作図を楽しむ
3	「プログラムの作り方」 いろいろな命令を組み合わせて使い，図形を書くプログラムを作る。また，フロッピーディスクの使い方
4	「プログラムの組み合わせ」 小さなプログラムを組み合わせて，大きなプログラムを作る
5	「グループでの共同制作プログラム」 グループでみんなが協力して，大きなプログラムを作る

小学生パソコン教室Ⅱカリキュラム

回	内　　容
1	・レベルⅠの内容の復習 （基本命令，エリアの意味，ツールボックスの使い方など） ・「変数」を使ったプログラム
2	・いろいろな繰り返しの方法（リピート，再帰呼出し） ・条件文（IF文）の使い方。 ・テンキーでタートルを動かす方法
3	・ゲームでキャラクターを作る ・複数のタートルを動かす（マルチタートル機能） ・ゲームのプログラム作り
4	・ゲームプログラム作り
5	・ゲームプログラム作り

小学生パソコン教室Ⅲカリキュラム

	内　　容
1	・レベルⅡまでの内容の復習 ・変数の使い方，条件文の使い方，再帰呼び出しの方法
2	・言葉をあつかう基本命令の使い方 文字をつなげて単語にする，単語をつないで文にする，単語の中から１文字取り出す ・簡単な言葉あそびのプログラム 自動的にさかさ言葉を作り出す
3	・「簡単な言葉あそびのプログラム２」 おみくじプログラム（一文を選び出す），名前作成プログラム
4	・「言葉あそびプログラム１」５Ｗ（いつ，どこで，だれが…）あそび
5	・「言葉あそびプログラム２」しりとりプログラム

(エ)　コンピュータプレイルーム

前年度末の3月にコンピュータ機器を更新し，新しい機器で運用を始めた一年であった。使用するソフトもほぼ一新され，幼児でも十分楽しめるグラフィックスやゲーム仕立てとなった昔話や童話のソフトなど，親子を含め利用者の対象年齢を大きく広げることができた。

7）クラブ活動（ユースクラブ，キッズクラブ）

今，子どもたちの遊びの環境は大変厳しい状況にある。特に遊びが成立するための３要素である。空間・時間・仲間（これを遊びの３間という）の確保が難しい。そこで子どもたちの遊び環境支援の立場から，従来から毎週土曜日に実施してきた「サタデープレイタイム」をクラブとして組織化した。

平成４年９月12日から実施された学校５日制を活用し，子どもたちと指導者が活動内容を話し合いながら進める形でプログラム展開をした。

誕生の背景には，プレイホールで実施するような催しに毎回参加する常連の小中学生が増えてきて，顔見知りの子ども同士の結び付きが図られる段階に入ったこと。さらにはプレイ事業部で主催するキャンプへの参加者が中心となって一般来館児に働きかけていった過程もある。また，それらの活動に刺激を受けた弟・妹の存在と，その保護者の願いもクラブを誕生させる大きな要因となった。

具体的な活動のねらいは，①グループワーク的視点で，新しい人間関係づくりを中心とした集団活動を目指す　②自分たちで次回のプログラムを相談することで，創造的な発想と発言力を養う　③家庭や学校ではなかなか体験できない，遊びの体験をする――といった３つの目的を掲げて，基本的にキッズクラブは隔週土曜日に，ユースクラブは隔週日曜日に活動を進めている。

2 プレイ

1年間のユースクラブ・キッズクラブのプログラム内容は下表のとおり。

＜ユースクラブ＞

第1期	4月12日	さまざまなジャンケンゲーム大会を行い，親睦を深める
	4月26日	次回に予定されているウォークラリーの準備
	5月17日	日本レクリエーション協会主催の第9回全国一斉ウォークラリーに参加
	5月24日	レザークラフトによる，オリジナル名札作り
	6月7日	陣馬山で追跡ハイクを企画していたが，雨のため登山のみ行う
	6月28日	牛乳パックの紙すきによって，暑中見舞い用のハガキを制作
	7月5日	班ごとにオリジナルサンドイッチを作り，父兄に採点してもらう
第2期	9月20日	ニュースポーツの中から「クロリティ」と「ユニカール」を行う
	10月4日	館内を使って，キラーゲームというオリジナルの遊びを展開
	10月25日	渋谷のデパート等で買い物のシミュレーションをして遊ぶ
	11月8日	ろうとクレヨンを溶かして混ぜ，オリジナルのキャンドル作り
	11月13日	日本レクリエーション協会主催の東京国際ウォークラリー'92に参加
	12月6日	次回に迫った館内宿泊のために，炊事場の整備や班会議を行う
	12月12日～13日	第2土曜日と日曜日を使い館内宿泊を行う。班活動や自己表現の機会を多くし，メンバーの相互理解と協調性が高まるよう配慮
第3期	1月24日	各人が得意な分野のクイズを持ち寄ってのカルトクイズ大会
	2月7日	山の手線を一周しながらさまざまなクイズを解いて回る
	2月21日	ニュースポーツ大会を行ったが，参加種目を班の中で相談した
	3月7日	プレイホールの広場を使い，室内オリンピックを行う
	3月21日	館内ラリーと絡めながら，卒業生を送るパーティーを開催

＜キッズクラブ＞

第1期	4月18日	自己紹介とリーダーによる手品とゲームの楽しい集い
	5月16日	初めてのおやつ作り，「白玉だんご」作り
	5月30日	ミニ四駆（プラモデル）を作り，レースを行う
	6月6日	代々木公園の中で，グループごとに追跡ハイキング
	6月27日	2チームに分かれ，「缶けり」と「警泥（鬼ごっこ）」
	7月11日	牛乳パックを使ったホットドックでパーティー
第2期	9月19日	〔こどもの城〕館内をクイズを解きながら探検
	10月3日	ニュースポーツ「クロリティ」を行う
	10月17日	「カルメ焼き」作りに挑戦
	11月7日	ウルトラマンの制作現場「円谷プロダクション」の見学
	11月21日	ジャンボな飛び出すカードを作って「円谷プロ」にプレゼント
	12月5日	マカロニでクリスマスリースを作ってツリーを装飾，それを囲んだパーティーを行う
第3期	1月23日	全日空のジャンボジェット機，イラストコンテストに応募
	2月13日	バレンタインチョコレート作りに挑戦
	2月27日	グループ対抗でいろいろな記録ゲームに挑戦
	3月6日	ジャンケンをつかったいろいろなゲームで遊ぶ
	3月13日	ビンゴや手品の楽しいティーパーティー

8）その他

(1)　プレイホールの遊具新設

〔こどもの城〕の開館以来7年以上の長きにわたって，プレイホールの中央にあったアスレチック様の大型遊具の全面入れ替えを行った。

従来の遊具の形態が面状であるため遊びに動きがなく，滞留人数も最大で70人程度で，さらに遊びの発展性も乏しかったので，これらの問題点を踏まえ，数年前から検討を行ってきた。

この新遊具の設計については次の点に留意した。

①プレイホールの他の遊具と遊びの要素が重複しないこと。

②遊具それ自体とプレイホールの中で子どもたちの遊びに循環する動線を作ることで多人数の利用が可能となること。

③遊具の中に小広場を設け，子どもたちがたまれる場を設けること。

④遊具の中に冒険心を満足させる，たまりの空間があること。

⑤各々の空間を結ぶ近道や秘密の通路を作ること。

⑥プレイホールのシンボルとなる遊具で，柔らかな素材で作られていること。

⑦特注の部分をなるべく減らし，補修等が安価で容易になるよう既製品を多用すること。

⑧安全性の高いもので，西ドイツの遊具に関する安全規格 DIN7926と同等，もしくはそれ以上の水準のものとすること。

以上の8項目を中心に遊具デザイナーとの会議を重ね，スウェーデン・HAGS社の部材を活用することで，デザインを決定した。

工期は旧遊具の撤去から施工まで約20日間かかり，春休み特別期間（平成4年3月23日）からオープンした。春休み特別期間の最大滞留人数も170人と，従来の約2.5倍で，この状態でも子どもたちの遊びに動きが十分見られ，当初の予想以上の機能を持った遊具であると確信できた。

なお，名称は春休み期間中に一般公募を行い，「わくわくらんど」に決定した。

3 造形事業部

(1)　4年度活動一覧表　1）　週間事業実施時間

曜日／区分／時間	火	水	木	金	土	日
9：00						
10：00	・プログラム準備 ・グループ活動	・プログラム準備 ・グループ活動	・プログラム準備 ・グループ活動	・プログラム準備 ・グループ活動	一般来館児プログラム こどもクリエイティブクラブE こどもクリエイティブクラブF	一般来館児プログラム
11：00						
12：00						
13：00	一般来館児プログラム こどもクリエイティブクラブA	一般来館児プログラム こどもクリエイティブクラブB	一般来館児プログラム こどもクリエイティブクラブC	一般来館児プログラム こどもクリエイティブクラブD		
14：00						
15：00						
16：00						
17：00						
18：00						

造形

造形

2)　平常期間プログラム

名　　称	期　間	時　間	場　所	要　員	備　　考
				(人)	
やってみよう！つくってみよう！「土とあそぼう」	4.8～26, 5.7～7.17	開館時間中	造形スタジオ	職員 アルバイト	
やってみよう！つくってみよう！	9.4～11.29	〃	〃	〃	
〃	2.4～14	〃	〃	〃	
〃	3.4～19	〃	〃	〃	
こども歳時記「節分」	1.19～2.3	〃	〃	〃	
こども歳時記「ひなまつり」	2.16～3.3	〃	〃	〃	
第5回　遊びと造形発想展	6.14～28	〃	造形スタジオ アトリウムギャラリー		遊びと造形発想の会と共催
第3回　遊びと造形発想セミナー	11.28		研修室		遊びと造形発想の会と共催　参加費3,000円

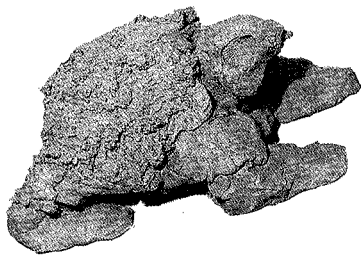
3)　特別期間プログラム

名　　称	期　間	時　間	場　所	要　員	備　　考
				(人)	
＜春休み＞ おじいさんの道具箱～パートⅡ	～4.5	開催時間中	造形スタジオ	職員 アルバイト	
＜児童福祉習慣＞ こども歳時記「こどもの日」	4.28～5.5	〃	〃	〃	
＜夏休み＞ 素材との出会い展「土と造形」	7.18～8.31	〃	〃	〃	
＜開館記念＞ 第7回造形スタジオ展	10.31～11.29	〃	〃	〃	
＜冬休み＞ こども歳時記「クリスマス」	12.1～25	〃	〃	〃	
＜　〃　＞ こども歳時記「お正月」	12.28～1.17	〃	〃	〃	
＜春休み＞ オープンスタジオ 「こんなかおがおもしろい！～面～」	3.20～4.5	〃	〃	〃	

4) 講座・クラブ

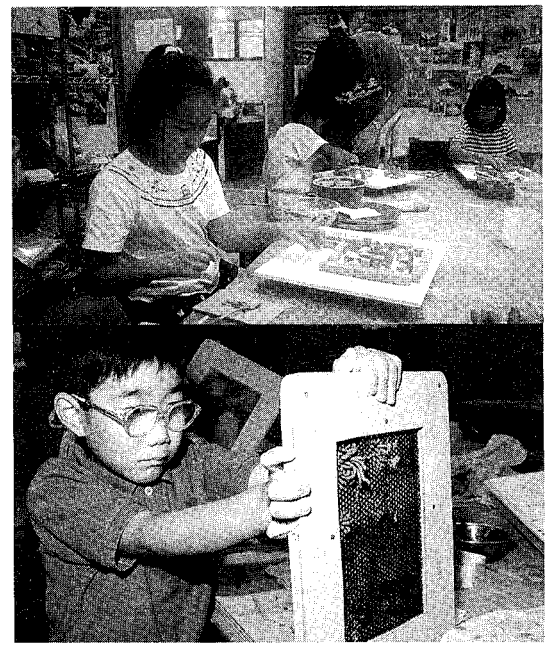
＜講座＞

名　称	対象	定員	受講数	曜日 時間	場所	期間	料金	講師等	備考
		(人)	(人)			(回)	(円)		
こども クリエイティブクラブA プリントワーク	小3～	10	5	火曜日16:00～17:30	造形スタジオ	4月～7月 10	21,000	職員 アルバイト	
			4	〃		9月～12月 11	21,000		
			3	〃		1月～3月 9	21,000		
こども クリエイティブクラブB クレイワーク	小1～	10	10	水曜日16:00～17:30	〃	〃	29,000	〃	
			8	〃			29,000		
			8	〃			29,000		
こども クリエイティブクラブC 造形おもしろ旅行	〃	10	9	水曜日16:00～17:30	〃	4月～7月 10	21,000	〃	
			7	〃		9月～12月 12	21,000		
			6	〃		1月～3月 8	21,000		
こども クリエイティブクラブD ゆかいな造形	〃	10	10	金曜日16:00～17:30	〃	〃	〃	〃	
			8	〃					
			7	〃					
こども クリエイティブE アニメ体験	小4～	10	4	土曜日15:00～16:30	〃	4月～7月 10	〃	職員 AV事業部職員	
			3	〃		9月～12月 11			
			2	〃		1月～3月 9			
こども クリエイティブクラブF ハンズワーク	〃	10	6	土曜日10:00～17:30	〃	〃	〃	職員 アルバイト	
			7	〃					
			5	〃					
夏休み造形教室 プログラムA 土のたてもの	小3～	10	10	火曜日コース 7.28・8.18	〃		6,000	〃	
			9	水曜日コース 7.29・8.19			〃		
			5	木曜日コース 7.30・8.20			〃		
			10	金曜日コース 7.31・8.21			〃		
夏休み造形教室 プログラムB クレイクッキング	〃	10	5	火曜日コース 8.4・8.25	〃		〃	〃	
			4	水曜日コース 8.5・8.26			〃		
			7	木曜日コース 8.6・8.27			〃		
			2	金曜日コース 8.7・8.28			〃		
夏休み造形教室 プログラムC クレイメカニックワールド	〃	10	10	火曜日コース 8.11	〃		3,000	〃	
			10	水曜日コース 8.12			〃		
			10	木曜日コース 8.13			〃		
			10	金曜日コース 8.14			〃		



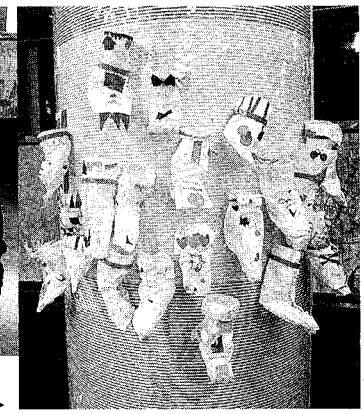
造形スタジオの活動から

▶身の回りの素材を造形的立場から見直す「素材との出会い展」のテーマは〈土〉。

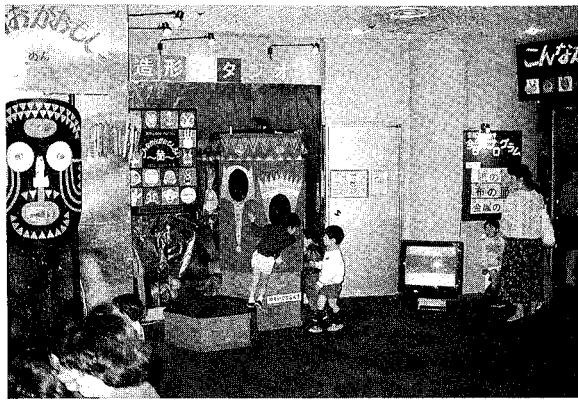


▲触覚的な体験内容を意図した「かみからニュッ！」

▲親子で作った「どかドカぐつをつくろう」▶



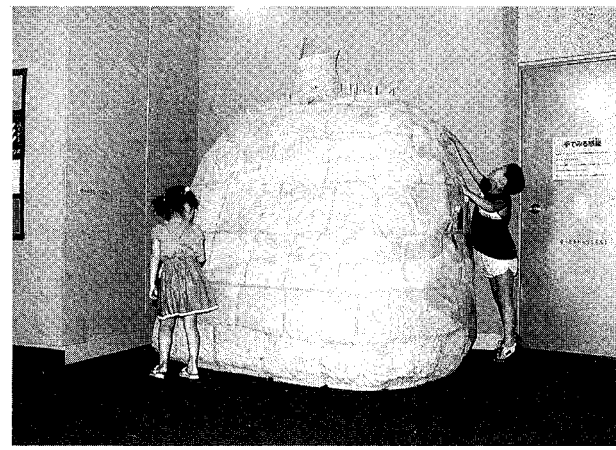
▼個性的な表情を持った「かみのめんⅡ」



▲「こんなかおがおもしろい」の造形スタジオ入口の展示

(2) 造形事業部の活動

〔こどもの城〕造形事業部は，造形活動を通して子どもたちの感性を豊かに育てあげていくためのさまざまな試みを行っている。子どもたちがものを見たり，触ったり，造ったり，あるいは造ったもので遊んだりすることで，造形をさらに身近に楽しめるプログラムを実践してきた。本年度は前年度と同様，①一般来館児へのワークショップ活動　②講座・クラブの活動　③グループ活動を中心にスタジオ運営を行った。



「土と造形パートⅠ」＜手でみる惑星＞

本年度の一般来館児へのワークショップ活動のうち，4月から夏休み特別期間までは子どもたちにとって大変身近な素材である「土」をテーマに，“素材との出会い展～土と造形”を実施した。これは平成2年度から継続して実施している“こどもクリエイティブクラブ”「クレイワーク」のなかでさまざまな形で試みられた成果をもとにしながら，一般来館児にも対応できる内容となるようさらに検討が加えられ，プログラムが展開されたものである。

9月から12月までは「手（触覚）」をテーマにしたプログラムを集中的に実施した。ここでは，子どもたちにはこのテーマを表面には出さず，ごく自然に触覚体験ができるよう環境設定を行った。また1月からは「変身」をテーマにし，春休み特別期間には「こんなかおがおもしろい！～面～」のタイトルでプログラムを実施した。

講座・クラブの活動では，前年度の参加児童の募集方法を改め，こどもクリエイティブクラブとしてそれぞれ内容の異なる6種類のコースで実施した。

1）平常・特別期間

(ア) 素材との出会い展 ≪土と造形パートⅠ≫

（平常期間＝4.8～7.17，夏休み特別期間＝7.18～8.31）

「素材との出会い展」は，身の回りにある素材を造形的立場から新しい視点で見直していく，展示・体験・制作を基本としたワークショップである。今回は，＜紙と造形＞（昭和60・61年），＜木と造形＞（昭和62・63年，平成元年）に続く3つ目の素材“土”によるアプローチである。

土と子どもたちとの出合いは，何かを作るときの材料としてよりも「どろんこ遊び」のような体験にあることが多い。子どもたちは粘土を触ってその感触を体験し，遊び，イメージ

を広げる。粘土の持つ可塑性（かそせい）が子どもたちの創造力に刺激を与えているのである。しかし，粘土がどんなに可塑性の優れた素材であっても，子どもたちがすぐに有効な形を作りだせる魔法の材料ではない。

＜土と造形パートⅠ＞では，造形スタジオでの７年間の活動の実績と平成２年度から今現在も続けている，こどもクリエイティブクラブ「クレイワーク」での実践活動の内容を踏まえ，４月から７月の平常期間に「土とあそぼう」のタイトルでさまざまな試行のプログラムを実施した。またこの期間中，子どもたちが土の持つ可能性をいろいろな方法で体験することで，より積極的な造形活動へつなげ，効果的に子どもたちの力が発揮できるように，造形スタジオのスタッフと指導員がそれぞれのプログラムのためのオリジナルの道具を開発し改善に努めた。

この「土とあそぼう」の期間中に実施したプログラムは以下のとおりである。**「ねんどで森をつくろう」「リング・リング・リング」「どうぶつをつくろう」「あなあきタイルをつくろう」「スタンプタイルをつくろう」**を子どもと親でつくるコーナーで，**「ねんどブロックのまち」「たたらオブジェをつくろう」「かざりタイルをつくろう」「土で絵をかく」「土で木をつくる」**を小学３年生以上のコーナーで実施した。

夏休み特別期間（7.18～8.31）には，「土とあそぼう」のプログラムの中から生まれた展示物を使い造形スタジオ内を構成した。造形スタジオ入口へと続く青山円形劇場の外壁には子どもたちが作ったたくさんの「かざりタイル」の陶板を展示。造形スタジオ入口には，幅２m，奥行き１m，高さ２mの巨大な素焼きの陶のオブジェ「手でみる惑星」を設置した。このオブジェは，子どもたちが造形スタジオで体験できるさまざまな土の技法が集約されたものである。子どもたちは，「手でみる惑星……（中略）目をとじて，そっとさわってみてごらん。どんな場面が浮かんできますか。」と書かれたキャプションの言葉に誘われ，思い思いの場所から触り始めていた。視覚的な印象と手から受ける陶の温度，湿度，感触が，子どもたちの制作への期待と意欲を高めていたようである。

「ねんどブロックのまち」作りに取り組む

造形スタジオ内には，土が火を通して変容していく姿・様子を再現した「野焼きのジオラマ」が製作され展示された。井桁に組まれた丸太や炭のすきまから見える赤茶色に焼けた土器，赤い炎や時おり昇る白煙などジオラマのリアルさに，大人も子どもも目を見張っていた。さらに，子どもたちがさまざまな技法を体験しながら制作した「木」「動物」や「建物」などで構成したジオラマと，アラベスク模様のように穴の開けられた「陶のスク

リーン」も展示された。子どもたちは，これらの展示物を視覚的，触覚的に体験したあと，総合的な体験の場として制作コーナーでイメージを具体化していった。

子どもと親でつくるコーナーでは，「ねんどで森をつくろう」「リング・リング・リング」「どうぶつをつくろう」を，小学1年生以上のコーナーでは「土で絵をかく」「おもしろどうぶつタイル」「土で木をつくろう」を，小学3年生以上のコーナーでは「ねんどブロックのまち」「かざりタイルをつくろう」「クレイストーン」を実施した。

ひもからリングへ，リングから円筒へ

なかでも，器を作らないで器作りへ誘う土の造形「リング・リング・リング」は，粘土の塊を両手で転がすことでひもからリングへ，リングから円筒のオブジェへと，補助的に塩ビパイプの芯（しん）を利用することで低年齢の子どもでも容易に大きな土の造形ができるプログラムである。しかもその芯を抜き取ることで現れるフォルムの意外性に，子どもたちは声を出して驚いていた。また，「土で木をつくる」は道具を使うことで作るもののイメージがさらに広がるプログラムであった。スタッフの作ったオリジナルの搾り出し器から出てくるさまざまな形態のスパゲッティのような粘土を使って，子どもたちは不思議な新種の木の形を作りだした。

会期中の毎日曜日には，土の粉から粘土を作るまでの過程を，子どもたちが全身を使って体験できるように「土をつくる」イベントを行った。子どもたちは泥んこになりながら土がさまざまな形に姿を変えていく様子や感触を楽しんでいた。

事前申込制の「夏休み造形教室」では，小学3年生以上を対象として，“土”を素材に乾燥，絵付け，釉（ゆう）薬かけなどじっくりと時間をかけて制作に取り組むプログラムを実施した。素焼きの粘土のブロックを作り，それを煉瓦（れんが）のようにして積み上げてつくる「**土のたてもの**」（2日間）。粘土をこねる，丸める，絞り出す，切り取る，型抜きをするなど，いろいろな道具を使っておいしそうな弁当を作る「**クレイクッキング**」（2日間）。歯車，ボルト，スパナなど機械の部品や工具の型取りから小宇宙を生みだしていく「**クレイ・メカニック・ワールド**」（1日）の制作を行った。子どもたちは，土を作るところから始まり，乾燥・焼成（しょうせい）と土の変容する姿を体験しながら制作を楽しんだ。

(イ)　**≪やってみよう！つくってみよう！≫**（9.4～3.19）

「やってみよう！つくってみよう！」では，子どもと造形のかかわりをさまざまな観点から見ていく試みを行っている。そのひとつとして，今回「手」をテーマにした幾つかの試験的プログラムを実施した。手はいうまでもなく人間の生活そのものを規定するような重要な役割を担う身体機関である。造形活動もまた，手を無視して考えることはできない。とらえど

ころのないほどさまざまな可能性を持った手の機能をテーマとして展開していくうえで，今回の試みは，手が発揮する原初的な能力の特徴を幾つかの分節に分けて着目した。すなわち，肌触り，量感，質感などの触覚的な理解力であり，こうした理解のもとに生まれる創造的活動への導きである。

「てさぐりぶくろ」(9.14～11.29) ＜体験コーナー＞

触覚的な知覚能力を触発するための体験コーナーとして，造形スタジオの壁には色とりどりのたくさんの布製の袋がぶら下げられた。袋の中には，身近な日用品や自然物など，さまざまな形体，質感，量感を持った物がそれぞれ入っている。子どもたちは，袋で視覚をさえぎられているので触覚のみに頼って中身を当てるゲームとして楽しみながら触覚体験を行った。

「めかくしえ」(9.4～9.25) ＜子どもと親でつくるコーナー＞

触覚的体験内容を中心としたプログラム。通常，絵は映像として視覚的に扱われるが，ここでは，さまざまな肌触りや凹凸を持った材料を切りばりして絵を作り上げる。できあがった絵は，一旦紙で覆って視覚的にさえぎり，作品の鑑賞としては，紙の上から触れて感じられる触感によってなされる。最後には，紙の上から隠された絵をクレヨンでこすりだして，再び視覚化する作業を行った。

「さわれる絵」(9.4～9.25) ＜３年生以上を対象＞

触覚的体験内容を中心としたプログラム。市販されている壁紙は今日では多種多様であり，さまざまな素材や肌触りの製品を取りそろえることができる。ここでは，これらの壁紙などを利用して，コラージュする形式で，「見ること」のみならず，触って感じることのできる絵を作成した。この過程では，絵の内容にふさわしい手触りの材料を探したり，また逆に手にとった材料の触感から絵の内容を想定したりなど，触覚を意識した絵づくりが行われた。

「つつんだかたちはなんだろう」(9.26～10.18) ＜子どもと親でつくるコーナー＞

触覚的体験内容を中心としたプログラム。物を紙や布で包んでしまうと，視覚的な情報がさえぎられて質感が見失われ，形や量のみが情報として残される。ここでの制作では，形や量が主に扱われた。まず，あらかじめ用意されたさまざまな形の積み木の中から１つを選んで紙で包み，その包んだ形から連想されるものを，切り紙で付け足していくことで具体化していく。後で，積み木を外しても包んだ紙には，形と量が残されており，バラエティーに富んだ紙による立体作品が次々と生まれた。

触って感じることができる「さわれる絵」

「みないでつくる」(9.26～11.8)
＜3年生以上を対象＞

触覚的体験内容を中心としたプログラム。すりガラスに覆われた箱の中に材料，道具がそろえてあり，制作の作業のほとんどが箱の中で行われる。子どもたちは目で確認することができない状態におかれ，手と指先だけを頼りに異なった手触りの材料を選んだり，はさみやのりづけを行わなければならない。視覚を排除した時に子どもたちの手は何を感じ，どれほどの能力を発揮するかを試す実験的なプログラムとなった。

自分の足を紙で包み「どかドカぐつをつくろう」

「どかドカぐつをつくろう」(10.20～11.8) ＜子どもと親でつくるコーナー＞

先行プログラム「つつんだかたちはなんだろう」の延長，発展として実施された。紙を用いて自分の足を包み，靴を作ることで自分の足の形や量を確認する作業が行われる。靴という日常的で身近なモチーフであるため，子どもたちにとっても受け入れられやすく，色紙によるさまざまな装飾が施されたり，できあがった後に履いて歩き回るといった風景も見られ楽しいプログラムとなった。

「トントンはっぱのペンダント」(11.10～11.29) ＜子どもと親でつくるコーナー＞

触覚的体験内容を意図したプログラム。一枚の木の葉をビニールで包んでひもを通し，ペンダントとしたものであるが，このビニールは，まず子どもたちによって特製の道具でたたかれて，でこぼこのテクスチュアに変えられる。つまり，ビニール表面そのものの無機的な状態ではなく手触りの変化がつけられたペンダントとなる。葉っぱの周りは薄くしなやかで丈夫な紙"カラペ"で彩られ，またビニールの上から色マジックで装飾が加えられるなどして，1枚の葉っぱから華やかなペンダントができあがった。

「かみからニュッ！」(11.10～11.29) ＜1年生以上を対象＞

触覚的体験内容を意図したプログラム。紙は子どもたちにとって，身近でしかも手軽で扱いやすい素材である。しかし，1枚の薄い紙を用いて量感のある立体作品を作り出すのは一般に難しい。先行プログラム「つつんだかたちはなんだろう」や「どかドカぐつをつくろう」では，すでに形や量のある積み木，足といったものを紙で包み込むことによって立体作品を作った。「かみからニュッ！」は，いわば空気を包む立体作品となった。ポンチで穴をあけた厚紙にカラペを袋状に差し込み，袋の中に空気を吹き込むと紙風船のように膨む。その膨みに目鼻をつけると奇妙な入道ができあがり，ユーモラスな作品となった。

「デコボコバン」(11.14～11.29までの土・日曜日のみ) ＜3年生以上を対象＞

触覚的体験内容を意図したプログラム。厚紙を丸い穴あけポンチであけると，一方には丸

い穴ができ，もう一方では紙の円盤ができあがる。このような円盤を，厚紙上に積み重ねて張りつけた凸部と，穴のあいた凹部とでできあがる立体模様で厚紙上に構成される作品ができた。できあがった作品が連なるように壁にはられると，無数の円盤で構成される不規則な起伏が壁全体に抽象的なレリーフを作り出した。

「ゆきんこひらひら」(2.4～2.14) ＜子どもと親でつくるコーナー＞

雪の降りやすいこの季節に合わせて，雪の結晶をイメージしたかざぐるまを制作。子どもたちは，あらかじめ円形の内部に雪の結晶の形状に印刷された線を切り取り，風きり羽根を張り合わせるなどしてかざぐるまを作る。これに色ペンで飾り模様をつける。かざぐるまの支点となる中央の点を穴あけポンチであけ，糸を通してその先にストローの持ち柄を作ると「ゆきんこひらひら」はできあがる。かざぐるまを回すために腕を大きく振ったり，スタジオの内外を駆け回って遊ぶ子どもたちの風景が見られた。

「ギャロッパー」(2.4～14) ＜3年生以上を対象＞

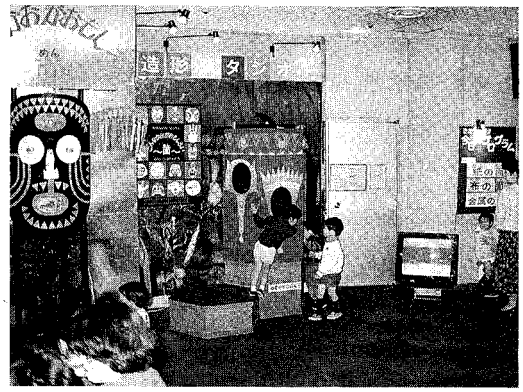
セロハンテープの芯の中央を横切るように輪ゴムをはめ，さらにその輪ゴムに木片をはさむと，輪ゴムが緊張しているため少しの振動を与えただけでも木片が揺れる。これを利用して作る玩具が「ギャロッパー」。木片を整形し，目鼻や手足をつけ，動物に変えて揺らすと，まるでその動物が疾駆するためにもがいているように見える。ここでは，動物に限らずさまざまなギャロッパー(galloper　疾駆するもの)が登場してユーモラスな動きをみせた。

「かみのめんⅠ」(3.4～19) ＜子どもと親でつくるコーナー＞

春休み特別プログラム「こんなかおがおもしろい！～面～」に先立って試みる意味を含めて顔の半分を覆う紙の仮面を制作した。目の部分は型をあててサイズを決定し，穴あけポンチであける。その穴からのぞきやすくするために眉に接する部分には発泡スチロールの小片をつけて，目と面の間に空間を作った。面の表面は，色紙をはりつけての装飾が施された。

「木とねんどの面」(3.4～19) ＜2年生以上を対象＞

丸太を輪切りにした断面に，ウッディ粘土や木の葉，小枝などを使って面を制作した。春休み特別プログラムではいろいろな素材を用いての面作りを予定しているので，ここではその1つとして自然物もしくはそれに近い素材によってできあがる面として設定された。表面につけられる粘土が乾いて剝落（はくらく）しないように芯として釘を打ち込む作業があったり，丸太をのこぎりで切断するなど，木材加工の仕事を含んだ内容となった。



スタジオ入口の体験コーナー
「こんなかおがおもしろい！～面～」

(ウ)　オープンスタジオ

≪こんなかおがおもしろい！～面～≫

(春休み特別期間　3.20～4.5)

子どもが，素材・道具・技法の3つの側面から造形活動にかかわれることを期して展開され

る＜オープンスタジオ＞であるが，今回は「こんなかおがおもしろい！～面～」と題して顔をテーマにした。顔は人間の体の中でも最も内面（心の動き）が表面に現れる箇所である。したがって，顔そのものが人間にとって強い興味と関心の的であり，造形活動の領域を広く見渡しても，今昔や地域を問わずひんぱんに重要なモチーフとして扱われてきた。この顔をモチーフにした遊びや面作りは，ときに精神世界にさえ分け入る奥行きを持った活動である。このプログラムでは，さまざまな素材，さまざまな手法で自分の顔を変化させたり，また独自の面を作り出すなど，体験・制作ともなるべく通常みられる既成の面とは異なる角度からのアプローチを試みた。具体的内容は以下のとおりである。

＜体験コーナー＞

造形スタジオの内外には〔**マスク・ボックス**〕と名付けた箱が数多く設置された。この箱をのぞき込むと，自分の顔が歪んだり，不思議な仮面に覆われたり，幻想的に変ぼうしたりするなどさまざまな変身体験を提供した。

また，西洋風の装束に描かれたほおから上の面を鏡の前に張り出し，この面を裏からのぞき込むと，顔半分が異なった人格に変えられた姿が鏡に映る。その姿を自分で見ながら思わず笑いがこみあげるといった場面は大人，子どもにかかわらず見られた。

＜制作コーナー＞

「かみのめんⅡ」＜子どもと親でつくるコーナー＞

折り曲げた紙に，はさみで切り込んで幾つかの穴をあけ，その紙を広げると幾何学的な配列の穴ができあがる。この紙にのぞき穴を除いて別の色紙をはりつけて飾ったあと，バンドを取り付けると，カラフルな装飾面ができあがる。折った紙に切り込みを入れるという手法そのものは一般的であるが，これを「面」として用いることで，幼児にも可能な技術でそれぞれに個性的な表情を作り出すことができた。

「布の面」＜３年生以上を対象＞

「布の面」を作るためには，まず工具や機械の部品，プラスチックモデルの小片など，さまざまな材料を集めて立体的な面の型を作る。この型の上に，水で薄く溶いたボンドに浸した布を被せて乾燥させると，型の形を残した布の面となる。この面は，クレヨンやペンで装飾され，針金や棒を使った把手をつけて仕上げるので，顔の前に掲げたり外したりできる面となった。

「布の面」を顔の前に掲げて"私，美人"

「金属の面」＜３年生以上を対象＞

この面は，木のベースに金属（ブリキ）板を打ち付け，電気製品の部品や真ちゅう，銅線

などをハンダで接合して仕上げる。金属の材料を組み合わせて制作する造形は，比較的手の込んだ作業が要求される。砂袋の上でたたいて金属板に曲面を作り出したり，ハンダやハンダごてを使っての作業は慣れない手には手軽なものとはいえないが，それだけに子どもたちにとっては，適度の抵抗感を得て熱中する作業となった。できあがった作品も，多くの制約にもかかわらず，ユニークな表情の面が多数できあがった。

(エ)　季節行事

「こども歳時記」として，次のプログラムを実施した。

1　こども歳時記「こどもの日」(4.28～5.5)

「ふくらむコイ」＜子どもと親でつくるコーナー＞

雨の日に濡れた傘を入れるビニール袋を材料にして，油性のペンでこいのぼりのうろこ模様などを描き，口に厚紙の筒と竹ひごを取り付ける。完成した作品は送風機の風に当てたり，手に持って走り回ることでたっぷりと風をはらみ，動くユーモラスな鯉（こい）のぼりとなった。

「アルミでつくるこいのぼり」＜１年生以上を対象＞

アルミの板に，たがねで鯉のぼりの形や模様を打ち出す。それを自分で切った木の板にクギで取り付ける。金属加工の道具，木工具などいろいろな道具が体験できるプログラムとなった。

「かざりかぶと」「かざりゴイ」＜４年生以上を対象＞

黄銅板，銅板，アルミ板，針金やさまざまなクギを用いてきらびやかな兜(かぶと)や鯉の姿を形作った。これらを厚手の木に打ちつけて落ち着いた趣のある飾りをじっくりと制作した。

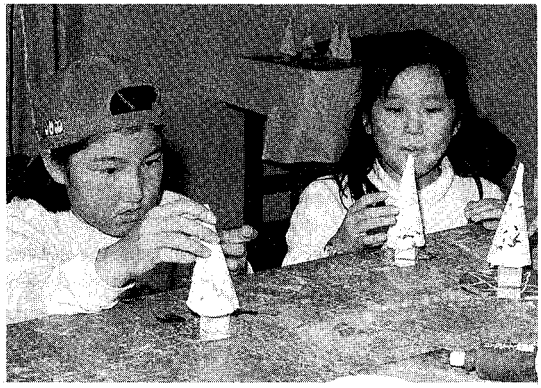
2　こども歳時記「クリスマス」(12.1～25)

「ふわふわツリー」＜子どもと親でつくるコーナー＞

カラペと鏡のようにきれいに反射をする紙を用いて作ったクリスマスツリー。緑だけではなく赤，黄色，緑，青などのカラフルなかわいらしいクリスマスツリーの森が広がった。

「白いクリスマスツリー」＜３年生以上を対象＞

蛍光のひもなどをはりつけた型を作り，その中に石膏を流し込んで固める。それを木の台に取り付けたあと，ブラックライトの箱のなかに入れると鮮やかに輝くクリスマスツリーとなった。



石膏を流し込んで「白いクリスマスツリー」

3　こども歳時記「お正月」

(12.26～1.17)

「おめでとり」

＜子どもと親でつくるコーナー＞

酉（とり）年にちなみ，色画用紙を用いて立体的な鳥の飾りを制作した。

それぞれの作品は細い欅（けやき）の小枝

に取り付けて持ち帰ったり，スタジオに設置された太い木の枝ににぎやかに飾り付けられた。

「センタッキー・フライング・チキン」＜２年生以上を対象＞＜４年生以上を対象＞

小２以上のコーナーでは紙コップをベースにして，色画用紙で羽や飾りを付けて鳥を制作。小４以上のコーナーではアルミの板で鳥の羽を，木で胴体を制作した。いずれもスタジオ内に特別製作をした，大きな筒（高さ３ｍ，直径60㎝）に強力な送風機が仕組まれた装置の中に入れて飛ばして遊んだ。羽の大きさや形，作り方などにより微妙に飛び方が変化をし，子どもたちはそれぞれに工夫をこらした。

④　こども歳時記「節分」(1.19～2.3)

「おにかめん」＜子どもと親でつくるコーナー＞

１枚の透明なビニールシートを用いることで，間接的に“化粧”をし，変身を体験できるプログラムである。ビニールシートのお面を作り，鏡に向かって油性のマーカーで顔を描くことに，子どもたちは最初とまどうものの「鬼」に変身するのだというテーマが力になり，ゆかいなお面がたくさん生まれた。

「マリおにット」＜３年生以上を対象＞

片手で持って遊べる鬼のあやつり人形を制作した。あやつり糸はからみやすいので細い針金を用いた。手足の部分が２～３センチ角の木材なので，それぞれの作業が細かく途中で投げ出してしまうのではないかと心配したが，完成品を見ることで作業の意味を理解し，参加した子どもたちは全員最後までやり通していた。

⑤　こども歳時記「ひなまつり」(2.16～3.3)

「へんしんおひなさま」＜子どもと親でつくるコーナー＞

色画用紙で冠を作り，それを頭にかぶっておひなさまに変身をして遊ぶプログラム。女の子はおひなさまの，男の子はおだいりさまの冠をそれぞれ作ることで，男女にかかわらず大勢の子どもたちが参加できた。

「プリントびな」＜３年生以上を対象＞

厚紙の上にいろいろな素材をはって版を作る版画（コラグラフ）の技法を応用したプログラムである。生成の木綿の布地にプリントをし，それを円錐形にして立たせた。平面の版画を立体のオブジェに応用して，素朴でかわいらしいおひなさまが完成した。

“鬼”に変身「おにかめん」

２）講座・クラブ

㈠　こどもクリエイティブクラブＡ「プリントワーク」

第１・２期は難しい技術を習得するための版

画ではなく，版画の基本である＜写す＞という技法に立ち戻り，さまざまな版画に取り組んだ。子どもたちにも親しみのある「紙版画」や「木版画」をはじめとし，ボンドでさまざまな材料をコラージュしながら版を作る「コラグラフ」等も行った。それぞれ通常では体験することのできない，B２サイズ（50㎝×70㎝）の大きな版を使用したので，少々扱いにくいのではないかと思われたが，子どもたちは，ふだんよりも手を大きく動かしながら，力いっぱい自由に表現した。ほかにも自分の顔写真を版にして「シルクスクリーン」で葉書を制作した。

第３期は，応用編として「立体版画」に挑戦し，今までの版画＝平面というイメージからぬけだし，表現方法の幅を広げた。今回行ったのは，細かくちぎった新聞紙とのりを混ぜたものを，石膏で作った雌型（めがた）に均一に敷いていき，乾燥後はがしていくもので，石膏型にピグメント（粉状絵具）をふりかけ着色することもできる。

子どもたちは，版を作っているときと，刷り上がった後の思いがけない様子の変化に驚いていたが，何枚も刷り上げていくうちに，インクの盛り方や版づくりにさまざまな工夫を施すようになった。また，11月の造形スタジオ展では，３階ロビー壁面にのびのびとした楽しい作品が展示され，成果が発表された。

(イ)　こどもクリエイティブクラブＢ「クレイワーク」

さまざまな造形素材があふれている現代に，造形素材としての土を見直し，子どもたちが遊びや日常の生活の中からごく自然に“土”と楽しく出会い体験できるよう，また手触り・重さ・バランス・大きさ・色彩・固さ柔らかさなどすべての感覚を使って造形体験が広げられるよう，プログラムを企画した。

過去２年間で実施した「クレイワーク」の反省から，１つの作品が完成するまで他の作品を並行して制作しないように心がけた。これは，土が乾燥し，焼成され，釉薬を施されて変容していく土の様子を子どもたちが自然に理解できるようにという配慮からである。

第１・２期は，粘土の可塑性（かそせい）を子どもたちが全身を使って感じ取れるように，大きな粘土塊を転がす，ひもにする，手でたたいて延ばすことで自然にできてくる形をプログラム化した。また２期では，手でみる美術館＜ギャラリーTOM＞（渋谷区松濤）で開催された「第４回TOM賞・鳥たちⅡ～全国盲学校の生徒作品コンテスト」を見学した。そこではアイマスクをして触覚だけを頼りに作品鑑賞をした。その体験をもとにして，太い１本の粘土塊を用いて「見ないで作る」プログラムを実施した。目を開けて作る時よりもはるかに慎重に，手は探るように粘土の塊の上を動いていた。

手をまっ黒にして「プリント・ワーク」

第3期目は野焼きを中心にして活動を行った。また，板状にした粘土の滑らかな表面を生かしながら30cm以上の大皿を作り，動物園に見立てていろいろな動物を配したジオラマのようなダイナミックな作品も制作した。

(ウ) こどもクリエイティブクラブC「造形おもしろ旅行」

造形活動，造形作品そのものが，旅行の楽しさを備えて展開できるように本クラブは設定された。第1～3期に分けてそれぞれに異なる視点からの旅行をテーマにした造形活動が行われた。

第1期はまず机の上に大きな世界地図を広げ，自分が行きたい旅行先を規定した後，その場所の風土や気候，生息する動植物などの様子を図版や資料などで下調べをしたうえで，その土地を訪れた自分を交じえてジオラマ風に造形するというものであった。その際には，写真付きのパスポートの制作が行われたが，このパスポートは制作計画表の役割を兼ねるものとなった。第2期は採集旅行という設定で，何であれ採集するもののテーマを設定して世界各地から集めた標本箱として造形しようとするものであったが，「採集」という言葉から，「昆虫採集」と結び付けられがちで，多くのメンバーが木片による昆虫標本作りに偏ってしまった。

第3期では「造形おもしろ旅行」の総括として「AROUND THE WORLD」と名付けた，モーターで動く走馬燈風の照明玩具（がんぐ）の制作を行った。これは，アクリル製の透明ボールの内側に色セロハンをはりつけてステンドグラスのように飾り付け，中に電球を入れた台の上で回転させるというものであった。さらに台の上には旅行中に見かけたさまざまな生き物の絵が置かれ，これらはアクリルボールをスクリーンにしてシルエットが映る仕掛けになっている。

地図を広げて，どこに行こうかな？（造形おもしろ旅行）

このクラブでは，手を動かして制作する技術的な側面もさることながら，できるだけ空想の範囲を広げてまだ見ぬ世界を自分で作り出すというイメージの広がりが重視された。そういった意味では，自分の内面を旅行する過程でもあり，タイトルにふさわしいクラブ活動になったと思われる。

(エ) こどもクリエイティブクラブD「ゆかいなぞうけい」

このクラブでは子どもたちを“自分以外の何か別なもの”に一歩近づけるために，「仮面」と仮面をつけることによる「変身」をテーマとした。またプログラム作成の方針として，子どもたちがふだん目にはしているがあまり扱ったことのない，あるいはほとんど体験したこ

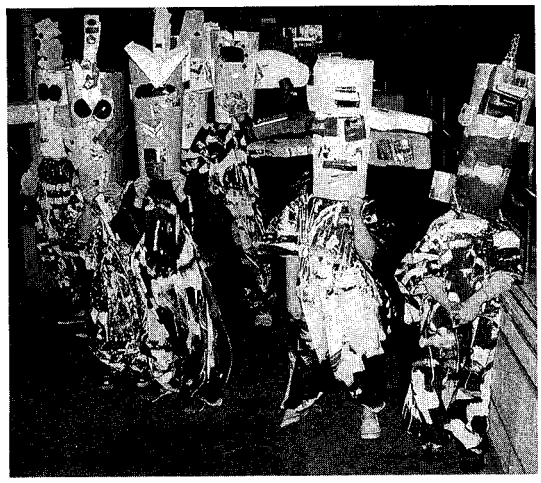
とがない素材・材料・工具・用具等を積極的に取り入れていくこととした。

第1期ではテーマへの導入として顔や手・足への“ペインティング”を行った。子どもたちの日常のなかで，このようなことはタブーとされている行為である。しかしここでは，「汚れ」と仮面に通じる「化粧」の違いを無意識のうちに理解をし，熱中して変身する楽しさを体験していた。

第1期後半から第2期にかけては，比較的子どもたちにとって扱いやすい素材として，アルミ板，木，コルクボード，鳥の羽などを用いて装飾的な仮面を制作した。さらに第2期後半では，身体機能を延長した道具としての仮面を制作。これは内部に鏡を仕組み，潜望鏡のように視点を移動できるもので，このマスクに合った衣装も制作した。

第3期では第1・2期による体験の蓄積を踏まえ，技術的にも複雑な蛍光顔料を用いた仮面を制作した。これは特殊な光の有無により，2種類の変身が体験できるものである。

全期間を通じて，毎回初めての，時には困難な体験をも強いられることとなったが，子どもたちは全くちゅうちょすることなく勇敢に課題に挑戦していった。自分だけの「仮面」による「変身」やさまざまな技術体験は，それぞれの子どもたちの感性や発想の広がりを生み出してくれたことと思う。



“変身”をテーマに「ゆかいなぞうけい」

(オ)　こどもクリエイティブクラブE「アニメ体験」

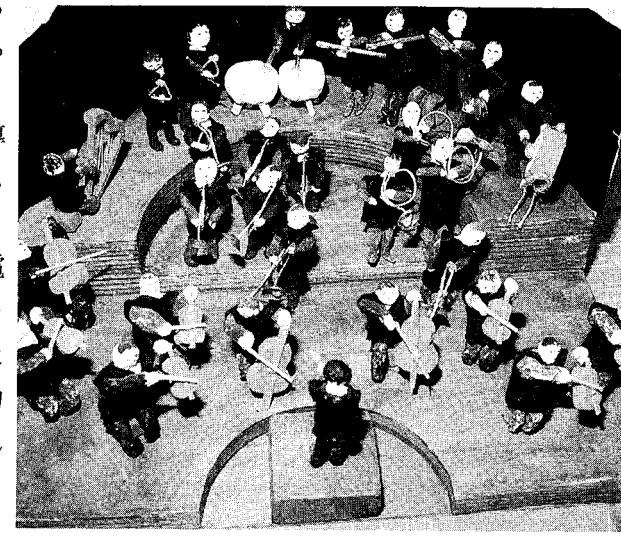
「アニメ体験」は以前から継続して開設しているクラブであるが，本年度は，アニメーションの本質的な内容を取り出して実験的な遊びを取り入れる一方，子どもによるアニメーション表現の可能性を探る意味で比較的高度な問いかけを試みることとなった。そのため，子どもの年齢も小4以上という制限を行った。プログラムの展開は，原始的なアニメーションの理解から始めてストーリー設定のなされた自主制作アニメの完成へと導く予定であった。しかしながらアニメーションによる表現が総合的な造形能力を要求する側面を持っているため，すべての子どもがアニメーションの表現法を自由に操るという段階にまではいたらなかったと思われる。けれども子どもの表現のはしばしにはユニークな視点が垣間(かいま)見られ，このメディアのプログラム化には未開発の魅力が潜在していると考えられる。今後の研究を要するところである。

(カ)　こどもクリエイティブクラブF「ハンズワーク」

「つくりたいものを，つくりたいときに，つくりたいだけつくれるクラブ」として前年度から開設されたクラブである。本年度は前年度の反省から，土曜日のみのクラブとして実施した。土曜日の〔こどもの城〕の開館時間中（10:00～17:30）に時間を気にせずにじっくりと

自分のテーマに基づいた制作を行える環境を設定した。ここでは子どもたちは，自分が何を作りたいのかを考え，材料や道具を選び，計画を立て，指導員と相談をしながらそれぞれの子ども自身のペースで制作に取り組んだ。

木材を使った大きな船やパズル，電気部品の廃物を利用した宇宙ステーションやジオラマ，粘土を素焼きしたブロックを使ったミニハウスなど，力のこもった作品がいろいろと制作された。



私が作りたかったのは"オーケストラ"（「ハンズワーク」の作品）

3）グループ活動

子どもたち全員が協力して，床に大きな木を紙で作る「**木をつくろう**」，プレイングボードに各々の影を写し，絵具で輪郭をなぞったり，色を塗ったりする「**かげをうつそう**」，粘土で飛行機やテント，木などをつくってジャングル旅行に出発する「**粘土でジャングル旅行**」の3つを例年どおり実施した。

「木をつくろう」では，木が幹から枝，枝から小枝へと分かれつつ伸びていく，木の規則的な広がりと成長過程を，「かげをうつそう」では，影という形の認識の他に着色しデザインする面白さを，「粘土でジャングル旅行」では，粘土を手でつまんだり，櫛（くし）・紐（ひも）などの道具を使って模様をつけたりすることで，粘土の特徴の1つである可塑性を主に，それぞれ体験してもらえるようにプログラムの改良を重ねた。

子どもたちが常に，素材や道具，話の展開等に対して興味が持続できるように，スピーディーかつスムーズに進行していくことを心がけた。スムーズさに関しては，インターナショナルスクールを受け入れた場合，通訳を介することになるので，通訳の人との事前打ち合わせがしっかりなされていないとプログラムの展開が滞る場面も見られた。この点について，来年度はよりスムーズに運ぶよう留意していきたい。

3つのプログラムを実施する中で，特に粘土については触ると冷たい，重い，においがする，形が変わる，などの要素があり，子どもたちにとっては非常に興味深い素材であったようだ。実際に「粘土でジャングル旅行」は利用件数も多かった。本年度は障害児グループの利用に対しても粘土を使用したプログラムを実施した。このプログラムは前年度，シミュレーションで行ったプログラムをより簡略化したもので，個人の行動能力がまちまちであることの多い障害児グループに対応して，内容の随時変更ができるよう考慮したプログラムである。主に，粘土の基礎技法（紐状にする，丸める，つぶして平らにする等）と，グループ単位の協調性を重視した要素が含まれている。今回実施した件に関しては，想像していたよ

り子どもたちの反応もよく，学級担当の方からもさまざまな意見をいただいた。現在，障害児グループへの提供プログラムとして再検討を図っている。

子どもたちの作品を集めて「第７回造形スタジオ展」

4）その他

(ア)　第７回造形スタジオ展
(10.31～11.29)

例年どおり，造形スタジオでの活動内容をより多くの人に知ってもらうために，「第７回造形スタジオ展」を造形スタジオ内で開催した。

昨年の春休みに実施したオープンスタジオ「おじいさんの道具箱～パートⅡ」，夏休みに実施した素材との出会い展「土と造形～パートⅠ」，こども歳時記，こどもクリエイティブクラブでの作品を中心に展示を行った。

本年度は特に，それぞれのプログラムが実施された環境設定や，その時の子どもたちの様子がよく分かるよう，たくさんのスライドやビデオなどの映像を利用した。

(イ)　第５回遊びと造形発想展（6.14～28）

〔こどもの城〕ギャラリーを会場として，おもしろ発想の会と共催で行ってきた企画である。第１回から第４回までは“高山正喜久…造形基礎教育30年の報告～幼児からデザイナーまで”のタイトルで開催されてきた。本年度からは，この高山氏の活動に賛同する「遊びと造形発想の会」のメンバーがそれぞれの現場で行っているプログラムやカリキュラムの中から，テーマに基づいた児童や学生の作品を中心に展示を行った。

今回は「ひきざん」と「わりざん」をテーマとした作品が集められた。造形の発想や制作の方法を算数の考え方に置き換えてみたときに，これまでには気がつかなかった新鮮な視点や関係が見えてくるのではないかという試みである。

また会場には，来場した子どもたちが，このテーマをもっと身近に体験できるよう，楽しい制作のコーナーや体験のコーナーも設けられた。

〔こどもの城〕造形スタジオからは，「まほうのぼう」「かざりタイル」「くりぬきたてもの」「土の中のかたち」「経木の木」等がギャラリーに出品された。さらに造形スタジオでもこのテーマに合わせて，粘土によるプログラムも実施された。

なお本展は，８月９日から23日まで，ぐんまこどもの国児童会館でも巡回展示が行われた。

4 音楽事業部

(1)　4年度活動一覧表　1）週間事業実施時間

曜日	火			水			木			金		土			日			
区分	スタジオ		ロビー	スタジオ		ロビー	スタジオ		ロビー	スタジオB	ロビー	スタジオ		シンセ室	ロビー	スタジオ		シンセ室	ロビー
時間	A	B		A	B		A	B				A	B			A	B		
10：00	(グループ活動)			(グループ活動)			(グループ活動)	おんがく星みつけた		(グループ活動)					一般来館プログラム	三味線Ⅰ	ユースバンド		一般来館プログラム
11：00																三味線Ⅲ			
12：00																三味線Ⅱ			
13：00			一般来館プログラム			一般来館プログラム			一般来館プログラム		一般来館プログラム	和太鼓	合唱			ガムラン	わいわいスタジオ①	シンセサイザー&コンピュータミュージックⅠ	
14：00	リズムムービングA			おかあさんもいっしょ初級			ダウン症リトミック(小児保健)												
15：00	リズムムービングB				おかあさんもいっしょⅡ							集まれ！みんなのリズム	合唱団Ⅰ			ガムラングループ	わいわいスタジオ②	シンセサイザー&コンピュータミュージックⅡ	
16：00	リズムムービングC			おかあさんもいっしょⅢ				(AV)ビデオ玉手箱		(AV)おもしろビデオ館			合唱団Ⅱ			おとなのためのガムラン(Ⅰ期のみ)			
17：00	リズムムービング&パーカッション												混声合唱						
18：00		パーカッションアンサンブル																	
19：00																			
20：00																			
21：00																			

2)　平常期間プログラム

名　　称	期　　間	時　　間	場　所	要　員	備　　考
いろんな楽器やってみよう	毎日	開館時間中	音楽ロビー	(人) 職員　3 アルバイト　1	
みんなでライブ！	毎週火曜日	14:30～15:00	〃	職員　4 アルバイト　1	
リズムであそぼう	〃	16:00～16:30	〃	職員　2 アルバイト　1	
水ようコンサート	毎週水曜日	15:30～16:00	〃	職員　3 アルバイト　1	
木ようひろば	毎週木曜日	14:30～15:00	〃	〃	
木ようワンダーランド	毎週木曜日	16:00～16:30	〃	職員　3 ボランティア　2～8 アルバイト　1	
楽器であそぼう	毎週金曜日	15:00～15:30	〃	職員　3 アルバイト　1 ボランティア　2～6	
ワールドミュージックチャレンジ	毎週土曜日	①13:30～14:00 ②15:30～16:00	〃	職員　4 アルバイト　2	
わいわいバンドとあそぼう	週替わり日曜日・祝日	14:30～15:00	〃	職員　4～5 アルバイト　1～3	
みんなで遊ぼう音楽広場	〃	〃	〃	〃	
サンバコンサート	〃	〃	〃	〃	
いろいろ楽器コンサート	毎週日曜日・祝日	16:30～17:00	〃	〃	
わいわいスタジオ	週替わり日曜日・祝日	①13:30～14:00 ②15:30～16:00	音楽スタジオB	職員　3 外部出演者 1～8	
五人ばやしでトントコトン！	2.27・28	①13:00 ②14:00(28日のみ) ③15:00	音楽ロビー	職員　2～4 アルバイト　3	

3)　特別期間プログラム

名　　称	期　　間	時　　間	場　所	要　員	備　　考
＜春休み＞ 5つのわくわくコンサート	～4.5	①11:00　ボルカ ②13:30　アフリカ ③14:30　手遊び ④15:30　サンバ ⑤16:30　民族楽器	音楽ロビー	(人) 職員 4～5 アルバイト　3	
＜〃＞ 箏体験コーナー	～4.5	開館時間中	音楽スタジオA	アルバイト　1～2	

4 音　楽

名　　称	期　　間	時　　間	場　所	要　員	備　　考
				(人)	
＜児童福祉週間＞ 音楽の世界旅行	4.29～5.5	①11:00②13:30 ③15:30	音楽ロビー	職員　2 外部出演者 4～6	
＜　〃　＞ 親子であそぼう音楽広場	〃	①13:00②15:00	音楽スタジオA	職員　2 アルバイト　2	
＜　〃　＞ わいわいバンドとあそぼう	〃	14:30	音楽ロビー	職員　2 アルバイト　1	
＜　〃　＞ いろいろ楽器コンサート	〃	16:30	〃	職員　4～5 アルバイト　1～3	
＜夏休み＞ みんな集まれ！音楽広場	7.21～8.9	開館時間中	〃	職員　6 アルバイト　5～6	
＜　〃　＞ 南洋音楽座	8.1～9	①13:30②15:30	音楽スタジオA	職員　3 アルバイト　2	
＜　〃　＞ 手作り楽器フェスティバル	8.11～31	開館時間中	音楽ロビー 音楽スタジオA	職員　6 アルバイト　5	
＜開館記念＞ 開館記念セレモニー	11.1・3	14:30	音楽ロビー	職員　2 アルバイト　1 ボランティア　1	
いろいろ楽器コンサート	〃	16:30	〃	職員　4～5 アルバイト　1～3	
＜冬休み＞ うたってぽかぽか	12.23～27	開館時間中	〃	職員　2～3 アルバイト　3	
＜　〃　＞ 音楽広場	12.23～27	14:30	〃	職員　4 アルバイト　2	23日　クリスマスソング特集 25～27日　わらべうた・歌遊び
＜　〃　＞ 太鼓道場	1.3～7	①13:30②15:30	〃	職員　2～3 アルバイト　3	
＜　〃　＞ 美女太鼓	〃	14:30	〃	〃	
＜　〃　＞ 初春箏之館	〃	①11:00②11:15 ③13:00④13:15 ⑤14:00⑥14:15 ⑦15:00⑧15:15 ⑨16:00	音楽スタジオA	職員　1 アルバイト　1～2	
＜春休み＞ 春は元気に1.2.3！	3.23～27	開館時間中	音楽ロビー	職員　4～6 アルバイト　4～6	サンバコンサート，いろいろ楽器コンサート，ジェンベ王国のコンサート

4) 講座・クラブ

＜講座＞

名　　称	対象	定員	受講数	曜　日 時　間	場　所	期　間	料金	講師等	備　考
		(組)	(組)			(回)	(円)		
おんがく星みつけた (就学前のリトミック)	2・3歳児と母親	30	29 30 24 83	木曜日10:30～11:30 〃 〃	音楽スタジオB	4.9～7.9 10 9.17～12.17 10 1.14～3.25 9	12,000 〃 〃	吉村温子 職員 4	各期ごとに募集
おかあさんもいっしょ (リトミック初級)	3～5歳児と母親	20	23 21 19 63	水曜日13:30～14:30 〃 〃	音楽スタジオA	4.8～7.22 11 9.9～12.16 12 1.20～3.24 9	14,000 15,000 11,000	吉村温子 助手 岩橋由梨 職員 2	
おかあさんもいっしょ (リトミックⅡ)	4歳児と母親	20	19 19 55 17	水曜日14:30～15:30 〃 〃	音楽スタジオB	〃	〃	〃	
おかあさんもいっしょ (リトミックⅢ)	5歳児と母親	20	14 13 47 14	水曜日15:30～16:30 〃 53 〃	音楽スタジオA	〃	〃	〃	
		(人)	(人)						
リズムムービングA	3歳児	12	13 12 12 37	火曜日13:30～14:30 〃 〃	〃	4.14～7.14 11 9.8～12.15 12 1.12～3.23 9	14,000 15,000 11,000	柳沼輝子 助手 大塩啓子 鈴木美香子 松本寛子のうち1	
リズムムービングB	4歳児	15	15 10 33 8	火曜日14:30～15:30 〃 〃	〃	〃	〃	〃	
リズムムービングC	5歳児	15	17 17 50 16	火曜日15:30～16:30 〃 〃	〃	〃	〃	〃	
リズムムービング&パーカッション	小1～4	20	26 18 62 18	火曜日16:30～17:30 〃 〃	〃	〃	〃	〃	
合唱講座	小1～4	30	30 31 28 89	土曜日13:30～15:30 〃 〃	音楽スタジオB	4.11～7.21 11 9.19～12.19 12 1.16～3.24 9	〃	吉村温子 助手 林あづさ 職員 2	
ガムラン講座	小1～高3	10	2 6 6 14	日曜日15:00～17:00 〃 〃	音楽スタジオA	4.12～7.12 11 9.13～12.13 12 1.17～3.14 9	16,000 17,000 13,000	福岡正太 助手 佐々木美奈子 福沢達郎 のうち1	16:00～17:00はガムラングループと合同で実施。

名　称	対象	定員	受講数	曜日 時間	場所	期間	料金	講師等	備考
		(人)	(人)			(回)	(円)		
三味線Ⅰ	小2～高3	20	19 19 17 55	日曜日10:00～11:15 〃 〃	音楽スタジオA	4.12～7.5 11 9.6～12.20 12 1.10～3.14 9	16,000 17,000 13,000	田島佳子 助手 小林雅子	
三味線Ⅱ	〃	12	6 6 7	日曜日11:15～12:30 〃 〃	〃	〃	〃	〃	
三味線Ⅲ	〃	12	9 10 10	日曜日12:30～13:45 〃 〃	〃	〃	〃	〃	
シンセサイザー＆コンピュータミュージックⅠ	小5～高3	8	8 4 3 15	日曜日13:30～15:30 〃 日曜日15:30～17:30	シンセサイザー室	4.12～7.5 11 9.6～12.6 12 1.10～3.14 9	21,000 21,000 17,000	岩下哲也	各期ごとに募集。3期は少人数のため，Ⅱと合同で実施した。
シンセサイザー＆コンピュータミュージックⅡ	〃	8	7 6 5 33	日曜日15:30～17:30 〃 〃	〃	〃	〃	〃	
和太鼓グループ	小3～高3	12	13 11 10 38	土曜日14:00～15:30 〃 〃	音楽スタジオA	4.11～7.11 11 9.5～12.19 12 1.9～3.13 9	13,000 14,000 10,000	今泉豊	
集まれ！みんなのリズム～ブラジルのサンバ～	小2～中1	10	5 7 7	土曜日15:30～17:00 〃 〃	〃	4.11～7.18 10 9.12～12.12 10 1.9～3.13 9	14,000 14,000 12,000	渡邉亮 職員　3	
混声合唱	高校生以上	15	10 10 12 32	土曜日19:00～21:00 〃 〃	音楽スタジオB	4.11～7.21 11 9.19～12.19 12 1.16～3.24 9	14,000 15,000 11,000	吉村温子 助手 林あづさ 職員　1	
おとなのためのガムラン	18歳以上	15	10	日曜日18:00～20:00	音楽スタジオA	4.12～7.12 10	17,000	福岡正太 助手 佐々木美奈子 福沢達郎 のうち1	Ⅱ期，Ⅲ期は休止

＜クラブ＞

名　　称	対象	定員	受講数	曜日 時間	場　所	期　間	料金	講師等	備　考
		(人)	(人)			(回)	(円)		
ユースバンド	小5～高3	28	18 11 18 47	日曜日10:00～12:00 〃 〃	音楽スタジオB	4.19～7.12 11 9.13～12.13 12 1.10～3.14 9	19,000 21,000 16,000	山本武雄助手 山本真理子 三田村健太田聡のうち2	
合唱団Ⅰ	小2～小3	30	44 40 37 121	土曜日15:30～17:30 〃 〃	〃	4.11～7.21 11 9.16～12.19 12 1.16～3.24 9	14,000 15,000 11,000	吉村温子助手 林あづさ職員 2	17:00～17:30は合唱団Ⅱと合同
合唱団Ⅱ	小4～中3	60	57 52 55 164	土曜日17:00～19:00 〃 〃	〃	〃	〃	〃	17:00～17:30は合唱団Ⅰと合同
ガムラングループ	小4～高3	15	11 10 10 31	日曜日16:00～18:00 〃 〃	音楽スタジオA	4.12～7.12 11 9.13～12.13 12 1.17～3.14 9	16,000 17,000 13,000	福岡正太助手 佐々木美奈子 福沢達郎のうち1	
パーカッションアンサンブル	〃	60	57 52 55 164	火曜日17:30～19:30 〃 〃	音楽スタジオB	4.14～7.14 11 9.8～12.15 12 1.12～3.23 9	〃	柳沼輝子助手 大塩敬子 能瀬礼子 名倉誠人	助手3人のうち1期は2人2・3期は1人。

＜セミナー＞

名　　称	対象	定員	受講数	曜日 時間	場　所	期　間	料金	講師等	備　考
		(人)	(人)			(回)	(円)		
＜大人のためのサマーセミナー＞ リズムムービング	小・中・高教諭・大学生及び一般	12	13 20	7.26　10:00～17:00 7.31　10:00～17:00	音楽スタジオA	1 1	7,500 7,500	柳沼輝子助手 大塩敬子	応募多数のため26日を追加
＜　〃　＞ ガムラン	〃	12	12	7.28　10:00～17:00	〃	1	7,500	福岡正太助手 佐々木美奈子	
＜　〃　＞ 和太鼓	〃	12	11	7.28・29　10:00～17:00	〃	1	15,000	今泉豊	

5) 合宿

名　　称	期　間	場　所	料　金	要　員	備　　考
			(円)	(人)	
合唱団・夏期合宿	8.7～10	茨城県立児童センターこどもの城	23,000	職員 3 他スタッフ 20	参加児童　116人
三味線グループ・夏期合宿	8.9～11	川崎市青少年の家	小学生 17,500 中学生 18,000 OB 19,500	講師 1 助手 1 職員 1	
パーカッション・アンサンブル合宿	8.28～29	こどもの城ホテル (音楽スタジオ B)	21,000 (1日のみ参加 8,000	講師 1 助手 2 職員 1	

6) その他

名　　称	期　間	時　間	場　所	要　員	備　　考
			(円)	(人)	
1992年度 児童福祉文化賞表彰式への出演 (合唱団)	5.8	18:15～18:35	朝日生命ホール (新宿区)	職員 3 助手 1	合唱団140人出演
楽英会第1回コンサートへの出演 (合唱団)	7.18	17:00～18:00	府中の森芸術劇場ウイーンホール (府中市)	〃	合唱団80人出演 主催・楽友会音楽教育研究所
第2回バンドディレクタークリニック出演 (ユースバンド)	3.31	14:30～16:30	アラビック・ミュージックセンター (文京区)	講師 1 助手 1 職員 1	ユースバンド受講生9人出演 主催・日本吹奏楽学会

手作り楽器（アフリカン・タムタム）を使って一般来館児のためのロビー活動

ロイヤル・ドラマーズ（アフリカ・ブルンディ共和国）を迎えて楽しいコンサート（音楽ロビー）

個人体験だけでなく，合奏も加えるなどプログラムの充実を図った「新春箏之館」（音楽スタジオ A）

前年に引き続いて，冬休み特別期間には和太鼓の「太鼓道場」（音楽ロビー）

音楽事業部のスタッフによる「ガラクタ楽器コンサート」（わいわいスタジオ・音楽スタジオ B）

南米アンデス地方のフォルクローレのコンサート（わいわいスタジオ・音楽スタジオ B）

(2) 音楽事業部の活動

開館7周年を迎えた本年度の事業は，一般来館児対応（ロビー活動を中心とした）でより充実，発展を見ることができた。講座・クラブに関しては，おおむねこれまでの大枠を継承し，内容の充実を図った。

本年度の事業は次のように大別される。

(a) 一般来館児対応
　①音楽ロビー活動
　②スタジオ・イベント活動
　　（日曜日・祝日）
　③特別期間プログラム
　④全館・他部合同プログラム
(b) メンバー対応事業
　①講座・クラブ活動
　②「こどもの城」外での活動
(c) グループ活動

親子で歌遊び，リズム遊びを楽しむ

一般来館児活動の中心である，ロビー活動については，リトミック的な活動，リズムを中心とした活動，世界の珍しい楽器を紹介しながら小さな演奏を行う活動が，一定の来館層を集めるようになり，週日の日替わりプログラムを求めてやってくる常連が増えてくるのが目につくなど，昨年以上に良い成果が現れたということが言えるだろう。

平日，土曜日の核となるイベントは，新タイトルの企画こそなかったが，幼児から小学生（時には中学生）まで来館する多様な層に，できるだけ対応できるようなプログラムを考え，手遊び，リズム遊びから，合奏・楽器体験と日替わりで曜日の特徴の出た幅広い，充実した活動をみることができた。

日曜日・祝日に行っている「わいわいスタジオ」では，アフリカ，ブラジルを中心とした外国人演奏家たちのコンサートを数回行った。特に11月14日（土）のロビー全体を使った，アフリカ・ブルンディの太鼓の合奏を中心としたコンサートは，本場アフリカの躍動的なリズムを多くの子どもたちに紹介した，今までにない種類の〔こどもの城〕ならではの活動だった。そのほかに，職員を中心とした音楽の楽しさを伝えるトリオ・バンドの「おんがくがスキ！」は，今までのロビー活動の集大成的な内容の好企画であった。

ゴールデン・ウイーク（児童福祉週間）特別期間には，4年ぶりに音楽プロパーの企画に

戻し「音楽の世界旅行」および「音楽広場」を実施した。

講座・クラブ，グループ活動を含め，本年度は大きな変革があったわけではないが，全体的に今までのプログラムの積極的な充実化を目指し，随所にそのよい成果が現れた年であったと言えるだろう。

1）平常期間

音楽ロビーを中心に，音楽スタジオも使い下記のようにプログラムを実施した。

(ア)　いろんな楽器やってみよう（毎日）

各曜日のメイン・プログラム以外の時間帯は「いろんな楽器やってみよう」というタイトルで，カスタネットやシロフォン，ガンザ，タムタム，コンガ，ボンゴ，シンセサイザーなどの自由体験スペースとした。常にステージ上にキーボード担当のスタッフを配し，ロビーにいる子どもたちが一体感を持って遊べるよう，司会しながらその場をコーディネイトした。この形式も3年間実施してきたが，常にこちらから音楽を提供し続けるこの形式が最善なのかどうか，改めて検討する必要がでてきた。特に，平日，子どもの人数が少ない場合など，逆にもっと自由に楽器で遊べる雰囲気にするため，スタッフの演奏しない時間を増やすことも必要であろう。来年度に向けて，より良い一日の流れを作ることが課題となっている。

イベントとイベントの間の時間は「いろいろな楽器」を来館者たちが自らの意思で体験できるように設定してあるが，平日に多く来館する幼児やその母親たちには，あまり期待しにくい。つまり，受け身でかかわることに日常的に慣れているので，母子連れで楽しむという光景を見かけることが少なくない。これについては「大人の啓もう」ということになる。昨年来の「子育て支援」というテーマの中で，来年度もさらに実践の輪を広く深く推し進めていきたい。

土・日曜日・祝日に比較的高学年が来館するが，子どもの期待度と私たちのプログラムが持っている潜在的な許容度とが，現在うまく整合していないのだと実感される。

(イ)　みんなでライブ！（毎週火曜日　14:30～）

季節にちなんだ童謡やアニメ主題歌などをスタッフが演奏し，それに合わせて子どもたちが歌や歌遊び，ダンスなどで参加するプログラム。本年度は親と子が一緒に楽しめるプログラム作りを目指した。

毎回の基本的なプログラム内容としては，①オープニング「ごあいさつ」の歌　②季節にちなんだ歌遊び　③クールダウン「ゆりかごのうた」など　④ダンス（童謡やアニメ主題歌にスタッフが独自の振り付けをしたもの）となっている。②と③の活動においては，親子で手合わせをしたり，だっこしたりとスキン・シップを大切にした遊びを多く取り入れた。また④では，従来は一人で踊る振り付けが中心であっが，本年度は2・3歳児でもリズムにのって楽しく参加できるものにした。

以上のような工夫をした結果，前年度に比べ，周りで座って見ているだけの親が減り，フロアの中での歌遊びやダンスに積極的に参加する母親（ときには父親）が増えた。毎回20～

30組の親子が生き生きと音楽を身体全体で楽しんでいる姿がみられ，その点では，本年度のねらいは達成されたといってよいであろう。今後も，特にダンスにおいて親子が一緒に楽しめるものを追求していきたい。

(ウ) **リズムであそぼう**（毎週火曜日　16:00～）

3～5歳までの子どもとその親を対象としたリズム遊びのプログラムで，本年度から実施した。楽器はキーボードを使い，音楽に合わせて体を動かしたり，音や言葉に対して反応する中で，リズム感を育てていくことがねらいである。

参加者には開始5分前に手作りの名札を配り，名前を呼ばれたら元気よく「はーい！」と返事するところからプログラムが始まる。続いて，リズムに合わせて歩いたり，走ったり，ストップしたり，手をたたいたりといった活動がその日のテーマに沿って展開される。その後一緒に歌を歌ったり，パネル・シアターを見たりする活動に入り，最後に「さようなら」のわらべうたでお別れとなる。

毎回10～15人の子どもたちが参加し，この時間を楽しみにして続けて来る子どもも増えてきた。ただ，本年度は子どものみが参加し，親は見ているというケースが多かったため，来年度は親子でリズム遊びを楽しむという形をより徹底していきたい。

(エ) **水ようコンサート**（毎週水曜日　15:30～）

前年度はトランペット，フルート，アルト・サキソフォンなどの管楽器を中心とした童謡やアニメ主題歌のコンサートが主な内容だったが，本年度は，来館児をプログラムにより積極的に参加をうながすために，参加性の一層強い手遊び，歌遊びを中心に構成し，視覚的にも楽しめるパネル・シアターも，ただ子どもが見るだけの活動ではなく，手拍子や歌などで参加できるようなものとして演出した。全体として，演奏を聴くという受動的なものより，音楽遊びに能動的に参加するという要素の多いプログラムになった。

(オ) **木ようひろば**（毎週木曜日　14:30～）

手遊び，歌遊びにリトミックの要素を取り入れた音楽遊びのプログラム。スタッフの生演奏に合わせて身体を動かすなどの，動きと音楽の結びついた活動を試みると同時に，親と子のスキン・シップも大切にしたプログラムをたてた。

幼児と母親たちが家庭的な温かい雰囲気の中で，楽しく動く，聴くなどの姿が見られ，平日の利用者の要望に合ったものとなっていたようだ。

お正月には和太鼓の「太鼓道場」

(カ) **木ようワンダーランド**（毎週木曜日　16:00～）

前年度の後半から始めたボランティアの手遊び，歌遊びの活動と，音楽スタッフの

「楽器屋さん」を組み合わせたプログラム。

子どもたちはボランティアたちと身体を動かしたり，手遊びをして楽しく遊んだ後，楽器屋さんを訪れ，演奏や楽器の話を興味深そうに聴いていた。ボランティアの熱意と音楽スタッフの専門性とが融合された良いプログラムとなっていくであろう。

(キ)　**楽器であそぼう**（毎週金曜日　15:00～）

女性ボランティアとの共同事業として3年目を迎えたこのプログラムは，着実に発展しつつ安定した活動を続けている。参加する子どもの年齢が年々低下する中，みんなで楽器を合奏して楽しもうというコンセプトは，大変に難しい要素を含んでいるが，女性ボランティアの子ども対応技術と持ち前の明るい積極性で，年間3種（太鼓をたたこう，フライパンで大合奏，サンバで遊ぼう）の合奏を子どもたちに体験させてきた。その積極性は，年度末に行われたサンバ講座の子どもたちの演奏のサポートとして共演したことにも現れている。

(ク)　**ワールドミュージックチャレンジ**（毎週土曜日　13:30～と15:30～）

学校や家庭などではなかなか手にすることができない楽器を紹介，スタッフの演奏を聴き，実際に体験させるプログラム。楽器は箏（日本），二胡（中国），ガムラン（インドネシア），チェンバロなど。

幼児から大人まで間近で見る楽器によく興味を示し，特に体験の場面では自分で鳴らす音にうれしそうに微笑んだり，驚いたり，充実した活動が見られた。生の豊かな楽器の音と手触りを落ち着いた雰囲気の中で体験でき，他の曜日とは一味違った音楽の楽しさを十分に味わってもらうことができ，定着した活動となっている。

(ケ)　**わいわいバンドとあそぼう**（週替わり日曜日　14:30～）

オリジナル曲による歌遊び，手遊びを中心としたプログラム。昨年は子どもたちがいろいろな打楽器で演奏に参加する部分が多かったが，本年度は手や身体を使った遊びを多く取り入れた。毎回メインとなる部分は，季節をテーマとした遊びとし，春は「小さな畑」，夏は「海のおともだち」，秋は「キノコのウタ」などを実施した。プログラムの最後には，親子で遊べる「くっつきぼうず」というオリジナル曲の歌遊びを行い，毎回ラストは親子のコミュニケーションが図れるような構成とした。

(コ)　**みんなで遊ぼう音楽広場**（週替わり日曜日　14:30～）

手遊び，歌遊び，リズム遊びを中心に展開するプログラム。本年度は，担当する職員がそれぞれの個性を生かしたプログラム作りを行い，メインとなる部分が「パネルシアター」であったり，「ダンス」であったりとバラエティーに富んだものとなった。

来年度の課題としては，その場に集まった年齢層や人数を的確に判断して，瞬時にプログラムの内容をリーダーがアレンジできるようになることであろう。

(サ)　**サンバコンサート**（週替わり日曜日　14:30～）

ブラジルの音楽，サンバの生演奏に合わせ，子どもたちがダンスをするプログラム。本年度は前半に子どもたちが打楽器で参加するリズム遊びを新たに加え，次に行う楽器紹介パフォーマンスと，ステップ・リーダーの指導によるダンスで参加するコーナーと合わせて三

部構成となった。このプログラムは音楽ロビーのプログラムの中でも最も長く続けているもので，内容も完成されつつある。

(シ) **いろいろ楽器コンサート**（毎週日曜日　16:30～）

世界各地のいろいろな楽器を演奏し，紹介する鑑賞型のプログラム。本年度はジェンベ（西アフリカ），スチール・ドラム（トリニダード・トバコ），ビリンバウ（ブラジル），アンクルン，グンデルワヤン（インドネシア）等の民族楽器を中心に取り上げた。

(ス) **わいわいスタジオ**（日曜日・祝日　13:30～，15:30～）

例年と同じく，毎週日曜日・祝日にAV事業部と共同で，音楽スタジオBを使って「わいわいスタジオ」を行った。音楽事業部は全23タイトル中14タイトルを担当した。

職員により企画・実施された「えかきうたであそぼう」や外部ゲストのコンサートで世界各地の民族音楽や身近なポピュラー音楽を実施した。その中で，職員とアルバイトの共同で行ったトリオ・バンド「おんがくがスキ！」は好評で，今後さまざまな展開が期待される。「ピアノ絵本箱」「ガラクタ楽器」「中国の楽器たち」等と同様のわいわいスタジオのメイン・プログラムとなった。

また，本年度はアフリカのブルンディ共和国のロイヤル・ドラマーズ，ブラジルからN.サルジェント等の演奏家によるコンサートも新たに試みた。

レギュラー・プログラムを核として，新プログラムを開発という形式は，内容を制作する職員にとっても，来館児・者にとっても良い結果がでているようだ。これに甘んずることなく，来館児・者のニーズにもこたえて，より幅広い音楽を提供していくことを改めて確認したい。

2）特別期間

(ア) 夏休み

1　みんな集まれ！　音楽広場

本年度の「音楽広場」は，歌中心のプログラムであった前年度のものとは，目的・内容とも一新して企画・実施した。プログラムのねらいは「子どもたちだけの架空の広場的空間に入り込んで，スタッフ扮する大道芸人たちとの出会いを通じ，いろいろな国の楽器やパフォーマンスに身近にふれることができるようにする」ことである。さらに，子どもたち自身もパフォーマーとして祭りや遊び等の表現活動に積極的に参加できるような工夫をした。

好評だった「手作り楽器フェスティバル」

イベントとしては“大イベント”と称する

比較的規模の大きいものが１日２回，14時30分からと16時から各30分で実施。それぞれ「音楽広場のカーニバル」「夕焼けコンサート」とタイトルを設定し，平常期間の日曜・祝日プログラムを基に，祭りとしての雰囲気が出るようにアレンジを加えた。

さらに“小イベント”と称する20分弱のミニ・イベントを１日６回設定し，そのうち３回（12時からと13時から，および16時15分から）は，スタッフ扮する大道芸人によるパフォーマンスのコーナーとして力を入れた。今回登場した内容は，人形を使ったダンス・パフォーマンスや打楽器を使ったショー的なもの，アコーディオンやフルートなどによる楽器パフォーマンス，紙芝居やパネルシアターなど多様なものであり，それらを日替わりで実施する中でスタッフ各自の個性が存分に発揮されていた。また，この「大道芸」のコーナーを通して，今までにない一人一人と直接触れ合う形でスタッフが多くの子どもたちとコミュニケーションを図ることができた点，評価することができよう。

これら以外の“小イベント”としては，11時からと14時15分からの２回，子どもを巻き込んで広場をマーチで練り歩く「みんなでマーチ」を行い，13時から30分間，子どもが主役となって歌う「マイクでうたおう」を実施した。

さらに，８月１日～９日には音楽スタジオＡで，新規プログラム「南洋音楽座」を実施。これは，広場に面した一種の見せ物小屋をイメージし，その中でインドネシアのガムランを素材としたプログラムを１日２回，定員制で各30分ずつ行うものである。１回目のプログラムは幼児を対象とし，「インドネシアの祭りの日・宮殿にて」というストーリー展開の中でのムーブメント的遊びを中心とする内容である。２回目のプログラムは「インドネシアの音体験」として，小学生以上の子どもたちがジャワの楽器による合奏にチャレンジするものである。２回とも全日にわたり，ほぼ満員となり，どの子どもも未知の音楽――ガムランを楽しく体験できたようだ。

以上，プログラムの内容についてみてきたが，本年度は，手作りの衣装やレンガ作りの広場としての装飾を施すなど，これまで以上にトータルな演出をし，プログラム全体の雰囲気を高めることができた。そんな中で，スタッフ一人一人が子どもたちの身近で音楽によるコミュニケーションを取ることができ，プログラムのねらいは達成されたといえるだろう。しかし，イベントの内容が多岐にわたったため，実施にやや困難な点があったことは認めざるを得ない。今後は，イベント内容を整理し，時間設定やスタッフの人員配分などについて，より良い形を検討していきたい。

2　手作り楽器フェスティバル

音楽にとって楽器という存在は切っても切れない，とても大切な要素である。職員がその楽器を身の回りの素材で制作し，いろいろな角度から子どもたちがその楽器を体験するプログラム「手作り楽器フェスティバル」を夏休み後半の８月11日から31日まで実施した。楽器という存在を，特別なものではなくもっと身近なレベルに下げ，音楽をより気軽に楽しめるようにしよう，というねらいでこの企画は考えられた。

いろいろな民族音楽，民族楽器からもアイディアを借りて制作した30種にも及ぶ風変わり

で個性的な楽器は，子どもたちにとって今までの固定した音楽・楽器観を柔軟にするきっかけを十分に提供することができたと思われる。来年度は，その第2弾として，より充実した楽器を準備し子どもたちの頭を刺激し続けようと計画している。

(イ) サマーセミナー

本年度は，子ども対象のものは行わず，大学生・一般・小中高教諭を対象とした「大人のためのサマーセミナー」のみを実施した。

シンセサイザー，三味線，和太鼓，箏（各2日間）およびガムラン，リズム・ムービング（各1日間）の6コースを予定・募集したが，申し込みの少ないコースがあり，和太鼓，ガムラン，リズム・ムービングの3コースのみ実施した。なお，リズム・ムービングは希望者が多く，実施日を1日増やし，2クラス行った。

受講者は教諭など指導者が多く，ふだん自分の周りにはない刺激や知識を得たいという積極的な姿勢を持ち，継続的なセミナーの実施を希望するなど，例年どおり意義のある活動となった。アンケートの結果をみると，同時期に邦楽，民族音楽など，〔こどもの城〕の音楽事業部の中心的なジャンルのものを取り上げてほしいという希望が強かった。

夏休みの子どものための活動の繁忙期ということもあり，考慮しなければならない点もあるが，啓もう活動として期待されている事業なので，実施の時期を考え実行することになるであろう。

(ウ) 冬休み

12月23日～27日（24日を除く）は「うたってぽかぽか」を実施した。ここでは，クリスマスや冬にちなんだ歌，わらべうたなどを題材に取り上げ，来館児・者がともに歌ったり身体を動かしたりして音楽を楽しんでもらうことをねらいとしている。子どもたちはスタッフの演奏に合わせて歌や楽器で参加するほか，子どもたちのリクエストにこたえてスタッフが演奏する「リクエスト・コーナー」も随時取り入れた。また，イベントとして1日1回，2時30分から「音楽広場」を実施。23日にはクリスマスの曲を中心としたコンサート，25日～27日はわらべうたや歌遊びを中心にしたプログラムを行った。

1月3日～7日には，音楽ロビーと音楽スタジオAにおいて，お正月にちなんだプログラムを展開した。音楽ロビーでは，前年に引き続き「太鼓道場」を1日2回，13時30分からと15時30分から実施した。さらに14時30分からは，女性スタッフによる和太鼓のデモンストレーション「美女太鼓」を行い，16時30分からは「いろいろ楽器こんさーと　お正月！」を実施した。

これらのイベントを通して，お正月らしい雰囲気の中で日本の伝統的な楽器に親しんでもらうことをねらいとした。なかでも「太鼓道場」は，2歳～小学校6年生までの子どもたちが積極的にチャレンジし，1日120人の子どもたちが大太鼓や締太鼓，うちわ太鼓などによる合奏を楽しんでいた。また「いろいろ楽器こんさーと　お正月！」では，お正月らしいにぎやかな雰囲気の演奏を聴いてもらった。

音楽スタジオAでは，箏体験コーナー「初春箏之館」を実施。これまでも箏体験プログラ

ムは来館児・者に人気があったが，今回初めての試みとして定員制・時間による入れ替え制を取り入れ，個人体験のみならず合奏も加えるなどプログラムの充実を図った。その結果1回15分の活動の中で，かなり落ち着いた楽器体験が可能となり，5歳以上大人までの参加者に満足感を与えることができた。

今後の課題としては，従来の漢数字による譜面だけではなく，幼児向け算用数字の譜面を準備すること，曲の演奏にとどまらずに箏という楽器の音で遊ぶ，より幅広いプログラムを開発していくことがあげられる。

(エ)　春休み

平成4年の春休みには，毎日5つのプログラムを行う「春休み5つのわくわくコンサート」を実施した（平成3年度「事業年報」参照)。

平成5年の春休みは「春は元気に1，2，3！」というタイトルで，3つのプログラムを中心に実施した。そのうち2つは毎週日曜日に実施している「サンバ・コンサート」「いろいろ楽器コンサート」などを日替わりで行い，もう1つは「ジェンベ王国のコンサート」という新しいプログラムを考えて実施した。

「ジェンベ王国のコンサート」は，夏に実施した「南洋音楽座」のストーリー性と「アフリカン・タムタムであそぼう」のリズム遊び，「サンバ・コンサート」のダンスの要素をミックスしたもの。アフリカのある国のお祭りの日という設定で，子どもたちが王様に太鼓を習ったり，宮殿のダンサーに踊りを習うというプログラム。アフリカのジェンベという太鼓が全編にわたって迫力のあるリズムをたたき出した。

サンバよりもシンプルで野性的なジェンベのリズムは本能的に人を踊りに引き込む力があるようにも思われる。2・3歳児にはその音圧が怖いとも感じられるようであったが，小学生以上はストレートにビートを受け止めて楽しんでいる子どもが多かったようで，今後も対象をもう少し絞った形でアレンジしていきたい。

3）講座・クラブ

本年度の講座は10種18コース，クラブは5種6コース，合計24コースであった。

今まで比較的受講者が少なかった邦楽系の三味線，和太鼓が内容・受講者数ともに充実した一年であった。特に，和太鼓は平成2年度，受講者が少なく存続の危機とも言われたが，内容を助六太鼓に変え，時間帯を土曜日に移行してから，が然活気のある活動に変わった。

ガムラン講座は定員を極端に下回り，ガムラン・グループとの半統合的な変則形で実施した。受講者増を図るための対策として，日曜日に一日体験講座を4回ほど実施した。即座に受講者増に結びついたわけではないが，今までにない方法は，今後の講座のあり方を考えるにあたり，たいへん参考になった。

＜合宿＞

講座・クラブの夏期合宿は，夏休み中の一般来館児活動とのバランスを考えると，忙しい時期に講座・クラブなど限定された対象に，特別なエネルギーを投入しなければならないこ

と，場所の選定や日程の調整などさまざまな問題を含んでいるが，本年度は次のとおりの規模で実施した。

合唱講座・合唱団はボランティアやスタッフを含め総勢140人。8月7日から3泊4日の日程で「茨城県児童センター　こどもの城」で実施した。合宿中，同こどもの城でコンサートを開き，磯浜小学校との交流を深めた。

三味線講座は「川崎市青少年の家」で，8月9日から2泊3日の日程で実施した。楽器の運搬を考えると外で合宿をしにくいということから，例年〔こどもの城〕の中で合宿を行っているパーカッション・アンサンブルは，従来どおり8月28日から1泊2日の日程で〔こどもの城〕のホテルに宿泊して実施した。

「茨城県児童センター　こどもの城」でコンサート

4）グループ活動

本年度のグループ活動は，インターナショナル・スクールと養護学校の利用が大半を占めた。ガムランのグループ活動の利用も増え，本年度は小学校高学年のクラスも体験し，好評であった。インドネシアで楽器を制作している様子をビデオで紹介するなど，対象に合わせてプログラム内容をアレンジし，工夫した。

インターナショナル・スクールの3歳児のプログラム実施については課題が残った。言葉がストレートに伝わらないと，プログラムの流れがぎこちなくなってしまう。特に「たたいてみよう日本のたいこ」などは，言葉（日本語）をリズムに置き換えて遊ぶ部分も多いので，その部分をどのように英語に置き換えて遊べるかという点を研究・改善していかなければならない。

5）劇場の催しなど

(ア) ぼくらのサウンド'93

昨年と同様に3月26日から3日間，青山円形劇場で開催した。今回は，各講座・クラブ単独で演奏するという形式を基本とし，1年間の活動の成果を発表した。

春休み特別期間の始まる繁忙期に，3日間連続で幼児から高校生までが参加するほとんど

全部の講座・クラブが出演することについては，講座の単なるおさらい会的な発表の場であるならば，音楽事業部としては「青山円形劇場」という特別な空間を使用して行う必要があるかどうかなど，検討の余地がある。来年度はより良い実施方法を確立したいと考えている。

(イ)　賛助出演

1　合唱

「1992年児童福祉文化賞表彰式」参加

朝日生命厚生事業団主催の1992年児童福祉文化賞表彰式に，こどもの城児童合唱団がゲストとして出演。5月8日，朝日生命ホールで約20分のコンサートを実施。本年度はメンバーの中から出演希望者を募り，新たにバックバンドを編成して演奏した。

2　三味線・和太鼓

三味線・和太鼓の講座生が出演した〔こどもの城〕主催の催しは以下のとおり。

①8月25・26日　おまつり劇場（劇場事業部主催）

②11月28日　第5回田島佳子「三味線のつどい」（佳の会＋こどもの城主催）

6）その他

(ア)　母と子のリトミック（ダウン症クラス）

ダウン症児とその親とを対象とした小児保健部との共同プログラム。開講して今年で5年目に当たるが，音楽事業部からは3人のスタッフがプログラム実践にかかわった。毎回のプログラムの基本的な内容は，これまでどおり，カスタネットを使ったリズム遊びやリトミック活動，造形活動，リラックス，歌遊び，仕上げのリトミック体操などである。

これらの諸活動に加えて本年度は，小さなお山（スタッフの背中）によじ登ってジャンプするといった運動機能を高める遊びや，封筒に絵を描いて作った指人形での劇遊び「いぬのおまわりさん」なども取り入れた。

どの活動においても親子のスキンシップを十分に図ること，そしてそれらを通して参加している親子の気持ちが開放される場であることを目指している。参加している親子は毎回生き生きとプログラムに取り組んでおり，この講座の目的は達成されているといえるだろう。また，前年度に引き続き行っている，子どもたちの歌遊びのレパートリーも増えた。なかでも「父さんと父さんのダンス」の歌では，指名された子ども同士が手をつなぎ，みんなの見ている輪の中で踊ることができるようになるなど，子ども同士のコミュニケーションも図れるようになった点，目ざましい進歩がみられた。

今後もこのような活動を通し，子ども一人一人の個性と能力を高めていけるようなプログラム開発を行いたいと考えている。

(1) 4年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日	火			水			木			金			土			日		
区分 / 時間	マスター	AVライブラリー	映像調整室	マスター	AVライブラリー	映像調整室	マスター	AVライブラリー	映像調整室	マスター	AVライブラリー	映像調整室	マスター	AVライブラリー	映像調整室	マスター	AVライブラリー	映像調整室
10：00	AVライブラリー各種特集企画の制作収録・編集作業等	グループ活動	グループ活動	AVライブラリー各種特集企画の制作収録・編集作業等	グループ活動	グループ活動	AVライブラリー各種特集企画の制作収録・編集作業等	グループ活動	機器貸与	AVライブラリー各種特集企画の制作収録・編集作業等	グループ活動	機器貸与	AVライブラリー各種特集企画の制作収録・編集作業等	自由利用	プログラム活動の企画・準備	AVライブラリー各種特集企画の制作収録・編集作業等	自由利用	
11：00		自由利用	ビデオ等の企画・制作		自由利用	ビデオ等の企画・制作		自由利用	ビデオ等の企画・制作		自由利用	プログラム活動の企画・準備			＊2			映画劇場・ビデオ館 AV実験室 わいわいスタジオ
12：00									ビデオ玉手箱			＊1			＊3			
13：00																		
14：00																		
15：00																		
16：00																		
17：00																		
18：00																		

備考　ＡＶ資料室：ＡＶライブラリーの支援作業（試視聴，データベース構築，案内用ＣＧ作成，カタログ・ポスター制作　etc.）
＊1　おもしろビデオ館
＊2　造形こどもクリエイティブクラブ　アニメ体験
＊3　ぱたぱたアニメをつくろう

2)　平常期間プログラム

名　　称	期　　間	時　　間	場　所	要　員	備　　考
AV ライブラリー自由利用	開館日	平日12:30～17:30 土・日曜・祝日 10:00～17:30	AV ライブラリー	(人) 職員　1 アルバイト　2～5	アルバイト 平日2人，土曜日3人 日曜日・祝日5人
鳥特集	5.10～23	〃	〃	〃	〃
スペイン特集	7.11～24	〃	〃	〃	〃
地球特集	10.1～31	〃	〃	〃	〃
環境特集（総括編）	2.11～21	〃	〃	〃	〃 フリーホールでも映像を駆使して環境の重要性を PR
ビデオ玉手箱	毎週木曜日	15:30～17:30	音楽スタジオ B	職員　2 アルバイト　1	MSX パソコンを使った人間ぱたぱたアニメ
おもしろビデオ館	毎週金曜日	15:30～16:00	〃	〃	
ぱたぱたアニメをつくろう	毎週土曜日	16:00～17:30	音楽ロビー	職員　2 アルバイト　2	
バンダイビデオ試写会	日曜日・祝日（46日間）	12:45～17:15	フリーホール又は研修室	職員　1 アルバイト　2	
こどもの城映画劇場（おもしろビデオ館）	日曜日・祝日（隔週）	①13:30～14:00 ②14:30～15:00 ③15:30～16:00	音楽スタジオ B	職員　2 アルバイト　2	映画を上映する時は「映画劇場」，ビデオを上映する時は「おもしろビデオ館」の名称を使用
AV 実験室	日曜日・祝日（隔週）	①13:30～14:30 ②15:30～16:30	〃	職員　2 アルバイト　2	実施プログラムの内容により時間は異なる。「ビデオであそぼう」「おはなしぱたぱたアニメ」「アニメおもちゃであそぼう」等々を実施
ビデオ活動機関紙「マック TV プレス」の発行	毎月1回 15日の発行			職員　2	ビデオ活動を理解してもらうために来館児・者に配布。簡易印刷 B4版，500部
こどもの城の活動記録の制作・制作協力				職員　2	「ジュニアアウトドアスクール」などのビデオ記録作りの指導・協力を行うほかに，造形事業部，保育研究開発部等他事業部に協力

3)　特別期間プログラム

名　　称	期　　間	時　　間	場　所	要　員	備　　考
＜春休み＞ AV 実験室 アニメおもちゃであそぼう	4.1～5	開館時間中	音楽スタジオ B	(人) 職員　2 アルバイト　3	動く映像を作るプログラム

名　　称	期　　間	時　　間	場　所	要　員	備　　考
<　〃　> AV ライブラリー オリジナルソフト特集	4.1～5	開館時間	AV ライブラリー	(人) 職員 1 アルバイト 5	
<児童福祉週間> のりもの大百科特集	4.29～5.5	〃	〃	職員 1 アルバイト 5	
<　〃　> AV 実験室 ぱたぱたアニメをつくろう	〃	〃	8 階研修室	職員 2 アルバイト 3	
<夏休み> オリンピック・ソフト特集	7.21～8.9	〃	AV ライブラリー	職員 1 アルバイト 5	
<　〃　> こどもの城映画劇場 高橋克雄メルヘン人形アニメの世界	7.21～26	①11:00②13:30 ③14:30④15:30 ⑤16:30	音楽スタジオ B	職員 2 アルバイト 2	16ミリ映画の上映会。会場に撮影に使った人形・背景などを展示
<　〃　> おもしろビデオ館 世界絵本箱	8.1～9	①11:00②12:00 ③13:00④14:00 ⑤15:00⑥16:00	〃	職員 2 アルバイト 2	
<　〃　> AV フェスティバル'92	8.11～23	開館時間中	〃	職員 2 アルバイト 3	アニメーションの楽しさをワークショップなどをとおして伝える。
<　〃　> 自由研究に役立つかな	8.11～31	〃	AV ライブラリー	職員 1 アルバイト 5	立体眼鏡制作コーナーをAV ライブラリー内に設置
<　〃　> こどもの城映画劇場 カナダのアニメーション	8.25～31	①11:00②12:00 ③13:00④14:00 ⑤15:00⑥16:00	音楽スタジオ B	職員 2 アルバイト 2	「武藤行雄記念文庫」のカナダのアニメーションを上映
<開館記念> 青山劇場・青山円形劇場公演ダイジェスト90－91	11.1・3	開館時間中	AV ライブラリー	職員 1 アルバイト 5	
<冬休み> 昔のヒーロー特集	12.25～1.7	〃	〃	〃	
<　〃　> AV 実験室 ぱたぱたアニメ＋おはなし ぱたぱたアニメ	12.25～27	〃	音楽スタジオ B	職員 2 アルバイト 3	
<　〃　> こどもの城映画劇場 グランパ～すてきなおじいちゃん	1.3～7	①11:00②12:00 ③13:00④14:00 ⑤15:00⑥16:00	〃	職員 2 アルバイト 2	
<春休み> AV ライブラリー オリジナルソフト特集	3.25～31	開館時間中	AV ライブラリー	職員 1 アルバイト 5	
<　〃　> AV 実験室 ぱたぱたアニメをつくろう	3.25～28	〃	音楽ロビー	職員 2 アルバイト 2	

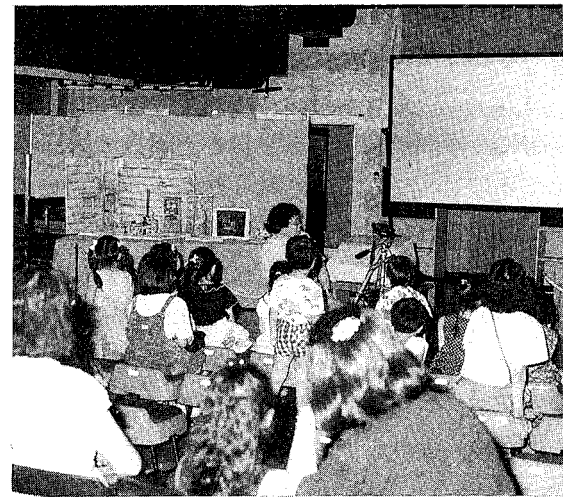
名　　称	期　　間	時　　間	場　所	要　員	備　　考
バンダイビデオ試写会	特別期間 (58日間)	12:45～17:15	フリーホール 又は研修室	(人) 職員　1 アルバイト　2	

4) 講座・クラブ

名　　称	対象	定員	受講数	曜　日 時　間	場　所	期　間	料金	講師等	備　考
ファミリー・ビデオ・クラブ	親子 (幼児)	(組) 12	(組) 5	木曜日10:30～12:30 13:30～15:30	映像調整室ほか	(回) 4.16～ 7.9	(円) 16,000	職員　2 アルバイト 1	2期以降は休止

(2) AV 事業部の活動

AV 事業部の活動には直接利用者に接する部分と間接的に利用者にかかわる部分がある。前者の中には一般利用者対象の<見せる（みる）活動><参加させる（つくる）活動>と，より深く映像にかかわりたいと願う利用者を対象とした<講座・クラブ活動>がある。これらは従来の基本スタイルを維持しつつもプログラムの一部改良や，幾つかの新たな試みを行った。



撮影に使った人形も展示するなど上映方法を工夫

また後者としては部内の対利用者活動を後方より支援する活動，プログラムを PR する機関紙の発行，各種の映像記録活動，他部が映像機器を活用する際の支援活動等がある。このような活動は地道で表面に出にくい部分だが，直接利用者に接する活動と並び AV 事業部の一翼を担った。

1）見せる（みる）活動

見せる活動を大別すると，利用者自身が目的意識を持ち自分で見たいものを選択する場合と，映像を提供する側がなんらかの意図を持ち特定のフィルム・ビデオソフトを提供する場合とに分けることができる。前者のスタイルで運営を行っているのが AV ライブラリーであり，後者のスタイルで運営を行っているのが「おもしろビデオ館」「こどもの城映画劇場」「ビデオ試写会」などである。このような活動１つ１つが柱となり AV 事業部での見せる活動を支えているといえる。

(ア) AV ライブラリー

本年度は初の試みとして「自然・環境問題」にターゲットを当てた特集を１年間行った。近年急速に問題となりつつある環境悪化の実態や自然の重要性を子どもたちに知ってもらいたいという趣旨のもとに行ったものである。

年間を通しての視聴促進活動のほか，特に強調期間を設け，５月にはバードウイークにちなんだ『鳥特集』を実施したほか，10月には動物全般を取り上げた『地球特集』を行った。さらに２月には，この特集の締めくくりという意味から地下１階フリーホールを利用した『環境特集総括編』を行った。ここでは映像に職員の話を交え，生態系の重要性等につき理解が得られるような工夫をした。

これら以外にも例年行われている単発の各種特集企画に加え，バルセロナオリンピックの

開催に関連付けた「オリンピックソフト特集」「スペイン特集」などを実施した。

特集期間中には，さまざまな工夫を凝らし，ある一定ジャンルのビデオソフトの視聴促進を行うわけであるが，なかなか実際の視聴に結び付かないというのが現状である。AV ライブラリーを利用する年齢層（幼児・小学生中心）等を考えれば今回のような「自然・環境問題」のような特集がなじみづらいこともあるが，新たな年齢層の利用を開拓するという意味からも，このような地道な活動を今後も引き続き行っていきたいと考える。

次に，年間の利用者を平日と土曜日・休日に分けて見た場合，まず土曜日・休日の利用者は前年度に849人／日であったが本年度には828人／日で対前年比は2.5%減とまずまずであった。これに対し平日の利用者は前年度の312人／日に対し本年度は226人／日と低下が著しく対前年比で見た場合には27.6%減となった。

AV ライブラリーでは本年度から未就学児のみでの利用が安全管理面から好ましいものでないと考え，可能な限り保護者同伴で利用するようにという呼びかけを行っている。その結果として，未就学児の利用が大幅に減少したことが最大の要因になっているものと思われる。今後，未就学児のみでの利用者にどのように対応するのか早急に検討していかねばならないだろう。

最後に年間を通じ利用されたビデオソフトの種類を見てみると「インフォビジョン」「あそびとおもちゃ」「陸の乗り物」「童謡」「アニメ」「特撮」などの人気が高く，このことから相変わらず小学生から幼児にかけての低年齢の利用が圧倒的に多いことが分かる。実際には，これら低年齢層のみならず幅広い年齢が楽しめるようなビデオソフトも数多く収蔵されているため，今後はいかにして利用年齢層の幅を拡大するかが大きな課題といえる。

A
V

(イ)　おもしろビデオ館

平常期間の毎週金曜日に行っている，ふだんは目に触れることが少ない優れた映像作品の紹介が目的のプログラム。本年度は――４月～11月＝「世界絵本箱」シリーズ（ヤマハ）。11月～12月＝テレビで人気の子ども番組「ひらけ！ポンキッキ」のキャラクターが動物や昆虫，魚など生物の生態を分かりやすく紹介する「ポンキッキのいきもの探検隊」（アスク講談社）。１月～３月＝「親子で楽しむ人形アニメ　世界のおはなし」と題して学研の人形アニメーション――を上映した。

平日の利用者層は，幼児とお母さんが多い。そのため，上映時間を約20分間～30分間にして，最初に簡単な作品紹介をしてから上映するというスタイルをとっている。この３つのプログラムの作品は，どれも作りが丁寧で，幼児が無理なく楽しめる作品。来場者にはおおむね好評であった。毎週楽しみに来館しているという声もあり，今後も継続して実施していきたいプログラムである。ただし，現状では使用できる映像ソフトが限られてしまっており，毎年同じ作品では新鮮味が薄れてしまうのが問題になるだろう。この点を解決するのが今後の課題である。

夏休み特別期間には，８月１日～９日に「世界絵本箱」シリーズの新作「みんわのくに」と「どうぶつパレード」を中心に，その他の作品を組み合わせて上映した。ヤマハから¾イ

ンチテープ(コピーサブマスター)を借用し,100インチのビデオプロジェクターで上映した。

(ウ) こどもの城映画劇場

優れた映画を選択して上映し，映像表現の幅広さや映像が持つ力強さ，おもしろさを紹介していきたいというねらいで実施している。ここで用いているのは16ミリフィルム。ビデオに比較して上映時の画面が鮮明で，35ミリ映画作品そのものの味わいを保っている点は他の媒体では得られない特徴である。

上映に際しては，作品のバックグラウンドや作者のプロフィールなどを詳細に調べ，ちらしやポスターを作成している。

本年度の通常期間中はほぼ毎月1回のペースで，日曜日にカナダのアニメーション作品を上映した。カナダ国立映画制作庁（NFBC）で制作されているカナダの作品は，造形感覚に優れ，表現方法が豊かなアニメーションがたくさんあり世界的に評価が高い。また子どもたちを対象にして研究され，制作された作品も多い。〔こどもの城〕では昭和63年度からカナダ大使館から借用して上映し，その後平成2年度，3年度で計13作品を購入，折りにふれて上映を続けていた。

＜「武藤行雄記念文庫」の開設＞

本年度〔こどもの城〕に「武藤行雄記念文庫」が開設された。この文庫は平成4年3月に亡くなられた故武藤行雄さんの遺族の方から寄付された浄財を基にして開設したフィルム・ライブラリー。子ども向けに作られ，言葉が無い作品（字幕スーパーや吹き替え等，日本語版制作を必要としないもの）を中心にカナダ作品50本が収蔵されている。

夏休み特別期間には，この文庫開設を記念して，カナダのアニメーションを7プログラム，計21作品上映した。

＜その他，特別期間に上映した特集プログラム＞

夏休み特別期間には，人形アニメーション作家の高橋克雄さんが制作した作品の上映会「高橋克雄のメルヘン人形アニメの世界」を開催した。高橋さんは，陶器質の人形（セラミック・ドール）を使い，童話に題材を求めた作品を数多く制作している。ビデオ機器でのアニメーション制作の先駆者でもある。今回は，高橋さんの協力を得て，初期の作品からNHKテレビの「番組のお知らせ」用の作品，外務省の企画で制作された海外向けの『かぐや姫』等，8プログラム，18作品を上映した。また，会場には展示スペースを設け，作品で使用された人形の展示を行った。

冬休み特別期間には,『グランパ～すてきなおじいちゃん』を上映した。これはイギリスで制作されたミュージカルアニメーションで，淡い色調と柔らかい線のち密な画面に豊かな音楽がマッチし，孫とおじいちゃんの心の交流を描いた心温まるストーリーの作品。ビデオ発売元のアスク講談社の協力を得て，16ミリ版を借用して上映した。

「こどもの城映画劇場」では，商業映画館やテレビ放送では見ることができない映画の中から上映作品を選択している。商業ベースではめったに上映されることがない作品の中にも優

秀な作品が数多く存在する。それらを地道に上映していこうと考えている。ただし，作品の選択において，上映する側（我々の側）に明確な選択基準が必要だ。

映画作品として優れているかどうかの判断は，取り上げている内容（テーマ）やストーリーだけではない。だから映画を選択する場合，原作の知名度やあら筋では良し悪しが判断できないのだ。メーカー発行のカタログ解説文は選択の頼りにはならず，やはり実際に映画そのものを見て判断するしかない。例えばカタログ上では堅苦しい科学映画に見えても，実際の作品は構成や映像技術が優れ，子どもたちにとても分かりやすい映画ということもあるからだ。できるだけ多くの作品を見て選択するしかなく，各地で開催されている上映会や試写会に足を運んだり，メーカーへ問い合わせて作品を借用する等の努力がますます必要になるだろう。

選択する映画のジャンルも現在の状態では偏り過ぎている。劇映画をはじめ，記録映画，紀行映画，科学映画，PR 映画，アニメーションなど，映画は一般的にジャンル分けされて存在している。ところが，いままで「こどもの城映画劇場」で上映した作品はほとんどがアニメーション。子ども向けイコールアニメーションという図式を崩していかねばならないのに，我々の勉強不足で実写作品が選択できないのが要因として大きい。より実写作品の上映を進めるべく調査や試写を行い，実写作品を多く上映していきたいと考えている。

(エ)　ビデオ試写会

日曜日・祭日および特別期間には AV ライブラリーの利用者が，ほぼ飽和状態となり，視聴するまでの間に多くの待ち時間が発生する。よって，これらの待ち利用者に対するサービス活動として地下１階フリーホールまたは８階研修室を用いたバンダイビデオ試写会を実施した。午後の時間帯を使い A・B 両プログラムを交互に（合計７回）見せるものであり，本年度は合計106日間，延べ回数にして741回の試写を行った。

本来の目的が待ち利用者に対するサービスにあるため，平成３年度までは A・B 両プログラムともに人気作品を選んでの試写会となったが，今年はビデオソフトの提供元であるバンダイとの協議により，A プログラムは従来どおり「ウルトラビックファイト」シリーズ（人気作品）に，一方 B プログラムは「リトルツインズ」（ファンタジックな内容の作品，知名度は低い）へと方向修正しての実施であった。

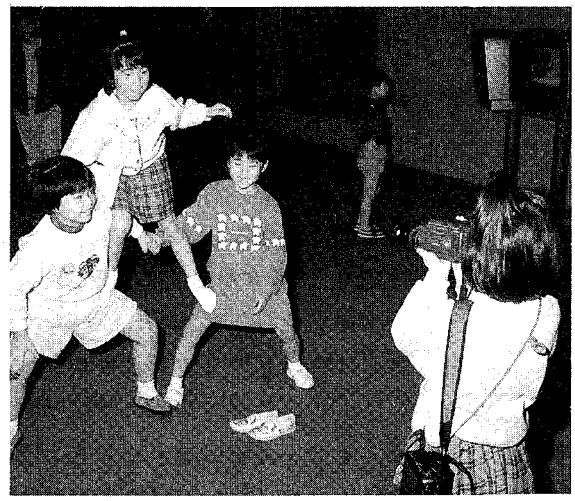
このため A プログラムの利用者は多いが B プログラムについては極端に少ないという結果となり，１日当たりの平均利用者を見た場合，前年度の437人から228人へと半減してしまった。

AV ライブラリー内に滞留してしまう利用者をいかにさばいていくかという課題を担って開始されたプログラムであるだけに，今後は試写会形式のものにとらわれることなく，別の可能性も含め，新たな待ち利用者対策を検討していく必要があるだろう。

２）参加させる（つくる）活動

子どもたちが AV（オーディオ・ビジュアル）に接する機会は多々あるが，映像を見ると

いう形での接し方がほとんどである。もちろん，見るという体験も子どもたちにとっては重要なものであるがここでは日常的に接することが少ないと思われるようなAV体験を提供したいと考え，さまざまな工夫を凝らしたオリジナルプログラム実施した。



ビデオカメラを自分で使って撮影してみる

(ア) AV実験室

AV実験室は，平常期間の日曜日に月1回のペースで実施している「ビデオであそぼう」と不定期に実施している「ぱたぱたアニメをつくろう」がある。後者は高学年向きの「ぱたぱたおはなしアニメをつくろう」「ぱらぱらまんがをつくろう」のいずれかと組み合わせて実施している。また「ぱたぱたアニメをつくろう」の代わりに幼児からを対象として「くるくるアニメをつくろう」を高学年向きの「ぱらぱらまんがをつくろう」と併せて実施する場合もある。特別期間にもAV実験室は同様の組み合わせで実施している。

1 ビデオであそぼう

「ビデオであそぼう」は，ビデオカメラを自分で使って撮影をしてみる，小学1年生以上を対象としたプログラム。ビデオカメラは家庭にある程度普及したが，まだ家庭の備品の中では高価なものに属するので，子どもたちが自由に触れるほどにはなっていないのが現状だ。子ども用といった簡略化されたものも製品としては存在しない。だが，子どもが使用できないものではない。むしろ子どもたちのほうが自由に使える機器なのではないだろうか…。

〔こどもの城〕では，開館時から子どもを対象にビデオ機器を使用し，実際に撮影を楽しめる体験プログラムを行ってきた。当初小学3年生以上だったこのプログラムも〈ビデオウォークマン〉（商品名）という小型軽量のセパレートタイプ・8ミリビデオを導入してから，失敗も少なくなったので，対象年齢を小学1年生以上に下げた。実際にこの年齢の子どもたちでもりっぱに撮影ができる（もちろん幾つかの機能を省略し，撮影スイッチを押せば録画可能のオート状態で使用させる)。ここでは，ビデオの機械はブラックボックスとして扱い，その機械の使い方を習うのではなく，それを使って撮影するという行為そのものを楽しみ，映像をつくるということを体験するというのが目的であるので，少々画面がグラグラしていたり，ブレていても気にしない。子どもたちが写したいと思った被写体が撮影されていれば良しとしている。

その目的に沿った内容としてずっと行っているのが「しりとりビデオ」を作るプログラムだ。これは映像でしりとりをしていくもので，例えば〈時計〉を撮ったら次は〈い〉から始まる物を探して〈椅子（いす)〉を撮影するというふうにつなげていく。物を探すことで撮影

する対象がしっかりと定まるし，これを見せたいんだという子どもたちの意思が画面をより良く撮ろうという行動につながるので，たいてい出来上がった画面は十分に何が写っているかが分かるように撮影されている。1回の実施時間が約1時間で多人数をさばけるプログラムではないが（1回20人），平常期間の日曜日にはちょうど手ごろな人数であり，今後も継続していきたいプログラムである。

2　ぱたぱたおはなしアニメをつくろう

「ぱたぱたおはなしアニメをつくろう」は「ぱたぱたアニメをつくろう」と並行して実施する高学年向きのプログラム。4つの場面を考えて短いストーリー作品を作る。絵コンテ作り，作画，撮影，さらに音声も自分で考えて吹き込み完成させる。それに費やす時間は平均して2時間ぐらいかかっているが，時間に余裕があり，じっくりと制作に取り組むことができる子どもたちにとっては，大変に満足できるようだ。

出来上がった作品はコピーして持ち帰ることができるようにしている（テープ代は有料）。参加したほとんどの子どもがコピーし，家で家族に見せるのだとニコニコして帰宅する。彼らのプログラムに取り組む様子をみていると高学年がじっくりと楽しめるプログラムがもっと必要になるのではないかと思う。

3　ぱらぱらまんがをつくろう

「ぱらぱらまんがをつくろう」は前年度から実施した高学年対応の新しいプログラム。「ぱらぱらまんが」は「フリップブック」とも言い，ページをぱらぱらめくるとアニメのように絵が動いて見えるという視覚玩具（がんぐ）の一種。このプログラムでは24枚の動画を描き，表紙を付けて束ねて完成させる。現在は，用紙のサイズや紙の材質といった材料の吟味，導入や24枚の絵を完成させるためのサポートなどの指導方法を試行錯誤して実施しているといったところで，今後一層の改良が望まれるプログラムである。24枚の動画を描くのは容易な作業ではない。途中で息切れがして手を抜いてしまったりすると完成したものは満足に動かずに終わってしまう。絵が動くのを体験するのが目的なのだから，絵を描かない別の方法も考えられるかもしれない。今後の検討課題である。

(イ)　ビデオ玉手箱

本年度から新たに実施した木曜日のプログラムは「ビデオ玉手箱」。これは，平常期間のスタジオ・スペースの有効活用の一環として本年度から実験的にスタートした。現在実施している内容は「人間ぱたぱたアニメ」。「ぱたぱたアニメ」が描いた絵を動かすのに対して，「人間ぱたぱたアニメ」は自分自身の姿が「ぱたぱたアニメ」のようになってモニターテレビに映し出されるというもの。以前の夏休み特別期間に特別プログラムの1つとして行った経験があり，幼児でも楽しめるAVプログラムであること，絵を描いたり工作をしなくても参加できること等を考え，実施可能と判断した。

この「人間ぱたぱたアニメ」はホビー用コンピュータ〈MSX〉を使い，2画面をデジタル化してコンピュータに取り込み，それを交互に表示するというプログラム・ソフトで動く。このソフトは映像作家の岩井俊雄さんのオリジナルソフトで，以前にご協力いただいた時に

借用し，そのまま使わせてもらっている。このコンピュータにビデオカメラ，デッキ，モニター，ビデオプリンタを組み合わせ1つのカートにまとめたセットを作って実施。画面はビデオプリンタで出力し，参加した子どもたちへおみやげとして提供している。

(ウ) ぱたぱたアニメをつくろう

平常期間には，毎週土曜日に「ぱたぱたアニメをつくろう」の催しを行っている。2枚の絵を描き，それを交互にビデオに収録して再生すると描いた絵が動いて見える。映像が動く原理を子ども自身が描いた絵で体験できることがねらい。このプログラムは開館以来ずっと継続して続けている。

映像が動く原理を体験する「ぱたぱたアニメ」

前にも述べたが平常期間は，幼児とその親の組み合わせが圧倒的に多い。土曜日も同じような層が来館する。参加者はこのほかに講座やクラブに来ている低学年の小学生が多い。来館児の年齢層の低下は顕著である。幼児の場合，そのほとんどの絵が形にならない。ぐちゃぐちゃの絵に親が描き足して提出してくるのがほとんどである。本年度は特にその傾向が強く，実施に携わるスタッフからは年齢層の低下でプログラム本来の意味が伝わっていないという意見も出された。だから本来の“映像が動く原理を子ども自身が描いた絵で体験できる”などとはお世辞にも言えないのが現状だ。

しかし，本年度から学校が休みになった第2土曜日には，小学生の参加も増加している。やはり，自分でこのプログラムを納得して楽しめるのは小学生以上の子どもたちであるようだが，かと言って小学生以上の制限を設けたら，普段の日は参加者はほとんどいなくなってしまうのが現状である。幅広い年齢層を相手にしなければならない施設として今後の検討が必要だと痛感した。

(エ) AVフェスティバル

平常期間に実施している「AV実験室」のワークショップを軸にして，夏休み特別期間に実施した特別ワークショップ。「ぱたぱたアニメ」「ぱたぱたおはなしアニメ」「ぱらぱらまんが」に加えて，「ぱたぱた変身写真」と「ドミメーション」を実施した。

「ぱたぱた変身写真」は「人間ぱたぱたアニメ」の画面を出力した写真に絵を描き加えてぱたぱたアニメを完成させるもの。「ドミメーション」は映像作家の加藤到さんが考案した，動画をドミノ倒しのように倒していくと絵が動いて見えるというもの。最新型ビデオカメラのオートフォーカス機構を利用して奥に順番に倒れていく動画を撮影し再生。ノイズレス・サーチが可能なデッキを使用し，早送りにしたり逆転にしたりしてスピードを変化させて楽しむことができる。このプログラムは今後，平常期間に実施可能なように細部の改良や進行

方法を検討中である。

(オ)　立体メガネ制作コーナー

本年度はAVライブラリーのスペースの一部を使って「立体メガネ制作コーナー」という企画を8月11日から31日の日程で実施した。このようにAVライブラリーの一部をビデオ視聴以外の目的で使用することは初の試みであるが，例年この時期に実施している特集「自由研究に役立つかな」の発展型として位置づけた。また，平成3年までは単に自由課題のヒントとなりそうな作品を紹介するのみであったが，今回は一歩踏み込んで「ビデオの内容を子どもたちに具現化させる」ということにねらいを置いた。

立体メガネを制作するための材料である台紙やレンズを用意し，子どもたち自身が立体映像撮影から立体メガネの制作までを一貫して行うというものであり，最後には自分自身が写っている写真を装てんし，立体映像ならではの迫力を味わうという内容であった。

対象としては小学校4年生以上の子ども200人程度を見込んでいたが，実際には幼稚園から一般までと非常に幅広い年齢層の参加があり，開催期間である20日間の総利用者数はほぼ満杯の205人となった。今回のプログラムは単に立体メガネを制作するにとどまらず，制作を通じ物が立体に見える原理を理解できるような構成にしたため，利用者の反応も好評であったが，年間を通じ最も混雑する時期に，貴重なスペースの一部を割きプログラムを行うということについて部内にも賛否両論あるため，今後の検討課題としていきたい。

3）映像記録活動

ビデオ記録の対象としては「各部の館内活動」「各部の館外活動」「青山劇場・青山円形劇場の公演」等がある。これらすべての映像記録をAV事業部の日常活動の中でこなしていくことは現在の職員体制では不可能である。このため劇場の自主公演・収録依頼のあった外部公演（有料対応），一部館内・館外活動（有料でビデオを販売できるもの）に絞っての映像記録活動となった。

(ア)　青山劇場・青山円形劇場の公演記録活動

本年度の劇場公演の記録ビデオ収録回数は計35回であったが，これを公演形態別，劇場別に見てみると青山劇場の自主公演収録回数は2回，外部公演収録回数（有料対応）は2回，また青山円形劇場の自主公演収録回数は26回，外部公演収録回数（有料対応）は5回であった。前年度の収録回数と比較してみた場合，自主公演の収録回数が45回から28回に減少し，また外部公演の収録回数も21回から7回に減少した。

『トンガリぼうしの魔法つかい』の公演を収録

自主公演の収録回数減少については，前年度まで1公演当たりの収録回数を制限はしていなかった（回数，日程をそのつど劇場運営部と協議の上決定。同一公演を複数回収録することも

あった）のに対し本年度からは１公演につき原則として１回のみの収録とし活動のスリム化を図ったことが要因として考えられる。外部公演の収録回数減少については，定かではないが現場の感触としては前年と同等の料金問い合わせがありながら収録作業依頼に結び付かないなどから判断し，景気低迷等の要因も大きく影響しているのではないかと思われる。

なお，収録されたものの中から内容的に子どもたちが楽しめそうなものを選び，編集処理を施した後にAVライブラリーに登録（『第７回青山バレエ・フェスティバル』『トンガリぼうしの魔法使い』など14タイトル）したり，関係者へビデオテープ販売を行う等の活動も例年同様行った。

(イ) 館外プログラムおよび講座の記録活動

体育事業部で行われている一部講座や，館外活動であるキャンプの記録ビデオを撮影・編集し，子どもたちに配布（有料対応）した。活動の記録を小冊子等で配布する代わりにビデオテープで渡してみてはどうかという体育・AV両事業部の意向に基づき実施したものであり，本年度は赤ちゃんとその母親を対象とする「母と子のすくすくランド」の参加者約45組（各学期15組程度）と夏期に行われた「スポーツキャンプⅠ，Ⅱ」および冬季の「スキースクールⅠ，Ⅱ」の参加者約260人を対象とした。

限られた職員数での対応となるため，おのずと対象となるプログラムは制限されるが今後も業務の合理化を図りつつビデオによる記録活動を実施していきたい。

4）講座・クラブ

対一般来館者活動と対称をなし，継続的にAV体験をさせることによって，より深く映像にかかわってもらいたいという趣旨のもとに「ファミリー・ビデオ・クラブ」や「造形クリエイティブクラブ・アニメ体験」を実施した。

両プログラムともなかなか希望者が集まらないという状況であり，「ファミリー・ビデオ・クラブ」にあっては１学期をもって中止するという結果になってしまった。講座・クラブ形式のプログラムはAV事業部の活動の中でも重要な要素となるものなので，今後なんらかの対応策を講じ活性化を図っていきたい。

(ア) ファミリー・ビデオ・クラブ

子どもを持つお母さんを対象にして，ビデオの撮影や編集方法を指導する講座形式のクラブとして続けてきたこのクラブも１学期をもって終了した。このクラブでは，初級コースをマスターすれば，編集システムを使用した作品制作ができる上級コースも用意し，ずっと継続して参加していたメンバーも少数ながら存在していた。

２学期以降続行の検討もしたが，応募者数の減少で継続の見込みが立たず中止となった。以後，編集システムを使用したい方へは，貸与という形で継続して作品制作が可能な措置をとった。この措置でのトラブルは現在のところ発生していない。ところが，少数ではあるが受講希望者からの問い合わせがあり，ビデオの講座については，今後なんらかの形で検討せねばならない状況にあるようだ。

(イ)　造形クリエイティブクラブ「アニメ体験」

造形事業部と協力して実施してきたこのクラブは，アニメづくりを通して映像が動く仕組みを理解し，映像の楽しさを見いだすこと，そして，子どもたち自身が映像で表現する思考や自発的な工夫をして作品製作をする力を付けるのが目的。文章で表現することや絵を描いて表現すること，音楽で表現することは学校の授業で行われているが，映像で表現することはほとんど行われていない。

アニメづくりを通して映像の楽しさを見いだす

映像と一口に言ってもいろいろある。その中でアニメに着目したのは，その制作行程においてさまざまな表現活動の要素――ストーリーを考えること，絵を描いたり，人形を作ったりすること，それを撮影すること，音楽や音響を録音すること等々――を採り入れることができるからだ。このクラブは〔こどもの城〕の造形活動とAV活動の得意分野をマッチさせると実施が可能なのではないかと昭和62年度から本格的にスタートした。ところが62年度や63年度の一時期，多くの受講者でにぎわったこのクラブも本年度は4人と少なく，さらに終了時まで残ったのは2人で，リタイアしたメンバーがいたのは残念だった。

少人数では，欠席者が出ると足並みがそろわず，カリキュラムに遅れてしまったメンバーが脱落してしまいがちになる。また，アニメはテレビアニメだけではなくいろいろな表現があるのだということを上手に伝える配慮が足りなかった気もする。子どもたちの考えるアニメ（＝漫画のキャラクターが活躍する，ストーリーアニメ）とクラブで行う作業（＝人形などの立体物を動かすことや形が少しずつ変化して別のものに変わるメタモルフォーゼ等の動きの実験）とが一致しないまま，カリキュラムが進行してしまったのではないだろうか。いろいろと反省点が多い。

学校で教えていることはそれがある程度ひな型になって展開していけるが，アニメについては，こちらの試行錯誤がそのまま現場に出てしまう。経験がまだまだ不足していることを痛感した。今後より一層の検討と習練が必要である。

5）後方支援活動

AV事業部の活動の中で実際に利用者と接する部分は氷山の一角と言っても過言ではない。AVライブラリーで1本のビデオソフトを視聴可能な状態にするということ1つを例にとってみても，事前に多くの過程を経なければならない。ビデオの内容，時間，対象年齢等さまざまな情報を検証後にコンピュータへ登録する作業等がこれに当たる。

またAV機器が情報をビジュアル・メモとして残す身近なツールとなった現在，他部がビ

デオ機材を活用するというケースも，ごく日常的なものとなっており，この際ハード・ソフト両面から支援を行うということも，AV事業部の重要な役割といえる。これらを含めほかにも活動内容をPRする機関紙の発行や老朽化が進む機器類の更新計画推進等表面に出ない裏方作業が多々あったが，本年も限られた人員の中で可能な限りの対応をした。

(ア) AV資料室

AV資料室は主としてハード・ソフト両面からAVライブラリーの活動をバックアップしており，その活動内容は多岐にわたっている。本年度も一般市販ビデオソフト1,332タイトル，自主制作ビデオソフト14タイトル分の試視聴作業とコンピュータへの登録作業を完了させ，3月末日の総タイトル数を9,761としたほか，新規購入分の市販ビデオソフト選定作業も行った。

選択に当たっては現場の視聴データと感触を参考にしたが，来年度は年間統一テーマとして「宇宙」を考えているため，これに類するソフトや近年急速に社会問題となりつつあるエイズ関連ソフトも考慮に入れ，合計で594本を購入した。

〔こどもの城〕のオリジナルソフトであるインフォビジョンは利用者の人気も上々であり，毎年2タイトルのペースで製作してきたが本年は予算上の都合もあり『クイズ・なんじゃらほい』1タイトルのみの製作となってしまった。類似施設が数多くできる中，〔こどもの城〕でしか視聴できないインフォビジョンは青山劇場・青山円形劇場の公演記録作品と並び目玉となるものなので今後もできる限り充足に努めていきたい。

日常的作業としてはAVライブラリー，ビデオ試写会等で使用されるチラシ・ポスター類の作成やカタログ類の整備等があり，特にカタログについては総合カタログのほかにも「35分以内版」(混雑時対策として，1人でも多くの利用を図るため，視聴時間が35分以下のものに限定して視聴できるようにしている)「各種特集用ビジュアルカタログ」「年齢別カタログ」「新着ソフトカタログ」「外国語カタログ」等を用意し，きめ細かなサービスを心掛けた。

今後も利用者へのサービス向上を念頭に置きつつ，AVライブラリーの頭脳としての役割を果たしていきたい。

AVライブラリーのカタログを整備，サービスを向上

(イ) 他事業部への支援・協力活動

映像調整室では，他部の事業で使用するビデオ作品の制作を行っている。また他部自身で制作する場合，制作指導と実技指導，および機器の貸与を行っている。

本年度は企画部主催の「こま」の展示で使用するスタンドアローン展示映像の制作

と機器の貸与，プレイ事業部「キャッスルクエストⅤ」のビデオ機器のセッティングとPRビデオ，解説ビデオ等の制作を行った。また，研修教養部，プレイ事業部のキャンプ記録ビデオの制作協力，造形事業部，音楽事業部の催し物記録への協力および機器貸与を行った。

日曜日に音楽事業部と共同して行っている「わいわいスタジオ」では，館内テレビへの中継とともに収録を行っており，そのテープは音楽事業部の資料として活用されている。

ここで問題になってきているのが，機器の老朽化に伴う故障の続発と機器の使用時期の集中である。撮影機器，編集機器ともスムーズに制作や貸与を進めるための整備・補充の検討が必要である。

(ウ)　ビデオ活動機関紙の発行活動

ビデオ活動のスケジュールと内容を掲載した「マックTVプレス」は，毎月1号の割合で発行を続けているB4サイズ1ページ片面刷りの新聞（発行部数，毎号約500部)。特別期間には，そのプログラムを詳細に解説した臨時増刊号も発行している。1階のアトリウム，エントランスホールにストックされ，来館者が自由に持っていけるようにしている。

「マックTVプレス」は，ビデオ活動やプログラムの意図を分かりやすく解説し，参加する子どもたちだけでなく，引率してくる親たちや同じような活動を行っている教育者，指導者といった人々，映像関連施設などへ，〔こどもの城〕のビデオ活動の意義や内容を伝えるのが目的である。4階の掲示板へは大きく拡大コピーして掲示している。利用者には時間待ちなどの間に結構読まれているようで，掲載したプログラム内容に対する問い合わせもある。

また，ある美術館の学芸員から毎回資料として楽しみにしているので送付してほしいという問い合わせもあった。今後も継続して発行していこうと考えている。

(エ)　機器更新計画の推進

AVライブラリー内の制御装置とその関連機器のメンテナンス期限が本年をもち終了すことから，これらの機器の更新計画を平成2年度から進めてきたが，本年度は実際の機器入れ替え予定期である平成5年度に先駆けて更新時に必要となる新システム用のプログラム開発に着手し始めた。実際に機器が入れ替わるまでの間は綱渡り状態となるため，今後も綿密に更新計画を進め，できる限り早い時期に機器の入れ替えを完了させたいと考える。

また，先にも述べたがAV事業部内の他の機器についても老朽化・陳腐化が著しため現状を早急に調査し，できる限り早い時期に更新計画を進めていきたいと考える。

(1) 4年度活動一覧表　1) 週間事業実施時間

曜日 / 区分 / 時間	月	火	水	木	金	土	日
9：00							保育室一般開放
10：00	保育クラブA	幼児グループ	幼児グループ	幼児グループ	幼児グループ	保育クラブA	
11：00	母子教室	保育クラブB	保育クラブB	保育クラブB	保育クラブB		
12：00		保育クラブA	保育クラブA	保育クラブA	保育クラブA		
13：00					保育クラブA		
14：00						保育室一般開放	
15：00						保育相談研修 年3回	
16：00						保育内容研修 年6回	
17：00							
18：00							

2)　平常期間プログラム

名　　称	期　　間	時　　間	場　所	要　員	備　　考
親子遠足（50組100人参加）	5.23	10:10～13:30	国営昭和記念公園	（人） 保育職員	保育クラブ親子プログラム　料金　500円
幼児グループ（年長児）お泊まり保育	8.28・29		横浜市三ツ沢青少年活動センター	〃	幼児グループ５歳児10人参加　料金　3,000円
青空プレイ大会	10.17	9：30～14:00	都立代々木公園	〃	保育クラブ親子プログラム。73組 203人参加 料金　500円
保育フェスティバル	12.16	14:30～16:00	青山円形劇場	保育職員 アンサンブルJOUJOU こどもの城新体操講座	保育クラブ親子プログラム。大人159人，子ども181人参加 料金　親子　2,500円 大人　1,000円 子ども　500円
保育活動展	2.19～3.7	12:30～17:00	４階ロビー 保育室・５階廊下	保育職員	保育クラブ・幼児グループのプログラム

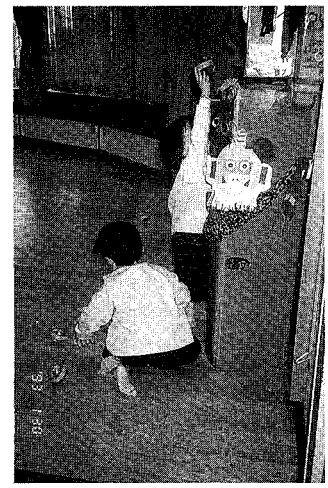
3)　講座・クラブ

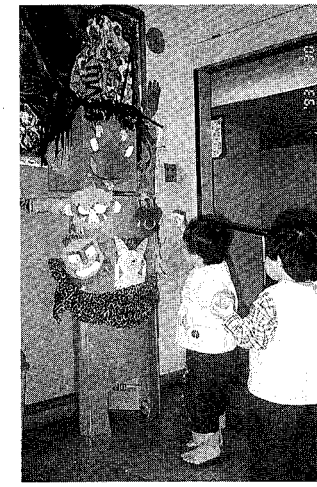
名　　称	対象	定員	受講数	曜　日 時　間	場　所	期　間	料金	講師等	備　考
母子教室 (26期) (27期) (28期)	１歳児の母子	(組) 12 〃 〃	(組) 13 〃 〃	月曜日10：00～12：30	保育室Ⅰ	(回) 5,6,7月 9,10,11月 1,2,3月 (各全12)	(円) 30,000	職員・小児保健部医師，心理スタッフ	一般公募
保育クラブ	２歳児	(人) 12	(人) 14	月曜日～土曜日	保育室Ⅱ	３～４か月（10～14回）緊急・フリー	A16,800 B32,000 (月額) 4,200 (日額)	職員	一般公募（補充募集・年度ごとに更新）
	３～５歳児	10	13	火曜日～金曜日	保育室Ⅰ	〃	A16,000 B23,600 (月額) 4,000 (日額)		
幼児グループ	４歳児 ５歳児	10 10	10 9	火曜日～金曜日	保育室Ⅰ	１～２年（通年）	37,800 (月額)	〃	一般公募

保育

4) 研修会・セミナー等

名　称	対象	定員	受講数	曜日 時間	場所	期間	料金	講師等	備考
		(人)	(人)			(回)	(円)		
保育内容継続研修会	保育従事者など	100	149 146 132 126 129 682	6.6 7.18 11.7 1.9 2.27 土曜日14:00～17:00	研修室	パートⅠ (6.6と7.18) ※前年度に1回終了) パートⅡ (11.7と1.9,2.27)	9,000	コーディネーター 日本女子大教授　森上史朗氏 青山学院大学講師 大場牧夫氏 コメンテーター 村田保太郎氏 松山東雲短大　吉村真理子氏 大妻女子大学教授大場幸夫氏 高杉自子氏	
シンポジウム こどもをみる目・保育をみる目	〃	150	137	8.13 10:00～17:30	青山円形劇場	1	〃	東京大学　佐伯胖氏 十文字短大　上垣内伸子氏 日本女子大　森上史朗氏 大妻女子大　大場幸夫氏 十文字短大　立川多恵子氏	
育児相談研修会	育児相談・保育所・地域活動従事者	20	23	土曜日14:00～17:00	研修室	7・11・2月 3	10,000	明治学院大学教授 山崎美貴子氏 全社協　山田美和子氏	
第6回保育セミナー	保育従事者	150	118	7.27・28 10:00～17:30	青山円形劇場・研修室		13,000	出雲市長　岩國哲人氏 全社協　山田美和子氏 育児文化研究所　丹羽洋子氏 横山保育所　本多馨子氏 元保育クラブ保護者 飯沢耕太郎氏 こどもの城　巷野吾郎	





＝鬼（おに）と遊ぼう
（２歳時のプログラムから）＝

保育

１週間に１回，友だち遊びをするためにやってくる子どもたち。保育者は一人でも楽しめる遊びや友だちとかかわる遊びを用意しておきます。

写真の「鬼」は保育者が考えた大型のおもちゃです。鬼の口にボールを入れると，下からゴロゴロと出てくるこの遊びは，原因があって結果が出るところが２歳児にたいへん喜ばれます。

「このオニ，ボールをたべちゃうんだって！」「フーン，大きなお口だね」「とどかない」「あっ出てきた」「クレヨンも食べるかな？」など，子どもたちは口々に言いながら繰り返し遊びます。

しばらくして今度は桃太郎に扮し，粘土のきびだんごと新聞紙の金棒を持って〔こどもの城〕館内に鬼退治に出掛けます。

「エイ，エイ，オー。オニはいませんか」「やっつけますよー」

(2) 保育研究開発部の活動

本年度の事業は，従来どおりの保育事業と研修事業の２本を柱に行った。事業内容はいずれも，前年度実施したものを引き続き継続したもので，特に新規事業は行わなかった。(表１参照)

「あっ動いた！」(かたつむりを見て・２歳児)

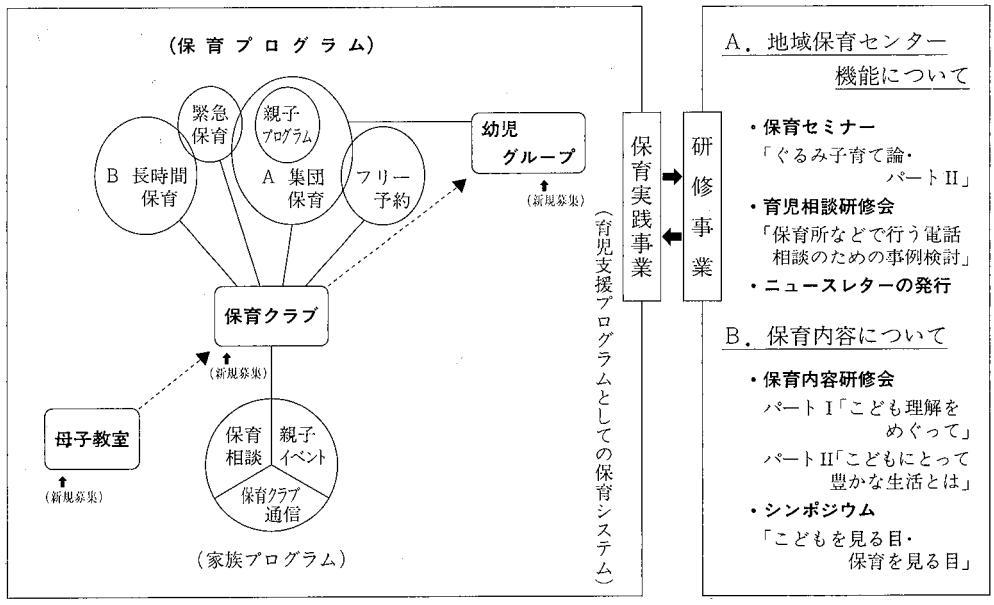
１）事業の概要

(ア) 保育事業

1 母子教室

１歳児の母子を対象にしたこのプログラムは，〔こどもの城〕開館以来第26期を終了し延べ340組の母子が参加したことになる。母子遊び，健康・発達などについての講義やディスカッション，母親たちによる自主活動などプログラムの内容が定着してきている。全国的な育児支援策への取り組みが話題になる中で，新たにこの母子教室を開始しようと企画中の保育現場や保育者養成校，自治体保育課などから見学や問い合わせが多くみられ，いろいろな所が取り組みを始めようとしていることが実感された。

1992年度　保育研究開発部　事業内容（表１）



2　保育クラブ

子どもが友だち遊びの場を求めていたり，親が就労や学習，その他の社会参加などの理由で保育を必要としている場合に，いろいろな保育プログラムで対応するのが保育クラブ。会員制の育児支援活動である。集団参加を目的とするプログラム，親の都合による保育需要にこたえるプログラム，親子イベントなどの家族プログラムの3つを柱として7年の実践を積み一応のシステムが整ってきたといえる。保育時間や保育日数を選ぶことができる異年齢混合のグループによる保育活動として期待を集めている。

3　幼児グループ

4・5歳児については定期的，継続的な保育の必要性を重視し固定メンバーに対する継続的保育を実施してきた。幼児グループは，非定型的に保育に参加する保育クラブの3歳児と年齢混合のグループを編成して活動することが特色であり，活動の核としてその存在の意味は大きく，相互に影響を与えあった。第1期の修了児は小学5年生となり，平成4年度は第1回同窓会を行い成長の経過を確認しあった。

(イ)　研修事業

保育実践にかかわる情報を収集し，同時に新しい情報を発信するセンター機能の一環として当部では〔こどもの城〕開館当初から，保育セミナーや関連の研修会を開催してきた。

この事業は2つの側面から成る。その1つは今日，育児や保育のプログラムには，何が期待されているのか，どのように機能する必要があるのかをテーマとするもの，他の1つはプログラムの実践のあり方について考えるものである。前者は第6回保育セミナーとして『ぐるみ子育て論パートⅡ　地域を考える』を取り上げた。また，保育所が行う育児相談のための事例検討を中心とした継続研修会も行った。後者については前年度に引き続き『こども理解をめぐって』の研修会を2回，『こどもを見る目・保育をみる目』と題したシンポジウム，『こども理解～』のパートⅡとして『こどもにとって豊かな生活とは』について3回シリーズの研修会を行った。いずれもテーマは前年度から継続している。

2）事業活動の実際

(ア)　保育事業

保育事業は，「母子教室」「保育クラブ」「幼児グループ」の3つの実践で構成される育児支援のプログラムである。このうち母子教室は講座形式により年間3回実施した。保育クラブは2～5歳児を対象とした1年間のプログラム，幼児グループは4～5歳児を対象とした2年間のプログラムであるが，実際の保育活動は保育クラブと幼児グループを融合する形で行った。したがって「保育クラブ」と「幼児グループ」の活動の実際については年齢別に活動内容をまとめて報告する。

1　母子教室

①　プログラムのねらい・特徴

この教室は育児や子どもの対応に悩んでいる母親のために，親子遊びや母親同士の話し合

いを通して，もう一度新たな視点で育児を見直すことをねらいとしている。

＜本年度の応募状況＞

応募総数90組，参加者39組と約2倍の応募状況であった。前述したように，母子教室への参加動機は，育児不安や子どもへのかかわり方，親子遊びを教えて欲しい，親子で友だちを作りたいなどが大半を占めているが，本年度においてはこの参加動機に少し変化が現れた。育児休業中と思われる母親が参加を申し込んでくる例が目立ち始めたことである。また，国際結婚をした日本人の母親と子どもの参加も確実に増えている。その他，参加を希望する母親の多くは高学歴，高年齢になっており，第1子での参加が多かった。〔こどもの城〕他講座から引き続きの応募も目立った。

母親の中にはプログラムの当初はなかなか緊張がほぐれなかったり，わが子を他の子どもと比較して（言葉が遅い，他の子どもをかむなど）落ち込む姿も見られるが，保育者の遊び方のアドバイス，専門の講師を交えてのディスカッションを重ねていくうちに徐々にリラックスしていくのが感じられた。

育児は母親だけではなく父親もともにしていく，という観点を本年度は持っていたが，プログラム中2回の父親参加はいずれも出席率は良好であった。

②　プログラムの実際

＜スタッフの役割分担＞

母子教室は4人の保育者が担当した。1日のプログラムを，全体リーダーが進める。全体リーダーは1日の流れ，12回のプログラム全体の進み具合を把握し，また主に親へのプログラム（他己紹介・出産体験の話・自主企画の相談など）の進行を受け持った。

親へのプログラムは親同士が親しくなることを目的としており，全体リーダーを中心とした親たちのコミュニケーションの場である。その間，子どもたちは他の保育者や子どもとともに子どもプログラムへ。主にままごと，汽車，動物のおもちゃ，積木やすべり台，ジャングルジムなどの玩具（がんぐ）や遊具を使って遊び，様子をみて絵を描いたりシールはりをすることもある。

手をつなごう，みんなで手をつなごう（母子教室）

親子のテーマ活動のプログラムは4人の保育者が分担してテーマごとにリーダーになった。参加親子の置かれた状況，その時の状態を踏まえて内容を検討し，どの母子も楽しく参加できるように配慮した。13

組の母子をよく理解し良い付き合いができるよう，４人の保育者が３・４組ずつを担当した。朝，迎え入れる時に前回帰宅後の家庭での様子などを聞き，保育後にその日の参加の様子とともに記録。信頼関係ができると，母の方から心配事を相談しかけるようになった。

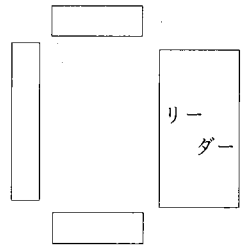
＜プログラムの構成＞

母子教室の全12回の構成は以下のとおり。

回	テーマ	内容	講師	ねらい・配置・その他
1	お母さんと遊ぼう① 親子でこんにちは	オリエンテーション	保育研究開発部	○親子で思いっきり身体を動かして遊ぶ ○母が楽しんでいる姿を見て，楽しさを知る
2	お母さんと遊ぼう② 動くの大好き	まねっこ遊び		
3	お母さんと遊ぼう③ 元気に１，２	バスタオル，フープ，ボールなどを使って運動遊び		
4	お母さんと遊ぼう④ 粘土で何を作ろう	小麦粉をこねて粘土を作る		
5	お母さんと遊ぼう⑤ １枚の紙から	新聞紙やシュレッダーにかけた紙を使って遊ぶ		
6	お母さんと遊ぼう⑥ リズムは友だち	マラカス作り		
7	子育て医学	小児科医から見た子育て (講義)	小児保健部長 巷野悟郎	○７，11は父親も参加できるように日曜日に行った ○子ども同士で遊んだり，親の所へ行ったりできるようにスペースを工夫
8	赤ちゃんから子どもへ①	ディスカッション	小児保健部心理技術主任 植松紀子	
9	赤ちゃんから子どもへ②			
10	赤ちゃんから子どもへ③			
11	子育て医学	子どもの健康 (講義)	小児保健部長 巷野悟郎	
12	お別れパーティー	お母さんの自主企画で遊ぶ	保育研究開発部	

6 保　育

テーマ活動の事例として「お母さんと遊ぼう――粘土で何を作ろう」の活動内容を紹介する。ねらいは，母子で小麦粉粘土遊びを楽しむ，小麦粉粘土の感触を体験する，他の母子と交流すること。

主な活動	留意点ほか	スタッフの動き	準　備
	食紅を混ぜた小麦粉（強力粉）をビニールの袋に入れて用意しておく		ビニール袋3枚 小麦粉＋食紅 （赤，黄，緑）
小麦粉粘土の作り方を母子で見る	○リーダーの机の前に集まってもらう ○ねらいや作り方を説明する	○サブリーダーが見本に白い粘土をこねて見せる	ボール 小麦粉 水
3グループに分かれ机にビニールを張り付け，座る		○ビニールの張り方を指示し，手伝う ○各グループに材料を配る	はさみ ガムテープ ビニール袋大3枚 コップ（水）
小麦粉をこねる。 粘土を作る	○自分のグループの小麦粉がどんな色に変わるか楽しみながら粘土を作る	○1グループにつき1人リーダーが付き，水加減などアドバイスする	
自由にこねて遊ぶ	○全員が粘土に触れてから，各自（母子）適量をとって遊ぶ ひっぱりっこ／へび／ボール／おせんべい	○グループ内で楽しく交流できるように配慮する	
お店屋さんごっこ。 各グループ相談してお店を決め，母子で1つの品物を作る	○他グループと粘土を交換し，多色で作るようにする		紙皿3枚
「八百屋のお店」の歌に合わせて，作品を見せ合う		○スタッフ全員で手本を示す	
作品と残った粘土を分けて，おみやげにする	○密封して冷蔵庫に入れておけば，2・3日使えること，食塩を入れて作るとさらに長持ちすることなどを伝える	○にんにくしぼり器などを用いた遊び方を紹介する	石けん，タオル，ぞうきん，ビニール袋（小13枚，持ち帰り用）

＜プログラムの準備＞

プログラム実施のために主に次の３つのミーティングを行った。

(a)　準備ミーティング＝デイリープログラムに基づきテーマ活動の内容研究及び教材準備，スタッフの配置を検討する。

(b)　確認ミーティング＝当日朝，プログラムの流れを確認する。前回欠席した母子，体調の悪い母子などについて打ち合わせる。

(c)　振り返りミーティング＝テーマ活動の反省や，母子の活動の様子を意見交換し気がかりな母子については，次回どのような対応をしたらいいか話し合う。

＜参加者の感想＞

毎回帰りに感想を述べてもらったり，母子教室終了後にアンケートを記入してもらったりして次期プログラム企画の参考にした。

母子ともに友だちができたこと，他の母親も同じ悩みを持っていることを知り安心したこと，家では見られない子どもの一面を発見したこと，家ではできない遊びを体験できたことなどに満足したが，一方で父親も子どもと思う存分遊ぶ企画が欲しかったとか，講義は質問形式の方がよかったなどの不満の声もあり今後の検討課題である。

＜アフターフォロー＞

12回参加して知り合った母子と，今後もなんらかの形で交流を続けたいという要望がある。現在のところは保育クラブで受け入れている。母子教室出身者の９割が保育クラブに会員登録をし，５～６割が保育クラブを利用している。母子教室スタッフは保育クラブ２歳児スタッフを兼ねており，そのことが利用する母子に大きな安心感を与えていると思われる。母子教室の同窓会なども検討課題である。

③　課題と展望

母子教室への参加希望は相変わらず多いが，応募理由に少し変化が見え始めている。以前は専業主婦で子育て中の母親が圧倒的多数を占めていたが，子育て中であっても時間を割き専門の技術を生かした仕事を続けている人，あるいは育児休業中に参加を希望してくる人が目立ってきたことである。また従来から見られた子育てが一段落したら仕事をしたいと考えている母親も当然含まれている。

決して安いとは言えない料金を支払い参加を希望してくる上記の母親たちにとって，１歳児の我が子に対する思いは大きなものがあると思われる。同時に，母親自身が母子教室という外でのつながりを持ちたいと切に願っていることも見逃すわけにはいかない。

プログラムの内容とそこに集まってくる同世代の女性たちとの交流，講師を交えての子育ての悩み相談はもとより，女性としての生き方などまでディスカッションすることが，家庭では得られない新鮮な気分にさせるようである。

保育者も社会の変化に合わせて研修を積み，実践を重ねているが難しさを感じることが多い。子どものことについての専門家だけではプログラムはこなしきれない状況になりつつある。少子化時代といわれるこれからは，母親，女性，家族を取り込んだプログラムの開発，

より質の高い保育を要求してくるであろう母親に対応する保育スタッフの充実をさらに考えていく必要があると思われる。

2 保育クラブ・幼児グループの保育

(A) 2歳児保育

① プログラムのねらい・特徴

＜参加親子の特徴・グループ構成の特徴＞

保育クラブ2歳児の保育に参加している親子は，近所に子どもがいないため同年齢の子どもと遊ぶ機会を得たい，母親の育児不安・肉体的精神的疲れをいやしたい，親から離れることに慣れさせたい，母親の仕事や兄姉の用事で連れ回してしまうことが多い，海外勤務から帰国し母子ともに友だちが欲しい，通っていた保育機関が閉鎖してしまった，などの理由を参加動機としてあげている。

これらの親子を3時間保育と6～8時間保育の2つのプログラムの中で，期間を定め定期的に利用する予約児と利用日ごとのフリー予約児の2つの形態で受け入れた。保育は複数の保育者のチームにより行い，曜日ごとにリーダーを決め，そのリーダーの持ち味を生かした保育が行われた。子どもたちの個性もさまざまなので，曜日によって雰囲気が異なり日ごとのカラーがでた。

保育はまず，親との信頼関係を築くことを重視し，子どもが無理なく親から離れられるよう，またたくさんの子どもと遊べるように環境設定などに工夫をした。

6～8時間保育の子どもは1時以降の保育時間が長いので，朝の受け入れからお迎えまで一緒に過ごす保育者を配置するなど，3時間保育の子どもが帰ったあとも不安になったり寂しい思いにならないように配慮した。また，体力的にも午後はゆったりと安らげるよう家庭的な雰囲気を大切にし，昼寝の時間もとれるよう環境を整えた。

フリー予約の子どもは不定期な参加であり戸惑いも見られる。保育者がゆっくりと付き合い，好きな遊びを一緒にしながら少しずつ友だちの遊びの中に誘った。子どもと離れることに不安がある，母子ともに友だちが欲しいなどの希望が強い親子に対しては，いきなり親と離れて集団に参加するのではなく，親も一緒に保育に参加し，我が子だけでなく他の子どもと遊びながら，最終的には無理なく親子が離れられるように進めていく親子プログラムも毎週月曜日に行った。

＜保育のねらい＞

保育内容としては，現在の都市生活の中で日常的に不足しがちな経験や体験を意図的に取り入れながら，友だち遊びを進めることをねらいとした。その際初めて親から離れる2歳児にとって，親と離れることが無理なく自然に進むよう配慮した。その方法として，環境の工夫，素材の工夫，自然の取り込みを活動の中に意図して取り入れた（コラム参照）。

「ケーキをたべます」（ままごとあそび・2歳児）

＜保育の概要＞

2歳児の始めは環境に慣れる，気持ちをリラックスさせることが日々のねらいとなる。そのために，例えばかたつむりを飼ってその動きを見たり，遊んだりすることから気分転換につなげたり，散歩を積極的に取り入れたりした。友だちとかかわるきっかけとしては，遊びのコーナーを用意した。ままごとコーナー，独り遊びを十分楽しむ遊具遊びコーナー，感覚体験や遊びのきっかけをつくることを意図した小麦粉粘土などの素材遊びのコーナーなど，ひとりひとりの子どもの状態に合わせて，遊びが選べるよう工夫した。

独り遊びから友だち遊びへと変わっていく子どもの成長に合わせ，コーナー作りも変化し，ダンボールの家を置くだけで，ごっこ遊びが展開し友だち遊びが広がるなど，子どもに変化が見られた。屋上ではログハウスや乗り物，アスレチックを活用しながら，2歳児だけ

2歳児の保育の工夫＜都会の中の自然環境＞

人間は自然に直接ふれることによってしか育たない部分があるから，子育てに自然は欠かせない――という前提に立って保育している私たちには，良くも悪くも，自然とのかかわりを保育の中に意図的に取り入れなければならないという姿勢が必要です。

都会という，アレンジされた環境の中に見え隠れする意外な自然を，子どもたちと一緒に見つけることは実に楽しいことです。こどもの城のまわりで見つけた意外な自然をいくつか紹介します。

- ●こどもの城の裏側のツタの植え込みの中に，縄張りを作った大きなヒキガエル。保育室に持ちかえり，2日間餌をあげたり観察した後，元の場所に返しました。
- ●秋にコメツキバッタをたくさん捕まえ，毎日のようにジャンプ・ショーを楽しみました。
- ●迷い込んできた，ほこりだらけのイモリを見つけ，そのユーモラスでかわいらしい歩き方をまねしたり，腕に乗せて歩かせたり，保育室の中は興奮でいっぱい。
- ●オオカマキリを捕まえたことも。散歩に行くたびにコオロギやバッタなど，えさになるような虫を探すのが，しばらくの間日課になりました。

たいていの子どもは根っからの虫好きです。4～5歳にもなれば，あれこれ飼ってみたりするようになります。でも，2歳の子どもは，当たり前の経験不足から虫を好奇心と恐怖心の入り交じった気持ちで見ています。動きの素早い虫，逃げ足の早い虫，持ち方が下手だと痛い思いをさせられる虫は大の苦手です。

しかし，カタツムリなら話は別。童謡にさえ登場するカタツムリは小さな子どもにとっても親しみやすい存在です。5年前の散歩中に，一匹の都会暮らしのカタツムリを見つけたことがきっかけになり，2歳児の部屋で飼い始めました。庭のない私たちの保育室でウサギやトリという小動物を飼うわけにはいきませんが，カタツムリだってりっぱな動物。えさを食べたり，排せつ物を落としたり，卵を生んだりしてくれます。その世話をしながら，あるいは姿を見ながら，泣きたい気持ちを忘れたりいやされたりした子どもは数多くいたに違いありません。思ってもみなかった＜自然の恵み＞でした。

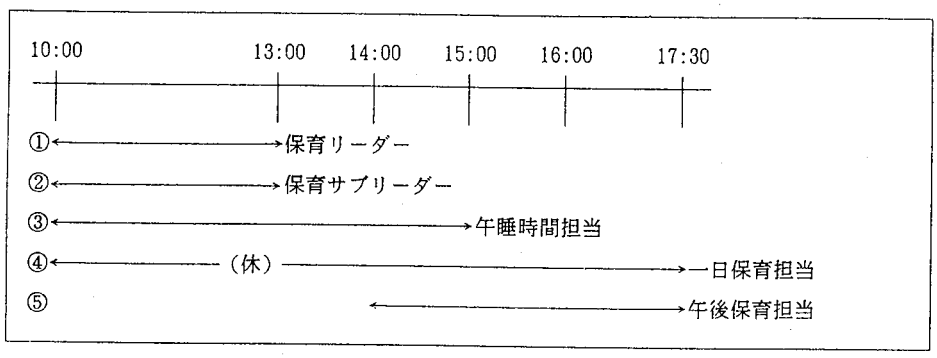
保育の中に持ち込む自然は，偶然に見つけたり，育ててみたりした生き物だけではありません。きれいな都会でつい邪魔者扱いされがちな石や土，枯れ木や落ち葉，木の実などの無生物もあります。これらのものも取り入れて，遊びの道具として使ったり，作品の材料にしたり，部屋の飾りに生かすようにしています。粘土遊びに使う小枝で作ったのし棒やスタンプ，いろいろな葉っぱやドングリ，散歩中に捨い集めたツルで作った小さなクリスマス・ツリーなどがその一例です。

でなく3～5歳児など異年齢と混じり合って遊ぶ機会として大切に捉えていった。

② プログラムの展開

＜保育スタッフの役割分担＞

2歳児の保育は常勤者4人，非常勤者3人（週4日1人，週2日2人）計7人の保育者チームで，1週間のローテーションを組んで行った。1日のローテーションは次のとおり。



役割分担としては各曜日ごとに保育リーダーを決めリーダーがプログラムの進行を受け持った。リーダーはその日の保育の様子をお迎え時に親に説明，サブリーダーは子どもの個々の様子を個別に詳しく親に伝えた。午睡時間担当者は6～8時間保育の午睡をとる子どもに付き添う。1日保育担当者は朝からお迎えまで6～8時間保育の一日の流れを通じて保育に当たる。また午後保育担当者に午前中の活動の様子を伝える。午後保育担当者は午後の活動を中心になって進行した。

複数の保育者が保育に当たるので受け入れ時に家庭での様子，健康状態など親とよく話すことができ，それを踏まえたうえで保育に当たることができた。また多くの人手が必要なプログラムを常時行えたこと，食事，排せつ，着替えなど身の回りのことがきめ細かく家庭に近い状態で行えたということができる。また子どもたちにとって，複数の保育者とかかわれたことは，子どものいろいろな面を出すことができたなど大きなメリットだったと感じる。

(B) 3～5歳児保育

子どもの数が少ない，生活拠点が高層ビルの中にあることが多い，情報が多い，文化的な刺激が多いなど都市型の環境の中で，3～5歳児の保育形態としてはどのようなものが考えられるのかを模索してきたが，本年度は以下のように活動を展開した。

①プログラムの特徴・ねらい

3～5歳のグループは幼児グループ（4・5歳児）と3歳児を中心とした保育クラブで構成された。幼児グループは4歳児9人，5歳児10人の計19人でそのうち保育クラブ3歳児からの継続者は14人であった。保育クラブは，曜日によって4・5歳児がそれぞれ1人ずつ加わったが，3歳児がほとんどで毎日13～14人が参加した。幼児グループと保育クラブで毎日合計30～32人で活動を行った。

＜グループの特徴＞

保育クラブに参加した子どもの特徴としては，近所に同年齢の子どもが少ない，遊び相手

が大人ばかり，年齢的にまだ家庭での生活を大切にしたいので集団参加は週１～２回にしてみたい，〔こどもの城〕小児保健部医師の紹介（集団参加が必要），幼稚園やおけいことの併用，母親の仕事などの都合で週に１～３日長時間の保育を必要とする，などがあげられる。

保育の場は鉄筋コンクリート13階建てビルの５階に位置している。エレベーターを日常的に移動手段として使い，屋上を遊び場として常用している保育環境であることが特徴といえるが，視点を変えれば，都会で暮らす子どもの家庭生活環境に近いということもできる。自然環境の乏しさを意識して，計画的に館外の公園緑地での保育活動を取り入れたり，生活の中での飼育・栽培活動を工夫したりした。同時に〔こどもの城〕の諸機能を十分に生かすことを，ここでの保育の特色の１つと考え，〔こどもの城〕の各部門との連携に努めた。

保育は常勤者２人非常勤者２人の計４人のチームで行った。幼児グループ担当２人と保育クラブ担当２人と分担をしたが，保育は一連のものとして４人で計画実践に当たった。

＜保育のねらい＞

前述した特徴を踏まえて，保育活動は次のねらいを重視した。

(a)異年齢混合保育の中でお互いのかかわりを深める。いろいろな子どもや大人と触れ合い，かかわりあいながら，実際にいろいろな感情体験を重ねる。さらに自分の気持ちや感情を自分らしく表現して集団の中で生活する喜びや楽しさを知る。

(b)少人数のグループを複数の保育者がチームで保育することによる良さを生かす。すなわち子どもひとりひとりの個性が生かされるよう，多角的な視点で子どもをとらえる。また，子どももいろいろな個性の大人と出会いかかわる経験をしながら，人への信頼感を育てる。

②　プログラムの展開

＜デイリープログラム＞

３～５歳児が一緒に活動することを基本としたが，配慮を深めるために時には年齢別活動も行った。デイリープログラムの基本パターンは以下のようである。

＊受け入れ・お迎え〔保育活動と家庭の接点〕

幼児グループは必要に応じて親と保育者が連絡をとり合う。保育クラブは間隔をあけてさまざまな子どもが来るので，朝は連絡帳と口頭で体調や前日までの様子を確認し，帰りは一日の保育の様子をひとりひとり話して家庭との連絡を密にした。また初めて利用する親子を安心させるための言葉がけや，集団に入るのに不安を感じている子どもへの個々の対応を心がけた。

＊自由遊び〔子どもたち自身が遊びをつくる時〕

年齢を超えたかかわりが見られる。３歳児のために家庭に近い遊具（ブロック・電車・絵本など）や，常時保育者がいる場（描画・折り紙・製作など）を用意した。このほかごっこ遊びの道具（食器・衣装など）や大型積木がよく使われた。屋上では，プレイポートや屋上遊園の施設を利用したごっこ遊びや鬼遊び，５歳児中心のルールのある遊び（サッカー・だるまさんがころんだなど）が見られた。“見ている”という行為も後の自発的な遊びにつながる大切な蓄えの時期と考え対応した。

6 保　育

＊集まり〔朝及び帰り〕

朝はその日一緒に過ごす者同士の顔合わせの場，テーマ活動への導入にもなっている。帰りはじっくりと絵本や紙芝居に触れ，落ち着いた気持ちで退室できるようにした。帰りの集まりは午後保育の始まりでもあり，午後担当の保育者や6～8時間保育に参加する2歳児が合流することが多い。

時　間	幼児グループ（4・5歳児）	保育クラブ（主に3歳児）	活　動　場　所
9：50	＜入室（受け入れ）＞ あいさつ シール帳	＜入室（受け入れ）＞ 保護者と担当保育者の話 連絡帳・シール帳	5階保育室
10：00	＜自由遊び＞片付け・排せつ		5階保育室 5階屋上・砂場
11：00	＜朝の集まり＞あいさつ，出欠確認，歌，話等		5階保育室
	＜テーマ活動＞体育遊び，音楽遊び，造形，ゲーム，行事等 毎週水曜日　プール	毎月最終水曜日　プール	5階保育室，屋上 ふしぎが丘，3階 プレイホール 地下2階プール， 体育室 裏庭，館外
12：00	＜昼食＞ 火・木曜日　給食 水・金曜日　弁当	火曜日 水曜日～金曜日　給食	5階保育室
13：00	＜自由遊び＞片付け		5階保育室，屋上， 砂場，プレイポート
	＜帰りの集まり＞絵本，紙芝居，歌，あいさつ等		5階保育室
14：00	＜退出（お迎え）＞ （1階）	＜退出（お迎え）＞ 連絡伝言　（5階）	午後保育 お迎え 5階	1階エントランス 5階受け付け

＊排せつ・食事・など生活場面

午前に１度そろって排せつの時間をとるほかは個々に対応した。食事は給食とお弁当が混在している。個人用の持ち物（クレヨンなど）がない，席や靴箱の位置が個人固定ではない，年齢を区別する目印（名札や制服）がないという点は特色ともいえる。そのことは自分の場所を自分で決めたり自然にいろいろな子どもと触れ合う機会を多く持つことにもつながっていると考えられ，メンバーが日ごとに変わる活動の中で子ども同士の関係を柔軟にしていると思われた。

一方で，保育経験の増した３学期からは意図的に３～５歳児を組み合わせた生活グループで食事や当番活動を行った。食事中の会話がもとで新しい遊び仲間が増え，３歳児が自覚をもって当番活動をしようとしたり，年齢を超えて食事への姿勢に影響し合ったりした。

＊テーマ活動〔保育者の投げ掛けで全体で体験する活動〕

子どもの様子，経験，行事，季節などの要素を考え合わせて工夫しながら用意した。どの年齢にも楽しめるもの，年齢ごとに準備段階やねらいを変えて考えるものがあった。週１回参加する子どものために日々のつながりに加えて曜日ごとのつながりに気配りした。また異なった内容のテーマを１つのイメージ（ごっこ）でつなげて活動に入りやすくした。なおテーマ活動と自由遊びは別々のものではなく，両者がお互いを生かし合えるように，１日の流れでも月の流れでもかかわりを考えて進めた。

＜〔こどもの城〕各部門との連携＞

〔こどもの城〕は，児童健全育成のための総合施設であり，こども活動エリアを中心に，各事業部がそれぞれの専門性に基づいた独自の活動を総合的に展開している。それらの事業部と連携することで保育に，より広い視野やダイナミックさを取り入れ，保育活動が子どもたちにとってより楽しいものになることを願い，他部門の協力を得ながら活動を展開した。

体育事業部・造形事業部・音楽事業部・国際交流部・プレイ事業部・AV 事業部・劇場事業部などとの連携は，プログラムの内容・アイディア・スペースや機材の使用などいろいろな形で行われたが以下にその幾つかの例を紹介する。

＊体育事業部との連携

毎週１回，11:00～12:00にテーマ活動として25m プールを利用して水遊び水中運動を行った。泳ぐこと，泳げるようにすることを目的とするのではなく，運動遊びの場をプールに移したという考えで行った。最初水に対して恐怖心のあった子どもも，水の中でのゲームや遊びで気持ちがほぐれ，楽しく参加していた。

また，体育室では専門的な視点からそろえられた豊富な運動用具を使うことができ，幼児の基本動作である，走る，跳ぶ，転がる運動をいろいろに工夫して展開することができた。

＊造形事業部との連携

保育活動の中で，制作・描画・粘土など造形遊びを計画するときに，造形事業部のスタッフと意見交換をした。保育の立場を超えた面白い発想や異なったものの見方が参考になった。また，造形事業部のアドバイスを受けて取り入れた陶芸用粘土を使った活動では，粘土

遊びの集大成として素焼きの作品を作り，その過程で日ごろ親しんでいる油粘土とは違った感触体験や粘土の変化を経験した。

＊音楽事業部との連携

日本の伝統楽器や世界の珍しい楽器がそろっており，保育活動の中で目的に応じて取り入れた。お祭りごっこや創作劇遊びのなかで，和太鼓やお囃子（はやし）の楽器，アフリカ・ブラジルの珍しい楽器に数多く出合い，楽器の面白さ，そして大切に扱うことなどを体験した。

また保育フェスティバルでは音楽事業部の演奏協力を得て，生の演奏を豊富に聴いた。

＊国際交流部との連携

国際交流部のテリー・スーザン（アメリカ出身）に保育プログラムに参加してもらって，アメリカの子どもたちがよく遊んでいるゲームや歌遊びを紹介してもらい一緒に遊んだり，ハロウィンやクリスマスの行事を楽しんだ。子どもたちも保育スタッフも日本の遊びと違ったアメリカの歌遊びやゲームを楽しく体験した。

(C) 保育クラブ親子イベント

保育クラブのプログラム・メニューとして家族を対象とした親子イベントを行った。

これは会員親子の交流を目的としたもので本年度は，①親子遠足（国営昭和記念公園）　②青空プレイ大会（都立代々木公園）③保育フェスティバル（青山円形劇場）を行った。

それぞれのプログラムには家族ぐるみでの多数の参加を得て盛況であったが，ここではひとつの転換期を迎えたと考えられる保育フェスティバルについて本年度の実施内容を通し，これまでの経緯，今後の展望について述べる。

「あっむちがいるよ」（公園で・2歳児）

保育フェスティバルは「見る」「聴く」「参加する」の3要素を満たした2～5歳児向けの“公演”として保育研究開発部が独自で企画製作。平成元年から実践を重ねてきた。フリー予約を中心としたシステムを実施していた当時としては，会員がなかなか予約を取れない実態があり，少しでも多くの会員に，魅力的なプログラムを提供したいという事情から，〔こどもの城〕の特色でもある青山円形劇場での公演に取り組んだ経緯もある。2～5歳児を中心とした保育クラブの会員が，多数“生”の劇場公演に参加できるこの企画は，会員の大きな反響を呼んだ。日ごろの保育活動で得たことをもとに，対象年齢を考慮し，ストーリー展開の中にさまざまな体験の場を入れるなど，劇場の本格的な設備を生かした豊かな内容の“公演”を考えてきた。

本年度は「魔法の森のコンサート」に集まった観客という想定で参加型のストーリー展開を考えた。円形劇場の特徴として臨場感が高く，出演者の息使いや微妙な表情が伝わり，リアルな体験を提供できたとともに，子どもたちの反応が直接伝わり一体感が盛り上がった。

企画準備に当たっては，造形事業部（舞台，背景などの制作助言），体育事業部（講座受講生の出演），音楽事業部（楽器の貸与），AV 事業部（ビデオ収録）そして劇場事業部（舞台，照明，音響など）の各部の専門的な協力を得て内容の充実が増した。

企画製作は保育者が行った。日ごろ生活をともにしている保育者が出演することが，親しみを持ちやすくし，プログラムに集中させることができる良さがあるが，反面，保育を受け持ちながらの準備は大いに無理があり，本年度は外部出演者を起用した。そのために，出演者と子どもたちの関係を密にするため，出演者の協力を得て日ごろの保育のなかでの交流の機会を増やすよう努めた。

保育フェスティバルは，幼児グループの表現の場にもなっており，本年はストーリーの中で，修行中の魔法使いの卵に扮して日常保育の延長上の身体表現（変身の術として）で踊りや歌を披露した。終了後１か月は保育フェスティバルごっこが毎日のように行われ，自主的な人形劇遊びにつながるなど，余韻をたっぷりと味わうこともできた。

現在低年齢児親子を対象とした劇場公演は，いわゆる TV 人気キャラクターが登場するタイプのものが主流で，グッズの販売と結び付くなど，真に親子の絆（きずな）を深めたり体験を共有できるものは少ない。〔こどもの城〕の機能を生かすという点からも保育フェスティバルは価値あるということができる。しかし保育クラブのプログラムとして考える時，他のプログラムと平行して実施するには負担が大きすぎる。多くの会員にプログラム参加の機会を提供する必要性が，システムの変化とともに薄れてきている現状では，別の形を考えるなど再検討が必要である。

「じゃがいもの皮むきってこうするのよ」
（３～５歳児）

（D）保育クラブ・幼児グループの課題と展望

子どもの数の減少，家族や地域の機能の変化に伴って，幼児期の早い時期から育児を家庭の中だけで行うことに限界が出始め，社会的育児への需要が増しているようにみえる。

特に都会で生活する家族は地域とのかかわりが薄く，核家族が高い率を占めていることは保育クラブの会員の状況からも明らかである。これらの家族はそれぞれの事情に応じて保育クラブ，幼児グループに家庭外保育による育児支援を期待しているわけである。

当部の保育実践は，家庭外保育プログラムに対して，定型的な一律な集団保育ではなく個々の事情にできるだけ柔軟に応じること，いろいろな人とのかかわりが家庭内では単調に

なりつつあるが，より多様なかかわりを体験する場となること，育児の大部分を担っている母親・父親のパートナーとしての役割を果たすことがとりわけ期待されていることという認識でプログラム展開を進めてきた。

その方法として前述したような家族の需要，子どもの状態に合わせて保育への参加の仕方を選ぶ，固定メンバーと不定期メンバーを組み合わせたグループ構成，親の保育参加，保育者チームによる保育，〔こどもの城〕各事業部と連携した多角的なプログラム展開などを試みてきたわけである。参加親子からは評価を得て，参加希望者が定員を上回る状況が続いているが，今後の課題としては，非定型的な保育と定型的な保育を組み合わせながら個々に応じた柔軟な保育をどのように進めるのか，多角的な視点から子どもの育ちをとらえていくために，チームによる保育を効果的に生かすにはどうしたらいいか，などの点を具体化していくことがまず必要であると考えている。

(イ) 研修事業

1 第6回保育セミナー

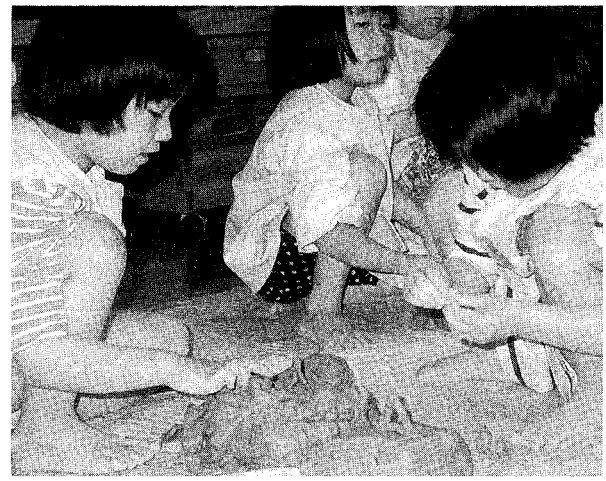
子どもが生き生きと育つ場として，地域社会にはさまざまな機能が期待されているが，今日の子どもが育つ「地域」の特性は多様であり，それぞれに問題を抱えているのが現状である。前年のセミナーでは「ぐるみ子育て」のテーマのもとに，地域ぐるみで子育てを行うための家庭および施設機能間の連携や家族の状況について検討した。本年度は特に地域にスポットを当て「ぐるみ子育て論　パートⅡ」と題し，厚生省，日本保育協会，全国社会福祉協議会，日本小児保健協会および全国保母養成協議会の後援のもとに，地域の特性，個性，地域の果たす役割などについて見直そうという主旨で，7月27・28日の両日，〔こどもの城〕青山円形劇場・研修室において行った。

①プログラムの内容

〔基調公演〕「小さな市民」

出雲市長　岩國哲人氏

市長自らの豊富な生活体験を生かしながら，斬新な政策を展開している出雲市政について，具体的な事例・スライドなどを使って，子どもを育てる場としての地域の在り方について提言した。視点の新しさ，広さなどが所長・自治体関係者などを中心とした参加者に深い感銘を投げかけた。



「どろねんどで何つくろうかな？」（3～5歳児）

〔シンポジウム〕

「ぐるみ子育て論　パートⅡ」

司会＝全社協　山田美和子氏

子どもを真ん中において考えた時，親子ぐるみあるいは家族ぐるみなど，さまざまな「ぐ

るみ」が存在するが，その中でどのようなものが，どのように機能したらよいかを，地域という視点から見直していこうというもの。父親の立場から元〔こどもの城〕保育クラブ保護者の飯沢耕太郎氏が，家族のイメージが固定化しているが現実はかなり多様化した実態があること，保育者の立場から横山保育所の本田馨子氏は，地域の持つ教育力の大きさをどう保育に取り込んでいくかについて，ジャーナリストの立場から育児文化研究所の丹羽洋子氏が実際の保育ニーズと保育制度とのずれについて指摘した。また，小児保健の立場から〔こどもの城〕小児保健部長の巷野悟郎は，子どもが健康に育つための基本的な条件について発言があった。これらの問題提起を踏まえて地域ぐるみで子育ての課題について熱心に論議が交わされた。

〔**ワークショップ**〕「こどもの表現について　パートⅡ」

〔こどもの城〕の造形・音楽事業部により，〔こどもの城〕での実践を踏まえて，ワークショップが行われた。竹やスプーンなど身近な素材を使って，楽器を作り，それを使って演奏も行われた。育児を支援するプログラム実践者の感性に訴えるワークショップとして反響が大きかった。

〔**分科会**〕

2日目は以下の5分科会に分かれそれぞれのテーマで活発にディスカッションを行った。

（第1分科会）　「地域の中でのこどもの生活・あそび」

（第2分科会）　「こどもの生活と運動」

（第3分科会）　「ネットワーク論・その1　こどもの健康と保健を考える」

（第4分科会）　「ネットワーク論・その2　家族のありかたを考える」

（第5分科会）　「ネットワーク論・その3　地域ネットワークの実践　パートⅡ」

②課題と展望

本年度のセミナーでは家族が暮らし，施設が機能している「地域」について取り上げ，行政的な視点や家族ニーズの実態，地域の持つ教育力，地域機能間のネットワークの結び方について事例を交じえながら論議が進められた。また，参加者へのサービスとして託児という新しい試みも行った。

しかし，テーマの大きさから，参加者同士の交流，意見交換の機会が不十分だったように思われた。さらに「地域」の中の「家族」にスポットを当てた『ぐるみ子育て論』を次年度につなげていく予定である。

2　育児相談研修会

地域における子育て支援活動として，全国の保育所でさまざまな形の育児相談事業が実践され始めている。家族についての考え方が多様化している社会状況のなかで，育児相談の内容は多岐にわたっている。相談者としての役割を果たすために必要な知識や技術の研修，また実践についての検証がたいへん必要とされている。4年目を迎えた本年度の研修は，具体的な事例のカンファレンス相談について体系的な研修を少人数の参加者によって行った。連続研修の形をとり，電話相談の基礎について取り上げ検討した。講師は明治学院大学教授山

崎美貴子氏と全社協の山田美和子氏。

＜課題と展望＞

少人数の参加者と講師によって，毎回密度の高い研修が行われているが，研修をすればするほどより深い知識・技術の獲得を期待されるようになってきている。そこで，来年度は他機関と連携をとりながら，保育所が行う育児支援プログラムの方法をテーマに，時間も延長して研修を行う予定である。

＜ニュースレターの発行＞

全国の保育所で，事業として育児相談を取り上げている所は増えてきている。しかし，その実態や方法については，あまり明らかにされていない。また，昭和63年に日本保育協会の行った調査にも，研修の充実を望む声があがっている。そこで〔こどもの城〕で行っている研修についての内容や情報を提供するとともに，それぞれの実施園，地方自治体などで持っている情報の収集を行い，紙面で全国に広めていくことを目的に，平成4年11月1日に創刊号を，3月1日に第2号を発行した。これについても少しずつ全国から反響が寄せられはじめている。このニュースレターは平成5年度も，さらに内容を充実させ発行していく予定である。

3 保育内容継続研修会

平成3年から5年にかけて，保育実践者や研究者を対象に全10回にわたる保育内容継続研修会を実施した。ひとりひとりの子どもを大切にする保育とは何か，地域社会や家庭の環境が変化するなかで，保育所や幼稚園の保育には何が求められているのかに視点を定め，パートⅠ「こども理解をめぐって」，パートⅡ「こどもにとって豊かな生活とは」の2部形式で研修を行った。

各回ごとのテーマにそった実践事例を用意し，参加者の質問や意見を取り入れながら，プログラム・コーディネイターの森上史朗氏（日本女子大教授）と指定コメンテーターによるスーパーバイズによりディスカッションを行った。

パートⅡでは，大場牧夫氏（昭和台幼稚園）がコーディネイターに加わり，鼎談（ていだん）形式で進行した。また，参加者には事前にアンケートを実施し，それぞれの園の実態や問題点を持ち寄る方法をとった。内容は以下のとおりである（パートⅠの第1回から第5回については報告済み）。

パートⅠ「こども理解をめぐって」

【第6回】「地域・文化の中のこども理解（2）」 6月6日（土）

「保育活動の中にどう地域文化を取り込むのか」に焦点をあて，大人が子どもに伝えたいという思いは大切であるが，大人の自己満足で終わらないように，常に子どもの視点を踏まえておく必要があることが確認された。

【第7回】「理解しにくいこども達とその保育」 7月18日（土）

保育者が，理解しにくい子どもとどのようにかかわりを深めていくかについて検討した。子どもを理解する時の見方は，保育者によってさまざまであるが，自分の枠組みに気づき，

表面に現れた子どもの行動によって対応してしまうのでなく，子どもとの相互交流が大切であるこが強調された。

パートⅡ「こどもにとって豊かな生活とは」

【第1回】「行事をみなおす」11月7日（土）

子どもが主体的に楽しく活動ができる行事のあり方について検討，日常の子どもの生活から切り離されて存在しないことが強調された。子どもの視点から考えたいと思うが，慣習として行っているのではないか，成果を期待するものではないはずだが，できばえや評価が気になるなどの日ごろ感じている疑問が率直に提出され，検討された。

【第2回】「環境をみなおす」1月9日（土）

園が置かれている保育環境と，その背景にある家庭・地域・時代環境をどうとらえて保育を行うのか，子どもが生き生きとかかわる環境を保育者はどうとらえるのか等の問題提起のもとに研修が行われた。保育者に環境についての既成の思い込みがないかどうかの見直し，個々の子どもにとって環境がどのような意味を持つのかを見極める必要性が強調された。

【第3回】「園生活をみなおす」2月27日（土）

子どもの生活に合わせた保育というが，家庭の生活と園の生活との間に違いがあり，そこにジレンマがある。園は，子どもが家庭から持ってきた状態そのままで育って良い場であるので，何が同じで何が違うのかを保育者が見極めることが，保育の専門性につながると提言された。

4　保育シンポジウム

「こども理解」を中心にすえた全7回の保育内容継続研修会（プログラム　パートⅠ）の総まとめとして，平成4年8月13日に，青山円形劇場で保育シンポジウムを行った。テーマは「こどもを見る目・保育を見る目」で，基調公演，ビデオ・セッション，シンポジウムを行い，全国各地から150人の参加があった。

基調公演では，佐伯胖氏（東京大学教授）が「こどもを理解する」という演題で，子どもを保育することの意味を深く掘り下げ，子どもが育っていく状況や家庭におけるかかわりの重要な視点を示唆した。ビデオによる実践提案では，十文字学園女子短期大学の上垣内伸子氏により，子どもが行為する場の意味や個々の子どもの内面理解など，臨床の見地から提言があった。

基調講演とビデオ・セッションを受けて開かれたシンポジウムでは，子どもを見る目・保育を見る目を向上させるためにはどうしたらよいか，また日々の保育の見直しにビデオという新しい手段をどう生かすことができるかなどについて，フロアーからの発言をまじえ活発なディスカッションが行われた。シンポジストは，日本女子大学・森上史郎氏，松山東雲短期大学・吉村真理子氏，大妻女子大学・大場幸夫氏，十文字学園女子短期大学・立川多恵子氏，同・上垣内伸子氏。

7 小児保健部

(1)　4年度活動一覧表　1）週間事業実施時間

	月	火	水	木	金	土	日
9：00	休み						
			ミーティング ケース・コンファレンス			部内連絡会	
10：00		総合健康相談 発達相談 喘息相談(月1回) 耳鼻科相談(月1回) 脳波測定 マタニティ・スイム	総合健康相談 心理相談	総合健康相談 言語相談 心理相談 脳波測定 マタニティ・スイム	総合健康相談 脳波測定 心理相談 言語相談 母と子のパチャパチャスイム	総合健康相談 脳波測定 心理相談 発達相談 栄養相談 精神相談(月1回)	総合健康相談 心理相談 神経相談(月1回) ダウン症相談(月1回)
11：00							
12：00							
13：00			総合健康相談 心理相談 栄養相談	総合健康相談 言語相談 栄養相談 発達相談		総合健康相談 栄養相談 健康スポーツ教室 心理相談	総合健康相談 心理相談
14：00		総合健康相談 マタニティ栄養相談 赤ちゃんサロン月2回 心理相談 脳波測定 育児生活相談			総合健康相談 心理相談 脳波測定 言語相談 リトミック(ダウン症)		
15：00							
16：00							
17：00							
18：00		年15回 新しい時代の育児					

2)　平常期間プログラム

名　　称	期　　間	時　　間	場　所	要　員	備　　考
診療・相談事業 ＜一般外来＞ 総合健康相談 ＜専門外来＞ 心理相談 育児・生活相談 言語相談 発達相談 精神相談 神経相談 アレルギー・喘息相談 耳鼻科（聴覚・言語相談） ダウン症相談	通年 月１回	10:00～16:00	小児保健部	（人） 職員及び外部講師	原則として予約制 健康保健の適応あるいは相談料 5,000円
赤ちゃんサロン	第2,4火曜日（7,11,12,3月は１回）	13:30～15:30	研修会議室	保育研究開発部，体育事業部，小児保健部職員及び雪印乳業㈱から栄養士２	参加人員（人） ４月102　５月136 ６月136　７月 85 ８月（実施せず） ９月188　10月224 11月 87　12月125 １月190　２月104 ３月 59

3)　特別期間プログラム

名　　称	期　　間	時　　間	場　所	要　員	備　　考
＜児童福祉週間＞ マタニティ・コンサート	4.29		青山円形劇場	（人）	出演＝タイムファイブ 料金 2,500円 参加 412人
＜　〃　＞ 子育て相談コーナー	5.4・5	13:30～16:00	小児保健部	巻野悟郎ほか職員	相談件数６件
＜夏休み＞ こども一日ドック	7.23・24	12:30～17:30	小児保健・健康開発室	体育事業部職員，職員	延べ受診者４人 対象＝小・中学生 7,000円（血液検査等は実費）
＜　〃　＞ こども健康フェスティバル	7.28～30	13:30～16:00	小児保健部	職員	延べ参加者452人
＜　〃　＞ 健康教室集中講座 （太りすぎクラス）	7.25～27	14:00～17:00	小児保健部体育室	東京女子医大　村田光範教授 和洋女子大　坂本元子教授 体育事業部職員， 職員　　受講料　7,000円　参加６組	
＜開館記念＞ 第７回小児保健セミナー「変わる育児事情」――平成４年版子育ての論点――	10.24	10:30～17:30	研修室	放送大学　宮澤康人教授 子ども調査研究所　高山英男所長 川崎医療福祉大学　小野三嗣教授 受講料　5,000円　参加93人	

7　小児保健

名　　称	期　　間	時　　間	場　所	要　員	備　　考
				(人)	
<冬休み> 子育て相談コーナー	12.23,24	13:30～16:00	小児保健部	巷野悟郎ほか職員	相談件数1件
<　〃　> こども一日ドック	1.5,6	12:30～17:30	小児保健・健康開発室	体育事業部職員，職員	延べ受診者　17人 対象＝小・中学生 7,000円（血液検査等は実費）

4）**講座・クラブ**

<講座>

名　　称	対象	定員	受講数	曜　日 時　間	場　所	期　間	料金	講師等	備　考
		(人)	(人)			(回)	(円)		
健康スポーツ教室 <太りすぎクラス第9期>	小1～6の太りすぎ児童	25	25 25 25	土曜日14:00～17:00 〃 〃	小児保健部体育室 プール 保健開発室 研修室	4月～6月　12 9月～12月　12 1月～3月　10	20,000 20,000 17,000	東京女子医大　村田光範教授 和洋女子大　坂本元子教授，同小林幸子教授，同石井荘子助教授，川野辺由美子講師ほか。体育事業部職員，職員	定員に空きがあれば学期ごとの入会可
マタニティ・スイミング	妊娠16週以降の妊婦	各月35	4月38 5月37 6月37 7月33 8月32 9月34 10月30 11月30 12月31 1月25 2月17 3月24	水泳（火・木曜日） 10：00～12：30 レクチャー（火曜日または木曜日） 13：30～14：30	プール 研修室，ホテル和室	毎月7回	入会金5,000 月謝10,000 (臨月に限り，D.H.C.ビジター扱いも可	日本赤十字社医療センター産科医師，助産婦，体育事業部職員，職員	
		(組)	(組)						
母と子のリトミック<ダウン症クラス>第9期	3～5歳のダウン症児とその親	10 12 12	12 12 10	木曜日14:15～15:15 〃 〃	音楽スタジオA	4月～7月　12 9月～11月　12 1月～3月　10	15,000 15,000 12,000	玉川大学　吉村温子講師，音楽事業部職員，職員	定員に空があれば学期ごとの入会可
		(人)	(人)						
小児肥満のための指導者講習会 (第12回)	養護教諭，栄養士，保健婦，保母など	50	55	土曜日10:00～17:00	研修室，体育室	10.15	10,000	東京女子医大　村田光範教授 和洋女子大　坂本元子教授，体育事業部職員，職員	
〃 (第13回)	〃	〃	55	〃	〃	3.11	〃	〃	

名　　称	対象	定員	受講数	曜　日 時　間	場　所	期　間	料金	講師等	備　考
		(人)	(人)			(回)	(円)		
「新しい時代の育児」7期 やさしい心理学 ―心理学入門―	保健婦,保母,看護婦,助産婦など	20	33	火曜日18:30～20:30	研修室，会議室	5.12～6.9 5	15,000	東京外国語大学　田島信元教授，早稲田大学　大薮泰助教授，白百合女子大　柏木恵子教授，東京国際大学　詫摩武俊教授，こどもの城　吉田弘道	
「新しい時代の育児」8期 やさしい心理学 ―子どもの見方―	〃	〃	46	〃	〃	9.22～10.20 5	〃	日本総合愛育研究所　庄司順一主任研究員，東京学芸大学　飯高京子教授，愛育養護学校　津守真校長，早稲田大学　小嶋謙四郎教授，こどもの城　井口由子	
「新しい時代の育児」9期 やさしい心理学 ―相談・指導の実際―	〃	〃	37	〃	〃	1.26～2.23 5	〃	日本総合愛育研究所　川井尚愛育相談所長，東京学芸大学　長岡恵理氏，大宮小児保健センター　奥山真紀子医長，こどもの城巷野悟郎，植松紀子	

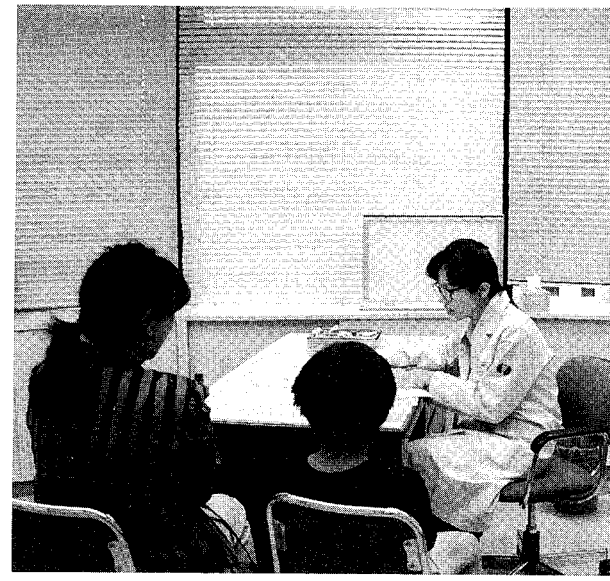
116

小児保健

(2)　小児保健部

小児保健部の活動は，以下の４領域にわたっている。すなわち，小児保健クリニックにおける診察・相談活動，〔こどもの城〕の他部門との連携のもとに行う講座活動，夏休みや開館記念特別期間などに実施する特別期間プログラム，そして研究活動である。

本年度もこれら４つの活動を，前年度から継続発展させる形で行った。また，前年度から月１回の割合で実施していた「赤ちゃんサロン」を本年度は月２回に増やして実施した。



広々として落ち着いた雰囲気の診療・相談室

1）診察・相談活動

クリニックでの診察・相談活動は，前年度同様に実施した。当クリニックでの診察・相談は，子育ての悩みや，子どもの体や心の発育・発達に関する問題を対象としている。これらの問題には，家族全体のかかわりや，家族の生活習慣，周りの生活環境が大きく影響していることが多い。そこで，当クリニックでは，一般の診療活動のほかに，会話を通しての相談活動に力を注いでいる。そのために，診療・相談はすべて予約制で行っており，相談に時間をとれるようにしている。これが当クリニックの特色である。

新規来所者数

	実　数 (人)
診察・相談	449
マタニティスイミング	106
合計	555

来所者の居住地域内訳

居住地域	人　数	%
渋　谷　区	81	14.6
世 田 谷 区	77	13.9
新　宿　区	17	3.1
港　区	33	5.9
目　黒　区	34	6.1
その他の23区内	143	25.8
都 内　(市部)	29	5.2
神 奈 川 県	67	12.1
千　葉　県	36	6.5
埼　玉　県	35	6.3
その他の都道府県	3	0.5
合　計	555	100.0

また，診療・相談に，医師，保健婦，看護婦，心理相談員，言語療法士，臨床検査技師などのさまざまな専門的立場の人が関与できることも当クリニックの特色である。

本年度の診療・相談への来所者の数，居住地域，来所時年齢，主訴・問題（相談内容）は表に示したとおりである。新規来所者数は449人であり，前年度の413人に対して30人以上増加した。また，相談件数は年間延べ数で2,904件であり，前年度の2,746件を約160件上回った。

初回来所時年齢内訳

	(人)
0	79
1	40
2	63
3	41
4	47
5	28
6	26
7	30
8	18
9	17
10	13
11	11
12～17	21
18歳以上	121
合　計	555

来所者の居住地域をみると，地元である渋谷区と，これに隣接する港区，新宿区，世田谷区，目黒区の地域で44％を占めた。このほかの区からの来所者は26％であり，23区内の居住者が全体の７割を占めた。次いで，交通の便が比較的良い神奈川県（川崎市，横浜市）からの来所も多かった。この傾向は，開設以来ほとんど同じである。

来所時の年齢についてみると，マタニティ・スイミング受講者である成人を除くと，前年度と同様，０歳～６歳の乳幼児が多く，小児の来所者の４分の３を占めていた。

新規来所者の主訴・問題内訳（重複あり）

主　訴・問　題	人数 (人)	%
ぜんそく・アトピー・湿疹	10	1.8
肥満	51	8.9
神経症・習癖・情緒障害等（遺尿・夜尿・緘黙・恐怖症など）	63	11.0
言語発達遅滞（疑いも含む）	58	10.2
精神・運動発達遅滞（疑いも含む）	22	3.9
自閉症	5	0.9
微細脳障害・学習障害・多動	1	0.2
育児・健康相談・健康診断	185	32.4
その他　心理面の相談（遊べない，社会的不適応など）	8	1.4
その他　身体面の相談（斜視，てんかん，脳性まひ，低身長，頭痛等）	50	8.8
ダウン症，その他の先天異常	13	2.1
マタニティスイミング受講者	106	18.6
合　　計	571	100

相談内容として最も多かったものは，育児・健康相談であり，32％であった。次いで，神経症的な問題，精神発達や言語発達の遅れ，肥満に関する相談がそれぞれ約１割となっている。

月別診療・相談件数（特別期間の無料相談コーナーの相談者を除く）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
診療	223	197	222	213	198	200	197	216	207	219	240	225
相談	23	60	37	28	13	25	36	23	22	37	22	21
合計	246	257	259	241	211	225	233	239	229	256	262	246

（診療合計　2,557件　相談合計　347件　計　2,904件）

2）講　　座

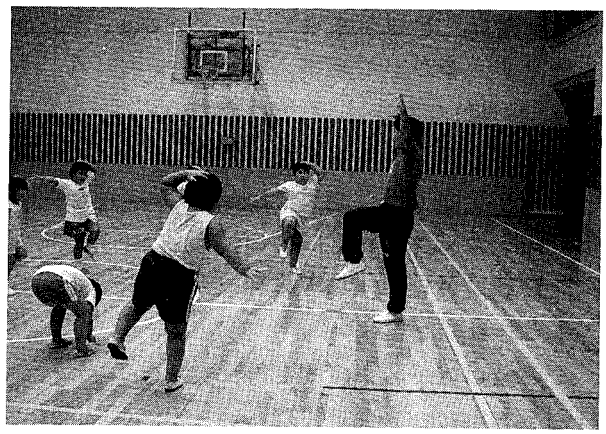
(ア)　健康スポーツ教室（太りすぎクラス）第Ⅸ期

前年度同様１年コースとした。受講者は，１学期25人，２学期25人，３学期25人。中途退会や中途参加があって，１年間に延べ34人が参加し，１年間通して参加した者は15人であっ

た。

活動としては，体育事業部のスタッフによる運動プログラムと，小児保健部のスタッフによる医学・栄養面での個別指導を行った。運動プログラムは毎週実施し，個別指導は，各学期の始めと終わりに実施した。

第Ⅸ期受講期間中に肥満度が減少した者は，1学期11人，2学期12人，3学期10人であり，受講者の4割であった。



体育事業部の協力を得て，体育室で運動プログラム

また，学校や幼稚園，保育所などの小児保健の現場において，小児成人病や肥満への関心が高まり，指導の重要性が認識されてきたためであろうか，この教室には，本年度19件の見学・視察者があった。このことは〔こどもの城〕の開館以来，医学，栄養，運動の3領域から連携して実施してきたこの教室活動が，館外から評価されていることを示しているものといえよう。

(イ)　マタニティ・スイミング

この講座は，妊娠中の生活を心身ともにより快適に送ってもらうことを趣旨としている。体育事業部と小児保健部の共同事業とし，さらに日本赤十字社医療センター（産科および分娩室）の協力を得て実施した。

プログラムはこれまでと同様，毎週火・木曜日に月7回実施された。水泳は原則として，午前11時から12時で，検診を水泳前後に行い，そのほかに月1回レクチャーの時間を設けた。定員は35人であるが，冬季を除いて毎月10人前後の受講待機者がいた。

マタニティ・スイミング　レクチャーのテーマと講師（敬称略）

月日	内　　容	講　　師
4．21	いいものを上手に使う	小保　中澤恵子
5．12	乳房管理のお話	日赤　関麻里子
6．11	安産にむけて	日赤　浦野晴義
7．7	おいしく食べて元気な赤ちゃん	小保　太田百合子
8．18	お産の呼吸法について	日赤　市川英子
9．17	パパとママの安心育児	小保　巷野悟郎
10．20	茶話会	小保　植松紀子
11．12	乳房管理のお話	日赤　中村玲子
12．8	サロンへのおさそい	小保　植松紀子
1．14	ザ・カルシウム	小保　太田百合子
2．18	お産の呼吸法について	日赤　市川英子
3．16	お産の体験	小保　梅田幸恵

これまでの活動報告においてすでに述べたことであるが，マタニティ・スイミングを行うことにより，身体的な面においては，治療を受けるほどではない各種の軽い自覚症状（腰背痛，睡眠不良，疲労感，食欲不振，便秘など）の軽減に効果が考えられるようである。特に，妊娠後期に多く訴えがみられ

る腰背痛は，水泳をすることにより軽減する者が多く認められた。一方，精神的な面では，教室が友人づくりやイライラの解消になるなど精神衛生面で役に立つ，毎回行う健康チェックが妊娠中の自己の健康管理に役立つ，などの利点が考えられる。

マタニティ・スイミング　月別新入会生・在籍者数・出席率

月	新入会者数	総人数	総人数×7	出席総数	出席率
	(人)	(人)	(人)	(人)	(%)
H 4.4	15	38	266	196	73.6
5	5	37	259	181	69.8
6	11	37	259	177	68.3
7	9	33	231	168	72.7
8	13	32	224	146	65.1
9	13	34	238	156	65.5
10	10	30	210	154	73.3
11	10	30	210	167	79.5
12	9	31	217	147	67.7
H 4.1	8	25	175	117	66.9
2	4	17	119	89	74.8
3	10	24	168	120	71.4
	117	368	2576	1818	70.6

この教室は，あくまでも健康な妊婦を対象に，より健康な妊娠生活を援助することを目的としているが，一部の受講者において，体調が悪いにもかかわらず，水泳を継続するものも見受けられたため，今後も妊娠経過のチェックを怠らないよう，また，主治医との連携も十分に行いながらより安全なプログラムを実施していきたい。

なお，本教室の卒業生は，小児保健クリニックの乳幼児健診の受診，体育事業部での「すくすくランド」や「母と子のパチャパチャスイム」の受講，保育研究開発部の活動への参加など，〔こどもの城〕とのつながりを通して仲間づくりを実現している場合も多い。また，平成3年度から始めた「赤ちゃんサロン」にも，卒業生が赤ちゃんと一緒に参加している姿も見受けられる。

水泳の前後に検診を行うマタニティ・スイミング

(ウ)　母と子のリトミック（ダウン症クラス）第Ⅸ期

3～5歳のダウン症児の親子10組を対象とし，音楽や遊びを通じて母子のかかわり方や子どもの発達の見方を考えることを目的としたクラスである。音楽事業部の協力のもとに，母子一緒のリトミック活動を週1回1時間，4階の音楽スタジオで実施した。

前年度同様，1年コースで実施したが，1学期12組，2学期12組，3学期10組の親子が受講した。通年で参加したものは7組であった。ここでの活動は，障害児のための教育・訓練というよりも，遊びを主体とした楽しい内容であり，母親や友だち，スタッフとのかかわり合いの中で，自分の気持ちを表現できること，さまざまな要素のプログラムの中から最も魅

力あるものを見つけてもらうことをねらいとしている。さらに，何よりも重視している点は，母親自身がリラックスできることであり，このことが実現することにより，子どもの情緒が安定し，さまざまな活動に積極的に参加できるようになると思われる。

プログラムの内容は，リズムに合わせて体を動かす，母子のスキンシップ，造形活動，リラックス，手遊び・指遊び，リトミック体操などさまざまな要素の活動を取り入れている。これらの活動を通じて，音楽や動作を媒体としたノンバーバル（言語を介さない）コミュニケーションを持つことができ，それが子どもの対人交渉能力の発達を促すことにつながっていくことが考えられる。今後も音楽の利点を生かし，参加する母子の個性や状態に合わせたプログラムを提供していきたい。

(エ)　夏休み健康教室集中講座（太りすぎクラス）（8.25～27）

これまでの，健康スポーツ教室や肥満外来のデータを分析した結果，肥満を主訴とした来所者の9割は，就学前の幼児期に太り始めていることが分かり，幼児期から肥満の改善や予防を指導する必要性が明らかになってきた。本年度は，幼児を対象としたこの集中講座の3回目である。小児肥満の原因や，肥満と健康との関係を理解させ，肥満改善の方法を身につけさせることを目的に実施した。内容としては，母親には，医学・栄養・運動面からの講義と個別の栄養指導を行い，並行して児童には，体育室において運動プログラムを行った。

受講したのは4～6歳の親子8組であり，肥満度は41％～81％であった。このうち全員について，個別の保健指導等を継続的に行い，さらに2例については運動指導も継続して行った。

(オ)　小児肥満のための指導者講習会（第12回10.15，第13回平成5年3.11）

主として学校保健関係者など，子どもの肥満の予防と改善について指導を行う立場の人を対象とした講習会である。〔こどもの城〕オープン以来継続している「健康スポーツ教室」の経験を踏まえ，さらに学校などでの現場指導に役立つよう，実技指導を取り入れたり，質問時間を長く設けるなど，より具体的，実践的な内容となるよう配慮をした。2回で107人が参加したが，参加者の約5割が栄養士，3割余りが保健婦，残りが養護教諭などであった。地域での指導の動きを反映してか，保健所関係の栄養士や保健婦の参加が多かったことが本年の特徴であった。2回とも全国各地から定員を超える申し込みがあり，地域保健や学校・保育現場における肥満への取り組みの積極的な動きを改めて感じさせられた。

(カ)　講座「新しい時代の育児」（第7～9期）

本講座は，平成2年度に開設し，3年目を迎えた。変化しつつある社会環境，情報のはんらん，そして科学の進歩によって変容してきている育児について，もう一度情報を整理し，育児の原点や理論，その実践方法を再考することにより，これからの子育てを考えることを趣旨とした講座である。対象は，保健婦，保母等の小児保健関係者であり，定員20人で行った。

本年度は1年間を通して心理学を取り上げ，7期「やさしい心理学～心理学入門」，8期「やさしい心理学～子どもの見方」，9期「やさしい心理学～相談・指導の実際」の内容で実

施した。受講者の数は，7期が33人，8期46人，9期37人であり，3期とも定員を大幅に超え，たいへん好評であった。

(キ)　赤ちゃんサロン

このサロンは，母親の子育て支援活動の1つとして，平成3年度から始めたものである。生後3か月から2歳までの乳幼児を育てている母親，そして妊婦が対象である。母親とこれから母親になろうとしている妊婦が自由に話ができ，意見や情報を交換する場を提供することがこのサロンのねらいである。また，育児をサポートする意味で，小児科医，栄養士，保健婦，心理相談員が話の輪の中に入り，随時相談を受けている。

本年度から回数を月2回に増やし，第2と第4火曜日の1時半から3時半まで行った。口コミで広範囲の地域から参加者が集まり，平均40組の親子が参加した。開かれた育児支援活動ということで注目され，新聞やテレビの取材もあった。母親はこのような育児支援の場を求めているのであり，今後は，〔こどもの城〕の全館的な活動として，回数を増やすことなどを検討する必要がある。

赤ちゃんサロンは第2と第4火曜日の月2回

3）特別企画（催し）

(ア)　子育て相談コーナー（ゴールデンウイーク，冬休み）

館内での小児保健部の活動紹介を目的として，一般来館者を対象に無料の相談を実施した。相談件数は，ゴールデンウイーク6件，冬休み1件であった。

(イ)　こども健康フェスティバル（7.28～30）

夏休みに行っていた子育て相談コーナーを拡大する形で，前年度に引き続きエントランスホールで実施したものである。肥満度のチェックや健康チェック，体脂肪分の割合の測定，血圧測定を一般来館者に対して行うとともに，育児相談も行った。3日間の延べ参加者は452人であり，個別相談は6人が受けた。

(ウ)　こども一日ドック（夏休み，冬休み）

学校の休みを機会に，心身両面からの総合健診を行い，生活の見直しを図ることを目的に，体育事業部との協力事業として小・中学生を対象に実施した。内容は，医師による診察や各種の検査（呼吸機能，聴力，身体計測，尿検査，血圧測定）による医学的所見と，健康開発室で行った体力テストの結果，さらに生活習慣調査，食生活調査，心理調査などの分析結果を総合的に考え合わせた所見に基づき保健，生活指導を行うものである。希望者には，血液

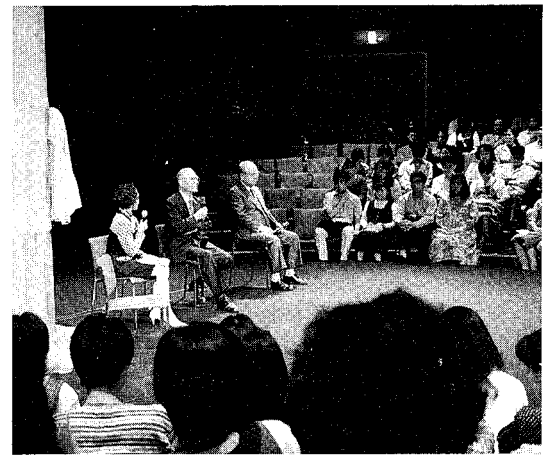
検査も追加して行った。夏休み4人，冬休み17人の受診があった。ほとんどは特に異常や問題はなかったが，肥満傾向を認め当クリニックで再検査したもの2人，精密検査のために他の医療機関を紹介したものが3人あった。

(エ)　第7回「こどもの城」小児保健セミナー（10.24）

本セミナーは，〔こどもの城〕の開館記念事業の一環として，毎年開催しているものである。本年度は，10月24日に9階研修室を会場として，「変わる育児事情――平成4年版　子育ての論点」というテーマのもとに行われ，参加者は93人であった。

演題として，教育としつけ，多様化する育児，子どものスポーツの3題を選んだ。3人の講師の先生方の講演と参加者からの質疑応答で，午前10時半から午後5時半までのプログラムであった。

セミナーは，まず，宮澤康人放送大学教授が「子どもの教育としつけ」の演題で，子育ての様態（モード）の歴史的変遷について述べた後，子育てと子どもの成長に影響する無意識について話をされた。続いて，高山英男子ども調査研究所所長が「多様化する育児と子の立場」と題し，多様化する親の子育て意識として“おしゃれ育児”，“幸せ育児”，“シックスポケット育児”などについて話をされた。最後に小野三嗣川崎医療福祉大学教授が「子どものスポーツ」という題で講演を行い，過熱する子どものスポーツ・運動と健康との関係について話をされた。



演奏の合間に医師の話（マタニティ・コンサート）

(オ)　こどもの城マタニティ・コンサート（第9回）（4.29）

妊婦自身が楽しめ，リラックスできることを目的に，妊婦とその夫および将来子どもを持ちたいと思っている人を対象に，4月に青山円形劇場で行った。出演はアカペラ（無伴奏で歌う）のタイムファイブ。また，これまでと同様に，演奏の合間に産婦人科と小児科の医師の話や助産婦による呼吸法の指導を行い，妊婦向けの特色ある内容とした。1日2回の公演で412人の入場者があった。妊婦にとって安全で心地よいコンサートとなるよう，会場のいすや空間，照明などの環境面にも十分配慮をした。

4）研究活動

(ア)　幼児肥満の運動指導について

幼児の肥満児に対し，生活指導，食事指導を行っているが，これに加えて，保育研究開発部（運動指導担当）と協力して運動指導も行っている。これまで行ってきた経験を整理することを通して，肥満幼児に運動指導を行う際の留意点や具体的方法についての研究をした

(第39回日本小児保健学会で報告)。

(イ)　肥満児指導者の抱える問題点

小児肥満に対する関心は年々高まっている。このような状況のなかで，実際に指導を行っている者がどのようなことで困っているのかを知ることは大切なことである。〔こどもの城〕では，小児肥満のための指導者講習会を開館以来11回開催している。この講習会に参加した指導者57人の資料に基づき，指導者が抱えている問題点についてまとめた（第39回日本小児保健学会で報告)。

(ウ)　こどもの城「赤ちゃんサロン」における子育て支援

〔こどもの城〕で行っている子育ての支援活動である「赤ちゃんサロン」の活動内容を紹介し，同時に母親が求めている育児支援活動とは何かをさぐった（第39回日本小児保健学会で報告)。

(エ)　こどもの城小児保健クリニックにおける「こども一日ドック」5年間のまとめ

「こども一日ドック」は体育施設と小児保健施設がある〔こどもの城〕でこそできる特徴のある保健活動である。新しい試みとして，このドックの内容を紹介するとともに，このような活動の意義について検討した（第39回日本小児保健学会で報告)。

(オ)　福祉機器の安全性と標準化に関する研究

国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所等と共同で，発達促進を目的とした遊具の開発を行い，その臨床評価を行った（厚生省心身障害研究「福祉機器の開発及び福祉関係情報処理に関する研究＝主任研究者・穴山徳夫」のなかでの分担研究)。

(カ)　母子保健における情報の整理と育児への応用

街にはんらんする育児情報の実態や，母親が情報をどのように受け止めているのかを調査し，育児情報のありかたについて検討し，よりよい情報の発信と受け止め方を考察するのが研究目的である（厚生省心身障害研究「少子化時代に対応した母子保健事業に関する研究＝主任研究者・日暮眞」のなかでの分担研究)。

(キ)　父親の役割と保健指導に関する研究

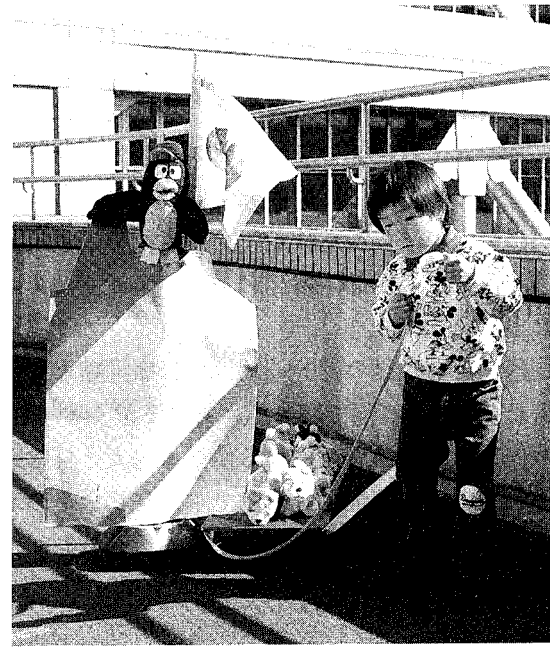
育児における父親の役割を明らかにし，その知見を保健指導や相談に役立てることを目的としている研究。このうち，相談事例の分析から父親の役割をさぐる研究を担当した（厚生省心身障害研究「少子化時代に対応した母子保健事業に関する研究＝主任研究者・日暮眞」のなかでの分担研究)。

(ク)　一般児童における「動物家族画」の研究

子どもがとらえている家族関係を，家族を動物に置き換えて描いてもらうという投影法の手法により，把握することを目的としているのが本研究である。心理臨床の実際の活動のなかでも有効性が期待される研究である。本年度は，自己像と父親像，母親像との関連性について検討した（日本心理臨床学会第11回大会で報告)。

8 企画部

子ども活動は，主に体育，プレイ，造形，音楽，AVの各事業部が中心となって担当している。それぞれのプログラムは各事業部ごとに計画されているので，開催時間や内容などについての事前の調整が難しい。特に来館児・者の多い特別期間には，年齢層・数および〔こどもの城〕内のスペースの活用，館内の人の流れ，実施時間等々を考慮し，プログラムが効果的に実施できるように，各事業部のプログラムを視野に入れて〔こどもの城〕全体の活動を展開するように調整する必要がでてくる。各事業部の専門性が尊重されればされるほど全体に目を配った調整機能が求められ，これが企画部の重要な仕事と考えられる。しかし〔こどもの城〕が0歳児から，その父母を視野に入れた活動の展開が要求されるので，すべての来館者たちの期待と選択，好みにこたえる活動を用意することは容易なことではない。



ボクもチャレンジゲームに挑戦!!

このため各事業部から提案される事業の内容を読み取り，対象年齢，展開の方法・時間，予想される参加人数等を吟味しながら各スペースでの来館者の動線をイメージし，全体の行事を構成することが重要になる。あるスペースが混雑しているのに，他のスペースは参加人数が少なくプログラムの気勢が上がらないなどの事態が生じないように，それぞれのプログラムをバランスよく組み立て，全体の流れに心を用いている。また，行事の構成ばかりではなく，来館者が一日楽しく快適に過ごすことができるよう，休憩室，食事スペース，授乳室等を用意し，快適な〔こどもの城〕にするために，来館児・者に配付する資料，案内なども含め，総合案内の業務も重要な仕事の一つになっている。

このようにみてくると特別期間重視の活動のように読み取れるが，平常期間における入館者増加対策，グループ活動の活性化，祝日・記念日の対応など，1年を通して各事業部の事業との調和を考え，全体事業の活性化に向けてのリーダーシップを事業本部がとれるようにバックアップすることが求められている。

特に，子どもの生活環境が激しく変化しているこの時代に〔こどもの城〕が担う社会的使命を正確に認識し，各事業部がその遂行のため協力協調がより有効にできるように努めた1年であったと思う。

平成4年度に，各事業部の事業に加えて企画部が分担した事業は以下のとおりである。企画部は決してイベントを行う部門ではなく，〔こどもの城〕の使命を各事業部とともによりよく遂行していこうとする過程を読み取っていただきたい。

1）児童福祉週間

(ア)　こどもフェスティバル（5．3～5　青山円形劇場）

来館児・者が多いゴールデンウイーク期間に，全館をこども活動エリアとして活用する一環として，青山円形劇場を使用し「こどもフェスティバル」を開催した。多くの親や子どもに，気軽に，しかも「ナマ」で音楽や演劇に触れてもらうことを目的とした。演目については，音楽と人形劇，参加劇とバラエティーに富む内容にし，さまざまなニーズに対応できるよう配慮した。

各回とも定員の280～320人がほぼ満席となった。内容的にも完成度が高く，参加した子どもたちは，目の前で繰り広げられる演奏や演技を楽しんでいた。また，5日に上演された「密林族」は，出演者が扮する酋長・村人と探検家のやりとりの中に会場の子どもたちが引き込まれるという参加劇。途中でやり作りやそのやりを使った遊びが入ったり，祭りのダンスを一緒に踊ったりする。劇場全体を舞台にした，多人数に対応する参加型の演劇の1つの例を紹介できたと思う。

＜演目及び内容の一覧＞

5月3日	①11:00 ②12:30 ③14:00 ④15:30	ロバの音楽座＝西洋古楽器のコンサート 木ぐつの木＝人形劇「おばあさんの冒険」ほか
4日	①11:00 ②12:30 ③14:00 ④15:30	ロバの音楽座＝西洋古楽器のコンサート トロッコ工房＝腹話術と人形劇「まいごのまめのつる」
5日	①11:00 ②12:30 ③14:00 ④15:30	ロバの音楽座＝西洋古楽器のコンサート 人形劇団ホッピー＝参加劇「密林族」

(イ)　ゴールデンウイーク人形劇フェア（5．4・5　9階研修室）

子どもたちに親しまれている人形劇をより身近に感じてもらうため，観劇だけでなく，実際に自分で人形を作ることやそれを使った人形遊びへと活動を広げた「人形劇フェア」を開催した。人形劇を体験し，楽しさを知ってもらうことが目的。

運営を東京近郊の大学の人形劇サークルの連合体である“ジャングルジム”に依頼し，協力して事業を進めた。また，この活動を通して，児童文化にかかわる大学のサークル間のつながりを育成することにも寄与した。

毎年恒例となったこのイベントも，毎年新しい工夫が加わっている。本年度は，オリジナルの人形劇を軸に，制作のコーナーや体験のコーナーを結び付ける特徴あるものになった。今後の課題としては，他のイベントとの時間調整や内容のバッティング（他の場所でも人形劇が上演されているなど）についての配慮，調整の必要がある。

＜実施日時＞

5月4・5日（各日とも11:00～16:00）

＜内　　容＞

○パペットアドベンチャー（参加材料費 500円）

ウォークラリーのように，材料（頭，布，フェルト，毛糸など）を各ポイントごとに受け取りながら人形を作るコーナー。完成すると棒使い人形になる。今回はテーマを「めざせ！太陽の丘を」と題し，スタッフの人形劇の上演と連動させた。材料をもらうポイントの装飾もテーマに合わせ，作った人形で遊ぶ舞台もストーリーに合わせたセットであった。

○簡単人形コーナー

小さい子どもや子どもだけでも参加しやすいように，材料費のかからない簡単な人形作りのコーナーを用意した。材料として，封筒や空容器など身近な素材を使い自由に工作するコーナーとした。

○人形劇の体験コーナー

会場で作った人形を使い，人形劇のセット（舞台）で自由に遊ぶコーナー。山や川，滝，神殿のセットを背景に，それぞれのイメージを膨ませて人形遊びをした。

○人形劇の上演

体験コーナーで使っている舞台で，子どもたちが作った人形と同様の人形を使い，スタッフが人形劇を演じた。みんなに作ってもらった人形たちが，それぞれに意思を持ってしゃべりだす。心をもらうため，旅行しながら山や川を越えて，最後に神さまのところにたどりついて心をもらう――というストーリー。

2）夏休み特別期間

(ア) おはなし探検隊～お菓子の家ってどんなかな？～

（7.21～8.9　1階アトリウム・ギャラリー）

＜実施の目的と実際＞

幼児から大人までが楽しめる，絵本やお話に関するプログラムとして，今年初めて「おはなし探検隊」を実施した。幼児を中心とする家族連れが多く来館する夏休み前半，「子どもたちがもっとお話を好きになるために」という目的で，企画・運営された。

本物の〝お菓子の家〟も展示

お話を好きになる第一段階は，まずお話を身近に感じること。それには実際にお話を聞けること。そして，お話の世界を自分のものとして体験できること。これらが大切だと考え，子どもたちの興味を引くものとして，具体的なアイテム“お菓子の家”をテーマとして取り上げた。これは，大人にとってもきっと懐かしい話に違いなく，親子向けにもなると考えたからだ。

アトリウム・ギャラリーはもともと展示スペースであるため，ここでの展示以外のイベントはなかなか難しい。しかし，子どもにとっては見るだけでは十分な魅力があるとは思えないので，体験する楽しさを取り入れることが課題となった。

会場前半には，㈳日本洋菓子協会連合会の協力を得て，本物のお菓子の素材で作られた植物やお菓子の家を展示した。本物のお菓子と聞いて子どもたちが殺到したため，「さわらないでね！　たべないでね！」の表示を急きょつけることとなった。

お菓子の家のさまざまなイメージを集め，紹介する目的で，絵本「ヘンゼルとグレーテル」の挿絵（お菓子の家の場面）をパネルにして，その展示も行った。パネルは，子どもの目の高さに合わせて展示した。また，グリム童話の「ヘンゼルと～」を取り上げたので，ドイツのお菓子と日本のお菓子のイメージの違いを探る意味で，お菓子そのものについての説明パネルも紹介した（前出；連合会の協力）。こちらは大人に人気だった。

会場中程では，ワークショップ「魔法のワッペンをつくろう」が行われ，少ない時で１日280枚，多い時で790枚ものワッペンが作られた。クレオラの協力で蛍光マーカーを用意し，それで絵を描いて作ったワッペンをつけて「魔法の森」に行くと，不思議なことが起きる（発色する）というもの。これは，実物のお菓子を使ったワークショップができなかったので，代わりに魔法の部分に注目して取り入れたプログラムだった。

会場奥のスペースでは，日替わりで絵本の読み語りが行われた。外部から語り手４人に来ていただき，「ヘンゼルとグレーテル」をはじめ，お菓子の出てくる本などの読み語りをお願いした。延べ10回実施。回によって参加人数は異なったが，小さな子どもが何冊も聞きたがったり，大人も一緒に楽しんだり，さまざまな風景が見られた。「子どもとお話」だけでなく，親と子の関係まで考えさせられる機会となり，主催者もたいへん勉強になった。

＜今後の課題＞

お菓子でできた植物や家の展示，ワークショップはたいへんな人気を呼んだが，「このイベントを見て，自分のお菓子の家のイメージを探ろう」という目的からは，少しそれてしまったようにも感じられた。会場全体を，１つのテーマのもとに展示品で埋めるという作業は難しいが，今後も，あくまでも「体験」のおもしろさを重視した，しかも「ギャラリーならでは」のプログラムづくりを進めていきたい。

１階から２階まで通り抜けで実施したが，入館してすぐの場所なので，「遊び場への通り道」程度の感覚でいる来館者もあるようで，中にはあまり落ち着いて見ようとしない人もあった。じっくり参加してもらえる雰囲気づくりも課題の１つだろう。

また，展示物に関しては，文字が多いと読み切れないので興味を引かないということも，考慮すべき点である。

「子どもとお話」のよりよい関係づくりを目指すためには，実際に語りを聞いたり，絵本を自分でめくるなどの体験が大前提となる。その上で応用編として，親子で，また幼児からお年寄りまで楽しめるプログラムを作っていくのが，全体としての課題であろう。「探検」するにふさわしい，示唆に富んだ昔話などを中心に，見て・参加して楽しいお話の世界を，ひろ

げて行きたいと考えている。

(イ) **おはなし広場**（7.26～8.7　地下1階フリーホール）

学齢前の幼児・小学校低学年とその親たちを主な対象とした，お話や人形劇に親しむコーナーで，財団法人松戸市おはなしキャラバンの協力を得て行うのは今回で5回目。

休館日を除いて連日14日間の公演を行い，午前・午後にわたりさまざまな「おはなし」が繰り広げられた。今年は例年より期間が長く，後半（8月3日～）は2・3人のスタッフによる「ミニおはなし会」が開かれた。当初は，素ばなしや紙芝居など小規模に行う予定だったが，思い切って人形劇も加えていった。素ばなしは，和服姿で日本民話を語るなど雰囲気をかもしだし，小さい子どもたちも熱心に聞き入っていた。

全体を通して最も人気を集めた催しは人形劇で，観客の子どもたちの反応を大事にして進行された。興味ある楽しい作品がたくさん紹介されたので，親子で満足できたようだ。

全体の構成はA，B，Cの3プログラムで成り立っており，7月26日から8月2日までは1日おきにA，Bプログラムが実施された。主な内容は紙芝居，映写，人形劇，絵巻物，大型絵本。

8月3日以降はCプログラムが実施された。内容は絵本，紙芝居，素ばなし，人形劇，映写，絵巻物。このCプログラム「ミニおはなし会」は今年初めての企画で，少人数で行われたが，盛りだくさんの内容となった。

特に素ばなしは例年になかったもので，和服姿で日本民話を語るなど，雰囲気づくりもたいへんよかった。また，1階ギャラリーで「ヘンゼルとグレーテル」についての展示が実施されていたのに合わせて，連日，人形劇「ヘンゼルと～」を上演，ギャラリーへの動線を考慮した。

幼児・小学校低学年生とその親を対象に「おはなし広場」

＜総　括＞

人形劇は子どもの興味をうまく引き出す魅力あるもので，「語り」という静かにお話を楽しむ環境も新しく作られ，子どもがお話に触れる，よい機会となった。

期間前半は全体の来館者が少なく，キャラバン公演も人がまばらな出だしとなった。後半は，スタッフ・機材不足に〔こどもの城〕側のスタッフ不足なども手伝って不自由な点もあったが，キャラバン・スタッフが情熱的に取り組んでくれたので，子どもたちは満足してくれたようだ。

子どもたちの大好きな絵本や，普段あまり接することのない外国の絵本などに触れること

ができたばかりでなく，親子がともにお話を楽しむ機会ともなり，意義深い催しとなった。

＜上演内容＞

	時　　間	プログラム	内　　容
Aプログラム	11:30～12:00	a）おはなし会	a）紙芝居，絵巻物，絵本など。題材は日本民話，外国の民話，最近の絵本など。特に，夏～秋のエリック・カール絵本原画展開催に則し，氏の作品を多く取り入れた。 b）お母さん方対象の講座で，昔話のメッセージの読み取り方，子どもへのお話の与え方など。 c）大型の人形劇で，キャラバン公演のメイン。全期間を通して3話が上演された。映写なども併せて上演。 d）丸発泡，毛糸，布を用いた親子で参加できるパペット作り（無料）。 e）希望者にマン・ツー・マンかそれに近い形で絵本の見せ語りをする（フリータイム）。 f）絵本，紙芝居，素ばなし，絵巻物，人形劇の上演。素ばなしは画面を使わず語りだけで進めるもので，内容は日本民話。 g）その他：自由に見られる絵本の展示／人形の展示……実際に人形劇で使われる人形の展示は実際に触って遊べるようになっていたため，あらゆる年齢層に喜ばれた。
	13:00～13:30	b）おはなし講座	
	13:30～14:30	c）人形劇	
	14:30～15:30	d）らくらく人形づくり	
Bプログラム	11:30～12:00	a）おはなし会	
	13:00～13:30	e）おはなしタイム	
	13:30～14:30	c）人形劇	
	14:30～15:30	d）らくらく人形づくり	
Cプログラム	11:30～12:00	f）おはなし会	
	13:00～13:30	e）おはなしタイム	
	13:30～14:00	f）おはなし会	
	14:00～14:30	e）おはなしタイム	
	14:30～15:00	f）おはなし会	

(ウ)　第4回「こども卓球大会」（8．6・7　体育室）

平成元年から夏休み期間中に東京都内の児童館に呼びかけて開催してきたこの大会は，本年度が第4回目。8月6・7日の両日，〔こどもの城〕体育室で開催した。参加チームは小学生の部32チーム，中学生の部18チーム。応援を含めた延べ参加者数は約450人。

都内児童館の相互交流が主な目的だが，技術的にもレベルの高いものである。卓球というだれもが参加できるスポーツを通して，児童館活動が振興するするよう願っている。

熱戦の結果は以下のとおり。

＜小学生の部＞優　勝　杉並区立桃井児童館　　第3位　杉並区立高円寺北児童館A
　　準優勝　文京区立根津児童館　　第4位　杉並区立高円寺北児童館B
＜中学生の部＞優　勝　杉並区立高円寺北児童館　　第3位　練馬区立平和台児童館
　　準優勝　日の出町立志茂町児童館　　第4位　北区立浮間児童館

(エ)　ウォーターアドベンチャー'92（8．14～23　屋上ふしぎが丘）

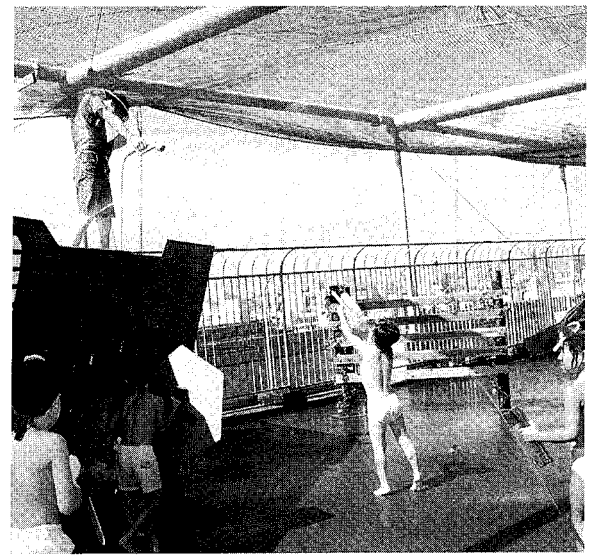
夏の気候にあった，屋外でのダイナミックな“ガキ大将遊び”を行い，これを通して子どもたちの持っている冒険心や創造性を喚起すると同時に，グループを作ることによって〔こどもの城〕を訪れた見知らぬ子ども同士の交流を図り，仲間を作って遊ぶことの楽しさを体験することを目的とした。夏休みに来館する子どもたちに恒例のプログラムである。

この遊びは，子どもたちがあるストーリーに従って，スタッフ扮する敵を攻撃するという，水鉄砲やスプリンクラーなどを使って大型の水遊びを展開するゲーム。幾つかのゲームエリ

アの中を，敵の攻撃を受けないように（濡れないように）スタッフの用意した難関に立ち向かいながら進んでいく。毎年異なったストーリーを設定するが，本年度は“海賊船”をモチーフに全体を構成した。

期間中は天候にも恵まれ，毎日大勢の子どもたちがゲームに参加した。恒例となっているせいか，来館児もこの時期にこのプログラムを実施していることを知った上で参加している人も多く見受けられ，季節行事として定着している一面がうかがわれた。

水に濡れるなど，子どもたちには参加しにくい面もあるが，あらかじめ水着を用意していたり，服を脱いで参加する子どももいた。また，夢中でゲームに取り組む子どもたちの姿に驚くと同時に，それを温かく見守る保護者の姿が印象的だった。



大型の水遊び「ウォーター・アドベンチャー」

＜ゲームストーリー＞

子どもたちの夢と希望の象徴である“聖なる旗”が，その昔世界中を荒し回り，人々を脅やかした大海賊の子孫に奪われてしまった。この旗がないと，子どもたちの心は寂しさと悲しさでいっぱいになってしまう。みんなの瞳に明るい輝きを取り戻すために“聖なる旗”を取り戻そう。今，心をひとつにして！

＜プログラムの概要＞

①**作戦指令本部**（ふしぎが丘最下部）＝ストーリーを子どもたちに説明する。受け付けに集まった順で４～７人ぐらいのグループを作る。水鉄砲と盾を使って海賊たちと戦い，“かぎ”と“クリスタル”を手に入れ，悪漢船長を退治してくることを説明する。

②**訓練所**＝グループごとに水鉄砲と盾を分担し使い方を習う。そして，上手に使うことができるように練習をする。

③**ゲリラ地帯**＝強力な水鉄砲やスプリンクラーを付けた“スーパー戦車”を操るゲリラたちの攻撃をうまくかわしながらコーナーの奥まで進み，箱の中からかぎを取ってくる。

④**船の墓場**＝ゴムひもが張りめぐらされている“くもの巣エリア”を，落ちてくる水爆弾や敵の攻撃をかわしながら進む。次に，スプリンクラーの噴水のある池に架かった橋を渡って，コーナーの奥まで全員で進み，壷（つぼ）の中のクリスタルを取って戻る。

⑤**海賊船の船長との戦い**（ネット広場）＝難関をくぐり抜けて手に入れた“かぎ”と“クリスタル”を海賊船の門番に渡す。すると，船長を倒すための“聖なる剣”が渡され，ネットの中に入ることを許される。ネット広場の中は板と柱を使った障害物があり，迷路のようになっている。船長のいる海賊船には幾つかの穴が開いていて，その中の１つが船長の急所になっている。全員で力を合わせて“聖なる剣”を刺すと，船に穴が開き，船長が降参する。

そして“聖なる剣”を手に入れることができ，勇者として讃えられる。

(オ)　夏休みこどもフェスティバル（8.14～16　青山円形劇場）

夏休みの中でも一番来館児・者の多い旧盆の時期に，3日間にわたって青山円形劇場で「夏休みこどもフェスティバル」を開催した。ふだん劇場公演で使用している劇場空間を一般来館活動に開放し，多くの人に〔こどもの城〕を楽しんでもらうと同時に，劇場空間ならではの楽しさを体験してもらうのが目的。人形劇などを実施してきた。

今回は，短編で楽しいプログラムにしたいと考え，下記のプログラムを行った。

	11:00～12:00	13:00～14:30	15:30～12:30
8月14日（金）		井村淳と仲間たち「ドテーン！」ほか短編5編で構成	井村淳と仲間たち「ドテーン！」ほか短編5編で構成
8月15日（土）	井村淳と仲間たち「ドテーン！」ほか短編5編で構成	人形劇団・木ぐつの木「海のぼうけん」	人形劇団・木ぐつの木「海のぼうけん」
8月16日（日）	れもん座「たっちゃんといっしょ」	れもん座「たっちゃんといっしょ」	れもん座「たっちゃんといっしょ」

「井村淳と仲間たち」は「ドテーン！」「たこたこあがれ」「忍者ウラガエシ」「どんぶらこっこ・すっこっこ」「桜はだれがすき」の短編5編を軽妙な構成で上演。子どもたちを歓声の渦に巻き込んでいた。人形劇団・木ぐつの木は，夏らしく「海のぼうけん」を上演。円形劇場の空間を生かし，照明を効果的に使って会場全体を海の情景で包み込み，子どもたちを物語の中に引き込んだ。

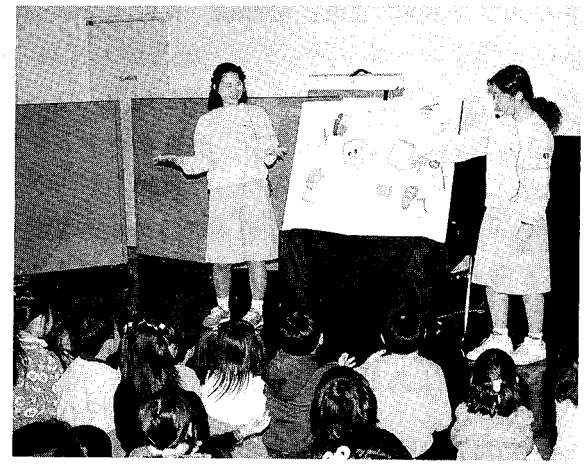
また，ストーリーは環境問題を扱ったもので，子どもたちの関心を集めた。筒井啓介の作品を中心に上演している「れもん座」は，子どもたちの身近な話題を取り上げた「たっちゃんといっしょ」を上演。子どもたちの共感と共鳴を呼んだ。

入場者は毎回320人の定員いっぱいで，述べ2,600人が楽しい夏のひとときを過ごした。

(カ)　あそびのおもちゃ箱（8.27～30　8階研修室）

夏休み特別期間最後の催しとして，ボランティアの運営による「あそびのおもちゃ箱」を開催した。これは，「見る・作る・遊ぶ」という3つの側面から人形遊び，ごっこ遊びを体験できる場を設定し，紙コップ人形づくりのワークショップと人形劇等の1日2回の公演を盛り込んだ催しとした。同時に，日常的に活動しているボランティアグループの発表の機会ともなった。公演は，女性ボランティアの人形劇・影絵，青年ボランティアの人形劇・絵本・パネルシアターの5グループが参加した。一方，1日平均200人を超える参加者があった人形作りのワークショップは，幼児だけでなく，男児を含む小学生の参加もあり，また親子で遊

ぶ光景も多く見られた。しかし，8階研修室は来館者の多いこの期間に利用するには十分なスペースとは言いがたく，今後の課題としたい。



ボランティアが運営した「あそびのおもちゃ箱」

3）開館記念特別期間

(ア) 開館7周年記念「すすめ！チャレンジャー」（10.31, 11.1, 3 屋上ふしぎが丘）

開館記念行事としてボランティアが屋上ふしぎが丘で運営する「チャレンジゲーム大会」も毎年恒例となった。本年度は“冒険の秋”をテーマに，動きのあるゲームで構成した。「魔球の伝説」「忍法水ぐもの術」「大ハード」「南極犬ゾリレース」「コロンブスの大航海」「あひるの決闘」と，各ゲームのタイトルは映画の題名から取り入れた。

当日は，挑戦している子どもだけが楽しむのではなく，順番待ちで並んでいる子どもたちや保護者までもが応援できるような雰囲気作りに配慮した。しかし，年々大がかりになる傾向があり，「チャレンジゲーム」が本来持つ「単純・明快で体力や年齢にかかわらずだれもが楽しめる」というコンセプトを見失いがちなことが反省点にあげられた。

(イ) 劇あそびフェスティバル（11. 3　青山円形劇場）

開館7周年を記念したプログラムの1つとして，子ども文化に関心のある人たちの注目を集めている“劇あそび”を取り上げた。積極的に劇の中に参加することによって，鑑賞型の劇とは異なった劇体験をしてもらうのがねらい。出演は“劇あそび”の分野で開拓的役割を果たしている玉川学園大学のOBで結成されているDIA。当日はDIAの指導をしている太宰久夫玉川学園大学助教授も来館，舞台装置を含めた進行全体を指導した。

青山円形劇場に集まった子どもたちは，劇を鑑賞するのでなく，自らが劇の一部を演ずるという“劇あそび”を楽しむことができた。

今回は，導入の手遊びから始まり，朗読劇「ジャックと豆の木」。ジャックの「のぼれ，のぼれ，がんばってのぼれ」の掛け声を子どもたちが一緒になって唱和して，子どもたちが心の中で豆の木を登っていた。次の「お人形ビュティ」では，拍手や人形との言葉のやりとりがあり，40分間の劇の中に引き込まれていた。

手を，体を，そして声を使って劇に加わり，体全体で劇を感じる“劇あそび”を子どもたちは楽しんでいた。

(ウ) あそびのおもちゃ箱（11.21～23　地下1階フリーホール）

夏休みに開催した催しの第2弾。開館記念行事の一環として，公演とワークショップを組み合わせた「あそびのおもちゃ箱」を実施した。今回のワークショップでは，「軍手の手袋人

形」遊びを実施。また，公演は，女性ボランティアの人形劇・影絵，青年ボランティアの人形劇・絵本・パネルシアター・紙芝居・音楽の７グループが参加したため，１日３回とした。場所は地下１階フリーホールを利用。ワークショップでは，親子，ボランティアと子どもたちが手袋人形を通してコミュニケーションをはかる，温かい雰囲気が印象的だった。しかし，公演時間の合間が短かったため，ワークショップに十分な時間を当てられなかった。夏の反省を生かし，ボランティア各グループ間での打ち合わせを綿密に行ったことも今後の〔こどもの城〕でボランティアリーダーのかかわる日常活動を発展させていくきっかけとなった。

４）冬休み特別期間

㈠　**お正月あそび大集合**（12.23～１.17　１階アトリウムギャラリーほか）

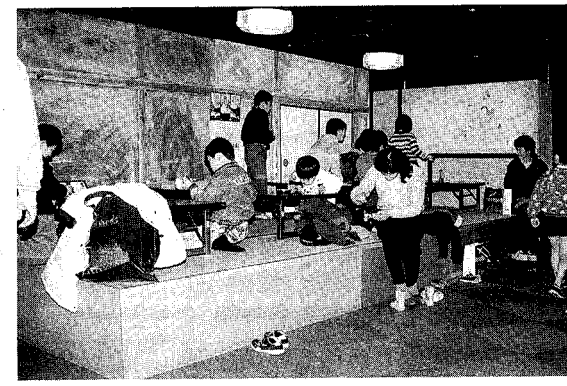
冬休み期間中に行われるお正月遊びの紹介は，今年で４回目。昔ながらの味のある遊びが近年失われつつあることはたいへん残念なので，それらを紹介するのみならず実際に伝えていきたいとの願いを持って，この伝承遊びの企画を行っている。美術品・民芸品の鑑賞にとどまらず「体験」の面白さが伝わるように，具体的に＜みる＞＜つくる＞＜あそぶ＞の３コーナーに分けて実施した。特に，今年は「独楽（こま）」を中心に取り上げた。

どのコーナーも，親子連れなどの来館児・者が連日たくさん参加した。忘れかけていた玩具（がんぐ）に夢中になる大人，初めてふれる玩具に飽きずに取り組む子ども。親子で，友だち同士で教え合って，伝承遊びに興ずる姿が印象的だった。遊びを体験するだけでなく，家族や友だち，世代を越えた交流の場ともなった。

ともすれば，時の彼方に押しやられてしまうような素朴な遊びの数々。本来は努力するというよりも自然に伝承されていくべきものだが，現状ではそうはいかない。伝えるためには積極的に働きかけないといけない。前向きに伝えようとすれば受け手の方でもしっかり受け止めてくれることが分かり，喜びと同時に伝えてゆく側の責任を感じた。今後も伝統的かつ普遍的な遊びの世界を広く紹介し，親子ともに楽しんでもらえる企画にしていきたい。

1　**＜みる＞**（12.23～１.17　１階アトリウムギャラリー）

１階アトリウムギャラリーでは「まわれまわれコマまわれ」と題し，日本および世界各地に伝わるコマの紹介をした（協力：日本独楽博物館）。このコーナーの目的は，コマの歴史・種類・技などの紹介と体験をとおして，身近な玩具として楽しんでもらうことであった。展示の前半は，コマ（実物）の展示と，その性質や遊び方の紹介文を並列し，所々には体験コーナーを設置して，実際に手にとって遊べるよう工夫



展示の体験コーナーでいろいろなコマに挑戦

した。劇場技術部の協力で，昨年同様に畳のコーナー「お茶の間セット」を制作。ここでもさまざまなコマを体験でき，アルバイトのスタッフが遊び方の指導にあたるなど来館者に楽しんでもらえるようにした。後半は「コマの不思議」と題し，科学的な側面を紹介するなど，多角的にコマを捉えた展示を行った。また，今年は静岡市産業振興センターより借り受けた直径180㎝，高さ90㎝，重さ175㎏の「巨大ゴマ」も展示した。

2 ＜つくる＞（1．3～17　地下1階フリーホール）

このコーナーの目的は，技術を持っている人に実演・指導してもらいながら実際に自分で作ってみることで，伝承遊び・遊具を生かした独創的な遊具作りに発展させることも可能である。地下1階フリーホールで「凧（たこ）作りコーナー」を延べ9日間実施し，約1000人の参加があった。日本凧の会・凧の博物館の指導協力をいただいた。テーマは昨年と同じ「エイ凧」だったが，これは工作が簡単で短時間で制作できるなど，小さい子どもにも適しているため。このコーナーの利点は，自分のペースで作業ができること，本物の材料に触れられることなどであった。

3 ＜あそぶ＞（1．3～10，15～17　3階プレイホール，屋上）

①紙相撲新春場所（1．4～7）

村杉紙相撲道場の指導・協力をいただき，プレイホールで新春場所を行った。受け付けで型紙を選んだ子どもたちは，まずワークショップで思い思いの力士を作ると，稽古（けいこ）土俵に行って紙相撲のコツを学んだ。ここでは“しこ”も踏ませ，参加者が実際に体を動かして気合を入れる機会を取り入れた。稽古が済むと平幕土俵から始めて，ボランティア扮する行司のもと取り組みをした。勝ち越して14勝すると横綱に昇進，カード（星取り表）にスタンプが押され，その数と色によってランクづけが分かるというしくみ。横綱まで上がったこどもはビデオプリンターで写真を撮り，歴代横綱として張り出された。午後4時からは，横綱の中から16人を募って「大横綱決定取り組み」も行われた。

そのほか，ジャンボ紙相撲が1日2回行われた。子どもたちは東西に分かれ，親方（ボランティアリーダー）を中心に力士の名前を決め，3試合を行った。優勝チームにはカップが手渡され，最後には参加者の名前がリボンに書き入れられた。

②お正月あそび大集合あそび体験コーナー（1．4～17）

屋上では，ボランティアリーダーの指導でコマ，竹馬，三つ馬を行った。シミュレーションは12月23日から，実際には1月3日から実施された。竹馬，三つ馬はボランティアリーダーの手作りで，リーダー間では事前に練習会も実施された。①安全に　②根気よく　③触れ合いを大切に，を指導目標として行われた。

4 ＜特別プログラム＞（1．6，15～17）

昨年に引き続き，鑑賞・参加型のプログラム「こま名人来たる！」を行った。出演は日本独楽博物館館長の藤田由仁氏。江戸時代の大道芸人ふうの出で立ちで，コマについておしゃべりしながら，投げゴマをはじめとするさまざまなコマの技を披露した。後半はコマの回し方のワークショップで，親子で挑戦する姿が多く見られた。約1時間のプログラム。

4回実施したうちの2回は，4階音楽スタジオBにて「わいわいスタジオ」の枠で実施。ほかの2回は，1階アトリウムにて大道芸風に行われ，その雰囲気がよかったのか，多くの来館児・者が足を止めて見入っていた。

5）春休み特別期間

(ア)　「春休みチャレンジゲーム大会――ポカポカピョンピョン――」

（3.27～4.4　屋上ふしぎが丘ほか）

本年度も前年度に引き続き，平日は午後1時から，土・日曜日は午前11時から受け付け開始とする。「モグモグモーニング」「春だおきよう」「花咲けポンポン」「春だブンブン」「春のおひっこし」「桜前線春一番」と，“春”をテーマにゲームを設定した。例年この期間は天候が不順であることを考慮し，ゲーム数を多くしたり，屋内のスペースでも運営できるものを準備したので，期間中（9日間）4日間の雨天時にもスムーズに実施ができた。各コーナーでは並び方等を検討し，待っている子どもたちも巻き込んだ，飽きさせない運営に努力した。その効果があって，連日平均430人の参加者にも対応できた。また，常連の子どもたちが日々競い合ってゲームに挑戦する姿が，〔こどもの城〕におけるこの行事の定着を物語っていた。

6）グループ活動

開館以来，週日午前中の子ども対応活動としてグループ活動を実施してきた。これは，保育所，幼稚園，小学校，特殊学級，養護学校，さらには自主保育グループなどを単位とする児童を10人以上のグループで受け入れ，〔こどもの城〕ならではのプログラムによって活動してもらうもの。

本年度の参加は77団体，1,692人で，前年度の87団体，1,747人を下回った。特に，インターナショナル・スクールを含む幼稚園関係の団体が，46団体から31団体へと減少したのが大きな要因となっている。また，新しい遊具の設置工事に伴いプレイホールが使えなかったため，グループ活動の利用が多い1～3月期に受け入れができなかったことも原因している。

グループ活動利用者（地域別）

地　域	渋谷区	港　区	その他区部	23区部	神奈川県	千葉県	埼玉県	茨城県
件　数	18	13	35	6	2	1	1	1
人　数	331	256	846	85	26	54	65	29

各部の代表で構成されるグループ活動代表者会議で，グループ活動やそのプログラムについての統一的な考え方を模索していた。その結果は「グループ活動の運営の基準」としてまとめられ，目的，実施方法，役割分担などが確認された。各部が関係する事業であるため，ともすれば意思の疎通を欠くことも少なくなかったが，基準を明確にしたことによりスムー

ズな運営が期待できるようになった。

グループ活動実施プログラム一覧

<幼児>

プログラム名	回数	利用者	担当部
	(回)	(人)	
みんなでつくろう　ぱたぱたアニメ	11	199	A　V
サンバでおどろう	11	183	音　楽
楽しい体育・運動	10	199	体　育
粘土でジャングル旅行	8	88	造　形
まつりばやし	7	126	音　楽
木をつくろう	4	76	造　形
忍者修行道場	4	65	プレイ
影を写そう	3	62	造　形
マット運動	3	58	体　育
ガムランで遊ぼう	2	55	音　楽
すてきな新体操	2	54	体　育
森へいこう	2	52	プレイ
タムタム大王と遊ぼう	2	33	音　楽
忍者ってほんとうにいたの	2	32	音　楽
カンフー道場	2	32	プレイ
世界の太鼓	2	27	音　楽
スペシャル　ジャンケンゲーム	1	28	プレイ
スカーフであそぼう	1	20	音　楽
造形シミュレーション	1	19	造　形
たたいてみよう日本の太鼓	1	9	音　楽
めずらしい楽器大集合	1	6	音　楽
自由遊び（プレイ）	50	1，218	プレイ
（3階～5階）	14	285	企　画
（AV ライブラリー）	3	31	A　V

<就学児>

プログラム名	回数	利用者	担当部
	(回)	(人)	
ガムランで遊ぼう	5	199	音　楽
サンバでおどろう	3	31	音　楽
楽しい体育・運動	2	11	体　育
めずらしい楽器大集合	1	17	音　楽
みんなでつくろう　ぱたぱたアニメ	1	11	A　V
自由遊び（プレイ）	4	27	プレイ
（3階～5階）	5	38	企　画

今後の課題としては，新しい参加者を掘り起こすためのPR活動や，利用したことのある団体が再度利用するように関係を強化するなどの努力が必要である。また，オリジナリティのあるプログラムが利用団体に好評であるので，新たな，質の良いプログラムの開発努力を続け，活動の定着化を図りたい。

7）その他

(ア) 800万人目入館記念セレモニー

昭和60年11月1日に開館した〔こどもの城〕は，毎年110万人を超える利用者を迎え，〔こどもの城〕が用意しているたくさんのプログラムに参加してもらっている。

平成4年3月8日に 700万人目を迎えてから290日目に800万人を達成することができた。600万人から700万人までが299日を要したのに比べ9日早かったことになる。前日までの入館者数の累計が7,999,737人で，あと263人。開館と同時にカウントダウンに入り，午後1時20分，両親と妹の4人で来館した大田区の大井ゆかりさん（7歳）が，幸運な800万人目の来館者となった。

アトリウム総合受け付け前の大きなテレビの前で，記念セレモニーを行い，小島理事長から大井さんに感謝状，記念の盾，〔こどもの城〕のキャラクター・マックローのオリジナルグッズが贈られた。また，800万人目の前後に入館した10人にもマックロー・Tシャツが贈られた。

800万人に至る経過は次のとおりである。

100万人	昭和61年9月7日	200万人	昭和62年8月26日
300万人	昭和63年8月2日	400万人	平成元年7月9日
500万人	平成2年5月20日	600万人	平成3年4月14日
700万人	平成4年3月8日	800万人	平成5年1月24日

(イ) アトリウムギャラリー

こども活動エリアの導入部に位置するアトリウムギャラリーは，〔こどもの城〕が主催する企画展示ばかりでなく，外部への貸しスペースとしても利用されている。

本年は，こども活動エリアの導入部としての役割を明確にした利用形態として，児童福祉週間（ゴールデンウイーク）の館内情報提供の場にしたことが，新しい試みといえる。また，こども活動エリアの延長として，さまざまなコマの紹介と展示をした「まわれまわれコマまわれ」など，特別期間を中心に企画部が行った。

多くのマスコミにも取り上げられた「一本の樹から地球へ」展

外部の利用も「一本の樹から地球へ」など，〔こどもの城〕の城にふさわしい展示が増え，有効に利用されるようになってきた。本年度の利用状況は下記のとおりである。

アトリウムギャラリー利用状況

催事名	期間	主催	備考
アートスケープ '92 (インターナショナルスクールの生徒の作品展)	4.4.10～4.22	インターナショナルスクールの12校	
〔こどもの城〕ゴールデンウイーク特別期間の館内案内	4.4.28～5.6	こどもの城	
新孔版画展覧会（アートセリグラフの世界）	4.5.12～5.17	新孔版画研究会	貸しスペース
遊びと造形発見展	4.5.22～6.30	こどもの城造形事業部 遊びと造形発想の会	
おはなし探検隊　おかしの家ってどんなかな？	4.7.21～8.9	こどもの城企画部	
こどもの城 オリンピック展	4.8.12～8.31	こどもの城体育事業部	
GEN展	4.10.1～10.4	アトリエ GEN	貸しスペース
とんぼの会結成15周年記念「大とんぼ展」	4.10.6～10.11	とんぼの会	貸しスペース
豊かな遊びをひろげるおもちゃ展	4.10.13～10.21	こどもの城 ㈶おもちゃ図書館	
一本の樹から地球へ	4.10.28～11.8	一本の樹プロジェクト 後援・こどもの城	貸しスペース
ニッサン童話と絵本のグランプリ原画展	4.5.12～5.17	こどもの城	
まわれまわれコマまわれ (さまざまなコマの紹介と展示)	4.12.23～5.1.17	こどもの城	
第40回文部大臣賞 全国小中学生優秀作品展	5.3.6～3.14	㈶児童憲章愛の会 協賛・こどもの城	
ジュニアデザインコンペティション	5.3.25～4.5.	美育文化協会 後援・こどもの城	貸しスペース

(ウ)　ふれあいの場　おもちゃ図書館

心身に障害のある子どもたちを対象とした「おもちゃ図書館」は，昭和62年に開設以来6年を経過，本年度もその活動は活発であった。利用者の定着も図られ，ボランティアと利用者のふれあいの場として，楽しい遊びを展開している。〔こどもの城〕の一般来館の子どもたちも訪れ，障害を持った子どもとおもちゃ図書館に対する理解を広げている。また，大きくなった障害児たちは，ボランティアとして参加するようになった。年1回開催されている「豊かな遊びを広げるおもちゃ展」は10月13日から21日まで開催，多数の来館者を集めた。

「おもちゃ図書館マックロー」
平成4年度の障害児登録数

地域名	登録者数	地域名	登録者数
世田谷区	19人	目黒区	9人
渋谷区	19人	大田区	19人
港区	19人	横浜市	19人
練馬区	19人	川崎市	19人
杉並区	19人	その他	19人
合計			134人

「おもちゃ図書館マックロー」平成4年度活動実績

	開館回数 (回)	利用者延べ人数 (保護者・児童) (人)	おもちゃ貸し出し数	デランティア活動人数 (人)
4年4月	5	47	31	25
5月	4	26	42	19
6月	4	21	22	22
7月	5	49	31	23
8月	4	51	62	19
9月	5	86	19	23
10月	4	59	17	9
11月	4	50	25	26
12月	4	88	21	26
5年1月	3	35	8	13
2月	4	62	21	21
3月	5	68	15	19
合　計	51	642	314	245

(1) 演目一覧表

1）青山劇場

公演名称	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率	備考
			(円)	(人)	(人)	(%)	
＜自主公演＞							
第6回青山バレエフェスティバル	8.6～9						
「スタンローバ児童バレエ団と日本のこどもたち」		3	A 5,000　B 4,000	3,576	2,174	60.8	
「東京・パリ友好都市提携10周年記念ガラ公演」		1	A 6,000・B 5,000	1,192	960	80.5	
（小　計）　1		4					
＜貸し館＞							
ネミック・ラムダスペシャル「サウンド　オブ　ミュージック」	4.1～22	33	S 10,000・A 7,000 B 4,000	35,574	32,879	92.4	
日本テレビ・明治生命ミュージカル「アニー」	4.23～5.21	34	S 7,000・A 5,000	37,831	35,134	92.9	
ブロードウェイミュージカル「ゴールデン・ボーイ」	5.25～6.14	24	7,000	29,128	27,783	95.4	
音楽座ミュージカル「マドモアゼル　モーツアルト」	6.15～7.5	24	S 7,000・A 6,000	28,128	22,673	80.6	
少年隊ミュージカル PLAZONE'92「さらば Diary」	7.6～8.2	31	8,000	33,795	32,949	97.5	
21世紀への便り　感動音楽会	8.3～5	1	無料	1,031	885	85.8	
エステー化学ファミリーミュージカル「ピーターパン」	8.10～31	33	S 7,500・A 5,500	35,178	33,641	95.6	
劇団四季「ミュージカル李香蘭」	9.4～29	25	S 9,000・A 7,500 B 5,000・C 3,000	26,350	22,287	84.6	
劇団四季「永遠の処女　テッサ」	9.30～10.25	28	S 9,000・A 7,500 B 5,000・C 3,000	33,600	27,729	82.5	
服部克久 音楽畑コンサート パートⅧ	10.26～28	2	6,000	2,277	1,971	86.6	
東宝ミュージカル「The 5 O'clock Giri 5時の恋人」	10.29～11.25	38	S 10,000・A 7,000 B 4,000	43,700	29,547	67.6	
CAN' T STOP DANCIN' Part10	11.26～29	5	A 6,000・B 5,000	5,337	5,192	97.3	
NEC PRESENT 谷村新司リサイタル'92～'93コラソンⅦ〔パサラ〕	12.1～25	20	VIP　10,000 オーケストラ　8,000 バルコニー　6,500 スチューデント　6,000	23,120	21,759	94.1	
劇団四季ミュージカル「A CHORUS LINE」	12.26～2.21	66	S 10,000・A 7,500 B 5,000・C 3,000	77,748	72,276	93.0	
ビッグバンドフェスティバル IN TOKYO'93	2.22	1	A 3,000・B 2,000	1,164	1,033	88.7	
劇団樹座「オーケストラの少女」	2.26～28	3	A 5,000・B 4,000 C 3,000・公開GP 2,000	3,210	2,772	86.4	
松竹ミュージカル Dance Dance SKD Vol.1「砂の上のサンバ」	3.1～14	14	S 5,500・A 3,000	15,036	8,068	53.7	

公演名称	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率	備考
			(円)	(人)	(人)	(%)	
エステー化学ファミリーミュージカル「ピーターパン」	3.15～31	22	A 7,500・B 5,500	24,156	20,848	86.3	
(小　計)　18		404					
青山劇場計　19		408					

2）青山円形劇場

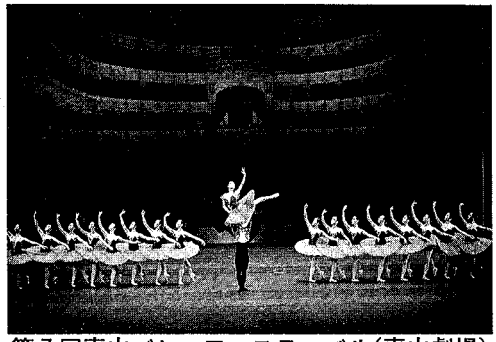
公演名称	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率	備考
			(円)	(人)	(人)	(%)	
＜自主公演＞							
第9回こどもの城マタニティ・コンサート	4.28～29	2	2,500	568	412	72.5	
ファミリア　チルドレンズ　フェスティバル'92「地球と手をつなごう」	5.15～17	4	1,000	1,974	1,199	60.7	
五線譜のなかの動物たち8	7.28～8.2	8	2,500	2,085	1,466	70.3	
第7回こどもの城・キリンファミリー劇場「狸のじゅもん　なまねこ　なまねこ」	8.3～9	7	2,500	1,733	1,453	83.8	
中国・唐山皮影戯団　初来日公演「西遊記　ほか」	8.10～12	5	2,500	1,100	681	61.9	
波瀬満子のスーパーA・I・U・E・Oショー	8.17～23	9	3,000	1,674	972	58.1	
こどもの城　おまつり劇場'92「ピーヒャラ　ピーヒャラ　花笠まつり」	8.24～26	4	無料	880	730	83.0	
第6回青山演劇フェスティバル～夢見る力～							
遊◉機械／全自動シアター「ノーセンス」	9.30～10.5	8	3,500	2,456	2,131	86.8	
「古舘伊知郎　TALKING BLUES　5th」	10.7～11	6	5,000	1,818	1,645	90.5	
MODE×青春五月党「魚の祭」	10.12～18	7	3,000	1,928	1,738	90.1	
平田満＋美保純二人芝居「ダニーと紺碧の海」	10.19～29	12	4,000	3,067	2,404	78.4	
ハロウィン　パワー	10.30～11.1	5	1,200	1,410	1,202	85.2	
ア・ラ・カルト－役者と音楽家のいるレストラン－	12.7～26	10	4,500	3,593	3,332	92.7	
第5回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ　オペラクリエーション・イン青山vol. 15「トンガリぼうしの魔法つかい～忍者やしきのひみつ～」	12.27～1.10	13	2,500	4,628	3,844	83.1	
こどもの城・NTTファミリーコンサート「五線譜のなかの動物たち9」	1.14～17	6	2,000	2,000	1,591	80.0	
dance session21 vol.②「MESSAGE ピアフ　その愛と死」	2.18～24	5	4,000	1,035	939	90.7	
五線譜のなかの動物たち10	3.29～31	2	2,000	710	641	90.3	
(小　計)　17		113					

公演名称	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率	備考
			(円)	(人)	(人)	(%)	
<貸し館>							
Office801プロデュース公演「ホテルリバーサイドパンプキン」	4.1～4	6	3,500	1,476	640	43.4	
おんがくのおもちゃばこ	4.5	2	大人　2,000 子ども1,500 (当日は500増)	600	316	52.7	
スダシャポー学院研究生　サマーハット作品発表会「帽子誕生」	4.6	2	2,000	642	438	68.2	
笑殺軍団リリパット・アーミープロデュース第8回公演「ベイビーさん－あるいは笑う曲馬団について－」	4.7～12	7	3,000 (前売) 3,200 (当日)	2,073	1,803	87.0	
フィリヤ　メロウ　マリンバアンサンブル演奏会	4.13	1	3,500 学生・子ども　3,000	287	223	77.7	
1992年タマリス　トータルビューティコングレス大会	4.14	1	1,000	214	148	69.2	
劇団併歩調〔アンダンテ〕＋劇団プロットワーク提携公演「きらら浮世伝」	4.15～19	6	2,800 (前売) 3,000 (当日)	1,320	1,078	81.7	
水織ゆみコンサート「Ole！シャンソン　Vol. 3」	4.20～23	5	5,000	1,270	990	78.0	
Dance Session21　Vol. 3「ダンス，だんす。」	4.24～26	4	3,500	968	474	49.0	
やってきたアラマせんせい	4.30～5.1	3	3,200 (前売) 3,500 (当日)	846	531	62.8	
武元賀寿子DANCE PERFOMANCE「A・Huu…」	5.9	2	3,000 (前売) 3,500 (当日)	488	343	70.3	
やってきたアラマせんせい	5.10	2	3,200 (前売) 3,500 (当日)	564	436	77.3	
STAY　HERE　3	5.11～14	4	4,000	1,188	1,106	93.1	
大川由美子ピアノリサイタル「スペインは踊る」	5.18～19	3	5,000	738	520	70.5	
やってきたアラマせんせい	5.20	2	3,200 (前売) 3,500 (当日)	564	361	64.0	
劇団平成元年プロデュースVOL. 7「平成ハムレット・オブ・ハムレッツ」	5.21～25	6	2,700 (前売) 3,000 (当日)	1,230	784	63.7	
劇団JOE　Company　プロデュース公演「雨あがりは，いつも君」	5.26～6.1	6	2,300 (自由席) 2,500 (指定席)	1,758	1,393	79.2	
チーム・TENの世界'92	6.2	1	無料	326	227	69.6	
演劇企画集団66「とうめいなすいさいが」	6.3～8	7	3,000 (前売) 3,500 (当日)	1,638	1,130	69.0	
DANCE STATION EXPRESS「Deviant」	6.9～14	7	4,600 (前売) 4,800 (当日)	1,790	1,627	90.9	
サイケデリック物理学・平成Ⅳ	6.15～16	2	3,605 (前売) 4,120 (当日)	574	480	83.6	
別冊ヒートウェイブ　Vol. 3	6.17	1	2,500 (前売) 2,800 (当日)	227	179	78.9	
伊豆田洋之ライブ「DREAMS」	6.18	1	3,600 (前売) 3,800 (当日)	337	296	87.8	
ファミリーコンサート　みんなでリトミック　PART. 8	6.19～21	4	3,000 (前売) 3,200 (当日)	1,056	869	82.3	
加藤みやこダンススペース公演1992	6.22～23	3	3,500 (前売) 4,000 (当日)	738	621	84.1	
東京ギンガ堂「ブレイン・ストーム」	6.24～28	6	3,000 (前売) 3,300 (当日)	1,622	1,174	72.4	

公演名称	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率	備考
			(円)	(人)	(人)	(%)	
GENTLE ARTS New Repertory Theater「ある日どこかで」	6.29～7.5	7	5,000	1,802	1,668	92.6	
第4回井上恵美子ダンスリサイタル「BRINGER」	7.6～8	2	3,500	492	370	75.2	
アロイス	7.9～22	14	4,000（前売） 4,500（当日）	3,374	1,558	46.2	
碧川るり子「YVES」	7.23	1	4,000	271	230	84.9	
女流和太鼓　婢弥鼓「夢幻かぐや絵すがた太鼓草子」	7.24～26	4	3,500（前売） 3,800（当日）	984	574	58.3	
Coca. Colaスペシャル「ドリトル先生がやってきた－くろくろ沼のカッパくん－」	8.27～30	6	1,500	1,884	1,690	89.7	
三矢直生コンサート　SECOND I dream a dream	9.5	2	4,500（自由） 5,500（指定）	556	451	81.1	
夜想曲ノクチュルヌ	9.7～10	4	5,000	1,174	1,001	85.3	
劇団太陽の死角「悲しい色やね…晩夏」	9.11～13	3	2,500（前売）中高生 2,800（当日）　2,000	570	473	83.0	
西原啓子コンサート'92	9.14～15	3	6,000	788	476	60.4	
谷山浩子101人コンサートスペシャル	9.16～27	9	5,000	3,645	3,402	93.3	
梯郁夫 PERCUSSIVE MOVEMENT	11.2	1	3,000	284	116	40.8	
劇団フロントホック「白い EXiT'92」	11.4～9	7	3,000（前売） 3,300（当日）	1,841	1,713	93.0	
岩崎佳子「Something to Say'92」	11.10	1	3,000（前売） 3,500（当日）	308	209	67.9	
劇団アクアプラネット「Mother of Invention」	11.11～15	5	3,800（前売） 4,000（当日）	1,355	876	64.6	
横浜ボートシアター「若きアビマニュの死」	11.16～26	9	3,500（前売） 4,000（当日）	1,581	1,240	78.4	
三宅榛名実験バンド「都市の肖像」	11.27	1	3,500（前売） 4,000（当日）	266	166	62.4	
田島佳子　三味線のつどい　第5回	11.28	1	3,000（大人） 1,500（子ども18歳未満）	338	159	47.0	
劇団ステージドア「喝采のあとに」	11.29	2	2,500	608	501	82.4	
銀龍草	12.1～15	16	3,600（前売） 4,000（当日）	5,077	4,481	88.3	
PONTA BOX LIVE 1993　音絵巻	1.18	1	4,500	231	141	61.0	
ヒカシュー・ビジュアル・サーカス　あっちの目　こっちの目	1.19	1	3,700（前売） 4,200（当日）	359	322	89.7	
まぜ卵シアタープロデュース　vol.5「EARTHⅡ　もうひとつの地球」	1.20～24	6	4,000	1,601	968	60.5	
アジアのモンスーンⅢ Bamboo Orchestra「太古の岸辺 Rivages d' Autrefois」	1.25～27	3	3,500（前売） 4,000（当日）	702	520	74.1	
河野潤　ダンストゥループ公演「コンポジション」	1.28～31	5	4,000	1,145	1,079	94.2	
遊◉機械／全自動シアター第15回公演「ライフレッスン」	2.1～17	17	3,800 3,000（高割）	5,270	4,528	85.9	
日本映画学校「異形の闇」	2.25～3.1	5	2,000	1,265	1,158	91.5	
ribbon＋劇団☆新感線公演「TIME SLIP 黄金丸」	3.2～11	11	4,635	3,498	3,155	90.2	
劇団影ぼうしプロデュース公演「性－その演劇的アプローチⅠ 愛のすべて」	3.12～14	3	3,000	624	395	63.3	

公　演　名　称	期　間	回数	料　金	総席数	入場者数	入場率	備　考
			(円)	(人)	(人)	(%)	
遊◉機械／全自動シアター第15回公演「ライフレッスン」	3.15～25	13	3,800 3,000（高割）	4,030	3,721	92.3	
（小　計）　56		257					
			(円)	(人)	(人)	(%)	
＜内部利用＞							
こどもフェスティバル	5.2～5	12	入館料対応	3,960	2,990	75.5	企画
第6回こどもの城保育セミナー	7.27	1		164	109	66.5	保育
こどもの城保育シンポジウム	8.13	1		200	180	90.0	保育
夏休みこどもフェスティバル	8.14～16	8	入館料対応	2,400	1,649	68.7	企画
劇あそび　こどもフェスティバル	11.3	2	入館料対応	476	340	71.4	企画
保育フェスティバル'92「まほうの森のコンサート」	12.16	1	2,500（親子券）	282	342	121.3	保育
ぼくらのサウンド'93	3.26～28	4	入館料対応	830	636	76.6	音楽
（小　計）　7		29					
青山円形劇場計　80		399					
劇場総合計　100		807					

＝平成４年度の劇場公演から＝



第７回青山バレエフェスティバル(青山劇場)

第６回青山演劇フェスティバル
MODE×青春五月党「魚の祭」(青山円形劇場)

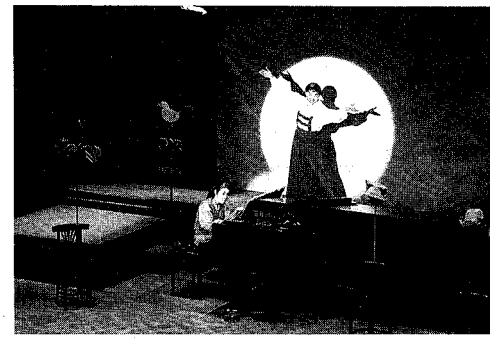
第９回こどもの城マタニティ・コンサート
(青山円形劇場)

ア・ラ・カルト～役者と音楽家のいるレストラン
(青山円形劇場)

第７回こどもの城・キリンファミリー劇場
「狸のじゅもん　まなねこ　まなねこ」(青山円形劇場)

第５回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ「とんがりぼうしの魔法つかい」(青山円形劇場)

中国・唐山皮影戯団（かげえげきだん）
(青山円形劇場)



五線譜のなかの動物たち　８(青山円形劇場)

(2) 劇場事業本部の活動

1）本年度の総括

前年度の年報で自主公演活動の減少について触れ，その原因としてバブル経済の崩壊と協賛金不足をあげた。本年度もまた，残念ながらその傾向を助長するものとなった。

過去3年間の自主公演の本数と日数を見てみると以下のとおりになる。

本年度の青山劇場，青山円形劇場合わせて18本の自主公演のうち，協賛などのついた公演は13本ある。いかに協賛金などの外部の資金に依存しているか，せざるをえないかを物語る数字である。

自主公演の本数と日数

		平成2年度	平成3年度	平成4年度
青山劇場	本数	5本	2本	1本
	日数	33日	12日	4日
青山円形劇場	本数	39本	22本	17本
	日数	163日	132日	102日

＜本年度の協賛などの実績＞

【青山劇場】

①第7回青山バレエフェスティバル＝東京都国際平和文化交流基金国際交流事業（助成）

【青山円形劇場】

①第9回こどもの城マタニティ・コンサート＝P&G（協賛）

②ファミリア・チルドレンズ・フェスティバル '92「地球と手をつなごう」＝ファミリア（冠協賛）

③第7回こどもの城・キリンファミリー劇場「狸のじゅもん　なまねこ　なまねこ」＝キリン記念財団（共催）

④波瀬満子のスーパーA・I・U・E・Oショー＝芸術文化振興基金（助成）

⑤第6回青山演劇フェスティバル：遊◉機械／全自動シアター「ノーセンス」＝キリンビール（協賛）

⑥第6回青山演劇フェスティバル：フジテレビ／古舘プロジェクト・プロデュース「古舘伊知郎TALKING BULES 5th」＝資生堂（協賛）

⑦第6回青山演劇フェスティバル：MODE×青春五月党「魚の祭」＝キリンビール（協賛），セゾン文化財団（助成），芸術文化振興基金（助成）

⑧第6回青山演劇フェスティバル：平田満＋美保純二人芝居「ダニーと紺碧の海」＝キリンビール（協賛）

⑨ハロウィン　パワー＝高島屋（協賛），クレオラ（協賛），M&M's（協賛）

⑩ア・ラ・カルト＝キリンビール（協賛）

⑪第5回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ「とんがり帽子の魔法つかい」＝キリン記念財団（共催）

⑫こどもの城・NTTファミリーコンサート「五線譜のなかの動物たち9」＝NTT（協賛）

前年，協賛がついていなかった「青山演劇フェスティバル」，「ア・ラ・カルト」，「五線譜のなかの動物たち」の３本のシリーズ企画に，今年は協賛がついた。今後もこのような営業努力が必要だろう。

もちろん，この営業努力は外へばかり向けてなされるものではない。私たちの内部にも自主公演のための資金をプールしていくようなシステムが必要である。その意味で本年度から「企画調整費」が設けられた。これは従来の「広告費」を見直し，それを必要最低限に抑えることで生み出したものである。金額については，まだまだ十分とはいえないが，このシステムを有効に用いて次のステップにつなげていかなくてはならないだろう。

考えてみれば，現代の主要なメディアは外部からの資金によって運営されているケースが多い。新聞・雑誌は売上収入より広告収入の方が上回る場合がほとんどだし，テレビ（民放）にいたっては100％ コマーシャルの収入だけで成り立っている。舞台もまた，その規模が大きくなればなるほど外部資金への依存度は高くなる。その是非はもちろんあるが，事実は事実として内外の営業努力をしていかなければならない。

２）本年度のデータ

劇場活動をジャンル別，公演形態別，対象別に日数，回数をみると表のとおりになる。

	青山劇場			青山円形劇場		
	演目数	日数（%）	回数（%）	演目数	日数（%）	回数（%）
①総数	19(本)	352日　(100%)	408回　(100%)	80(本)	348日　(100%)	399回　(100%)
②平均日数・回数		18.5日	21.5回		4.4日	5.0回
③ジャンル別						
ミュージカル	12	286日 (81.2%)	347回 (85.0%)	4	22日　(6.3%)	26回　(6.5%)
演劇	1	26日　(7.4%)	28回　(6.9%)	29	205日 (58.9%)	221回 (55.4%)
オペラ	0	0日　(0.0%)	0回　(0.0%)	0	0日　(0.0%)	0回　(0.0%)
コンサート	4	32日　(9.1%)	24回　(5.9%)	26	65日 (18.7%)	73回 (18.3%)
舞踊	2	8日　(2.3%)	9回　(2.2%)	8	30日　(8.6%)	32回　(8.0%)
人形劇	0	0日　(0.0%)	0回　(0.0%)	3	10日　(2.9%)	25回　(6.3%)
歌舞伎	0	0日　(0.0%)	0回　(0.0%)	0	0日　(0.0%)	0回　(0.0%)
シンポジウム	0	0日　(0.0%)	0回　(0.0%)	2	2日　(0.6%)	2回　(0.5%)
その他	0	0日　(0.0%)	0回　(0.0%)	8	14日　(4.0%)	20回　(5.0%)
④公演形態別数						
自主公演	1	4日　(1.1%)	4回　(1.0%)	17	102日 (29.3%)	113回 (28.3%)
貸し劇場	18	348日 (98.9%)	404回 (99.0%)	63	246日 (70.7%)	286回 (71.7%)
⑤対象別数						
一般	11	188日 (53.4%)	203回 (49.8%)	38	150日 (43.1%)	160回 (40.1%)
青少年	4	74日 (21.0%)	83回 (20.3%)	20	121日 (34.8%)	129回 (32.3%)
児童・ファミリー	4	90日 (25.6%)	122回 (29.9%)	20	74日 (21.2%)	107回 (26.8%)
その他	0	0日　(0.0%)	0回　(0.0%)	2	3日　(0.9%)	3回　(0.8%)

（日数には仕込み・稽古・バラシの日数を含む）

3）前年度との比較データ

	青山劇場			青山円形劇場		
	演目数	日数（%）	回数（%）	演目数	日数（%）	回数（%）
①総数	－0(本)	＋2日	＋24回	－4(本)	＋2日	－4回
②平均日数・回数		＋1.0日	＋2.3回		＋0.3日	＋0.2回
③ジャンル別						
ミュージカル	＋1	－2日	＋17回	－2	－15日	－21回
演劇	±0	＋2日	＋4回	＋8	＋40日	＋44回
オペラ	±0	±0日	±0回	±0	±0日	±0回
コンサート	＋1	＋5日	＋4回	－2	＋3日	－11回
舞踊	－2	－2日	±0回	－9	－19日	－19回
人形劇	±0	±0日	±0回	＋2	＋6日	＋21回
歌舞伎	－1	－1日	－1回	±0	±0日	±0回
シンポジウム	±0	±0日	±0回	±0	±0日	±0回
その他	±0	±0日	±0回	－1	－13日	－18回
④公演形態別数						
自主公演	－1	－8日	－11回	－5	－30日	－42回
貸し劇場	±0	＋10日	＋35回	＋1	＋32日	＋38回
⑤対象別数						
一般	±0	＋20日	＋37回	－8	＋19日	＋20回
青少年	－1	－29日	－33回	＋3	－10日	－5回
児童・ファミリー	±0	＋11日	＋20回	±0	－7日	－19回
その他	±0	±0日	±0回	±0	±0日	±0回

（日数には仕込み・稽古・バラシの日数を含む）

4）本年度の主な演目

(ア) 青山劇場

1 第7回青山バレエフェスティバル「スタンローバ児童バレエ団と日本のこどもたち」「東京・パリ友好都市提携10周年記念ガラ公演」

今年の青山バレエフェスティバルは，東京・パリ友好都市提携10周年記念事業，東京都文化振興会の東京都国際平和文化交流基金国際交流事業のひとつとして行われた。「パリ年'92」を記念して，日仏両国の子どもたちによるバレエを通した交流を願い，両国の友好と文化交流進展を意図したものである。

パリからは，スタンローバ児童バレエ団とパリ・オペラ座の若手ソリスト４人を招き，日本からは橘バレエ学校，A. M. スチューデンツ，若手ソリストが集まった。「天使のバレエ」の異名を持つスタンローバ児童バレエ団は，８歳から20歳まで35人のメンバーが来日して，イザベル・スタンローバ振り付けの「眠れる森の美女」を踊った。橘バレエ学校と A. M. スチューデンツは，牧阿佐美振り付けの「バッロ・デッラ・レジーナ」と M. プティパ振り付けの「パキータ」を披露した。

また，ゲストのパリ・オペラ座のミテキ・クドーとジル・イゾアールは「ラ・シルフィード」を，牧阿佐美バレエ団の大畠律子と小嶋直也は「海賊」を披露した。

舞台上の成果とは別に，今回ならではの特筆すべきことがある。それは，リハーサルや合同レッスンの場での，子どもたち同士の姿だ。日仏両国の子どもたちが，互いの言葉は分からなくても，身振りや共通のバレエ用語を駆使して懸命に理解し合おうとする姿は，国境や言葉を越えた「表現」の原点を思い起こさせた。

(イ)　青山円形劇場

1　第９回こどもの城マタニティ・コンサート

表面的な「胎教主義」を排して，妊婦が心身ともに，ほんとうにリラックスすることを目指すシリーズ・コンサート。今回のアーティストは，ジャズ・コーラスグループの「タイム・ファイブ」。歌はもちろんのこと，出演者のキャラクターもたいへん明るく，人間味豊かな，和やかなコンサートになった。

2　五線譜のなかの動物たち８～10

クラシック音楽の中から動物たちを描いた曲を集めて，芝居仕立てに構成したファミリー・コンサート。シリーズ第８弾（夏休み企画）は，「四つの帽子」と題して“昆虫記”で有名なファーブルの生涯を音楽物語にした。ファーブル自身が作詩作曲した動物や虫の曲も紹介して話題となった。金沢市（金沢市文化ホール）と新潟市（新潟フェイズ）でも公演。

シリーズ第９弾は「12秒間の鳥たち」。人類初の動力飛行に成功したライト兄弟の生涯を動物たちの目から見た音楽物語に構成した。使用曲はスコット・ジョプリン作曲のラグ・タイムやルロイ・アンダーソンの曲など。この回は NTT が協賛し，美術なども大規模なものとなった。大阪市（MBS ギャラクシーホール）と新潟市（新潟フェイズ）でも公演。

シリーズ第10弾（春休み企画）は「おとこ一匹，犬いっぴき」。ショパンの生涯と曲を取り上げた。また，ショパンが活躍した時代の音色＝“スクエアピアノ”も紹介した。

出演は３回とも，伊藤エイミーまどか（ピアノ）とみっせなるこ（芝居）のコンビ。

3　第７回こどもの城・キリンファミリー劇場「狸のじゅもん　なまねこ　なまねこ」

夏休み企画。宮澤賢治の童話の中から，動物寓話と呼ばれる３編（「蜘蛛となめくぢと狸」「クンねずみ」「とりかご先生とフウねずみ」）を狂言仕立ての芝居で構成した。出演は狂言界の若手石田幸雄と横浜ボートシアターの東の宮美智子。親子で楽しめる入門編の狂言として最適の公演となった。

4 中国・唐山皮影戯団（かげえげきだん）

夏休み企画。北京で伝統的な人気を誇る影絵劇団の初来日公演。子どもには新鮮な驚きが，大人にはノスタルジーがあふれる公演となった。演目は「西遊記」「パンダのメイメイ」「鶴と亀」。

5 波瀬満子のスーパーA・I・U・E・Oショー

夏休み企画。親子で楽しめる言葉遊び「やってきたアラマせんせい」で人気の波瀬満子が発表した新しい言葉パフォーマンス。大人と子どもと，そして日本語を知らない人々に向けて，日本語の母音「あ・い・う・え・お」が持つさまざまな可能性と表情を探った。

6 こどもの城おまつり劇場 '92「ピーヒャラピーヒャラ花笠まつり」

夏休み企画。日本の伝統芸能や郷土芸能を伝承する子どもたちの活動を紹介するシリーズ企画。今回は日本の芸能にはなくてはならない装飾である“花笠”に焦点を当てた。「風流田楽」，笠を使った歌舞伎舞踊。編み笠が特徴的な阿波踊りなど。郷土芸能のゲストとして，群馬県桐生市から「上州八木節保存会所属・桐生広二子若連」と，神奈川県湯河原町から「鍛冶屋鹿島踊保存会」が日替わりで出演した。

「鍛冶屋鹿島踊保存会」（神奈川県湯河原町）

7 第6回青山演劇フェスティバル～夢見る力～

第6回を迎えた青山演劇フェスティバルは，今回「夢見る力」をテーマにして，4作品を上演した。1つのテーマのもとに，テレビや映画などマス・メディアで活躍する人材や小劇場にこだわる姿勢の劇団が集い，全体に活力のあるフェスティバルとなった。また，MODE×青春五月党の「魚の祭」が，演出面（朝日新聞回顧 '92ベスト5）でも，脚本面（第37回岸田戯曲賞受賞）でも大きく評価され，本年度の演劇界の話題をさらった。ちなみに「夢見る力」は「演劇の力」そのものでもある。

上演した4作品は次のとおり。

①遊◉機械／全自動シアター「ノーセンス」

ミヒャエル・エンデの作品をモチーフに，迷宮のような夢の世界を描いた。白井晃構成・演出。

②フジテレビ／古舘プロジェクト・プロデュース「古舘伊知郎 TALKING BLUES 5th TV Killed the Heart of Blues ～テレビを愛した男の悲劇」

テレビで育ち，そこで活躍するタレント古舘伊知郎が，得意の話芸を駆使してテレビというメディアを問い直し，テレビに対する夢を語った。

③MODE×青春五月党「魚の祭」

とある家族の崩壊と再生を通して，“家族”とは何か，“家族”を結び付ける力とは何かを描いた。柳美里脚本，松本修演出。

④ザ・ドラマチック・カンパニー・プロデュース　平田満＋美保純「ダニーと紺碧の海」
映画『月の輝く夜に』でアカデミー脚本賞を受賞したシャンリィの作品を平田満と美保純が演じた。演出長崎俊一。

⑧　ア・ラ・カルト～役者と音楽家のいるレストラン～

クリスマス企画として恒例のエンターテインメント・ショー。シリーズ第4弾。「遊◉機械／全自動シアター」の人気役者，高泉淳子と白井晃，バイオリニストの中西俊博を中心に展開する，あるレストランの楽しい一日と人間模様。演劇と音楽が融合した企画として人気を得ている。大阪公演（近鉄アート館）も実施。

⑨　第5回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ「トンガリぼうしの魔法つかい～忍者やしきのひみつ～」

冬休み企画。毎年正月に公演しているファミリー・オペレッタ・シリーズ。こどもの城児童合唱団とバレエ団の子どもたち，若手のオペラ歌手とが一体となって，歌と踊りがあふれる楽しい舞台を展開した。今回のテーマは「自分を信じる勇気」。

⑩　ダンス・セッション21 Vol.2「MESSAGE ピアフその愛と死」

舞踊，演劇，音楽，美術，写真などで活躍する若い才能が集まって，新しいダンス作品の創作に挑戦した。エディット・ピアフの“愛と死”をモチーフに，生きることへの勇気をうたった。中村しんじ振り付け。

5）今後の課題

自主公演を支えるための外部資金の調達，一にも二にも，これが今後の課題である。それを前提にしながらも，さらに述べるとしたら，次のことがあげられる。

それは，もし自主公演がなかったら，ということだ。自主公演は劇場の顔だ，自主公演がなければその劇場は表情を持たないノッペラボーになってしまう，とは前年度の事業年報に書いたことだ。が，年々自主公演が減少しているのもまた事実である。となれば，劇場のノッペラボー化を防ぐためにはどうすれば良いか？　それは質の良い貸し劇場演目を選択することである。どういう線で貸し劇場演目をライン・アップしていくか，貸し劇場演目のライン・アップにどれだけ質の良いものを持ってくることができるか，あるいは個性的なカラーのものを持ってくることができるか――そのことに頭を使い，工夫をこらすことで，劇場に豊かな表情をつけていかなくてはならない。

自主公演を打つ力を持ち続けること，さらに貸し劇場の質の高さを保つこと，その2点への努力が劇場の活性化と個性化につながると思われる。

Ⅲ　各部の活動(2)

1　広報部 ……181
2　研修教養部 ……185
3　国際交流部 ……198
4　営業部 ……202

(1) 4年度の活動

1）機関紙・誌の編集・発行など

広報部では〔こどもの城〕の活動を多くの人に理解してもらうため，『こどもの城ニュース』（ブランケット版の新聞スタイル）と『児童手当』（B5判16ページ。年4回カラー4ページ追加）の2つの活字媒体を編集・発行している。主な配付先は別記のとおりで，『こどもの城ニュース』が〔こどもの城〕の利用者など一般向け，『児童手当』が児童館などを含む行政機関向けと読者対象を区別している。

(ア) 『こどもの城ニュース』の編集・発行

隔月（偶数月）で発行しているもので，1面が4色（カラー），2面が1色印刷。第41号は夏休みのため，1か月繰り上げて発行。来館者も多い時期なので，通常より1万部増刷している。各号の主な内容は下記のとおり。

（1）こどもの城ニュース

	発行日	内容	発行部数
第39号	平成4年 4月15日	肥満にご用心	25,000部
第40号	平成4年 6月15日	風さわやかGW	25,000部
第41号	平成4年 7月15日	お楽しみ夏休み	35,000部
第42号	平成4年 10月15日	開館7周年記念「一本の樹から地球へ」	25,000部
第43号	平成4年 12月15日	パチリ中国・日中交換スナップ	25,000部
第44号	平成5年 2月15日	こどもの城お正月スケッチ・コマいろいろ	25,000部

※第41号は，夏休みのため発行を1か月繰り上げた。

編集作業上の問題として，隔月刊のニュースのため，いわゆる「お知らせ」記事を取り扱う時の難しさがある。次の号が発行されるまでの間に，＜過去＞の「お知らせ」になってしまうからだ。また，毎日発行している新聞のように，終わった出来事を取り上げる方法では，ニュースが＜古く＞なってしまう。文化欄などの作り方が参考になるが，限られた紙面で数多くの情報を，内容の伴った記事にしていくというのは難問である。

限られたスタッフ，限られた時間，限られた予算の中で作業していくには，各事業部との関係を密接にするなど，内部の協力体制作りなどを考えていかなければならないだろう。

【こどもの城ニュースの主な配付先】

ネットワーク会員 ……4,380部
こどもの城友の会会員 ……約3,800部
都道府県民生主管部（全国57か所） ……1,150部
保育園，幼稚園，小学校，中学校（渋谷区，港区） ……438部（219件×2部）

渋谷町会，渋谷区ボーイスカウト，ガールスカウトほか ……284部（142件×２部）
その他（一般入館者，招待者，視察・見学者など） ……約15,000部

(イ) 『児童手当』の編集・発行

『児童手当』は，発行が日本児童手当協会（こどもの城），監修が厚生省児童家庭局。Ｂ５判16ページで，表紙はカラー印刷。年４回，６月，９月，12月，３月「ネットワーク」のページが差し込まれ，カラー４ページが増える。「ネットワーク」のページは，こどもの城全国連絡協議会機関紙のページとして作られているもの。

児童館など健全育成に携わる行政機関を対象に編集されているもので，『こどもの城ニュース』に比べると専門性が高い内容となっている。例えば，〔こどもの城〕で実施された催し物を取り上げる場合も，『こどもの城ニュース』では活動の様子や参加者に理解して欲しい事柄が中心になるが，『児童手当』ではその活動を実施するためのノウハウなど，実施する側に必要と思われる情報を中心にするなどの工夫と努力をしている。

平成４年度の『児童手当』の主な内容は下記のとおり。

（２）児童手当誌

平成４年４月号	児童手当	vol. 22-1	子どもの遊びと高層住宅ほか
	こどもの城	No. 54	あそびガヤガヤ研究所の６年ほか
５月号	児童手当	vol. 22-2	地域の町づくりと児童館ほか
	こどもの城	No. 55	肥満にご用心ほか
６月号	児童手当	vol. 22-3	子どもの発達と地域の子育てほか
	ネットワーク	No. 30	さわやか児童福祉週間
７月号	児童手当	vol. 22-4	子どもの糖尿病は増えている？ほか
	こどもの城	No. 56	ビデオの図書館～7,000タイトル備える～ほか
８月号	児童手当	vol. 22-5	危機にいる子どもほか
	こどもの城	No. 57	積極参加の「グループ活動」ほか
９月号	児童手当	vol. 22-6	学校５日制いよいよスタートほか
	ネットワーク	No. 31	オープンした「富山県こども未来館」ほか
10月号	児童手当	vol. 22-7	「権利条約」とこれからの児童家庭福祉ほか
	こどもの城	No. 58	野鳥と演劇，そして子どもの三題話ほか
11月号	児童手当	vol. 22-8	小児事故と今後の課題ほか
	こどもの城	No. 59	子どもの笑顔に苦労忘れてほか
12月号	児童手当	vol. 22-9	子どもとテレビほか
	ネットワーク	No. 32	ケヤキに新しい生命が……ほか
平成５年１月号	児童手当	vol. 22-10	登校拒否児の治療ほか
	こどもの城	No. 60	「第７回造形スタジオ展」に思うほか
２月号	児童手当	vol. 22-11	学校５日制と家庭・地域社会ほか
	こどもの城	No. 61	「おはなし探検隊」発足秘話ほか
３月号	児童手当	vol. 22-12	自然・生活体験が多いほど自立心が育つほか
	ネットワーク	No. 33	都会っ子「耐寒キャンプ」に挑戦

【児童手当誌の主な配付先】

都道府県市町村……3,760部　関係省庁等……251部　その他……381部
社会保険事務所……287部　関係各団体……151部

(ウ) その他

定期刊行物のほかにも，パンフレットやチラシ，事業年報などの印刷物の制作も行った。作成した印刷物は下記のとおり。「こどもの城のご案内」（和文，英文）のように，増刷したものもあれば，「平成4年度講座一覧」のように開講する講座に合わせて一部を差し替えて制作したものもある。その他各種ちらし類は，夏休みなどの催物案内や講座・クラブの募集案内など。特別期間や募集時期に合わせて制作した。

	名　　称	発行部数	内　　容
1	平成3年度事業年報	1,300部	平成3年度の全館および各部の活動記録
2	平成4年度講座一覧	10,000部	4年度の全講座・クラブの案内（A4，P12）
3	こどもの城ご案内（和文）	250,000部	館内案内（日本語）
4	〃　（英文）	10,000部	〃　（英語）
5	その他各種ちらし類	約80,000部	夏休みの催し物案内等

2）宣伝・広告関係

経費削減に伴い，広告関係の予算も大幅に削減することになり，必要最小限の広告を行うにとどめた。限られた予算で有効な広告活動を行うには，専門的な知識が要求されるが，現在のスタッフ構成では十分とはいえない。〔こどもの城〕を，そして〔こどもの城〕の活動を認知してもらうための方法を，広告代理店などと相談しながら考えていきたいと思う。

(ア) 新聞等

掲載新聞名	掲載形式	掲載日時	掲載内容
朝日新聞（夕刊）	半5段	平成4年7月15日（木）～21日（日）	夏休み特別期間，青山劇場・青山円形劇場の催し物ほか，こどもの城のPR
毎日新聞（〃）	〃		
読売新聞（〃）	〃		
朝日小学生新聞	〃		
毎日小学生新聞	〃		
東京新聞（夕刊）	全5段		
朝日新聞（夕刊）	全5段	平成5年2月17日（水）	平成4年度4月開講のこどもの城全講座・クラブの受講生募集ほか
毎日新聞（〃）	〃		
東京新聞（〃）	〃		
朝日小学生新聞	〃		
神奈川新聞	〃		

(イ)　その他

種　　類	サ イ ズ	提 出 期 間	内　　容	場　　所
電飾掲示板	120 ㎝× 180 ㎝	平成 4 年 4 月 1 日～ 7 月 16 日	こどもの城案内	渋谷駅

3）取材関係

開館当初に比べると，年々取材件数が減少している。「目新しさ」がなくなってきたためかもしれない。しかし，内容を検討してみると，「こどもぴあ」などの＜子ども＞をキーワードにした情報誌の増加，学校 5 日制に伴う小・中学生のための施設の紹介など，的を絞った取材になっているのが目につく。〔こどもの城〕という施設全般の取り上げ方から，子ども向けの特徴ある施設としての取り上げ方に変わってきているような気がする。

取材を受けた媒体には，定期的に催物の情報などを送るようにしている。宣伝（広報）予算の限られている〔こどもの城〕のような施設にあって，取材＝パブリシティーというのは大切なこと。各媒体と良好な関係を保っていけるように努力していきたい。

4）その他

(ア)　渋谷スタンプラリー

夏休みには恒例となった「渋谷スタンプラリー」に参加した。今年が 9 回目。「こどもの城」「NHK 展示プラザ」「電力館」「たばこと塩の博物館」「東京都児童会館」のほかに，新たに「五島プラネタリウム」が加わり，全部で 6 館になった。

このスタンプラリーは，渋谷周辺にある各館が共同して施設の存在と活動を PR することを目的としている。＜点＞ではなく＜面＞で PR するところが大きな特徴といえる。また，NHK 展示プラザのように各館のポスターを常時掲示してくれる所もあるなど，相互のネットワークも生まれつつある。

(イ)　「ワンポイント・アドバイス」（毎日新聞のコラム連載）

毎日新聞（都内版）のコラム「ワンポイント・アドバイス」（毎週・金曜日掲載）に記事を提供した。〔こどもの城〕のスタッフが輪番で担当し，身近な材料やちょっとした工夫で楽しめる＜あそび＞を紹介した。

(ウ)　その他

朝日新聞社などの主催で第 6 回「住まいの絵画コンテスト」を12月 7 日から24日まで 4 階ロビーで開催した。

また，渋谷区広尾の 1 本の欅（けやき）の大木が切り倒されることに端を発して作られた「一本の樹プロジェクト」の活動を後援して，10月28日から11月 8 日まで，アトリウム・ギャラリーを使って展覧会「一本の樹から地球へ」を開催した。多数のマスコミが取材に訪れ，大きな反響を呼んだ。

2 研修教養部

本年度の研修教養部の事業の概要は，次のように実施した。

① ボランティアの養成と活動
② L. I. T. の活動
③ 児童厚生員等実技指導講習会
④ 社会福祉講座の実施
⑤ ジュニア・アウトドア・スクール等の館外活動の実施
⑥ 実習生・研修生の受け入れ

カレーライスをどうぞ（ボランティアの宿泊講習で）

1）ボランティアの養成と活動

〔こどもの城〕は，開館前の昭和59年6月からボランティアの養成を始めた。

60年からは女性ボランティアの養成講習も開始し，61年から青年ボランティアの養成講習を年3回，女性ボランティアの養成講習を年1回開催している。本年度末までに，青年・女性ボランティアを合わせ，その修了者は1,208人となった。本年度は，青年ボランティアの養成を3回（6月，11月，2月），女性ボランティアの養成を1回（10月）実施した。

ボランティア養成講習修了者の中で，〔こどもの城〕での活動を希望する人には登録をしてもらっている。3月末の登録総数は，青年371人，女性83人で，計454人。この後，平成5年4月以降に登録継続をしたメンバーは299人（青年231人，女性68人）である。

(ア) ボランティア講習会

ボランティア講習会では，ボランティア活動が初めてという人が多いのでその基本的な考え方（ボランティア論，子ども論，指導者論など）を理解してもらうこと，〔こどもの城〕とその活動を理解してもらい〔こどもの城〕のボランティアとしての共通基盤を作ることなどをねらいとしている。そして，理論として学んだことを具体化するためのプログラムとして宿泊研修を行っている。これは小集団でのグループ活動を体験的に学ぶ場であると同時に，ボランティア同士の交流の場でもある。

この講習会は，日本キャンプ協会のキャンプ初級資格，日本レクリエーション協会のレクリエーション2級指導者資格を取得するための単位の一部として認められている。

1 第24期ボランティア講習会

6月6日～7月2日にかけて実施。宿泊研修を含め23単位（1単位1.5時間）の講習を計画・実施した（3期とも同じ単位数で実施）。修了者は42人であった。

2 第25期ボランティア講習会

11月7日～12月3日まで実施。修了者は44人。

3　第26期ボランティア講習会

1月30日～3月2日にかけて実施。講習会開始時期が大学生の試験期間と重なったため，応募者が少なく，26人となった。反面，人間交流が活発に行われ，まとまりのある講習会となり，修了後〔こどもの城〕のボランティア活動への参加も多かった。

4　第8期女性ボランティア講習会

年1回10月に実施。育児経験や社会経験の豊かな女性を対象に，4回の講義を行う。なお，本年から「婦人ボランティア」を「女性ボランティア」と名称変更した。“婦人”は既婚者のニュアンスが強く，既婚・未婚を問わず女性全般を意味する“女性”という表現のほうが妥当なのではないかという意見から，行政機関などの例にならい変更したもの。

5　グレードアップ講習会

〔こどもの城〕で活動しているボランティア・メンバーを主な対象に，その資質と技術の向上を目指して行っている。本年度は「日本赤十字社救急法講習会」「キャンプ実技講習」「女性ボランティアの人形劇・影絵グループの指導」を行った。

①日本赤十字社救急法講習会

事故防止と危険予知能力を高めるとともに，万一の事故処理のために適切な知識と技術を習得することを目的として行った。日本赤十字社から救急指導員を講師に招いて，5月30日(土)，31日(日)，6月6日(土)，7日(日)の4日間，延べ24時間の講習を実施した。受講者は，職員8人を含め15人が参加し，そのうち適任証が12人に発行された。

②キャンプ実技講習会

〔こどもの城〕では，こどもの城友の会や講座・クラブの受講者などを対象に，夏期特別期間を中心にさまざまな館外（野外）活動を行っている。これにはたくさんのボランティアも参加し，運営・指導に携わっている。しかし年々，野外活動や集団活動の経験の少ないボランティア登録者が増え，自信を持って子どもたちの指導にあたるのが難しくなってきている。そこで，ボランティアの資質並びに，技術向上を目的としてグレードアップ講習会を実施した。

6月18日から，4回の講習及び野外活動実習を行った。実習は，7月10日～12日の2泊3日，千葉県の小林牧場キャンプ場でテント泊をしながら行われた。先輩のボランティアと新人のボランティアが一緒にキャンプを実施する中で，技術の伝達だけでなく，人とのコミュニケーションの大切さに気づくように配慮している。

③女性ボランティアの人形劇・影絵グループの指導

前年行われた「人形劇講習会」に引き続き，講師の和気瑞江先生からの紹介で，柿沼悠子先生に人形劇・影絵グループの公演指導をしていただいた。両グループともに，月1回の公演をプレイホール「おはなし人形広場」で実施している。

受けている指導の内容は，上演のアイディア提供，練習時の助言，人形の操演方法，台本の作り方指導など。週1回の練習日を含め，公演の講評など人形劇全般にわたる指導・助言を受けている。

(イ)　ボランティアの活動

1　新組織活動へのあゆみ

毎月第2土曜日に開かれている「協議会」は，こどもの城ボランティアグループの情報交換，活動の企画・提案の場であると同時に，〔こどもの城〕との窓口でもある。活動内容別に20数グループに分かれて活動しているので，それぞれのグループの代表者が中心となって運営している。

しかし，年々多様化するボランティア活動とそのグループの細分化，ボランティア登録者数の増加に伴い，その話し合いの結果が全員に行き渡らない，代表者が全員集まらない，などの問題点がでてきた。活動するメンバーの固定化にも関係する問題と言える。

そこで，「協議会」に代わる新しい組織づくりに向けて，10月ごろからボランティア有志による話し合いが行われた。その結果，各グループごとの代表者に代わって各期ごとの代表者で構成する「代表者会」を作り，活動の活性化を図る新しい組織づくりを計画した。実施するにあたっては，「ボランティア総会」を開き（平成5年4月の予定），ボランティア全員の承認を得た後，平成5年度から新しい組織でボランティア活動の活性化を図る予定である。

2　平常期間の活動

日常，定期的に行われているボランティアの活動は，次のとおり。活動範囲は各事業部にわたり，スタッフとの打ち合わせをしながら，自主的な活動，補助的な活動などさまざまな形と内容のものが行われている。

【プレイ事業部】

「おはなし紙芝居のつどい」（火曜日），「おはなし人形広場Ⅰ＝女性ボランティアの人形劇・影絵，青年ボランティアのパネルシアター」（水曜日），「おりがみあそび広場」（木曜日）は，ボランティアが自主的に活動をはじめたものが，定期的なプログラムになったもの。「マックロー人形劇場」（第2土曜日），「絵本の読み語り」「さよならの集い」（日曜日）は，プレイホールなどの場を使ってボランティアが自主的に行っているプログラム。「プラモデル模型工作教室」（日曜日）では，プレイ事業部のスタッフの補助や時には中心になり指導にあたることもある。

また，昨年に引き続き，幼児コーナーに女性ボランティアが作った手作り人形を設置。その補修や，着せ替えも行った。その他，随時，プレイホールで子どもの遊び相手を務めるなどの活動もしている。

【造形事業部】

造形スタジオ内において，一般来館児へのプログラム対応の補助のみを行った。

【音楽事業部】

ロビー活動「木曜ワンダーランド」（木曜日）で青年ボランティアが，ロビー活動「楽器であそぼう」（金曜日）で女性ボランティアが指導補助に当たっている。女性ボランティアグループは，「集まれ！みんなのリズム～ブラジルのサンバ」講座の発表会の運営補助も行った。

【体育事業部】

「手足の不自由な子の水泳」（土曜日）の指導補助

【保育研究開発部】

「幼児グループ」「保育クラブ」「母子教室」の保育補助（月曜日～土曜日）と一般開放時間の保育室Ⅱで「絵本の読み語り」（日曜日）を行っている。

3　特別期間の活動

【春休みチャレンジゲーム大会】

【児童福祉週間】

「キャッスルクエスト'92」の企画・運営／「こどもの日マックロー人形劇場」公演／「マックロー誕生日・館内グリーティング」

【夏休み特別期間】

「ウォーターアドベンチャー」の企画・運営／「あそびのおもちゃ箱」

【開館記念特別期間】

「チャレンジゲーム大会」／「あそびのおもちゃ箱」

【冬休み特別期間】

「お正月のあそび大集合」のあそびの指導／「紙相撲初場所」の企画・運営

【春休み特別期間】

「チャレンジゲーム大会」

【その他，季節行事の運営補助】

節分，ひなまつり，母の日，父の日，七夕，敬老の日，体育の日等

4　グループリーダーとしての協力

プレイ事業部で行っている「ユースクラブ」「キッズクラブ」の小集団活動の運営・指導・プログラム企画補助。

5　キャンプ，合宿等への参加

各事業部が行っている「こどもの城友の会ファミリーハイキング」「こどもの城友の会ファミリーキャンプ」「スポーツキャンプ」「ジュニア・アウトドア・スクール」「ちびっこ冒険団」「ゆきんこ冒険団」「こどもの城児童合唱団合宿」「スキースクールPART Ⅰ，Ⅱ」「ジュニア・スキー・キャンプ」への参加。

2）L. I. T.（LEADER IN TRAINING）の養成と活動

小学生・中学生の時期に，〔こどもの城〕活動に参加経験を持つ高校生を対象に，自主グループを形成して活動を重ねてきた。本年度は4月19日の開講式・オリエンテーションに始まり，1年を通して活発な活動を展開した。

特記すべき活動として，以下のものがある。

①夏の合宿を7月11・12日の1泊2日の日程で，千葉県小林牧場キャンプ場で行った。夏のキャンプに備えて，リーダーとしてのトレーニングをするのが目的。キャンプクラフト，

野外炊事などの実習を行った。

②「ちびっこ冒険団Ⅱ期」,「ゆきんこ冒険団」,「ジュニア・スキー・キャンプ」に有志が参加し，カウンセラーの補助者としてリーダーシップを発揮した。

③東京小中学生センター・サブリーダー（高校生）との交流会を２月14日に実施。活動内容，高校生活動の位置づけなどについて協議。併せて，野外炊事を通して親睦を深めた。

１年間の活動状況は以下のとおり。

日　　時	内　　容	参加者
4.19（日） 13:00～17:00	開講式，個人面談，オリエンテーション 講義「こどもの城と L.I.T.」（講師＝神谷明宏）	（人） 21
5.10（日） 14:00～17:30	年間活動ミーティング ※L.I.T. の活動に対するオリエンテーションと今後の日程調整	19
5.17（日）	全国一斉ウォークラリー大会（自由参加） （日本レクリエーション協会主催）	9
6.21（日） 13:00～17:00	懇親会～新入生を囲んで～ ※新入生を囲んで懇親を深めるパーティーとテーブルディスカッション	16
7.11（土） ・12（日）	夏の合宿（千葉県・小林牧場キャンプ場） ※野外活動の実習訓練と夏休みの活動の打ち合わせ	12
7.28（火） ～8.3（水）	ジュニア・アウトドア・スクール（長野県・八千穂高原駒出池キャンプ場） ※小学校高学年，中学生を対象にしたキャンプ活動。カウンセラーの補佐及び本部スタッフとして活動	12
8. 8（土） ～11（火）	ちびっこ冒険団（Ⅱ期）（福島県・国立那須甲子少年自然の家） ※小学校低学年の子どもたちを対象にしたキャンプ活動。主に本部スタッフとして，キャンプ活動の裏側を支えた	3
8.13（木）	ウォーターアドベンチャーのオリエンテーション	16
8.14（金） ～23（日）	ウォーターアドベンチャー ※〔こどもの城〕に来館する子どもたちを対象にした活動。ボランティア・リーダーとともに運営にあたった	延べ 68
10.25（日） 14:00～17:30	上半期の活動のフィードバック・下半期の活動計画 ※事前に記入してもらったフィードバック・シートをもとに夏休みの活動を中心に振り返りながら，L.I.T. 同士の関係についても話し合った	13
11. 8（日），29（日），12.12(土)，13（日）	冬休み活動の準備にあたる	延べ 36
12.19（土） ～23（水）	Let's びゅんびゅん～びゅんびゅんごまをつくろう～ ※一般来館児を対象にワークショップを運営・指導。活動をとおしてリーダーシップ・メンバーシップのあり方を実際に体験した	延べ 38

12.24（木） ～26（土）	ゆきんこ冒険団（福島県・国立那須甲子少年自然の家） ※夏のちびっこ冒険団に引き続いて小学校低学年の子どもたちのキャンプ活動の援助を行う	6
1.16（土） ・17（日）	冬の合宿（東京都・奥多摩湖畔） ※自己の限界に挑戦するため，耐寒キャンプを行う	13
2. 1（日） 9:00～17:30	東京小中学センター・サブリーダーとの交流会（横浜市三ッ沢青少年野外活動センター） ※他団体の高校生メンバーと野外炊事を行いながら，親睦を深めた	13
3.28（日） 13:00～17:30	本年度のまとめ	13

3）　児童厚生員等実技指導講習会

児童厚生員等実技指導講習会は昭和61年度から毎年２回実施してきてたが，受講希望者が多いこと，児童館におけるプログラムの多様化などに対応するため，本年度は初めての試みとして年３回の講習会を実施した。

講習会のテーマ，実施状況は以下のとおり。

＜第１回＞

期　間＝５月14日～17日（３泊４日）

場　所＝千葉県市川市少年自然の家

参加者＝44人（17都県及び韓国。男子15人，女子29人）

テーマ＝自然とのふれあい活動をどう進めるか

主なプログラム＝

講　　義「児童館と野外活動～青少年活動における野外活動の意義を考える～」
（講師：日本野外教育協会　伊藤昭彦氏）

〃　「野外活動の企画と運営～プログラミングとリーダートレーニング～」
（講師：東京小中学生センター　柴田俊明氏）

実技指導「楽しい集いの運営法」（こどもの城職員）

〃　「キャンドルファイアー」（こどもの城　常藤恒良，浦本桂子）

〃　「テント設営法」（　〃　神谷明宏）

〃　「野外炊事法－基礎編」（　〃　佐野真一）

〃　「ナイトウォークラリー」（　〃　　〃　）

〃　「ダイナミック野外ゲーム～アドベンチャーゲーム入門」
（　〃　神谷明宏）

〃　「野外炊事法－応用編～夢のバザール」
（　〃　神谷明宏，浦本桂子）

〃　「スタントナイト～火を囲んだつどい」　（東京小中学生センター　柴田俊明氏）

地域における児童館活動も館内にとどまることなく，自然の中でふれあい体験を進めようという動きが高まりを見せている。今回は，昨年実施した内容をさらに深め，児童館で直ぐに応用できるプログラムを選び実施した。

自然の中でのすばらしい活動作り，生活作り，仲間作りを目指す活動が全国で展開されることを考えながら，この講習会を運営した。参加者たちは，夏休みという実践の場がひかえていることから，意欲的に講習に参加し，充実したものとなった。

＜第2回＞

期　間＝10月23日～25日（2泊3日）

場　所＝こどもの城

参加者＝54人（19都県。男子2人，女子52人）

テーマ＝つかめ！ つどいの心とテクニック

主なプログラム＝

講義と見学「こどもの城の事業の現状説明・見学」（こどもの城職員）

実技指導「つどいの持ち方　パートⅠ～遊んで，遊んでこども心発見」（全国こども会連合会　宇田川光雄氏）

〃　「つどいの持ち方　パートⅡ～ムツチャンのとびだせクラフト」（横浜レククラフト研究所　兼松ムツミ氏）

〃　「つどいの持ち方　パートⅢ～ダンスは心の交流だ」（横浜レクダンス研究会「赤いくつ」　石綿久嗣氏）

〃　「つどいの持ち方　パートⅣ～レッツ・シング　みんなでうたおう」（東京小中学生センター　柴田俊明氏）

パネル・ディスカッション「児童館・つどいの事例発表」（パネラー：参加厚生員，司会：こどもの城　神谷明宏）

今回は「つどいの心とテクニック」のテーマのもと，ゲーム・クラフト・ダンス・ソングを取り上げた。言葉の上からは，レクリエーションの古典的技術を取り上げているように見えるが，実はこの古典的技術を再認識することによって，現代に生きる指導者の基本的な心と技を学ぶ機会としたいとの思いで企画した。

児童館の活動は，子どもたちの心の交わりを作る場であると思う。これを実現するためには，指導者と子どもたちが「これをしよう」という共通の意欲を盛り上げる必要があり，両者のイメージを表現・展開する知識と技術が不可欠のものである。この思いが，今回の講習会の構成の基本で，参加した54人の受講者は，児童館活動への実際的な応用が期待できる内容とあって，熱心に受講した。

＜第3回＞

期　間＝1月22日～24日（2泊3日）

場　所＝こどもの城
参加者＝46人（16都県。男子４人，女子42人）
テーマ＝リズム遊びと手作り楽器～児童館の音楽活動を活性化させるために～
主なプログラム＝
講義と実技「表現活動とリズム遊び」（こどもの城音楽事業部　吉村温子）
講義と実技「児童館で音楽遊びをするために」（　〃　飯田茂樹）
実技講習「手作り楽器を作ろう　パートⅠ～おしゃべり太鼓を作ろう」
〃　「　〃　パートⅡ～おしゃべり太鼓でアンサンブル」
〃　「　〃　パートⅢ～スプーン・カスタネットで大道芸に挑戦」
〃　「　〃　パートⅣ～タムタムはアフリカのリズム みんなでコンサート」
（　〃　山本誠ほか）

今回は〔こどもの城〕の音楽事業部が日常活動で行っているプログラムを紹介し，全国の児童館における音楽活動の活性化に寄与したいという意図で立案・実施した。

音楽活動を考える時，いわゆる＜西洋音楽＞が中心になり，指導者はピアノやオルガンが演奏できることが前提条件になりがちである。世界を見渡すと，＜西洋音楽＞とは別の民族固有の音楽があり，楽器があり，それらを用いて音楽が楽しまれている。〔こどもの城〕ではインドネシアのガムラン音楽を取り上げたり，アフリカン・タムタム（太鼓）の演奏を日常活動の中で実践してきた。また，空きカンで作ったガンザ（ブラジルのサンバで使うマラカスのような楽器）をはじめとする手作り楽器の演奏も楽しんでいる。

身の回りのものを活用し，手作り楽器を作り，それを用いて演奏し，全身による表現へと発展させる一連の〔こどもの城〕の音楽プログラムの１つを体験してもらった。今後は，〔こどもの城〕で作られ，実施されているプログラムを順次紹介していきたいと思う。

４）　社会福祉講座・クラブの実施

〔こどもの城〕の社会福祉講座クラブは開館以来，㈶広げよう愛の輪運動基金の協賛を得て実施してきた。本年度は手話講座，点訳入門講座，点訳サークル，特別講座「子どもの心を考える」，お話講座の５つの講座クラブを実施した。

手話講座（前期15回，後期15回。定員各30人）は，定員いっぱいの30人で行われ，貞広邦彦(社福)トット文化館館長の指導で楽しいクラス運営ができた。初心者と継続者の混合クラス。聴覚障害の人と交流会を持つなど，広く社会福祉の情報交換の場となるような内容だった。

点訳入門講座（全24回，定員30人）は長期にわたる上に，細かい手作業を要求されるが，定員を越える38人の受講者があった。点訳の基本を学び，日常の文章が点字で打てるように指導。ボランティア活動をはじめようとする人向けの講座。点訳ばかりでなく，視覚障害者

の福祉全般について考える機会もあり，内容の豊かなものとなってきた。点訳入門講座修了者を対象とした点訳サークル（毎月１回全12回，定員30人）の受講者は17人だった。視覚障害の人から希望のあった書物などを点訳奉仕している。

特別講座「子どもの心を考える」（全３回，定員60人）は，年々受講希望者が増加し，本年度も定員を上回る65人が受講した。“親子関係を考える”“子どもからの信号”“子どもの自立への援助”のテーマで平井信義大妻女子大学名誉教授が，子育ての基本について講義。特に，ドイツやアメリカなどの子育ての国際比較は興味を集めていた。大きな社会変動の中で，多くの親が子育てについて迷っている。子育て環境の整備が叫ばれている今，子育ての心について明確な方向性が求められているのではなかろうか。

お話講座～絵本のよみきかせからたのしい表現活動へ～（全３回。定員30人）は，13人の参加があった。保育現場等ですぐ役立つ講座として設置してきたが，平日の夜の講座ということもあり，苦しい運営となった。

実施一覧は以下のとおり。

講　座　名	期間・曜日・時	回数・定員	受講者数	講　　師	受講料	対　　象
			(人)		(円)	
手話講座（前期）	4.14～7.28 火曜日 18:30～20:00	全15回 30人	30	（社福）トット文化館館長 貞　広　邦　彦 氏	11,000	高校生以上
点訳入門講座	4.21～5.2.9 火曜日 18:30～20:00	全24回 30人	38	（社福）日本点字図書館事業部点字制作課校正係主任 河　井　久美子 氏	15,000	18歳以上
お話講座～絵本のよみきかせからたのしい表現活動へ～	5.15～7.3 金曜日 18:30～20:00	全８回 30人	13	足立高等保育学院講師・児童劇作家 蓑　田　正　治 氏	9.000	18歳以上の保育関係等に勤める人
手話講座（後期）	10.6～5.2.9 火曜日 18:30～20:00	全15回 30人	30	（社福）トット文化館館長 貞　広　邦　彦 氏	11,000	高校生以上
特別講座 子どもの心を考える講座	①6.8（土） ②7.6（土） ③7.13（土） 14:00～16:00	全３回 60人	65	大妻女子大学名誉教授・医学博士 平　井　信　義 氏	6,000	18歳以上の関心のある人／一般
（クラブ）点訳サークル	4.14～5.3.23 火曜日 18:30～20:00	全12回 30人	17	（社福）日本点字図書館事業部点字制作課校正係主任 河　井　久美子 氏	10,000	点訳作入門講座修了者

5）　ジュニア・アウトドア・スクール等の館外活動の実施

日常生活とは異なる自然環境の中で，異年齢の子どもたちの集団生活の体験は，友情をはぐくみ，自己の課題を発見し，相互学習を可能にし，困難に耐え，冒険に挑み，自然の摂理を考えるまたとない機会となっている。このような体験を通した子どもたちが，〔こどもの城〕の中の各種プログラムに参加し，集団の核になることによって，子どもたちの側からそれらの活動がいっそう生き生きしたものになる。このことは〔こどもの城〕が実施する野外活動の大切な視点の１つである。

本年度はジュニア・アウトドア・スクールとジュニア・スキー・キャンプの２つの野外活動を実施した。

ア）**ジュニア・アウトドア・スクール**

期　間＝Ａコース　７月28日～８月３日
　　Ｂコース　７月30日～８月３日

場　所＝長野県佐久郡八千穂村「駒出池キャンプ場」

参加者＝140人（スタッフを含む）

	Ａ　コ　ー　ス				Ｂ　コ　ー　ス					合計
	中３	中２	中１	小計	中１	小６	小５	小４	小計	
男	2	5	7	14	1	14	5	12	32	46
女	5	3	2	10	3	12	10	20	45	55
計	7	8	9	24	4	26	15	32	77	101

※L. I. T. ＝12人，ボランティア＝22人，スタッフ＝５人

プログラム内容＝主なプログラムは別表のとおり。

第１日……「豊かな生活を創り出そう」

8:00　Ａコース参加者〔こどもの城〕集合，出発。
12:40　キャンプ場到着。開村式，テント設営，テント村完成。
16:00　野外炊事実習，夕食。
19:30　班別ミーティング（２日目の登山計画の行程確認)。
22:00　消灯

第２日……「自己への挑戦」

9:40　中山登山出発。標高2,493m の頂を目指す。
16:00　高見石小屋到着，夕食。全体ミーティング。
21:00　消灯（高見石小屋泊)。

第３日……「協力してゆかいに班づくり」

（第１日）　4:00　起床。高見石山に登り日の出を見る。
6:00　下山。
9:00　テント村に帰着。Ｂコース受け入れ準備。

……

8:00　Ｂコース参加者〔こどもの城〕出発。
12:30　キャンプ場到着。昼食，開村式。Ａコースと合流。
14:00　テント設営。
16:00　野外炊事，夕食。
18:30　班別プログラム（これからのプログラムについて話し合う）。
22:00　消灯。

第４日……「野外生活を楽しもう」

（第２日）　9:00　班別プログラム（①キャンプクラフト②白樺コースター③八千穂レイクボート遊び④キャンプ場周辺散策⑤オーホデティオス）
15:00　野外クッキング・スクール（いわな料理に挑戦），夕食。
18:30　ナイト・ウォークラリー
21:00　班ミーティング

第５日……「新しい発見をしよう」

（第３日）　10:00　追跡ハイキング
13:00　個人選択プログラム（①白樺プレート作り②焼き板③写生④自然観察⑤おもちゃ作り⑥焼きリンゴ⑦オレンジ・カップケーキ⑧スネークパン）
16:00　夕食。森の仲間の祭典を計画していたが豪雨のため中止。班別ミーティング。

第６日……「全身で自然を楽しもう」

（第４日）　9:00　「嵐のおたけび大合戦・駒出池の乱」（アドベンチャーゲームが雨のため実施不可能となり，班別対抗ゲーム大会に変更）。
14:00　班別プログラム。
17:00　野外炊事，夕食。
19:30　前日中止した「森の仲間の祭典」を実施。

第７日……「よい思い出を胸に」

（第５日）　9:00　撤収作業。物品返却，テント・サイト清掃。
13:20　閉村式。
14:10　キャンプ場出発。
22:20　〔こどもの城〕到着，解散。

イ）ジュニア・スキー・キャンプ

小学校新４年生から中学３年生を対象にしたジュニア・スキー・キャンプは，昨年に引き

続いて山形県蔵王の国際蔵王高原ホテルを拠点に行った。

今回のキャンプでは，L.I.T.（高校生リーダー）がグループ・カウンセラーとして参加し，子どもたちの生活指導にあたり，青年ボランティアがアドバイザーとして援助する組織編成にした。L.I.T.のメンバーの鮮明なキャンプ体験が，子どもたちの集団生活に生かされていた。このような組織をとおして，人間関係を深め，仲間づくりを促進する場としてのキャンプの効果を高めることができた。

このキャンプでは，スキーという活動が中心となるが，それ以外の活動も重視している。異年齢の子ども集団の生活をとおして，他者の受容，リーダーシップの発揮，役割遂行，自己管理等を学ぶ機会としてさらなる発展を図りたい。

期　間＝４月１日～５日

場　所＝山形県蔵王スキー場・国際蔵王高原ホテル

参加者＝115人（スタッフを含む）

小　3		小　4		小　5		小　6		中　1		中　2		中　3	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
5	12	7	15	7	5	6	9	10	0	2	4	2	9
17		22		12		15		10		6		11	

※L.I.T.＝10人，ボランティア・リーダー＝8人，スタッフ＝4人。

プログラム内容＝主なプログラムは下記のとおり。

第１日……「協力してゆかいな班作り」

7:15　〔こどもの城〕集合。

14:00　蔵王スキー場到着。

15:00　宿舎到着。開講式，部屋割り当て，スキー貸し出し，スキークラス編成。

20:30　スキーオリエンテーション。入浴及び班会議。

22:00　消灯

第２日……「雄大なゲレンデはぼくらの教室だ」

8:40　スキーの用意，スキー教室。

15:30　スキー教室終了。入浴，自由時間。

19:00　ナイト・フェスティバル。スキー講師による松明（たいまつ）滑走と雪上ナンバーコール。

20:30　班会議。

第３日……「描け　大きなぼくらのシュプール」

8:30　スキーの用意，スキー教室開講。

19:30　スタンツナイトの夕べ。
21:30　班会議。

第4日……「よい思い出を胸に」

6:30　起床，洗面，荷物整理。
8:30　スキーの用意，スキー教室開講。地蔵岳登山（上級班のみ）。
13:00　昼食，着替え。
14:15　閉講式。
16:00　宿舎出発。中央ロープウェイで下山。
18:00　上山温泉・三木屋で夕食，入浴など。
21:00　キャンドル・セレモニー。
22:10　上山温泉出発。夜行バスで〔こどもの城〕へ。

第4日……

6:00　〔こどもの城〕到着，解散。

6）　実習生・研修生の受け入れ

本年度は，6大学・短大と1専門学校から実習生受け入れの要請があり，合計18人が下記の事業部で実習を行った。

○昭和女子大学	4人（5.19～6.6）	＝保育研究開発部，プレイ事業部
○大正大学	1人（5.26～6.7）	＝プレイ事業部
○武蔵丘短期大学	5人（7.18～8.8）	＝体育事業部
○国際武道大学	2人（8.3～17）	＝　〃
○東京学芸大学	1人（9.29～10.18）	＝　〃
○湘北短期大学	1人（8.3～16）	＝保育研究開発部
○東京健康科学専門学校	4人（6.18～7.1）	＝体育事業部

研修の目的は，健全育成事業の体験実習，職場体験実習，保育実習などさまざまであるが，実習生は職員と同じシフトで〔こどもの城〕の事業を体験した。〔こどもの城〕の意義と仕事におけるチームワーク，子どもへの接し方など多くのことを学び得たとの報告が寄せられている。

本年度は研修生の受け入れはなかった。

(1)　4年度活動一覧表

1）　平常期間プログラム

名　称	期　間	時　間	場　所	料　金	要　員	備　考
アートスケープ展	4.10(金) ～24(金)	開館時間中	アトリウム・ギャラリー	(円) —	(人) 国際交流部　1 企画部　1	東京近郊のインターナショナル・スクールの美術展
地球と手をつなごう	5.16(土) ～17(日)	5.16　①2:00 ②4:00 ③6:00 ～17　①11:00 ②1:30 ③3:30	青山円形劇場	1,000 (3歳以上同一)	国際交流部　1 企画部　1 広報部　1 劇場事業本部 外部スタッフ	2か国語ファミリー・プログラム17弾

2）　特別期間プログラム

名　称	期　間	時　間	場　所	料　金	要　員	備　考
ハロウィンパワー	10.31(土) ・11.1(日)	10.31　①2:30 ②4:30 11.1　①11:00 ②1:30 ③3:30	青山円形劇場	(円) 1,200 (3歳以上同一)	(人) 国際交流部　1 企画部　1 劇場事業本部 外部スタッフ	2か国語ファミリー・プログラム18弾

3）　講座・クラブ

名　称	対　象	人　数		曜日・時間	場　所	期間・回数	料　金	講師等
		定員	受講数					
		(人)	(人)			(回)	(円)	
パフォーミング・アーツ・グループ	小1～6年	30 30 30	29 33 32	水曜日 4:00～5:30	Bリハーサル室 音楽スタジオB	4.8～6.24　12 9.16～12.2　12 1.13～3.17　10	18,000 18,000 15,000	職員 本間窓奈 リンダ・ドロシー 奈良なぎさ

(2)　国際交流部の活動

国際交流部では，①英文の広報活動　②在日の外国人と日本人の家族単位の交流プログラムの企画・実施　③子どものための講座の３つを柱に活動を行った。

①の広報活動では，〔こどもの城〕への外国人来館者に対する各部プログラムの案内英語版，特別期間の催し英語版を制作して配布したほか，英文雑誌・英字新聞，インターナショナル・スクール，米軍基地，教会などに送付し，外国人来館者の増加に努めた。②では〔こどもの城〕友の会の会員家族や一般来館者と地域の在日外国人家族が一緒に楽しめる催しとして，春と秋の２回，青山円形劇場で公演を行った。

③の講座では，国籍を越えて交流できる機会を作ると同時に，自己表現を学ぶことを目的として，「パフォーミング・アーツ・グループ」を３学期制で年間34回実施した。また，②の交流プログラムへの参加を行った。

今後の課題としては，日常的なレベルでの外国人向け交流プログラム（例えば外国人来館児・者が日本文化・日本人と触れ合うことのできるプログラムなど）ができるよう，努力していくことであろう。

１）平常期間

(ア)　アートスケープ '92（４.10～23）

７回目を迎えた東京・横浜地区のインターナショナルスクールの生徒の美術作品展。言葉や国境を越えた「美術」という手段を通じた，国際交流の機会として実施された。

参加校はアメリカン・スクール・イン・ジャパン，清泉インターナショナルスクール，聖心インターナショナルスクール，セントメリー・インターナショナルスクール，セントモア・インターナショナルスクール，横浜インターナショナルスクール，セントジョセフ・インターナショナルスクールの７校。50か国を超える国籍の５年生から12年生（日本の高校３年生）の生徒たちの彫刻・陶芸・ガラス工芸・油絵・水彩画，デッサン，写真などの作品約400点がアトリウム・ギャラリーに展示された。

展示のほかに体験コーナーも（アートスケープ '92）

(イ)　地球と手をつなごう（５.16・17）

在日外国人との交流を目的に，幼児から小学低学年とそのファミリーを対象にした２か国語の催し第17弾を，青山円形劇場で開催。

「国際宇宙年」にちなみ，環境保全について遊びながら考えるストーリー仕立てで，大きなパ

ラシュート「パラバルーン」で遊んだり，㈱ファミリーディスコなどに参加できる内容。㈱ファミリアの協力で，ファミ，リア，スヌーピー，ピーターラビットの着ぐるみも登場。パフォーミング・アーツ・グループの子どもたちも，タップダンスや各シーンの子ども役で活躍した。講座の親も母親役で参加するなど，多くの協力があった。

2）特別期間

㈠　ハロウィン・パワー（10.31・11.1）

ヨーロッパのお祭り「ハロウィン」が近年日本でも人気を博しているので，この時期〔こどもの城〕開館記念と併せて，2か国語によるファミリー・イベント「ハロウィン・パワー」を青山円形劇場で開催。外国の文化を理解してもらおうと，ハロウィンのいわれを説明し，伝統的な遊びを紹介した。

開館記念と併せてハロウィンのファミリー・イベント

子どもをさらいに来たハロウィン忍者がみんなの味方の魔女の助けで改心し，仲良くなるというストーリーに，パパのリンゴゲーム，ママの叫び声コンテスト，子どものドーナツ食い競争，そしてファミリーディスコなどを盛り込んだ内容。パフォーミング・アーツ・グループの子どもたちはファンキーダンスに挑戦，かわいいオバケの仮装をして活躍した。

今回は㈱マスターフーズの協力で，M&M's のぬいぐるみ3体が登場。それらの中に入ったり，ゲーム等を盛り上げるキャストとしてパフォーミング・アーツ・グループの父兄が参加協力してくれた。

広報時に案内したためか，観客の多くもさまざまなコスチュームに身を包んでゲームやディスコに参加する姿があり，観客が「見る」だけにとどまらず，意識して参加している様子が見られた。

3）講座・クラブ

㈠　パフォーミング・アーツ・グループ

第1期29人，第2期33人，第3期32人が受講した。

第1期の4月は「地球と手をつなごう」のタップダンス，セリフの練習・出演，公演後はファンキーダンスを習った。講座12回に加え，5月の公演前に1回の特別練習を組み込んだ。第2期には，第1期に引き続きハロウィン公演に向けてファンキーダンスの練習に励んだ。

講座12回，特別練習は２回組み込まれた。

第３期は，平成５年５月の公演に早くから備えられるよう，テーマ曲にあわせての創作ダンスやセリフの練習をした。２月には帰国子女サークルが来館，ゲームをしたり交流の一時を持った。また，３月にはNHK「私の子守歌コンサート」から出演依頼があり，アメリカの子守り歌２曲を英語で披露し，NHK総合テレビで放映された。ふだんとは違った活動を取り入れられたので濃い内容になったが，練習回数が足りなくなるといった問題も出た。結果として，講座10回に対し，子守り歌の特別練習を２回組み込んだ。春休みには，来る５月の公演に向けての特別練習が２回行われた。

全期間を通して，日本人・外国人・帰国子女の参加が中心だった。英語と日本語による活動風景は国際色豊かで，日本人の子どもたちも自然に講師の英語を解するようになり，よい雰囲気の中で活動が行われた。

今後の課題として，参加者と内容の見直しが必要と思われる。参加者については，現在の入会希望者は日本人がほとんどなので，もっと外国人が増えて，講座時間中に国際交流ができるようにしたい。内容も，公演の練習のためのダンスなど体を動かすことが多いので，手芸・工作などを通じた自己表現の活動を取り入れていきたいと思う。

NHKテレビに出演したパフォーミング・アーツ・グループ

1）業務の概要

業種	店名等	場所	利用客席数等	開業日・開業時間等	備考
ホテル	こどもの城ホテル	6・7階	客室数 27 客室定員 64	無休（12月29日から1月2日までを除く）	洋室24室（シングル3，ツイン10，デラックスツイン11）和室3室（4人用1，5人用1，10人用1）料金1泊6,300円から（税込み）
飲食関係	レストラン・ラブニール	8階	客席数 60	毎週月曜日休業 （開業時間） ランチタイム 11：30～14：00 ディナータイム 17：00～21：30	洋食全般及びパーティー等
	カフェテラス・アンファン	1階	客席数 140	無休（12月29日から1月2日までを除く） （開業時間） 7：30～20：30	喫茶，軽食及び弁当仕出し等 ホテル宿泊者の食事
	すし・ひさご	1階	カフェテラス・アンファン内	無休（12月29日から1月4までを除く） （開業時間） 11：00～20：30	すし，和食及び弁当・料理の仕出し等
	コーヒーラウンジ・アミティーエ	2階	客席数60	毎週月曜日休業 （開業時間） 11：00～20：00	喫茶，軽食
	劇場内・スナック	青山劇場内地下ロビー及び2階ロビー	立食	公演に合わせて開業 （開業時間）開演前・幕間	同上
貸し室	研修室	8～9階	客室 10 （一部通しで使用できる） 利用人員350人ぐらいまで	無休（12月29日から1月2日までを除く） （開業時間） 9：00～21：00	研修及び会議等 料金 1単位時間 10,500円から（税別）

業種	店名等	場所	設置等	開業日・開業時間等	備考
貸し室	ギャラリー	1階アトリウム		無休（12月29日から1月2日までを除く） （開業時間）　10：00～18：00	各種展示会及び実演等 料金　1日　30,000円（税別）
物品販売	売店	1階アトリウム 青山劇場地下ロビー	2か所	毎週月曜日休業（劇場ロビー売店は公演に合わせて開業） （開業時間）開館時間と同じ	絵画，造形用品，文具，遊具，玩具，印刷出版物，電気用品，音楽用品，衣料，スポーツ用品，劇場関連用品，催事関係用品，雑貨等
	自動販売機	館内各所	飲食・乳販売　12か所 たばこ販売　7か所	無休	通常ドリンク類，牛乳類，スナック類
	酒類販売	青山劇場地下ロビー及び2階ロビー	2か所	青山劇場公演に合わせて開業	全酒類の小売り
公衆電話		館内各所	16か所	無休	
駐車場		地下2階～地下4階	約113台（業務用車両分を含む）	無休（12月29日から1月2日までを除く） （開業時間）　8：00～22：30	一般車両は地下駐車，バス等大型車両は1階ピロティに駐車 料金　普通車両の場合1時間410円

注）1．この表は，平成4年4月1日以降の利用者サービス事業について掲げたものである。
2．春休み，夏休み，冬休み等の特別期間については，「こどもの城」全館の日程に合わせ休業日にも営業を行う。
3．劇場公演日程に合わせ，関連部門は休業日であっても休業しないで営業する。
4．各事業部の事業上必要なときは，当該事業に合わせて可能な限り上記場所以外でも営業を行う。

(2)　業種別の状況

(ア)　ホテル

営業収入は，本年度１億853万円で，前年度１億734万円に比べ119万円の増収となっている。これは前年度事務室の改修工事のため約３週間休業したことによるものである。

客室がどのように利用されたかを本年度についてみると，客室利用率（注１）は全体で82%，客数比率（注２）では71% となっており，前年度に比べ客室利用効率，客数比率とも若干減少している。

客数比率が客室利用率に比べて低いのは，主としてツインルーム及び和室の利用人員が客室定員より少なかったためなどの理由によるものである。今後とも利用効率の向上に努めるとともに，顧客に対するサービスの向上等に努力していく必要がある。

ホテルの利用状況

客室種別	客室利用率	客数比率
シングル	90.4%	90.4%
ツイン	81.9%	75.6%
和室	73.2%	57.1%
計	81.9%	70.8%
総利用者数	16,136人	

（注１）

$$客室利用率＝\frac{（期間中利用室延数）}{（期間中日数×27室）}×100$$

（注２）

$$客数比率＝\frac{（期間中利用客延人数）}{（期間中日数×定員64人）}×100$$

(イ)　レストラン・喫茶

飲食５店舗の営業成績は，〔こどもの城〕の入館者数，劇場公演及び各種会議等によって大きく左右されることになるが，営業収入で見ると，前年度４億3,250万円，本年度４億円で，対前年度比99%，約3,250万円の減収になっている。新年度においてはPR活動をさらに活発化するとともに，各店のメニューの見直しを行い，外部の一般客の利用拡販を図る必要がある。また，今後も引き続き喫茶メニューの改善，料金の低廉化とサービス向上を図っていく必要がある。

(ウ)　貸し室・ギャラリー

利用は開館以来，依然として増加傾向が続いている。売り上げ額は本年度１億3,486円となっている。研修室の利用率も平均で68% となっている。特に午後だけを見ると80% で，限界に近づいている。

利用の内容は，外部への有料貸しのほか，〔こどもの城〕の企画による催事などにも利用されている。とりわけ春，夏，冬休み，ゴールデンウイークなどの特別期間中は，研修室，ギャラリーのいずれも内部利用の割合が極めて高く，〔こどもの城〕の限られたスペースでの充実したプログラムづくりに寄与している。

研修室利用状況

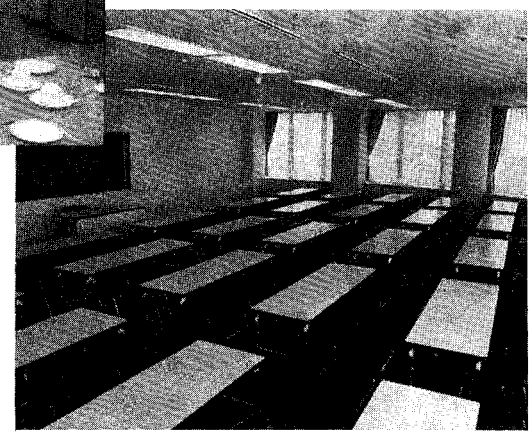
	区分 項目	年計					
		有料利用		内部利用		計	
		件数	利用率	件数	利用率	件数	利用率
研修室	午前	1,977	55.2%	416	11.6%	2,393	66.8%
	午後	2,417	67.5%	450	12.6%	2,867	80.1%
	夜間	1,580	44.1%	467	13.0%	2,047	57.2%
	計	5,974	55.6%	1,333	12.4%	7,307	68.0%
ギャラリー		52	14.5%	141	39.3%	193	53.9%

(注) 利用率は次により算出した。
1) 研修室は（午前・午後・夜間）の件数を358日×10室＝3,580で除した。
「計」については件数を358日×10室×3＝10,740で除した。
2) ギャラリーについては件数を358日×1か所で除した。

営業部

(エ) その他の業務

売店，自動販売機による販売，駐車場の提供，館内公衆電話の管理などについては，前年度に引き続き〔こどもの城〕事業活動に即応する形で利用者サービス事業の一環として実施してきている。これらの収入の状況は，本年度1億4,632万円となっている。〔こどもの城〕の利用を促進していく上で，これらの利用者サービス事業はいずれも欠くことのできないものなので，引き続き多様な利用者需要に合わせたサービスの向上を図っていく必要がある。



8階のレストラン・ラブニール(上)と研修室（8,9階）

営業許可等の状況

業種	店名等	営業許可を受けた日	営業許可番号	行政庁	備考
旅館業	こどもの城ホテル	昭60.10.30	60澁保衛環旅第10号	渋谷区保健所	表示基準適合（渋谷消防署）昭62.10.1澁予762号
飲食業（飲食店）	レストラン・ラブニール	昭60.10.22	60澁保衛食ほ第1552号	〃	
〃	カフェテラス・アンファン	昭63.11.12	60澁保衛食ほ第2307号	〃	
〃	コーヒーラウンジ・アミティーエ	昭60.10.22	60澁保衛食ほ第1554号	〃	
〃	劇場スナック	昭60.10.22	60澁保衛食ほ第1553号	〃	
〃	自動販売機	昭60.10.31	60澁保衛食ほ第2072～5号	〃	
（喫茶店）	〃	昭60.11.20	60澁保衛食ほ第2308～9号	〃	
〃	〃	昭60.11.30	60澁保衛食ほ第2310号	〃	
乳類販売	〃	昭60.11.20	60澁保衛食ほ第2311号	〃	
食料品販売	〃	昭61.4.28	60澁保衛食れ第20.　21号	〃	
乳類販売	〃	昭63.2.6	60澁保衛食ほ第2816号	〃	
たばこ小売		昭60.9.30		大蔵省関東財務局	
酒類販売	劇場ロビー	昭62.3.9	澁間第200号	渋谷税務署	

注）期間が定められている許可等については，当該期間満了後更新手続きをとっている。

Ⅳ　その他の活動

1　こどもの城全国連絡協議会 ……209
2　チャリティー事業 ……211
3　こどもの城友の会 ……212

1　こどもの城全国連絡協議会

こどもの城全国連絡協議会は，全国の児童の健全育成に資することを目的とし，会員相互の提携により，全国の児童センター・児童館など児童厚生施設の活動の進展を図るため，次の事業を行った。

1）事業実施状況

(ア)　情報交換・資料提供

(1)　機関紙の発行

全国の児童館などへ年4回（6・9・12・3月）4,800部余を送付し，〔こどもの城〕各部門の活動状況の周知に努めた。

会　員　数

区　分	入　会	未入会
	(件)	(件)
県（指定都市）	51	51
団　体	6	6
計	57	8

(2)　情報交換・資料提供等の協力支援

①〔こどもの城〕の情報

全国の児童館などへ，「こどもの城ニュース」を年6回（4・6・7・10・12・2月）4,800部余と，「こどもの城事業年報」を送付し，各地域の児童館活動の参考に供した。

②地域児童館等の情報

次の資料を全国の児童館などへ送付し，各館の振興に供した。

・児童館等の活動実践集（東京都児童会館発行）

(イ)　児童文化・芸能等の活動

(1)　〔こどもの城〕おまつり劇場の開催（青山円形劇場）

子どもが守る地方の伝承芸能を紹介し，その活動を励ます催し。今回は「笠（かさ）」を使った芸能にスポットをあてて，大小さまざま，色とりどりの「かさ」が登場する，華やかな「おまつり劇場」となった。伝承芸能の出演は，群馬県桐生市の上州八木節保存会所属の桐生広二子若連と神奈川県湯河原町の鍛冶屋鹿島踊保存会の子どもたち。

実施期間……8月25・26日（2日間，4公演）　入場人員……約1,200人

(2)　児童館の子ども卓球大会（〔こどもの城〕体育室）

東京都内の児童館で活動に参加する小・中学生たちによる卓球大会を開催し，子どもたちの交流を深め，児童館活動の活性化を図った。

実施期間……8月6・7日　参加者……50チーム，約334人

(3)　ブルーノ・ムナーリ氏作品展示とワークショップ（富山県立こども未来館）

富山県立こども未来館の開館に伴い，ブルーノ・ムナーリ氏の作品を展示し，〔こどもの城〕造形事業部専門職員によるワークショップも行った。

主　　催……富山県立こども未来館

展示期間……11月8日～12月7日（30日間）

(ウ)　児童厚生員等の研修・現任訓練

平成4年5月・10月及び平成5年1月に，それぞれ3泊4日，2泊3日の日程で実技指導講習会を実施した（研修教養部の項参照）。

2）　総会・幹事会等

平成5年3月5日午前（幹事会）・午後（総会）をそれぞれ開催し，本協議会の事業・予算・決算について審議決定した。

なお，各都道府県（指定都市を含む）児童福祉主管課・児童館連絡協議会及び関係団体等の本会入会状況及び役員は次のとおりである（5年2月現在）。

こどもの城全国連絡協議会役員

区　分	氏　名	選出ブロック	所属する会員組織の役職名	勤　務　先
会　長	小島　弘仲	こどもの城	日本児童手当協会理事長	(財)日本児童手当協会
副会長	田中　章	東　京	東京都公立児童厚生施設連絡協議会会長	東京都児童会館
〃	中平　正子	近　畿	大阪府福祉部児童福祉課長	大阪府福祉部児童福祉課
幹　事	竹野内政彦	北海道	北海道児童館連絡協議会長	釧路市福祉部児童家庭課
〃	福本さつ子	東　北	宮城県児童館連絡協議会長	仙台市泉区南中山児童センター
〃	岩本憲道	中国・四国	広島県児童館連絡協議会長	くるみ園
〃	久々山義人	九　州	熊本県児童館連絡協議会長	本渡市役所
〃	田代　實	こどもの城	日本児童手当協会常務理事	(財)日本児童手当協会
会計監事	椿　幹夫	関　東	神奈川県公立青少年育成施設連絡協議会長	神奈川県立青少年センター
〃	伊藤　環	中　部	愛知県児童館連絡協議会長	愛知県常滑市民生部

（注）役員の任期は，平成6年3月（定期総会時）までとする。

3）　会　計

こどもの城全国連絡協議会会計を設け，会費及び日本児童手当協会助成金を原資として，前記の業務に関する経理を次のとおり施行した（4年度収支計算書）。

（収入の部）

科　目	4年度	備　考
	(円)	
繰越金収入	771	
会費収入	285,000	会費は1会員年5,000円とする。
日本児童手当協会助成金収入	4,219,000	
雑収入	6,644	
計	4,511,415	

（支出の部）

科　目	4年度	備　考
	(円)	
役員会・総会費	284,204	
業務諸費	19,778	
機関紙発行費	2,040,530	
協力援助費	2,166,188	
計	4,510,700	

（注）（収入）　（支出）
4,511,415－4,510,700＝715円は次期繰越金

2　チャリティー事業

本年度〔こどもの城〕チャリティー事業は，前年度に引き続き青山劇場，青山円形劇場の観劇招待を中心に，館内見学及び夏休み，お正月などの特別企画行事の招待など幅広い活動を進めた。

本年度中の青山劇場，青山円形劇場におけるチャリティー観劇は養護施設などの児童らを対象に延べ18回，715人を招待した。

その内訳は，養護施設などの児童28か所，508人，母子寮の母子19か所，113人，障害児・者のグループ10か所，90人，そのほかホームヘルパー，ボランティア等など4人となっている。

	実施月日	実施回数	実施場所	実　施　演　目	参加実人員	対　象　者
		(回)			(人)	
1	4年4月29日～5月5日	3	青山劇場	ミュージカル『アニー』	154	養護施設等の児童 母子寮の母子 肢体不自由児施設の児童
2	4年8月1日～2日	2	青山円形劇場	『五線譜のなかの動物たち8』	50	養護施設等の児童 母子寮の母子
3	4年8月6日～9日	〃	〃	キリンファミリー劇場『狸のじゅもん　なまねこなまねこ』	28	養護施設等の児童
4	4年8月11日～12日	〃	〃	中国・唐山皮影戯団『西遊記』ほか	60	養護施設等の児童 母子寮の母子
5	4年8月15日～30日	3	青山劇場	ファミリー・ミュージカル『ピーターパン』	262	養護施設等の児童 母子寮の母子 肢体不自由児施設の児童
6	4年8月22日	1	青山円形劇場	『波瀬満子のスーパーA・I・U・E・Oショー』	13	養護施設等の児童 社協のボランティア
7	5年1月4日～7日	3	〃	キリン・ファミリーオペレッタ『トンガリぼうしの魔法使い』	68	母子寮の母子
8	5年1月15日～17日	2	〃	『五線譜のなかの動物たち9』	80	養護施設等の児童 母子寮の母子
計	8件	18			715	

3　こどもの城友の会

友の会は〔こどもの城〕の諸活動についての理解と協力，利用の促進を図ることを目的として組織され，運営されてきた。会員数は平成3年3月末で，3,832家族となったが，これをピークとして減少傾向をたどり，平成5年3月末には3,274家族となった。

減少の原因は，対象年齢の子どもを持つ家族の減少，地域的な人口の減少が一番に考えられる。しかも，会員になろうと思う人たちのニーズはさまざまなものがあり，友の会がその多様さに対応しきれないという面もある。

会員の多様なニーズにこたえるものとして，平成2年度から会員を対象とした「友の会ファミリー・ハイキング」と「友の会ファミリー・キャンプ」を始めた。これはまた会員の声を直接聞くことのできる絶好の機会でもあった。しかし，このような催しに参加できる会員は限られているので，このことによって多くの会員に満足感を与え，また多くの意見を聞いたりすることは無理である。

開館8周年を迎え，各部の事業もそれぞれの支持層を獲得した今，どのような友の会が必要なのか，原点に立ち戻り，運営を工夫していきたい。

こどもの城友の会会員　地区別分布

区分	東京都					神奈川県				埼玉県	千葉県	その他	不明	合計
	特別区			市町村	計	横浜市	川崎市	その他	計					
	渋谷区	港区	その他											
家族数（世帯）	242	230	1,526	240	2,238	179	173	94	446	207	194	158	31	3,274
人数（人）	913	860	5,681	857	8,311	649	629	332	1,610	798	746	596	110	12,171

「その他」の道府県の内訳（家族数）																		
北海道	1	青森県	2	秋田県	4	岩手県	1	山形県	3	宮城県	3	新潟県	3	栃木県	17			
群馬県	8	茨城県	39	山梨県	4	長野県	8	富山県	1	岐阜県	4	静岡県	27	愛知県	4			
三重県	1	京都府	3	奈良県	1	大阪府	10	兵庫県	5	島根県	1	広島県	2	徳島県	1			
高知県	1	福岡県	1	佐賀県	1	長崎県	1	大分県	1									

こどもの城友の会会員　就学区分別

区分	未就学児	小学生	中学生	高校生	大人	計	備考
家族数（世帯）	1,492	2,085	238	113	3,273	3,274	小学生と中学生がいる家庭は，両方の欄に計上してある。大人のみの家庭は　199世帯。
人数（人）	1,766	2,876	258	126	7,145	12,171	

（参考）　日本児童手当協会の助成事業

1）事業所内保育施設の整備等に対する助成 ……215
2）事業所内保育施設の保育従事者の研修及び指導 ……216
3）企業委託型保育サービス事業に対する助成 ……217
4）啓発活動 ……219
5）職域児童育成事業に対する助成 ……219
6）特殊ミルク共同安全開発等事業に対する助成 ……220
7）おもちゃ図書館普及推進事業 ……221
8）児童福祉文化財普及等事業 ……221
9）病児デイケアパイロット事業 ……221

日本児童手当協会の助成事業

1） 事業所内保育施設の整備等に対する助成

事業所内保育施設の整備等に対する助成については，助成事業の周知を図るため，本年度も各都道府県・指定都市の児童福祉主管部局を中心に，商工・労働・衛生各部局の協力を得て，制度の広報・普及に努め，事業の推進を図った。

(ア) 助成相談・決定件数

1 **助成相談件数**　施設（遊具等）の整備　141件（前年度　103件）

2 **助成決定件数**　施設の整備　41件（前年度　32件）

遊具等の整備　50件（前年度　40件）

(イ) 助成状況

1 **整備区分別助成額**

（単位：千円）

	建物整備		保育遊具等整備	
	か所数	助成額	か所数	助成額
新築	35	358,207	30	11,444
増・改築	6	30,426	5	1,933
保育遊具等単独助成			15	5,496
計	41	388,633	50	18,873

【参考】 保育施設整備費等の助成実績

（昭和53度～平成4年度）

（単位：千円）

	建物整備		保育遊具等整備	
	か所数	助成額	か所数	助成額
新築	355	2,944,750	266	98,059
増・改築	135	478,577	80	27,514
保育遊具等単独助成			216	73,368
計	490	3,423,327	562	198,941

2 **業種別建物助成状況**

（単位：か所）

	病院・医療	福祉施設	機械部品加工	繊維縫製	食品加工製造	小売り・販売	サービスその他	計
新築	19	2	2	8	0	0	4	35
増・改築	5	0	0	1	0	0	0	6
計 (%)	24 58.5%	2 4.9%	2 4.9%	9 22.0%	0 0%	0 0%	4 9.7%	41 100%

3　都道府県別助成状況

（単位：か所）

	新　築	増・改築	計		新　築	増・改築	計
北海道	3	1	4	静　岡	2		2
青　森	3		3	愛　知	1		1
岩　手	1		1	滋　賀	2		2
福　島	3		3	島　根	3	1	4
茨　城	4		4	岡　山	1	1	2
栃　木	1		1	広　島	1	1	2
千　葉	1		1	徳　島	1		1
東　京	1		1	高　知	1	1	1
新　潟	1		1	福　岡	1		1
富　山		1	1	長　崎		1	1
石　川	1		1	熊　本	2		2
長　野	1		1				
計　　新築　35　　増・改築　6　　合計　41							

2）事業所内保育施設の保育従事者の研修及び指導

事業所内保育施設の保育従事者の資質の向上を図るため，都道府県・指定都市の協力を得て，次のとおり研修及び指導を行った。

(ア)　研修会の開催状況

1　32都道府県・市で研修会を実施

平成４年６月	神奈川県
７月	埼玉県，名古屋市
８月	大阪府，京都府，奈良県，大阪市，京都市
９月	岐阜県
10月	石川県，熊本県，名古屋市（２回），兵庫県，栃木県，大分県
11月	神奈川県（２回），札幌市，群馬県
12月	山梨県，富山県，静岡県
平成５年１月	佐賀県，宮崎県，島根県
２月	岡山県，長崎県，北海道，福島県，新潟県，熊本県（２回）
３月	福井県，三重県，愛知県，広島県，広島市

（注）年２回実施した県・市……神奈川県，熊本県，名古屋市
　　２日間実施した県・市……北海道，札幌市，近畿地区（大阪府，京都府，奈良県，大阪市，京都市）

2　参加した事業所数及び参加人員

研修会に参加した事業所は，開催した道府県・市における事業所の53％で，受講者数は次

のとおりである。

研修会参加事業所　　808か所

研修会参加人数（保母）　1,136人

3　研修・指導図書の配布

全国の事業所内保育施設及び研修会受講者を対象に，次の図書及び教材を配布して，保育従事者の役割の重要性と，保育技術向上の指導に努めた。

①子育て相談Q&A……㈱出版開発社発行

②あそびランド……小学館発行

③事業所内保育施設の動向

④その他

(イ)　保育施設の調査指導等

保育施設整備費を助成した事業所（1か所）について，建物の整備並びに保育状況等の実地調査を行い，必要な指導を行った。

3）　企業委託型保育サービス事業に対する助成

この事業は，近年における女性の社会進出及び就労形態の多様化に伴って生ずる，きめ細かな保育サービスへのニーズに対応するため，保育所等を経営する社会福祉法人が企業との契約により，日曜・祝日や深夜の保育サービスを提供するもので，平成3年10月から実施され，この事業の円滑な実施を図るため，次の17法人に対して助成した。

また，本事業の広報及び助成の申し込み，事業報告等の審査事務等については，社会福祉法人日本保育協会に委託した。

企業委託型保育サービス事業の状況

都道府県	法人名及び代表者	事業所名	事業開始日	事業内容
茨城県	社会福祉法人 若葉会 理事長　茂垣　裕	常陸観光㈱ 那珂カントリークラブ	4.3.1	企業委託型保育施設（新築）型 保育対象児童（2歳未満児2人，2歳以上児8人） 保育日（休日・祝日） 保育時間（7:00～19:00）
〃	社会福祉法人 白鳥福祉会 理事長　高塚光男	㈱サンポート ㈱平安閣 ㈱大栄繊維	4.7.1	企業委託型保育施設（新築）型 保育対象児童（6歳未満児40人） 保育日（休日・祝日を含む毎日。水曜日を除く） 保育時間（7:30～16:00。19:00まで延長可）

（参考）　日本児童手当協会の助成事業

群馬県	社会福祉法人 後閑あさひ福祉会 理事長　新井時聖	千代田都市開発㈱ 梅ノ郷ゴルフ倶楽部	4.4.1	事業所内保育施設型 保育対象児童（2歳未満児10人，2歳以上児20人） 保育日（休日・祝日を含む毎日。月曜日を除く） 保育時間（8:00～16:00。7:00～18:00の間で調節可）
東京都	社会福祉法人 聖オディリアホーム 理事長　入江嘉子	安田火災海上保険㈱	4.7.1	児童福祉施設の空き部屋・空きベッド活用型 保育対象児童（4歳未満児3床） 保育日（休日・祝日を含む毎日） 保育時間（0:00～24:00）
富山県	社会福祉法人 かたかご保育園 理事長西能正一郎	特定医療法人 五省会　西能病院	4.7.1	事業所内保育施設型 保育対象児童（3歳未満児6人，3歳以上児4人） 保育日（休日・祝日） 保育時間（8:00～17:30）
岡山県	社会福祉法人 三和会 理事長　遠藤仁郎	㈶倉敷中央病院 （医）　創和会重井病院 （医）　天和会松田病院	5.1.1	事業所内保育施設型 保育対象児童（0歳児5人，1歳以上児11人） 保育日（休日・祝日を含む毎日） 保育時間（8:00～8:00＝休日及び祝日。16:00～8:00＝平日）
広島県	社会福祉法人 広島愛育会 理事長築地フサ子	広島県厚生農業協同組合連合会広島総合病院	4.2.1	事業所内保育施設型 保育対象児童（6歳未満児12人） 保育日（休日・祝日を含む毎日。12.29～1.3を除く） 保育時間（8:15～17:15）
香川県	社会福祉法人 あすなろ福祉会 理事長　三木玲子	住友生命保険（相）高松支社	4.11.1	保育所に隣接し建物活用型 保育対象児童（2歳未満児1人，2歳以上児11人） 保育日（休日・祝日を含む毎日。土曜日及び1.1～3を除く） 保育時間（8:30～16:30）
大分県	社会福祉法人 産土会 理事長　佐藤成己	㈱大分サニーヒルゴルフ場	4.1.2	事業所内保育施設型 保育対象児童（6歳未満児16人） 保育日（休日・祝日を含む毎日。） 保育時間（7:30～18:00）
鹿児島県	社会福祉法人 清豊福祉会 理事長　中野順一	鹿児島ゴルフ倶楽部	4.3.1	保育所に隣接した建物活用型 保育対象児童（6歳未満児16人） 保育日（休日・祝日を含む毎日。月曜日及び元旦を除く） 保育時間（7:30～17:30）

京都市	社会福祉法人 衣笠保育園 理事長　杉本典子	大丸京都店	5.2.1	保育所の空き時間活用型 保育対象児童（0歳児1人，1～2歳児4人，3～4歳児15人） 保育日（日曜・祝日） 保育時間（8:30～21:00）
〃	社会福祉法人 端山園 理事長山本幸太郎	㈱西利	〃	保育所の空き時間活用型 保育対象児童（0歳児1人，1～2歳児4人，3～4歳児15人） 保育日（日曜・祝日） 保育時間（8:30～18:00）
〃	社会福祉法人 永興福祉会 理事長　後藤正元	洛和会音羽病院	〃	〃
〃	社会福祉法人 京峰福祉会 理事長　紺谷明子	㈱井筒八ツ橋本舗	〃	〃
〃	社会福祉法人 大宅保育園 理事長　山手重一	渡文㈱	〃	〃
〃	社会福祉法人 曙保育園 理事長矢島清五郎	㈱菊花美容室	〃	〃
〃	社会福祉法人 春日野園 理事長　澤井重造	㈱公益社	〃	〃

4）　啓発活動

(ア)　児童手当制度の啓発・広報のため「児童手当」誌を発行

(1)　発行回数・部数　　月刊（12回）　延べ58,200部

(2)　配布先　　中央官庁，地方公共団体，社会保険事務所，各県経営者協会，及び商工会議所，中央児童福祉審議会委員等関係者

(イ)　児童手当・福祉施設等に関する広報資料を作成，配布

(1)　発行部数　　500,000部

(2)　配布先　　地方公共団体，児童福祉施設等

5）　職域児童育成事業に対する助成

職域児童育成事業は，職域又は地域の幼児及び小学校低学年児童等を対象に，集団遊び，

体力づくり等の活動を通じて健全育成を図るもので，次の商工会議所（商工会）を対象に，103か所（前年度101か所），29,500千円（前年度29,000千円）の助成を行った。

＜商工会議所＞

（単位：千円）

県　別	か所数	助成額	県　別	か所数	助成額	県　別	か所数	助成額
秋　田	1	250	福　井	1	500	徳　島	1	500
茨　城	1	500	長　野	2	1,000	福　岡	1	500
埼　玉	2	1,000	京　都	1	250	熊　本	1	500
千　葉	2	500	兵　庫	2	750	大　分	2	500
新　潟	1	500	広　島	2	1,000	宮　崎	1	250
富　山	2	500	山　口	1	500			
計　23か所　9,500千円								

＜商　工　会＞

（単位：千円）

県　別	か所数	助成額	県　別	か所数	助成額	県　別	か所数	助成額
北海道	7	1,750	石　川	1	250	鳥　取	2	500
岩　手	2	500	福　井	1	250	徳　島	1	250
秋　田	2	500	岐　阜	3	750	愛　媛	2	500
宮　城	2	500	静　岡	2	500	香　川	1	250
山　形	2	500	愛　知	2	500	高　知	2	500
福　島	3	750	三　重	2	500	福　岡	2	500
茨　城	2	500	滋　賀	1	250	佐　賀	1	250
栃　木	2	500	京　都	1	250	長　崎	2	500
群　馬	1	250	大　阪	1	250	熊　本	2	500
埼　玉	3	750	兵　庫	2	500	宮　崎	1	250
東　京	2	500	和歌山	3	750	鹿児島	3	750
新　潟	2	500	岡　山	2	500	沖　縄	1	250
長　野	3	750	広　島	2	500			
富　山	1	250	島　根	3	750			
計　80か所　20,000千円								

6）　特殊ミルク共同安全開発等事業に対する助成

社会福祉法人恩賜財団母子愛育会が実施した，次の事業に対して助成を行った。

(1)　先天性代謝異常児の治療のために必要な特殊ミルクの供給，品質管理及び改良を目的とする共同開発事業。

(2) 周産期医療に係わる医師，保健婦等の研修及び母子保健に関する情報の提供事業
(3) 児童の発育・養育等児童福祉諸問題の調査研究事業
(4) 児童・家庭に関する動向の収集及び提供事業(子ども・家庭データバンク事業)

平成4年度助成額は167,754千円。

7） おもちゃ図書館普及推進事業

財団法人日本おもちゃ図書館財団が実施した，障害児の育成を目的とする「おもちゃ図書館」の普及推進事業等に対して助成を行った。

平成4年度助成額は11,207千円。

8） 児童福祉文化財普及等事業

社団法人全国児童館連合会が実施した，中央児童福祉審議会推薦による児童劇，映画を各地の児童厚生施設で上演等児童福祉文化財普及を目的とする事業に対して助成を行った。

平成4年度助成額は167,754千円。

9）病児デイケアパイロット事業

平成4年度の新規事業として，保育に欠ける児童が発病時に，保護者の仕事の都合で家庭での対応が困難な場合に，病児のデイケアを乳児院等児童福祉施設において試行し，今後のサービスの供給体制のあり方等について調査研究するための費用を社会福祉法人恩賜財団母子愛育会に助成した。

平成4年度助成額は23,333千円。

こどもの城事業年報　平成４年度

平成５年11月１日発行

財団法人　日本児童手当協会

理 事 長　小島　弘仲

〒150　東京都渋谷区神宮前５－53－１

電話　03（3797）5666

印刷所　ヨシダ印刷両国工場（本文用紙は再生紙を使用しています）